

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
木下寿恵			
添付ファイル			

テーマ	障がい者の実態とそれを支える福祉的支援の理念、歴史、制度、実際を学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、日本における障がい者の実態(p. 2～3)</p> <p>第2回 わが国の法律における「障がい」「障がい者」の定義(p. 4～13、p. 40～51、p. 196～197)</p> <p>第3回 「ノーマライゼーション」という考え方と「リハビリテーション」①（ノーマライゼーション）(p. 16～17)</p> <p>第4回 「ノーマライゼーション」という考え方と「リハビリテーション」②（リハビリテーション）</p> <p>第5回 「自立(自律)」の概念①（「自立」と「自律」の違い） 地域において自立生活をしている障がい者への支援の経験を踏まえて、自立(自律)とはどのようなことなのかを解説します</p> <p>第6回 「自立(自律)」の概念②（「自立(自律)」とは何か） 地域において自立生活をしている障がい者への支援の経験を踏まえて、自立(自律)とはどのようなことなのかを解説します</p> <p>第7回 「自立(自律)」の概念③（地域における自立生活の実際）</p> <p>第8回 「ICF(国際生活機能分類)」における「障がい」の捉え方(p. 18～19)</p> <p>第9回 障がい者福祉施策の変遷①（第二次世界大戦後）(p. 14～15)</p> <p>第10回 障がい者福祉施策の変遷②（高度経済成長期以降）</p> <p>第11回 「障がい者の権利に関する条約」(p. 24～25)</p> <p>第12回 障がい者福祉の関連施策①（改正バリアフリー法、特別支援教育）(p. 198～199)</p> <p>第13回 障がい者福祉の関連施策②（障害年金、障害者雇用）(p. 58～59、p. 178～183)</p> <p>第14回 障がいを持っている人たちの現状①（高次脳機能障がい） 障害者支援施設などでの経験を踏まえて、障がいを持っている人たちが体験している大変さの実態について解説します</p> <p>第15回 障がいを持っている人たちの現状②（筋萎縮性側索硬化症〔ALS〕）(p. 62～63) 障害者支援施設などでの経験を踏まえて、障がいを持っている人たちが体験している大変さの実態について解説します</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】障がいを持っている人たちが社会の中でどのように扱われてきたかを学び、体験してきた大変さの実態を学ぶ。また、障がいを持っている人たちにに関する人権思想や制度、援助の実際を学ぶ</p> <p>【授業の到達目標】障がいを持っている人たちの実態を理解し、障害者福祉に関する基礎的な知識を習得することができる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部・子ども学部で学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「実践的に課題を発見する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」を身につけることができる</p>
テキスト	<p>テキスト名：『図解でわかる 障害福祉サービス』 ISBN:978-4-8058-8712-7 出版社名：中央法規出版 著者名：二本柳 覚 価格(税抜)：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィード	<p>【成績評価の基準・方法】学期末試験：レポート=80：20</p> <p>【課題に対するフィードバック方法】学期末試験やレポートに関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う</p>

バック方法	
質問・相談の受付方法	オフィスアワー(後日掲示)を積極的に活用してほしい。 レスポンスカードを配布した授業においては、そちらに積極的に記入してほしい。
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員(介護主任など)として6年6ヵ月介護に従事していました。日常生活を支援する中での障がい者とその家族の思いや状況などを、授業の中でお伝えしていきたいと考えています。「『障がい』とは何か」ということについて考え、障がいを持っている人たちが切り拓いてきた歴史を知ることによって、いままで見慣れた景色が違ったものに見えてくると思います
準備学習について	【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと(2時間) 【事後学習】 授業内で配布した資料やテキストの該当ページを復習しておくこと(2時間)

講義科目名称： キャリア支援Ⅱ－B/キャリア支援Ⅲ－B  
(2018以前入学生)

授業コード： 14731 14732 14733 14751  
14752 14755

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	1	必修
担当教員			
中村仁美			
添付ファイル			

テーマ	就職活動の現実的な手法を学びながら、社会全体の変化を捉えた上で自分自身がどのように行動していくのかを具体的に考え実践する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 内定者報告会（4年生の体験談パネルディスカッションと座談会）</p> <p>第3回 面接の種類（集団）</p> <p>第4回 面接の種類（個人・Web）</p> <p>第5回 面接の種類（グループディスカッション）</p> <p>第6回 求人票の見方</p> <p>第7回 希望業界・希望職種について考える</p> <p>第8回 企業研究の進め方</p> <p>第9回 「学内企業施設合同研究セミナー」の参加準備</p> <p>第10回 「学内企業施設合同研究セミナー」の開催</p> <p>第11回 「学内企業施設合同研究セミナー」の振り返り・求職票の作成</p> <p>第12回 エントリーシート攻略テストの準備</p> <p>第13回 エントリーシート攻略テストの実践</p> <p>第14回 履歴書の作成</p> <p>第15回 就職活動の諸注意</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 キャリア形成科目の最終段階として社会的・職業的自立にむけた「実践力を高める」ことを目指す。変化の激しい社会の中で自立したキャリア形成に必要な実践力を「就職活動の実践」を通して学習する。</p> <p>【到達目標】 社会から求められる人材について自己の考えを言語化し、大学での学修経験と関連付けることができる。自分が目指す将来の「あるべき姿」を実現するために必要となる就職活動の実践力とキャリアプランニングスキルを身に付ける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、学位授与の方針のうち「福祉力」の構成要素である、「主体的に学習する力」、「地域を視野に貢献する姿勢」及び「学士力」の構成要素の一つである、「市民としての社会的責任」、「生涯学習力」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：MY CAREER NOTE III</p> <p>出版社：ベネッセ i-キャリア</p>
参考文献	適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>評価方法：学期末試験（50%）、授業のレポート課題（30%）、授業での積極性（20%）を基本に評価する。提出レポートのフィードバックは授業内で行う。</p>

質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前後に教室で受付けます。</li> <li>・講義日以外はキャリア支援課で受付け。講師にメールで連絡、後日回答します。</li> <li>・別途、就職面談時間を設けます。</li> </ul>
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内でビジネスマナーに反した行動（遅刻、途中退出、私語など）は慎んでください。</li> <li>・授業内で指示した課題は必ず提出してください。また、講義中の指示をしっかりと聞いて対応して下さい。</li> <li>・欠席した場合はキャリア支援課で前回資料を受け取ってください。</li> <li>・大学や専門学校でのキャリアカウンセリングや民間企業での人材コンサルティングの経験があるキャリアコンサルタント（国家資格）の講師が、実際の就職活動や採用現場の視点から授業を行います。</li> </ul>
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後に次回の予習内容を指示します。</li> <li>・授業内で終了しなかったワークシートは必ず完成させて下さい。適宜コピーを提出していただきます。</li> <li>・学内企業施設合同研究セミナー参加企業について調べてください。</li> <li>・学外のセミナー、講演会、研究会、説明会等にも積極的に参加して下さい。</li> </ul>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	選択
担当教員			
中村仁美			
添付ファイル			

テーマ	就職活動を通して、自己理解を深めるとともに、社会人としての能力と成長させ、自律的に決断、行動できるようになる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 就職活動対策①（応募書類の仕上げ）</p> <p>第3回 就職活動対策②（応募書類の仕上げ）</p> <p>第4回 就職活動対策③（小論文対策）</p> <p>第5回 就職活動対策④（面接試験対策）</p> <p>第6回 就職活動対策⑤（採用担当による面接体験（個人編））</p> <p>第7回 就職活動対策⑥（採用担当による面接体験（集団編））</p> <p>第8回 内定者報告会</p> <p>第9回 社会人マナー実習①</p> <p>第10回 社会人マナー実習②</p> <p>第11回 社会人マナー実習③</p> <p>第12回 オンライン説明会①</p> <p>第13回 オンライン説明会②</p> <p>第14回 オンライン説明会③</p> <p>第15回 前期 振り返り</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 応募書類の作成、採用試験の対策、社会人マナーの学びにより、採用したいと思わせるための自身の表現方法を学ぶ。オンライン説明会を通じて、求められる人物像を具体化させる。</p> <p>【到達目標】 応募書類の作成、模擬試験の受けることにより、さらなる就職活動の実践力を身につける。マナー実習により社会人基礎力を高めていく。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、学位授与の方針のうち「福祉力」の構成要素である、「主体的に学習する力」、「地域を視野に貢献する姿勢」及び「学士力」の構成要素の一つである、「市民としての社会的責任」、「生涯学習力」を身につけることができる。</p>
テキスト	基本的には使用しない。適宜、プリントを配布する。
参考文献	適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	評価方法：学期末試験（50%）、授業のレポート課題（30%）、授業での積極性（20%）を基本に評価する。提出レポートのフィードバックは授業内で行う。
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前後に教室で受付けます。</li> <li>・講義日以外はキャリア支援課で受付け。講師にメールで連絡、後日回答します。</li> <li>・別途、就職面談時間を設けます。</li> </ul>

履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内でビジネスマナーに反した行動（遅刻、途中退出、私語など）は慎んでください。</li> <li>・授業内で指示した課題は必ず提出してください。また、講義中の指示をしっかりと聞いて対応して下さい。</li> <li>・欠席した場合はキャリア支援課で前回資料を受け取ってください。</li> <li>・大学や専門学校でのキャリアカウンセリングや民間企業での人材コンサルティングの経験があるキャリアコンサルタント（国家資格）の講師が、実際の就職活動や採用現場の視点から授業を行います。</li> </ul>
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後に次回の予習内容を指示します。</li> <li>・オンライン説明会参加企業について調べてください。</li> <li>・学外のセミナー、講演会、研究会、説明会等にも積極的に参加して下さい。</li> </ul>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	1	選択
担当教員			
中村			
添付ファイル			

テーマ	時事に触れながら社会の変化を捉え、グループで働くことについて理解を深めていき、ひとりの職業人としての意識を高める。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 新聞の読み方講座</p> <p>第3回 新聞記事の時事問題ディスカッション</p> <p>第4回 社会人基礎力・マナー講座</p> <p>第5回 働くワークルール</p> <p>第6回 給与明細の見方</p> <p>第7回 社会人になる心構え</p> <p>第8回 社会人の講話</p> <p>第9回 チームビルディングとは</p> <p>第10回 チームビルディング①（企業からの課題提示）</p> <p>第11回 チームビルディング②（グループワーク）</p> <p>第12回 チームビルディング③（グループワーク）</p> <p>第13回 チームビルディング④（プレゼンテーションリハーサル）</p> <p>第14回 チームビルディング⑤（発表および企業からの総評）</p> <p>第15回 社会人としての自分を考える</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 実際に働くことを想定して、社会の変化がどのように組織に影響するか考える。チームビルディング実習を通して、組織の中で、どのように働いていくのかを考えながら、協働することの意義を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 時事問題へのアプローチを通して、社会への関心をより仕向け、考える力、自身の意見をまとめ、第三者に伝える力を養成する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部・子ども学部で学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力、課題を解決へと導く力及び「学士力」の構成要素の一つである、多文化・異文化に関する知識の理解、情報リテラシー、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	使用しない。適宜、プリントを配布する。また、新聞等も活用する。
参考文献	必要ならば講義の中で紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	評価方法：学期末試験（50%）、授業のレポート課題（30%）、授業での積極性（20%）を基本に評価する。提出レポートのフィードバックは授業内で行う。
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前後に教室で受付けます。</li> <li>・講義日以外はキャリア支援課で受付け。講師にメールで連絡、後日回答します。</li> <li>・別途、就職面談時間を設けます。</li> </ul>

履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内でビジネスマナーに反した行動（遅刻、途中退出、私語など）は慎んでください。</li> <li>・授業内で指示した課題は必ず提出してください。また、講義中の指示をしっかりと聞いて対応して下さい。</li> <li>・欠席した場合はキャリア支援課で前回資料を受け取ってください。</li> <li>・大学や専門学校でのキャリアカウンセリングや民間企業での人材コンサルティングの経験があるキャリアコンサルタント（国家資格）の講師が、実際の就職活動や採用現場の視点から授業を行います。</li> </ul>
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後に次回の予習内容を指示します。</li> <li>・チームビルディングでは、グループワークの準備、プレゼンテーションの練習に努めてください。</li> </ul>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
本多祥子			
添付ファイル			

テーマ	人を対象とする専門職に必要な基礎的な医学知識を身につける。
授業計画	<p>第1回 ライフステージにおける心身の変化と健康課題 心身の加齢と老化、ライフステージ別の健康課題</p> <p>第2回 健康及び疾病の捉え方 健康の概念、疾病の概念、国際生活機能分類（ICF）</p> <p>第3回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）① 筋・骨格系の構造と機能</p> <p>第4回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）② 血液・造血系、循環器の構造と機能</p> <p>第5回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）③ 泌尿器系、呼吸器系の構造と機能</p> <p>第6回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）④ 消化器系の構造と機能</p> <p>第7回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）⑤ 神経系、内分泌系の構造と機能</p> <p>第8回 身体構造と心身機能（からだのしくみの理解）⑥ 皮膚、筋骨格系、生殖器系の構造と機能</p> <p>第9回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程① 疾病の発症原因、病変の成立機序 生活習慣病、悪性腫瘍、脳血管疾患 ※看護師や介護支援専門員としての経験をもとに、具体的な症例を紹介しながら解説します。</p> <p>第10回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程② 心疾患、高血圧、糖尿病・内分泌疾患 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、具体的な症例を紹介しながら解説します。</p> <p>第11回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程③ 呼吸器疾患、消化器疾患 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、具体的な症例を紹介しながら説明します。</p> <p>第12回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程④ 血液疾患、腎臓疾患、泌尿器系疾患 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、具体的な症例を紹介しながら説明します。</p> <p>第13回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程⑤ 骨関節疾患、目・耳の疾患、感染症 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、具体的な症例を紹介しながら説明します。</p> <p>第14回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程⑥ 神経疾患と難病、先天性疾患、その他高齢者に多い疾患 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、具体的な症例を紹介しながら説明します。</p> <p>第15回 障害の概要、リハビリテーションの概要と範囲、公衆衛生</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・公認心理師の受験資格を取得するための指定科目であるため、それぞれの専門性に必要となる基礎的な医学知識について概論的に講義します。単調な知識の列挙にとどまらないよう図や表、視聴覚教材、実例などを交えながら展開します。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について列挙することができる。</p> <p>②健康・疾病の捉え方について述べるができる。</p> <p>③人の身体構造と心身機能について説明できる。</p> <p>④疾病と障害の成り立ち及び回復過程について説明できる。</p> <p>⑤公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を列挙できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題</p>

	解決力を身につけることができる。
テキスト	テキスト名：最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座1 医学概論 ISBN：978-4-8058-8231-3 出版社：中央法規 著者名：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 価格（税抜）：2,500円
参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末試験：授業での積極性＝70：30</li> <li>・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	教室、オフィスアワー等で適宜受けつける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	社会福祉に従事する人にとって、医療の基礎的な知識を持つことは人を支える上で欠かせないものです。実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解することは、医療職等との連携においても重要です。利用者の医療と一緒に考えることができるように心がけて学んでください。看護師や介護支援専門員として病院（集中治療室、外科、内科）や介護保険事業所等に従事した経験を活かし、実例やエピソード等も交えながらわかりやすく説明したいと思います。
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の後には必ず内容を見直し、1時間以上復習を行いましょ。次回の授業でポイントを確認するので、答えられるようにしておいてください。</li> <li>・次回の授業内容を、前日までに1時間以上予習しておきましょう。</li> </ul>

講義科目名称： 社会福祉調査の基礎/社会調査の基礎 (2020以前入学生) 授業コード： 30400

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	選択
担当教員			
張昌鎬			
添付ファイル			

テーマ	社会福祉調査の目的・倫理を理解する。社会福祉調査のデザイン・量的調査の方法・質的調査の方法・ソーシャルワークにおける評価を学ぶ。		
授業計画	第1回	ガイダンス、第1章第1節 社会福祉調査の意義と目的 【事前学習】1回の第1章第1節 社会福祉調査の意義と目的を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】1回の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)	
	第2回	第1章2節 福祉サービスと社会福祉調査 3節 社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係 【事前学習】2回の1章2節 福祉サービスと社会福祉調査 3節 社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】2回の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)	
	第3回	第2章 第1節 社会福祉調査における倫理と個人情報保護 【事前学習】第2章 第1節 社会福祉調査における倫理と個人情報保護を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】3回の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)	
	第4回	第3章 社会福祉調査のデザイン 第1節 調査における考え方・論理 【事前学習】第3章 社会福祉調査のデザイン 第1節 調査における考え方・論理を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】4回の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)	
	第5回	第3章 第1節 調査における考え方・論理 第2節 社会福祉調査のプロセス 【事前学習】第3章 第1節 調査における考え方・論理 第2節 社会福祉調査のプロセスを読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】5回の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)	
	第6回	第4章 第1節 量的調査の概要 第2節 量的調査の種類と方法 【事前学習】第4章 第1節 量的調査の概要 第2節 量的調査の種類と方法を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】6回の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)	
	第7回	第4章 第1節 量的調査の概要 第2節 量的調査の種類と方法 【事前学習】第4章 第1節 量的調査の概要 第2節 量的調査の種類と方法を読み概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】7回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)	
	第8回	第12章 コミュニティワーク、第1節のコミュニティワークの意義と目的、第2節のコミュニティワークの展開 【事前学習】8回目の第12章のコミュニティワーク、第1節のコミュニティワークの意義と目的、第2節のコミュニティワークの展開を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】8回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)	
	第9回	第12章 3節のコミュニティワークの理論的系譜とモデル 【事前学習】9回目の第12章3節のコミュニティワークの理論的系譜とモデルを読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】9回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)	
	第10回	ソーシャルアドミニストレーション 【事前学習】10回目の第13章第1節ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義、第2節組織介入・組織改善の実践モデル、第3節組織運営における資源の確保を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】10回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)	
	第11回	第14章 ソーシャルアクション第1節ソーシャルアクションの概念とその意義 【事前学習】11回目の第14章第1節のソーシャルアクションの概念とその意義を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】11回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)	
	第12回	第14章 ソーシャルアクション第2節コミュニティ・オーガナイズイング 【事前学習】12回目のソーシャルアクション第2節コミュニティ・オーガナイズイングを読み概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】12回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間) 社会福祉協議会勤務経験をもとに、人を援助する姿勢や意味に関してプレゼンテーションしながら共に考える。	
	第13回	第15章 スーパービジョンとコンサルテーション第1節1スーパービジョンの意義、目的、方法 【事前学習】13回目の第15章スーパービジョンとコンサルテーション第1節1スーパービジョンの意義、目的、方法を読み概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】13回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)	
	第14回	第15章 コンサルテーション第2節コンサルテーションの意義、目的、方法 【事前学習】第14回第15章第2節コンサルテーションの意義、目的、方法を読み概略を把握しておく	

	(1時間) 【事後学習】14回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間) 第15回 後期のまとめと質疑応答 前期授業に関する自分の考えや意見をプレゼンテーションしながら共に考える。
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	【概要】 1. 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークについて理解する。 2. ソーシャルワークの過程について理解する。 3. ソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて理解する。 【到達目標】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、課題を解決に導く力と協調と協働を実現する力や地域を視野に貢献する力を身につけるようになる。 【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力とこれまでに獲得した知識・機能・態度を総合的に活用し、課題を解決する力を身につけるようになる。
テキスト	テキスト名：社会福祉調査の基礎 ISBNコード：978-4-8058-8235-1 出版社：中央法規 著者名：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 価格：2500円(税別)
参考文献	講義中紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	小テストと学期末試験80%(配点 40%:40%) 授業での積極性(20%) 【フィードバック方法】毎回小テストを実施し、次回授業開始時に小テストの解説を実施する。毎回授業開始前に行う前回の小テスト解説の時、面談を受け付ける。
質問・相談の受付方法	講義終了後を利用する。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	毎週小テストを実施する。積極的な質問を歓迎する。 総合福祉館2年、県社会福祉協議会1年間の従事したことがあり、授業中にその内容を紹介し共に考えることにします。
準備学習について	【事前学習】毎回授業中に予習内容を示めず。次回授業までに行うこと(1時間)。 【事後学習】毎回授業の終わりに行うテストを中心に復習を行い、次回の授業の初めの解説に確認する(1時間)。

講義科目名称： ソーシャルワークの基盤と専門職/相談援助の基盤と専門職A (2020以前入学生) 授業コード： 30501 30502 30521 30522

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
檜木博之			
添付ファイル			

テーマ	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、ソーシャルワークの定義・原理・理念・形成過程、ソーシャルワークの倫理・倫理綱領などの基礎を学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士 ソーシャルワーク専門職の国家資格である社会福祉士・精神保健福祉士を理解する。</p> <p>第2回 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけを理解する。 社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法について理解する。</p> <p>第3回 社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性 ソーシャルワーク専門職として、どのような知識や技術、価値を習得する必要があるか理解する。 ソーシャルワークが必要とされる社会的背景について考察する。</p> <p>第4回 社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー ソーシャルワーカーのコンピテンシーについて理解する。コンピテンシーを身につけるために何を学ぶことが必要かを理解する。</p> <p>第5回 ソーシャルワークの定義 ソーシャルワークとは何かを言語化できる。ソーシャルワークの定義、ソーシャルワークのグローバル定義を理解する。</p> <p>第6回 ソーシャルワークの構成要素 ソーシャルワーカーの役割、クライアントシステムについて理解する。</p> <p>第7回 ソーシャルワークの原理 ソーシャルワークの原理を理解し、現在の社会問題に当てはめて考察する。</p> <p>第8回 ソーシャルワークの理念①（自己覚知） 自身の価値観と比較しながら、ソーシャルワーカーの理念の意味を理解する。</p> <p>第9回 ソーシャルワークの理念②（当事者主権・尊厳の保持・自立支援） ソーシャルワーカーの理念（当事者主権・尊厳の保持・自立支援）に基づく実践方法を考える。</p> <p>第10回 ソーシャルワークの理念③（権利擁護・ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーション） ソーシャルワーカーの理念（権利擁護・ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーション）に基づく実践方法を考える。</p> <p>第11回 ソーシャルワークの源流と基礎確立期 ソーシャルワークの萌芽について理解する。</p> <p>第12回 ソーシャルワークの発展期 診断主義と機能主義について理解する。 グループワークについて理解する。</p> <p>第13回 ソーシャルワークの展開期と統合化 ソーシャルワークのすそ野の広がりについて理解する。 ソーシャルワークの統合化について理解する。</p> <p>第14回 ソーシャルワークの倫理・倫理綱領 ソーシャルワークの倫理、社会福祉士・精神保健福祉士の倫理綱領を理解する。</p> <p>第15回 ソーシャルワーカーの倫理的ジレンマ ソーシャルワーカーが直面する倫理的ジレンマに何があるか理解する。倫理的ジレンマに直面した時の対応法について考察する。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】</p> <p>①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力と地域を視野に貢献する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、市民としての社会的責任や自己管理能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座『ソーシャルワークの基盤と専門職』 ISBN：978-4-8058-8241-2 出版社：中央法規2021年 著者名：一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 価格（税別）：2,900円</p>
参考文献	講義中紹介する。

成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】学期末筆記試験（50%）、レポート（20%）、リアクションペーパー内の課題・授業の要点の内容（30%）を総合的に評価する。なお、出席回数の2/3以上の出席がなければ成績評価の対象としない。</p> <p>【フィードバック方法】授業内で毎回提出するリアクションペーパーは、次の回の授業で返却する。小レポートは回収後授業内でコメントをつけて返却する。また、学期末試験に関するフィードバックについては、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じておこなう。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後やオフィスアワーで質問・相談を受けつける。また、授業時に配布するリアクションペーパーに疑問点・質問を記載する欄があるので積極的に記入して欲しい。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>日頃から社会問題に関連する新聞記事等を意識して目を通すようにしてください。また、授業で使用するリアクションペーパーを積極的に活用して欲しいです。</p> <p>療養病床のある病院で医療ソーシャルワーカー、居宅介護支援事業所で介護支援専門員をしていました。講義ではソーシャルワーカーが行うソーシャルワークの実際について伝えていきます。</p>
準備学習について	<p>予習は、授業前2時間以上とする。授業ごとに教科書の該当ページを指定するので指定した箇所を読み、最近の社会の動向との関連性を考えておく。復習は、授業後2時間以上とする。授業で学んだことを振り返り、まとめておくこと。</p>

講義科目名称： ソーシャルワークの基盤と専門職（社会）/相談援助の 授業コード： 30511 30512 30531 30532  
 基盤と専門職B（2020以前入学生）

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
檜木博之			
添付ファイル			

テーマ	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象・展開、ジェネラリスト視点に基づく総合的かつ包括的な支援と多職種連携およびチームアプローチの意義と内容を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 ソーシャルワーク専門職の概念と範囲                  ソーシャルワーカーが専門職であるための成立条件について理解する。ソーシャルワーク専門職と職能団体の役割について理解する。</p> <p>第2回 社会生活支援・地域支援の専門職としてのソーシャルワーカー                  社会生活支援・地域支援の専門性とその必要性について学ぶ。</p> <p>第3回 社会福祉士の職域と役割                  社会福祉士が働く職域の拡大について理解する。</p> <p>第4回 多様な組織・機関・団体における専門職の役割①（社会福祉行政における専門職）                  社会福祉行政の各機関で働く専門職について学ぶ。</p> <p>第5回 多様な組織・機関・団体における専門職の役割②（民間の社会福祉施設における専門職）                  民間の社会福祉施設や機関で働く専門職について学ぶ。</p> <p>第6回 アメリカ、イギリス、北欧などの諸外国の動向                  主要先進諸国のソーシャルワーカーの養成制度や実践分野について学び、理解する。</p> <p>第7回 ソーシャルワークにおけるマイクロ・メゾ・マクロのレベル                  ソーシャルワークにおけるマイクロ・メゾ・マクロの意味を理解する。</p> <p>第8回 マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象                  ソーシャルワークにおけるマイクロ・メゾ・マクロレベルの対象を理解する。</p> <p>第9回 マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開                  ソーシャルワーク専門職のグローバル定義に基づく実践のあり方について理解する。</p> <p>第10回 マイクロ・メゾ・マクロレベルの関連性とそれに基づく援助の実際                  マイクロ・メゾ・マクロレベルの関連性とそれに基づく援助実践の展開について理解する。</p> <p>第11回 総合的かつ包括的な支援としてのソーシャルワークの意義と必要性                  総合的かつ包括的な支援としてのソーシャルワークを理解する。</p> <p>第12回 ソーシャルワークにおけるジェネラリストの視点とソーシャルワークの特徴                  ソーシャルワークにおけるジェネラリストの視点について理解する。ジェネラリストの視点に基づくソーシャルワークの展開を理解する。</p> <p>第13回 多機関・多職種の連携・協働による包括的支援体制の構築と協働体制                  多機関・多職種による包括的支援体制の構築について理解する。</p> <p>第14回 ソーシャルサポートネットワーク                  ソーシャルサポートネットワークについて理解する。</p> <p>第15回 多職種連携およびチームアプローチの意義と方法                  チームアプローチの意義と内容を理解する。機関・団体間の合意形成の促進とクライアントとの連携・協働の方法を理解する。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】</p> <p>①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。                  ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。                  ③マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。                  ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力と主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力と倫理観を身につけるようになる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座『ソーシャルワークの基盤と専門職』                  ISBN：978-4-8058-8241-2                  出版社：中央法規2021年                  著者名：一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟                  価格（税別）：2,900円</p>
参考文献	講義中紹介する。

成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】学期末筆記試験（50%）、レポート（20%）、リアクションペーパー内の課題・授業の要点の内容（30%）を総合的に評価する。なお、出席回数の2/3以上の出席がなければ成績評価の対象としない。</p> <p>【フィードバック方法】授業内で毎回提出するリアクションペーパーは、次の回の授業で返却する。小レポートは回収後授業内でコメントをつけて返却する。また、学期末試験に関するフィードバックについては、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じておこなう。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後やオフィスアワーで質問・相談を受けつける。また、授業時に配布するリアクションペーパーに疑問点・質問を記載する欄があるので積極的に記入して欲しい。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	日頃から社会問題に関連する新聞記事等を意識して目を通すようにしてください。また、授業で使用するリアクションペーパーを積極的に活用して欲しいです。 療養病床のある病院で医療ソーシャルワーカー、居宅介護支援事業所で介護支援専門員をしていました。講義ではソーシャルワーカーが行うソーシャルワークの実際について伝えていきます。
準備学習について	予習は、授業前2時間以上とする。授業ごとに教科書の該当ページを指定するので指定した箇所を読み、最近の社会の動向との関連性を考えておく。復習は、授業後2時間以上とする。授業で学んだことを振り返り、まとめておくこと。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
張昌鎬			
添付ファイル			

テーマ	ソーシャルワークの過程、実践モデルとアプローチを学ぶ。
授業計画	<p>第1回 第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 第1節ソーシャルワーカーが学ぶ理論、第2節システム理論、第3節生態学理論 【事前学習】ソーシャルワーカーが学ぶ理論とシステム理論と、生態学理論を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】1回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間) 総合福祉館の経験をもとに、人を援助する姿勢や意味に関してプレゼンテーションしながら共に考える。</p> <p>第2回 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、ソーシャルワークの目標(第1章 4節、5節、6節) 【事前学習】バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、ソーシャルワークの目標を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】2回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)</p> <p>第3回 ソーシャルワークの過程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク)(第2章 1節、2節) 【事前学習】ソーシャルワークの過程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク)を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】3回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)</p> <p>第4回 ソーシャルワークの過程(アセスメント)(第3章 1節) 【事前学習】ソーシャルワークの過程(アセスメント)を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】4回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)</p> <p>第5回 ソーシャルワークの過程(アセスメント)(第3章 2節、3節) 【事前学習】ソーシャルワークの過程(アセスメント)におけるニーズを読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】5回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)</p> <p>第6回 ソーシャルワークの機能、人と環境(第2章 3節、第3章) 【事前学習】ソーシャルワークの機能、人と環境を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】6回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)</p> <p>第7回 援助関係の意義、援助関係の形成に影響する要因(第4章 1節、2節) 【事前学習】援助関係の意義、援助関係の形成に影響する要因を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】7回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)</p> <p>第8回 援助構造と援助関係、援助関係の質、実践領域(第4章 3節、4節、5節) 【事前学習】援助構造と援助関係、援助関係の質、実践領域を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】8回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)</p> <p>第9回 相談援助の展開過程の流れ、ケース発見(第5章 1節、2節) 【事前学習】相談援助の展開過程の流れ、ケース発見を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】9回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)</p> <p>第10回 インテーク、問題把握、ニーズ確定(第5章 3節、4節) 【事前学習】インテーク、問題把握、ニーズ確定を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】10回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)</p> <p>第11回 アセスメントと支援目標の設定(第5章 5節、6節) 【事前学習】アセスメントと支援目標の設定を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】11回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)</p> <p>第12回 支援計画の作成、支援計画の実施(第5章 7節、8節) 【事前学習】支援計画の作成、支援計画の実施を読み概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】12回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)</p> <p>第13回 モニタリング、再アセスメント(第6章 1節、2節) 【事前学習】モニタリング、再アセスメントを読み概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】13回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)</p> <p>第14回 支援の終結、効果測定、アフターケア、サービス開発(第6章 3節、4節) 【事前学習】支援の終結、効果測定、アフターケア、サービス開発を読み、概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】14回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間)</p> <p>第15回 アウトリーチ、前期のまとめと質疑応答 【事前学習】アウトリーチを読み概略を把握しておく(1時間) 【事後学習】15回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(1時間) 後期授業に関する自分の考えや意見をプレゼンテーションしながら共に考える。</p>

授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談援助の構造と機能、相談援助における援助関係について理解する。</li> <li>2. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。</li> <li>3. この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力と協調と協働を実現する力を身につけるようになる。</li> </ol> <p>【到達目標】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力とこれまでに獲得した知識・機能・態度を総合的に活用し、課題を解決する力を身につけるようになる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力とこれまでに獲得した知識・機能・態度を総合的に活用し、課題を解決する力を身につけるようになる。</p> <p>※毎回小テストを実施し、次回授業開始時に小テストの解説を実施する。</p>
テキスト	<p>テキスト名：ソーシャルワークの理論と方法[共通科目] ISBNコード：978-4-8058-8242-9 出版社：中央法規 著者名：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 価格：2900円(税別)</p>
参考文献	講義中紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>小テストと学期末試験80%（配点 40%：40%） 授業での積極性（20%）</p> <p>【フィードバック方法】 毎回小テストを実施し、次回授業開始時に小テストの解説を実施する。毎回授業開始前に行う前回の小テスト解説の時、面談を受け付ける。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後を利用する。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>毎週小テストを実施する。積極的な質問を歓迎する。 総合福祉館2年、県社会福祉協議会1年間従事したことがあり、授業中にその内容を紹介し共に考えることにします。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】 毎回授業中に予習内容を示す。次回授業までに行うこと(1時間)。 【事後学習】 毎回授業の終わりに行うテストを中心に復習を行い、次回の授業の初めの解説に確認する(1時間)。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
張昌鎬			
添付ファイル			

テーマ	ソーシャルワークの過程、実践モデルとアプローチを学ぶ。	
授業計画	第1回	<p>第8章 ソーシャルワークの面接 第1節 面接の意義と目的、2節 面接の方法と実際 【事前学習】 第8章第1節の面接の意義と目的と2節の面接の方法と実際を読み、概略を把握しておく (1時間) 【事後学習】 1回目の授業後の小テストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1時間) 社会福祉協議会勤務経験をもとに、人を援助する姿勢や意味に関してプレゼンテーションしながら共に考える。</p>
	第2回	<p>第9章 ソーシャルワークの記録、第1節 記録の意義と目的 【事前学習】 第9章第1節 記録の意義と目的を読み、概略を把握しておく (1時間) 【事後学習】 2回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1時間)</p>
	第3回	<p>第9章 ソーシャルワークの記録、第2節 記録の内容、第3節 記録のフォーマット 【事前学習】 第9章ソーシャルワークの記録、第2節 記録の内容、第3節 記録のフォーマットを読み、概略を把握しておく (1時間) 【事後学習】 3回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1時間)</p>
	第4回	<p>第10章 ケアマネジメント(ケースマネジメント)第1節ケアマネジメント(ケースマネジメント)の原則 【事前学習】 第10章、第1節ケアマネジメント(ケースマネジメント)の原則を読み、概略を把握しておく (1時間) 【事後学習】 4回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1時間)</p>
	第5回	<p>第10章 第2節のケアマネジメント(ケースマネジメント)の意義と方法 【事前学習】 第10章第2節のケアマネジメント(ケースマネジメント)の意義と方法を読み、概略を把握しておく (1時間) 【事後学習】 5回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1時間)</p>
	第6回	<p>第11章 グループを活用した支援第1節グループワークの意義と目的 【事前学習】 第11章グループを活用した支援第1節グループワークの意義と目的を読み、概略を把握しておく (1時間) 【事後学習】 6回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1時間)</p>
	第7回	<p>第11章 2節グループワークの意義と目的 【事前学習】 第11章2節グループワークの展開過程、第3節グループワークとセルフヘルプグループを読み概略を把握しておく (1時間) 【事後学習】 7回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1時間)</p>
	第8回	<p>第12章 コミュニティワーク、第1節のコミュニティワークの意義と目的、第2節のコミュニティワークの展開 【事前学習】 第12章のコミュニティワーク、第1節のコミュニティワークの意義と目的、第2節のコミュニティワークの展開を読み、概略を把握しておく (1時間) 【事後学習】 8回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1時間)</p>
	第9回	<p>第12章 3節のコミュニティワークの理論的系譜とモデル 【事前学習】 第12章3節のコミュニティワークの理論的系譜とモデルを読み、概略を把握しておく (1時間) 【事後学習】 9回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1時間)</p>
	第10回	<p>ソーシャルアドミニストレーション 【事前学習】 第13章第1節ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義、第2節組織介入・組織改善の実践モデル、第3節組織運営における資源の確保を読み、概略を把握しておく (1時間) 【事後学習】 10回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1時間)</p>
	第11回	<p>第14章 ソーシャルアクション第1節ソーシャルアクションの概念とその意義 【事前学習】 第14章第1節のソーシャルアクションの概念とその意義を読み、概略を把握しておく (1時間) 【事後学習】 11回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1時間)</p>
	第12回	<p>第14章 ソーシャルアクション第2節コミュニティ・オーガナイズイング 【事前学習】 ソーシャルアクション第2節コミュニティ・オーガナイズイングを読み概略を把握しておく (1時間) 【事後学習】 12回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1時間)</p>
	第13回	<p>第15章 スーパービジョンとコンサルテーション第1節1スーパービジョンの意義、目的、方法 【事前学習】 第15章スーパービジョンとコンサルテーション第1節1スーパービジョンの意義、目的、方法を読み概略を把握しておく (1時間) 【事後学習】 13回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (1時間)</p>
	第14回	<p>第15章 コンサルテーション第2節コンサルテーションの意義、目的、方法 【事前学習】 第2節コンサルテーションの意義、目的、方法を読み概略を把握しておく (1時間)</p>

	<p>【事後学習】14回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（1時間）  第15回 後期のまとめと質疑応答  前期授業に関する自分の考えや意見をプレゼンテーションしながら共に考える。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークについて理解する。</li> <li>2. ソーシャルワークの過程について理解する。</li> <li>3. ソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて理解する。</li> </ol> <p>【到達目標】  この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、課題を解決に導く力と協調と協働を実現する力や地域を視野に貢献する力を身につけるようになる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】  この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力とこれまでに獲得した知識・機能・態度を総合的に活用し、課題を解決する力を身につけるようになる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]  ISBNコード：978-4-8058-8242-9  出版社：中央法規  著者名：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集  価格：2900円(税別)</p>
参考文献	<p>講義中紹介する。</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>小テストと学期末試験80%（配点 40%：40%） 授業での積極性（20%）  【フィードバック方法】 毎回小テストを実施し、次回授業開始時に小テストの解説を実施する。毎回授業開始前に行う前回の小テスト解説の時、面談を受け付ける。</p>
質問・相談の受付方法	<p>講義終了後を利用する。</p>
履修条件	<p>なし</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】  聴講生【可】  キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>毎週小テストを実施する。積極的な質問を歓迎する。  総合福祉館2年、県社会福祉協議会1年間の従事したことがあり、授業中にその内容を紹介し共に考えることにします。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】 毎回授業中に予習内容を示めす。次回授業までに行うこと(1時間)。  【事後学習】 毎回授業の終わりに行うテストを中心に復習を行い、次回の授業の初めの解説に確認する(1時間)。</p>

講義科目名称： ソーシャルワークの理論と方法（社会） A/相談援助の 授業コード： 30620  
理論と方法C（2020以前入学生）

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
山本雅章			
添付ファイル			

テーマ	ソーシャルワーク実習・演習科目に連動した「実践能力」を身につけるための理論と方法を学ぶ	
授業計画	第1回	ガイダンス／総合的かつ包括的な支援の考え方 ・授業の概要と進め方について話します ・多様化・複雑化した生活課題への対応とそのプロセス，スキル 以上の点について，総合的かつ包括的な支援について学びます
	第2回	総合的かつ包括的な支援の考え方，地域社会の課題と対応 ・今日的な地域社会における課題と対応 ・分野や領域を横断する支援 多様化・複雑化した生活課題への分野領域を超えた横断的な対応とそのプロセス，スキルについて学びます
	第3回	家族支援の実際 ・家族や家族が抱える複合的な課題 ・家族に関する支援の基本理論や目的，方法，留意点 以上の点について，実際の支援の場面から学びます。
	第4回	家族理解のためのツールと実際 ・家族理解のためのツールと支援の実際，大切なことを考えます。
	第5回	地域支援の実際 ・地域支援とは何か ・地域支援に必要なスキルや価値 実際の事例に基づき他機関協働や住民協働，地域アセスメントなどについて学びます。
	第6回	非常時や災害時支援の実際 ・非常時や災害時のソーシャルワーク ・災害ソーシャルワークの目的と留意点，実際 以上の点について，実践的な視点から実例を交えて学びます。
	第7回	前半の振り返り，中間到達度テスト 前半の授業を振り返るとともに，理解度を確認するためのテストを行います。
	第8回	到達度テストの解説・援助関係の形成の意義と概念 ・到達度テストの解説を行い知識の定着を図ります ・ソーシャルワークの対象と援助関係 ・ソーシャルワークの定義及び構成要素から見た援助関係の意義と留意点 ・クライアントシステム並びにソーシャルワークの実践レベルと援助関係
	第9回	援助関係形成の意義と概念 ・社会福祉士の倫理綱領を踏まえた援助関係の形成方法と留意点 ・自己覚知と他者理解の意義 ・援助関係の形成方法 実際の場面に即して学びます
	第10回	援助関係の形成方法と留意点 ・対人関係の理論や方法から導かれる援助関係の形成方法 ・クライアントシステム（家族・友人・地域住民）との援助関係の形成 エンパワメントやストレングス，面接等についても学びます
	第11回	ケースマネジメントにおける面接とアウトリーチ ・アウトリーチの対象やニーズの掘り起こし ・面接技術 一人ひとりの援助における実践方法や地域を対象とした実践方法などについて学びます
	第12回	ネットワークング1 ・ネットワークとは何か，その意義と目的・方法 ・社会福祉分野におけるネットワーク，ネットワークの性質 総合的なネットワークの形成とシステム実際について解説します。
	第13回	ネットワークング2 ・ネットワークの性質，機能 ・ネットワーク構築のプロセスと手法 総合的なネットワークの機能とプロセス，手法について解説します。
	第14回	後半のふりかえり 期末到達度テスト 後半の授業を振り返るとともに，理解度を確認するためのテストを行います。
	第15回	コーディネーション・期末到達度テストの解説 ・到達度テストの解説を行い知識の定着を図ります ・コーディネイトの意義と目的 ・IPWとIPE

	<p>協働のためのコーディネーションの実際について紹介します。</p> <p>※各回を通して、ケースワーカー、障害者施設職員、福祉行政、福祉法人の管理者としての経験など踏まえたエピソードなどをお話します。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】 ソーシャルワークの実際場面において応用できる理論と方法の基本的事項を理解する。特にソーシャルワークにおけるマイクロ・メゾ、マクロの各階層ごとの対象者への支援と実践理論との接点を知ることにより、相談援助の概念及び実践理論がいかに現場実践に結びついているのかを体系的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワーカーとしての相談援助に関する知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題解決力、生涯学習力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・社会福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法（社会専門） ISBN：978-4-8058-8249-8 出版社：中央法規 著者名：一般財団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 価格（税抜）：2,900円</p>
参考文献	<p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版 ISBN：978-4-8058-5104-3 出版社：中央法規 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,600円講義中適宜紹介する。</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 ①毎回のリアクションペーパー（約30%） ②中間到達度テスト，期末到達度テスト（約70%）</p> <p>【フィードバックの方法】 リアクションペーパーを回収した次の授業内で総評を口頭で伝え及び質問に対し回答をする。</p>
質問・相談の受付方法	<p>①授業内で適宜、質問相談に応じる ②リアクションペーパーに積極的に記入して欲しい</p>
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>積極的な質問を歓迎します。 現場での経験や実務的な内容にお話ししたいと思います。なお、講義の進捗状況、テキストの改訂等に応じて授業計画が変更になる場合があります。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示します。次回授業までに予習を行ってください。（2時間） 【事後学習】 毎回授業後に履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理するようにしてください。（2時間）</p>

講義科目名称： ソーシャルワークの理論と方法（社会）B/相談援助の 授業コード： 30630  
理論と方法D（2020以前入学生）

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	選択
担当教員			
山本雅章			
添付ファイル			

テーマ	相談援助実習・演習科目に連動した「実践能力」を身につけるための理論と方法を学ぶ		
授業計画	第1回	ソーシャルワークA（前期）のふりかえり，ガイダンス	
	第2回	社会資源の活用・調整・開発 ・ニーズ集約，提言，計画策定，実施，評価 ・ソーシャルワーク実践と社会資源の関係 ・社会資源の開発 ソーシャルワークにおける社会資源の理念や有効な活用について学びます。	
	第3回	社会資源開発の様々な方法 ・社会資源開発の方法 ・サービス改善 ・社会資源開発に必要なソーシャルワークのスキル ニーズ把握や福祉計画，自立支援協議会の実践を通して学びます。	
	第4回	ソーシャルアクション 社会福祉制度・サービスの創設，改善・維持を目指して国や地方自治体に行政措置を取らせようとするソーシャルアクションについて理解し，その手法の活用などを学びます。	
	第5回	カンファレンス ・社会福祉士としての業務や実践における会議 ・会議や会議について学ぶ上での留意点，会議の運営 カンファレンスはソーシャルワーク実践で多用される手法です。上記の点について，実践的な視点から学びます。	
	第6回	ミクロ・メゾ・マクロの会議 ソーシャルワーカーがかかわるミクロ・メゾ・マクロレベルでの実践における様々な会議について，事例をとおして学びます。	
	第7回	前半の振り返り，中間到達度テスト 前半の授業を振り返るとともに，理解度を確認するためのテストを行います。	
	第8回	到達度テストの解説・事例分析，事例検討 ・到達度テストの解説を行い知識の定着を図ります。 ・事例分析とは，その目的と意義 ・事例の選定と分析の準備 ・事例分析のポイント 実際の事例研究を行うのあたりの事例分析の目的と意義，ポイントを学びます。	
	第9回	事例研究 ・分析の目的と意義・方法とデザイン ・事例研究の手順，留意点 事例研究は多くの現場で活用されています。また，社会福祉学の発展にも欠かせません。その視点から，その意義や方法，手法について学びます。	
	第10回	ネゴシエーション ・到達度テストの解説を行い知識の定着を図ります ・ネゴシエーションとその研究 ・交渉の基本，原則，プロセス ・交渉に挑む際に必要な要素 交渉は，福祉実践のみならず業務上必要な手法です。この基本概念や手法など幅広く学びます。	
	第11回	コンフリクト・レゾリューション ・コンフリクトとコンフリクト・レゾリューション ・コンフリクトの構造ととらえ方 ・コンフリクト・レゾリューションに向けた方法とその発展 上記の基本的な内容を学びながら，実践で活用できるようその方法を学びます。	
	第12回	ファシリテーション ・ファシリテーションの定義と活用領域 ・会議やワークショップにおけるファシリテーター ・ファシリテーションプロセス 会議やワークショップでは，職員がこの役割を務める場面が多くみられます。実践的に活用できるように学びます。	
	第13回	プレゼンテーション ・プレゼンテーションの意義と方法，留意点，評価 福祉職場や行政においても，企業と同様，的確なプレゼンテーションを行い，市民に理解を得るなどの機会が多くなっています。活用できるよう学びます。	
	第14回	後半のふりかえり，期末到達度テスト	

	<p>第15回 期末到達度テストの解説・ソーシャル・マーケティング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達度テストの解説をとおして知識の定着を図ります。</li> <li>・ソーシャル・マーケティングの周縁とその広がり</li> <li>・近接領域におけるソーシャル・マーケティング</li> <li>・プロセス</li> <li>・実施と評価</li> </ul> <p>様々な社会問題を多様な主体で解決するとともに、顧客理解を進めながら事業展開を行う必要も生じています。その点からソーシャル・マーケティングを学びます。</p> <p>※各回を通して、ケースワーカー、障害者施設職員、福祉行政、福祉法人の管理者としての経験など踏まえたエピソードなどをお話します。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】ソーシャルワークの実際場面において応用できる理論と方法の基本的事項を理解する。特にソーシャルワークにおけるミクロ・メゾ、マクロの各階層ごとの対象者への支援と実践理論との接点を知ることにより、ソーシャルワークの概念及び実践理論がいかに現場実践に結びついているのかを体系的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】ソーシャルワーカーとしての相談援助に関する知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考、問題解決能力、生涯学習力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・社会福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法（社会専門） ISBN：978-4-8058-8249-8 出版社：中央法規 著者名：一般財団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 価格（税抜）：2,900円</p>
参考文献	<p>文献名：新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版 ISBN：978-4-8058-5104-3 出版社：中央法規 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 価格：2,600円 講義中適宜紹介する。</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】①毎回のリアクションペーパー（約30%） ②中間到達度テスト，期末到達度テスト（約70%）</p> <p>【フィードバックの方法】リアクションペーパーを回収した次の授業内で、総評を口頭で伝え及び質問に対し回答をする。</p>
質問・相談の受付方法	<p>①授業内で適宜、質問相談に応じる ②リアクションペーパーに積極的に記入して欲しい</p>
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>積極的な質問を歓迎します。 ケースワーカー、障害者施設職員、福祉行政の管理職や社会福祉法人の役員としての組織マネジメント業務等の経験やなどを授業の中でエピソードや実務的な内容についても触れたいと思います。なお、講義の進捗状況、テキストの改訂等に応じて授業計画が変更になる場合があります。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】毎回授業内で予習内容を提示します。次回授業までに予習を行っておくこと（2時間） 【事後学習】毎回授業後に履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理するようにしてください（2時間）</p>



講義科目名称： 地域福祉と包括的支援体制 A / 地域福祉の理論 授業コード： 30701 30720  
と方法 A (2020以前入学生)

英文科目名称： Theory and Method of Community Welfare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
渡邊英勝			
添付ファイル			

テーマ	地域社会のニーズ、地域福祉を形成した思想・理念、地域福祉を推進する政策・制度、要支援者の地域自立生活を支援する実践の現状の理解をする。地域共生社会構築の流れと理解、包括的支援体制である重層的支援体制について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 地域社会の概念と理論 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第2回 地域社会の変化 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第3回 多様性・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第4回 地域福祉と社会的孤立 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第5回 地域包括ケアシステム 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第6回 生活困窮者自立支援の考え方 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第7回 包括的支援体制とは（地域共生社会の実現に向けた制度や施策） 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第8回 地域福祉ガバナンス 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第9回 多機関協働を促進する仕組み 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第10回 多職種連携（介護実践に関連する諸制度） 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第11回 地域福祉の概念と理論 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第12回 地域福祉の歴史 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第13回 地域福祉の動向 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第14回 地域福祉の推進主体 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第15回 地域福祉の主体と福祉教育 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>地域福祉は、2000年の社会福祉法制定で「地域福祉の推進」が法律の中に位置づけられ、社会福祉制度の中では比較的新しい研究分野である。さらに、2017年には社会福祉法改正において地域共生社会の構築が喫緊の課題となっており、社会福祉分野の学習において基盤となる考え方である。</p> <p>【授業概要】地域社会を基盤にした「共生社会の構築」「主体的な住民参加」など地域福祉の理念・考え方をふまえ、要支援者の自立地域生活を支える福祉コミュニティ形成のあり方を学ぶ。</p> <p>【授業の到達目標】地域社会を基盤とした生活課題の把握及び解決に取り組むソーシャルワークの知識・支援スキルの習得を目的とする。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部での学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び地域を視野に貢献する力をつけることができる。さらに、「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力及びチームワーク・リーダーシップを身につけることができる。</p>

テキスト	テキスト名：最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士講座 6巻「地域福祉と包括的支援体制」 ISBN：978-4-8058-8236-8 出版社：中央法規 価格（税抜）：2,600円
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	①毎回アクションペーパーを記入・提出していただく（50%） ②最終課題レポート作成・提出（50%） 期末レポートに関するフィードバックは、学内制度（成績問い合わせ制度）を通じて行う。
質問・相談の受付方法	オフィスアワーを積極的に利用してください。 毎回の授業時に配るアクションペーパーに記入してください。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	市町村社会福祉協議会の職員として地区社会福祉協議会活動・小地域福祉活動・ボランティア活動の推進、2000年度の法定化された苦情解決制度・地域福祉権利擁護事業などの福祉サービス利用者の権利擁護事業の立ち上げと定着化、介護保険事業においては介護支援専門員、地域包括支援センター管理者等従事しました。その体験をふまえた実践研究を通じた授業を行います。 社会福祉士等の福祉専門職は、社会福祉システムのメインストリームである「地域福祉」の理論と方法を習得することは必須であり、地域福祉を創造する一員としての学びをしてください。
準備学習について	【事前学習】授業計画によって事前に提示されているテーマについて、次回授業の予習内容を提示するので、教科書、参考文献や新聞記事等を調べ、わからない用語をチェックしておくなど事前学習を行うこと。（2時間） 【事後学習】毎回の授業での「アクションペーパー」で授業内容の振り返りを行うこと。また、授業時間外で授業該当テーマを教科書と授業時配布レジュメをもとに振り返りを行うこと。さらに、授業で取り上げた地域福祉実践について、自らが暮らす地域社会で展開されているかどうかを把握すること。（2時間）

講義科目名称： 地域福祉と包括的支援体制 B / 地域福祉の理論 授業コード： 30711 30730  
と方法 B (2020以前入学生)

英文科目名称： Theory and Method of Community Welfare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
渡邊英勝			
添付ファイル			

テーマ	地域社会のニーズ、地域福祉を形成した思想・理念、地域福祉を推進する政策・制度、要支援者の地域自立生活を支援する実践の現状の理解をする。地域共生社会構築の流れと理解、包括的支援体制である重層的支援体制について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 地域を基盤としたソーシャルワークの方法 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第2回 住民の主体形成に向けたアプローチ① 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第3回 住民の主体形成に向けたアプローチ② 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第4回 具体的な展開 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第5回 非常時や災害時における法制度① 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第6回 非常時や災害時における法制度② 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第7回 非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援① 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第8回 非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援② 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第9回 福祉計画の定義、目的、機能と歴史的展開 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第10回 市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第11回 福祉計画の策定過程と方法 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第12回 福祉計画におけるニーズ把握の方法・技術、福祉計画における評価 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第13回 国の役割、都道府県の役割、市町村の役割 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第14回 国と地方の関係、福祉行政の組織および専門職の役割 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第15回 福祉における財源 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。様々なエピソードを紹介したいと思います。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>地域福祉は、2000年の社会福祉法制定で「地域福祉の推進」が法律の中に位置づけられ、社会福祉制度の中では比較的新しい研究分野である。さらに、2017年には社会福祉法改正において地域共生社会の構築が喫緊の課題となっており、社会福祉分野の学習において基盤となる考え方である。</p> <p>【授業概要】 地域社会を基盤にした「共生社会の構築」「主体的な住民参加」など地域福祉の理念・考え方をふまえ、要支援者の自立地域生活を支える福祉コミュニティ形成のあり方を学ぶ。</p> <p>【授業の到達目標】 地域社会を基盤とした生活課題の把握及び解決に取り組むソーシャルワークの知識・支援スキルの習得を目的とする。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部での学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び地域を視野に貢献する力をつけることができる。さらに、「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力及びチームワーク・リーダーシップを身につけることができる。</p>

テキスト	テキスト名：最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士講座 6巻「地域福祉と包括的支援体制」 ISBN：978-4-8058-8236-8 出版社：中央法規 価格（税抜）：2,600円
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	①毎回アクションペーパーを記入・提出していただく（50%） ②最終課題レポート作成・提出（50%） 期末レポートに関するフィードバックは、学内制度（成績問い合わせ制度）を通じて行う。
質問・相談の受付方法	オフィスアワーを積極的に利用してください。 毎回の授業時に配るアクションペーパーに記入してください。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	市町村社会福祉協議会の職員として地区社会福祉協議会活動・小地域福祉活動・ボランティア活動の推進、2000年度の法定化された苦情解決制度・地域福祉権利擁護事業などの福祉サービス利用者の権利擁護事業の立ち上げと定着化、介護保険事業においては介護支援専門員、地域包括支援センター管理者等従事しました。その体験をふまえた実践研究を通じた授業を行います。 社会福祉士等の福祉専門職は、社会福祉システムのメインストリームである「地域福祉」の理論と方法を習得することは必須であり、地域福祉を創造する一員としての学びをしてください。
準備学習について	【事前学習】授業計画によって事前に提示されているテーマについて、次回授業の予習内容を提示するので、教科書、参考文献や新聞記事等を調べ、わからない用語をチェックしておくなど事前学習を行うこと。（2時間） 【事後学習】毎回の授業での「アクションペーパー」で授業内容の振り返りを行うこと。また、授業時間外で授業該当テーマを教科書と授業時配布レジュメをもとに振り返りを行うこと。さらに、授業で取り上げた地域福祉実践について、自らが暮らす地域社会で展開されているかどうかを把握すること。（2時間）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	選択
担当教員			
山本雅章			
添付ファイル			

テーマ	福祉サービスの特性を理解し、福祉サービスを提供している事業者（行政や、社会福祉法人、非営利組織）の経営を考える
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業日程・授業内容等 ・ 私たちの暮らしと社会福祉のあり方 ・ 福祉サービスとは、福祉サービスの提供主体</p> <p>第2回 福祉サービスにかかわる組織や団体①（法人とは何か） ・ 福祉サービス提供事業者の位置と組織形態の多様性 ・ 社会福祉法人制度の概要 ・ 社会福祉法人の設立要件等</p> <p>第3回 福祉サービスにかかわる組織や団体② ・ 社会福祉法人（福祉施設・社会福祉協議会）の現状と経営課題 ・ 特定非営利活動法人・その他のサービス提供組織の現状と経営課題</p> <p>第4回 福祉サービスにかかわる組織や団体③ ・ 市町村（福祉事務所など）</p> <p>第5回 福祉サービス提供組織と経営理論①（組織戦略の基礎理論） ・ 福祉サービスの経営戦略 ・ 福祉サービスの事業計画</p> <p>第6回 福祉サービス提供組織と経営理論②（組織構造の基礎理論） ・ 組織とはなにか ・ 管理運営の基礎理論</p> <p>第7回 中間到達度テスト、第1回から第6回のふりかえりの講義 前半の振り返りを行うとともに、テストを含めて知識の定着を図ります。</p> <p>第8回 福祉サービス提供組織の経営理論③（集団力学の基礎理論） ・ 集団の力学 ・ リーダーシップ ・ 集団とモチベーション</p> <p>第9回 福祉サービスと経営管理①（品質管理） ・ サービスマネジメント ・ サービス評価</p> <p>第10回 メンタルヘルス、管理職 職場での心身の健康状態を保つことは、本人にとって重要であるだけでなく、職場の責任でもります。そのことについて学びます。</p> <p>第11回 福祉サービスと経営管理②（リスク管理） ・ 福祉サービスの苦情対応 ・ 福祉サービスにおけるリスクマネジメント</p> <p>第12回 福祉サービスの管理運営の方法 ・ キャリアマネジメント</p> <p>第13回 福祉組織における人事・労務管理 ・ 人事・労務管理</p> <p>第14回 期末到達度テスト、後半のふりかえりの講義 後半の振り返りを行うとともに、テストを含めて知識の定着を図ります。</p> <p>第15回 福祉組織における情報管理と広報、財務・会計管理 ・ 社会福祉法人の情報管理と戦略的広報 ・ 経営と財務管理 ・ 社会福祉法人の財務規律・財務諸表</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 福祉サービスの中核を担うソーシャルワーカーとして、福祉サービスを提供する組織・事業者等の非営利組織の経営理念・経営戦略、経営管理について基礎的な知識を修得する。具体的には、 ①福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人など）について理解する。 ②福祉サービスの特性をふまえ、提供組織構造と経営に係る基礎理論について理解する。 ③福祉サービスを提供する組織の経営管理及び組織運営（チームマネジメント）について理解する。</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワーカーとして活躍できる人材を育成することを視野に、福祉サービスの運営管理を理解し、説明できる。また、社会福祉士国家試験の受験科目として合格するための必要な基礎的な知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 「福祉力」の構成要素では、「知識・技能を理解する力」、「主体的に学習する力」、「地域を視野に貢献する力」を身につけ、「学士力」では、「論理的思考力」、「問題解決力」「市民としての社会的責任」を身</p>

	につけることができる。
テキスト	テキスト名：新・社会福祉士養成講座11「福祉サービスの組織と経営 第5版」 ISBN：978-4-8058-5431-0 出版社：中央法規 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,200円
参考文献	①「社会福祉法人の在り方等に関する検討会」報告 厚生労働省 2014年7月 ②「ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割等について」答申 社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 2018年3月 その他、講義中適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	①リアクションペーパー 約26% ②到達度テスト 中間・期末各 約74% 【フィードバックの方法】リアクションペーパーを回収した次の授業内で、総評を口頭で伝え及び質問に対し回答をする。
質問・相談の受付方法	授業中、あるいは授業終了後、随時受け付ける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	社会福祉士等の福祉専門職は、自らの職場が働きやすい環境を創るための努力が求められ、組織の安定性と継続性を図る『経営』について学んでほしい。 社会福祉士として、複数の社会福祉法人の理事、評議員の経験があります。実践に即した内容にするとともに、授業中にいろいろな福祉現場のエピソードを紹介したいと思います。
準備学習について	①毎回授業内で予習内容を指示するので、予習を行うこと（2時間） ②毎回授業で確認を行うので（小テスト等）、授業時間外で復習すること（2時間） 参考文献に記載した①、②の報告書・答申を入手（厚生労働省ホームページに掲載）し、精読しておくこと（授業中に指示する）。

講義科目名称： 高齢者福祉／高齢者福祉サービス（2020以前入 授業コード： 31100 学生）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
檜木博之			
添付ファイル			

テーマ	高齢者の理解を深め、高齢者の福祉・介護に係る法制度の概要について理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 高齢者の定義 科目の位置づけを理解する。高齢者の定義を理解する。</p> <p>第2回 高齢者の特性と生活実態及び高齢者を取り巻く社会環境 高齢者の特性と生活実態、高齢者を取り巻く社会環境を明らかにする。</p> <p>第3回 高齢者福祉の歴史 高齢者福祉の理念、高齢者福祉制度の発展過程を理解する。</p> <p>第4回 高齢者に対する法制度①老人福祉法 老人福祉法の基本理念と高齢者福祉サービスを理解する。</p> <p>第5回 高齢者に対する法制度②高齢者医療確保法 後期高齢者医療制度を理解する。 高齢者医療の実践の変化について、実務経験に基づいて説明していきます。</p> <p>第6回 高齢者に対する法制度③高齢者福祉と介護保険制度 (1) 介護保険制度の概要 介護保険制度の基本的枠組み（目的・保険者・被保険者・保険財政等）を理解する。</p> <p>第7回 高齢者に対する法制度③介護保険法 (2) 介護保険の利用の流れ 介護保険制度の仕組み（介護保険の利用の流れ）を理解する。</p> <p>第8回 高齢者に対する法制度③介護保険法 (3) 介護保険サービスの体系 介護保険サービスの種類と内容を理解する。</p> <p>第9回 高齢者に対する法制度③介護保険法 (4) 地域支援事業 地域包括ケアシステム・地域支援事業・地域包括支援センターについて理解する。</p> <p>第10回 高齢者に対する法制度③介護保険法 (5) 介護保険事業計画と介護報酬 介護保険事業計画、介護保険事業支援計画、介護報酬について理解する。</p> <p>第11回 高齢者・介護実践に関連する法制度④高齢者虐待防止法 高齢者虐待の定義と虐待を防ぐ方法、権利擁護を理解する。</p> <p>第12回 高齢者に対する法制度⑤バリアフリー法・高齢者住まい法 バリアフリー新法と高齢者住まい法の内容を理解する。</p> <p>第13回 高齢者に対する法制度⑥高齢者雇用安定法、育児・介護休業法、市町村独自の高齢者支援 介護保険を利用した際のお金の流れを理解する。</p> <p>第14回 高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割 高齢者を取り巻く社会資源を事例を含めて理解する。</p> <p>第15回 高齢者と家族等の支援の実際 高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割について、事例から考える。尊厳の保持、自立支援を踏まえたソーシャルワーカー実践について、実務経験に基づいて説明します。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 高齢者の生活実態と社会情勢といった高齢者がおかれている現状を把握するとともに、高齢者の福祉・介護に係る他の法制度の概要について理解する。</p> <p>【授業の到達目標】 ①高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。 ③高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部で学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、地域を視野に貢献する力及び「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解、市民としての社会的責任を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・社会福祉士養成講座2 高齢者福祉 ISBN： 978-4-8058-8245-0 出版社：中央法規 著者名：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 価格（税別）：2,500円</p>
参考文献	授業中に適宜紹介する。

成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】学期末筆記試験（50%）、レポート（20%）、リアクションペーパー内の課題・授業の要点の内容（30%）を総合的に評価する。なお、出席回数2/3以上の出席がなければ成績評価の対象としない。 【フィードバック方法】授業内で毎回提出するリアクションペーパーは、次の回の授業で返却する。小レポートは回収後授業内でコメントをつけて返却する。また、学期末試験に関するフィードバックについては、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じておこなう。
質問・相談の受付方法	授業終了後やオフィスアワーで質問・相談を受けつける。また、授業時に配布するリアクションペーパーに疑問点・質問を記載する欄があるので積極的に記入して欲しい。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	日頃から高齢者福祉に関連する新聞記事等を意識して目を通すようにしてください。また、授業で使用するリアクションペーパーを積極的に活用して欲しいです。 療養病床のある病院で医療ソーシャルワーカー、居宅介護支援事業所で介護支援専門員をしていました。講義では高齢者医療の変遷、介護保険制度の実際について伝えていきます。
準備学習について	予習は、授業前2時間以上とする。授業ごとに教科書の該当ページを指定するので指定した箇所を読み、最近の社会の動向との関連性を考えておく。復習は、授業後2時間以上とする。授業で学んだことを振り返り、まとめておくこと。



講義科目名称： 障害者福祉／障害者福祉サービス（2020以前入 授業コード： 31301 学生）

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
山本雅章			
添付ファイル			

テーマ	障害福祉の理念、障害者を取り巻く環境や法制度、支援方法を学ぶ。		
授業計画	第1回	障害概念と特性 障害者の定義と特性 障害とは何かについて考えてみたいと思います。 また、法的な定義などについても解説します。	
	第2回	国際生活機能分類（ICF）と障害の社会モデル、障害観の変遷 障害の概念は医学モデルから社会モデルに転換しています。その内容を解説します。	
	第3回	障害者福祉の理念 ノーマライゼーションからインクルージョンと障害者福祉を支える考え方を紹介します。 そのうえで、公平と平等についても考えていきたいと思っています。	
	第4回	障害者福祉の歴史、障害者処遇の変遷、障害福祉制度と発展過程 障害者福祉の戦前、戦後の歴史について、簡単に触れながら、今日的な到達点を確認します。	
	第5回	障害者権利条約と障害者基本法、障害者福祉制度と当事者運動、 国連で採択された障害者権利条約と国内法の関係、障害当事者運動について触れます	
	第6回	障害者の生活実態、障害者と家族 障害者の統計的な現状とその生活の実態について解説します。	
	第7回	障害者に対する法制度、全体像、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法 社制度の骨格は国が定めた障害者福祉に関する法律に基づいて実施されています。その方でも基本的には法律について解説します	
	第8回	前半の振り返り、中間到達度テスト 第1回から第7回目での振り返りを行い、後半簡単なテストを行います。	
	第9回	児童福祉法、発達障害者支援法 障害児に関する法的な枠組みは児童福祉法に基づいています。その方を開設するとともに発達障害者支援法についても概要を押さえます。	
	第10回	障害者総合支援法1 居宅支援や日中活動など障害者に対する様々なサービスが規定されている障害者総合支援法の成り立ちやその内容について説明します。	
	第11回	障害者総合支援法2、障害者差別解消法、バリアフリー法 地域生活支援事業や協議会について、実践経験をもとに説明するとともに差別解消法やバリアフリー法の実際についてお話しします。	
	第12回	障害者虐待防止法 障害者の人権の尊重を基本に、虐待の予防やその対応について、実践例を含め説明します。	
	第13回	障害者雇用促進法、障害者優先調達推進法 就労を希望する障害者がもっと働ける社会にするための施策について解説します。	
	第14回	後半のふりかえり、期末到達度テスト 後半（9回から13回）の振り返りを行うとともに、期末到達度テストを行います。	
	第15回	障害者と家族等に対する支援の実際 重症心身障害者の問題をとりあげ、その支援の実際について説明します。	
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	【授業概要】「普通の生活」とはどのような状態でしょうか？ノーマライゼーションの原理では「可能なかぎり、普通に近い生活」と定義しており、「普通の生活」を具現化する方法として、ソーシャル・インクルージョンやユニバーサルデザインなどの概念が用いられています。本講義では、障害福祉に不可欠な理念とそれらを具現化するために必要な知識（障害児者を取り巻く環境・法制度）や支援方法を学びます。 【授業の到達目標】障害福祉におけるソーシャルワークに必要な知識・技術を習得することを到達目標とします。 【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができます。		
テキスト	テキスト名：最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉 ISBN：978-4-8058-8238-2 出版社：中央法規 著者名：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 価格（税抜）：2,500円		
参考文献	配布資料等にて適宜紹介します。		

成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】リアクションペーパー26%、中間期に実施する到達度評価：37%、学期末に実施する到達度評価：37%を評価の素材として総合的に評価します。 【フィードバック方法】フィードバックは、学内制度（成績問い合わせ制度）を利用してください。
質問・相談の受付方法	授業中や講義終了後、あるいはメールを活用してください。
履修条件	特にありません。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザインカレッジ生【可】
メッセージ	受講にあたって調整が必要な場合は事前に協議し、もっとも適切な方法を個別に検討します。必ず受講開始前に相談してください。なお、講義の進捗状況、テキストの改訂等に応じて授業計画が変更になる場合があります。 市役所の障害担当ワーカーや障害者施設職員、福祉行政分野の課長、部長を経験してきました。現在も、社会福祉法人の役員をやっています。講義では障害者支援の実際について伝えることができればよいと考えています。
準備学習について	【事前学習】テキストの該当部分を読み、わからない用語・制度等を事前に調べてください（2時間以上）。 【事後学習】原則として毎回の授業でワークシートに取り組みます。授業時間外で振り返り、障害福祉に関する話題（ニュースや記事）、講義やワークシートで取り扱った障害福祉に関する課題を調べてください（2時間以上）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
灰谷和代			
添付ファイル			

テーマ	児童・家庭福祉の基本的枠組みと子ども家庭福祉のソーシャルワークを学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、児童・家庭・福祉とは 【事後学習】 児童・家庭・福祉についてまとめる (1時間)</p> <p>第2回 児童の権利 【事前学習】 テキストP2～22を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第3回 児童・家庭福祉の歴史 【事前学習】 テキストP24～36を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第4回 児童・家庭の生活実態と取り巻く社会環境 【事前学習】 テキストP38～46を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第5回 児童・家庭に対する法制度 【事前学習】 テキストP48～64を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第6回 児童・家庭に対する支援における関係機関の役割 【事前学習】 テキストP65～74を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第7回 児童・家庭に対する支援における専門職の役割 【事前学習】 テキストP75～86を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第8回 児童・家庭に対する支援の実際①子ども・子育てへの支援 【事前学習】 テキストP88～98を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第9回 児童・家庭に対する支援の実際②母子保健・保育 【事前学習】 テキストP99～115を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第10回 児童・家庭に対する支援の実際③児童虐待対応・要保護児童等への支援 【事前学習】 テキストP116～129を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第11回 児童・家庭に対する支援の実際④社会的養護 【事前学習】 テキストP130～137を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第12回 児童・家庭に対する支援の実際⑤ひとり親家庭や女性への支援 【事前学習】 テキストP138～153を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第13回 児童・家庭に対する支援の実際⑥学齢期・青年期・若者への支援 【事前学習】 テキストP154～175を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第14回 児童・家庭に対する支援⑦障がい児への支援 【事前学習】 テキストP176～186を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第15回 児童・家庭福祉における社会福祉士の役割 児童・家庭福祉における多問題家族の事例を用いて、社会福祉士の役割を知る ※事例は、担当教員の実務経験に基づいて作成したオリジナル事例を用いる 【事前学習】 テキストP187～209を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】 児童・家庭福祉にかかわる福祉制度全体の基礎的な理解や児童家庭福祉におけるソーシャルワークの支援展開について学ぶことによって、社会福祉士の国家試験に対応できる力量を養い、ケースの状況に応じたソーシャルワーク実践につながることを目標とする。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部での学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」と「主体的に学習する力」、および「学士力」の構成要素の一つである「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」「チームワーク・リーダーシップ」を身につける。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 社会福祉士養成講座（専門科目）③児童・家庭福祉 ISBN：978-4-8058-8246-7 出版社：中央法規出版 著者名：日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 価格（税抜）：2,500円</p>

参考文献	必要に応じて授業の中で紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 授業への積極性（ワークシート・コメントペーパーの提出状況と記述内容、ディスカッション等への参加状況等による評価）（50%）、学期末のレポート（50%）で評価する。</p> <p>【課題に対するフィードバック方法】 ワークシートやコメントペーパーを回収した時は、次の授業内で総評を口頭で伝える。ディスカッション等の発表内容については必要に応じてコメントする。</p>
質問・相談の受付方法	授業の前後やメール等で受け付ける。
履修条件	特に設けないが、社会福祉士国家試験受験資格およびスクールソーシャルワーク教育課程資格を得るための必須科目である。相談援助実習（2021年以降入学者は、ソーシャルワーク実習、実習指導を含む）の前提科目である。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	毎回（第1回目を除く）の授業で、各自が事前にまとめた事前ワークシートを基にディスカッション等の時間を設ける。毎回の授業終わりに次の事前ワークシートを配布するので次回授業までに必ずまとめておくこと。また、毎回の授業でコメントペーパーの提出を求める。※初回授業で詳細を説明するので必ず出席すること。担当教員は、保育所等での保育、地域における子育て支援、市役所等での相談援助の実務経験があるため、必要に応じて実務経験に基づく現場の実際などを紹介する。
準備学習について	<p>【事前学習】毎回（第1回目授業を除く）、次の授業範囲のテキスト等を事前に読んで事前ワークシートにまとめる（1時間）</p> <p>【事後学習】毎回、授業終了後にテキストや配布資料を読んでまとめる（1時間）</p>

講義科目名称： 保健医療と福祉/保健医療サービス（2020以前 入学生） 授業コード： 31600

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
渡辺央			
添付ファイル			

テーマ	保健医療分野におけるソーシャルワーク実践に必要な医療福祉の基礎的知識を学ぶ。		
授業計画	第1回	オリエンテーション（ねらい、進め方 など）	
	第2回	保健医療の動向	
	第3回	保健医療における福祉的課題	
	第4回	保健医療に係る政策・制度・サービスの概要①	医療保険制度の概要
	第5回	保健医療に係る政策・制度・サービスの概要②	医療保険による給付・公的負担医療制度
	第6回	保健医療に係る政策・制度・サービスの概要③	診療報酬制度の概要
	第7回	保健医療に係る政策・制度・サービスの概要④	医療施設の概要
	第8回	保健医療に係る政策・制度・サービスの概要⑤	保健医療対策の概要
	第9回	保健医療に係る倫理①	意思決定支援、医療倫理
	第10回	保健医療に係る倫理②	生殖医療、出生前診断、脳死と臓器移植
	第11回	保健医療領域における専門職	
	第12回	保健医療領域における連携・協働	
	第13回	保健医療領域における社会福祉士の役割	
	第14回	保健医療領域における支援の実際	
	第15回	保健医療の展望、まとめ	
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】保健医療分野における社会福祉士の役割や他の専門職との連携・協働の方法、またそれらを支える制度・施設・資格等を学ぶ。</p> <p>【到達目標】保健医療の課題を持つ人に対する社会福祉士としての適切な支援のあり方を考察することができる。保健医療の動向を理解したうえで、保健医療に係る制度、サービスについて概要を説明することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>		
テキスト	<p>書籍名：入門 保健医療と福祉          編著者：川村 匡由          出版社：ミネルヴァ書房          出版年：2023年3月30日          ISBN 978-4-623-09552-0</p>		
参考文献	決まり次第ActiveAcademyでお知らせします。		
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】各授業における小テストと、まとめのテストにより評価する。（配点 60：40）</p> <p>【フィードバック方法】小テスト、まとめのテストについて解答の解説を行う。</p>		
質問・相談の受付	授業終了後、オフィスアワーに対応する。		

方法	
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	医療ソーシャルワーカーとしての実務経験を踏まえ、授業の中でそのエピソードなどについても触れることができると思います。
準備学習について	【事前学習】 授業毎にテキストの該当する箇所を読んでください(1時間程度) 【事後学習】 返却された小テストの振り返りをしてください(1時間程度)

講義科目名称： 権利擁護を支える法制度/権利擁護と成年後見 制度（2020以前入学生） 授業コード： 31700

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
古井慶治			
添付ファイル			

テーマ	権利擁護の視点に基づく支援の実践
授業計画	<p>第1回 法を学ぶ基礎 法と規範、法の体系と種類、法の解釈と裁判制度、判例について解説する。</p> <p>第2回 ソーシャルワークと法の関わり①（憲法） 憲法の概要と基本的人権について解説する。</p> <p>第3回 ソーシャルワークと法の関わり②（民法） 民法の総則、契約、親族、相続等について解説する。</p> <p>第4回 ソーシャルワークと法の関わり③（行政法） 行政組織、行政行為、行政救済制度等について解説する。</p> <p>第5回 権利擁護の意義と支える仕組み 権利擁護の必要性、虐待防止法等の制度について解説する。</p> <p>第6回 権利擁護活動と権利擁護に関わる組織、団体と専門職 権利擁護活動と法的課題、組織、団体、専門職等について解説する。授業で提示した課題について小レポートを作成する。</p> <p>第7回 成年後見制度の概要① 成年後見制度の全体像、法定後見と任意後見の内容について解説する。</p> <p>第8回 成年後見制度の概要② 法定後見の申立て手続きについて解説する。</p> <p>第9回 成年後見制度の実際 成年後見人等の実務について事例を交えて解説する。授業で提示した課題について小レポートを作成する。</p> <p>第10回 成年後見制度の動向 利用の動向、成年後見制度利用促進法、基本計画について解説する。</p> <p>第11回 日常生活自立支援事業の概要 日常生活自立支援事業の概要、成年後見制度との相違点について解説する。</p> <p>第12回 権利擁護活動の実際① 高齢者虐待防止法における対応事例について解説する。授業内で学生同士のディスカッションの時間を設ける。</p> <p>第13回 権利擁護活動の実際② 市長申立てを利用した高齢者支援事例について解説する。</p> <p>第14回 権利擁護活動の実際③ 障害者が地域で孤立した事例への支援について解説する。授業内で学生同士のディスカッションの時間を設ける。</p> <p>第15回 総括講義 社会福祉士として権利擁護の視点に立った支援を行う上で、知っておくべき法的知識と支援方法等について、振り返りを行う。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 社会福祉士としての実践は、利用者の権利擁護の視点を忘れてはならない。具体的な権利擁護の視点に基づく支援のあり方について、講義形式を主体として学習する。</p> <p>【到達目標】 支援活動における権利擁護の具体的取り組みについて理解できるようになる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：権利擁護を支える法制度 ISBN：978-4-335-61223-7 出版社：弘文堂 著者名：福田幸夫・森長秀 責任編集 価格(税抜)：2,500円</p>
参考文献	<p>小賀野晶一(著) 民法と成年後見法 成文堂 2011 山口光治(編) 権利擁護を支える法制度 みらい 2021</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に	<p>授業中の発言（20%）、2回実施する小レポート（20%）、学期末試験（60%）で評価する。 フィードバックの方法：小レポートを回収した次回の講義でコメントを付けて返却する。学期末試験は学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>

対するフィードバック方法	
質問・相談の受付方法	授業終了後、教室で受け付ける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に予習して質問を準備するなど、積極的な授業態度で受講することを歓迎します。</li> <li>・相談支援現場でのエピソードも交えながら、授業をしていきたいと思いをします。</li> </ul>
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容の項目について事前にテキストを読み、内容を理解して次回授業に臨むこと（1時間）。</li> <li>・授業終了時に次回の予習内容を指示する（1時間）。</li> </ul>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	選択
担当教員			
鈴木政史			
添付ファイル			

テーマ	刑事司法と福祉（更生保護）の現状および法制度を理解し、支援方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 「刑事司法と福祉」総論（pp. 2-16）</p> <p>第2回 社会と犯罪（pp. 18-32）</p> <p>第3回 犯罪原因論と対策（pp. 34-48）</p> <p>第4回 刑罰とは何か（pp. 50-64）</p> <p>第5回 刑事司法（pp. 66-84）</p> <p>第6回 少年司法（pp. 86-102）</p> <p>第7回 施設内処遇① 成人（pp. 104-124）</p> <p>第8回 施設内処遇② 少年（pp. 126-138）</p> <p>第9回 社会内処遇① 更生保護の理念と概要（pp. 140-158）</p> <p>第10回 社会内処遇② 更生保護の実際（pp. 160-178）、到達度評価について</p> <p>第11回 多様なニーズを有する犯罪行為者① 精神障害者を対象とした医療観察制度（pp. 180-194）</p> <p>第12回 多様なニーズを有する犯罪行為者② 高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉（pp. 196-212） 犯罪傾向がある障害者へのソーシャルワーク実践について実務経験を基に説明します。</p> <p>第13回 多様なニーズを有する犯罪行為者③ アディクションを抱える人と刑事司法（pp. 214-228）</p> <p>第14回 犯罪被害者等支援（pp. 230-250）</p> <p>第15回 コミュニティと刑事司法（pp. 252-272）</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】「どうすれば犯罪を減らせるだろうか？」治安情勢や犯罪と経済状況には相関関係が存在し、国際的には就労支援や所得保障によって経済的格差を是正し、治安を維持する政策が実施されています。本講義では、この相関関係を理解するために、刑事司法と福祉（更生保護）の現状と支援方法を学びます。</p> <p>【授業の到達目標】刑事司法と福祉（更生保護）におけるソーシャルワークに必要な知識・技術を習得することを到達目標とします。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができます。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座10 刑事司法と福祉 ISBN：978-4-8058-8240-5 出版社：中央法規 著者名：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 価格（税抜）：2,500円</p>
参考文献	配布資料等にて適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】受講態度（ワークシートの記載内容に対する評価）：50%、学期末に実施する到達度評価：50%を評価の素材として総合的に評価します。</p> <p>【フィードバック方法】フィードバックは、学内制度（成績問い合わせ制度）を利用してください。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後やオフィスアワーを活用してください。

履修条件	特にありません。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザインカレッジ生【可】
メッセージ	受講にあたって調整や配慮が必要な場合は事前に協議し、もっとも適切な方法を個別に検討します。必ず受講開始前に相談してください。なお、講義の進捗状況に応じて授業計画が変更になる場合があります。社会福祉協議会や社会福祉法人で障害者支援に6年間携わっていました。講義では犯罪傾向のあるクライアントへのソーシャルワーク実践について伝えることができればよいと考えています。
準備学習について	【事前学習】事前にテキストや配布資料の該当箇所を読みわからない用語や制度を調べてください（1時間以上）。 【事後学習】原則として毎回の授業でワークシートに取り組みます。授業時間外で振り返り、刑事司法や更生保護に関する話題（ニュースや記事）、講義やワークシートで取り扱った刑事司法や更生保護などに関する課題を調べてください（1時間以上）。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
長坂和則			
添付ファイル			

テーマ	児童期・思春期におけるこころの問題や疾患を理解し、知識及び支援について理解する。
授業計画	<p>第1回 家庭における精神保健とは オリエンテーション こどものこころとは… 親子関係の中の子どもたちについて</p> <p>第2回 精神保健の概要（メンタルヘルス）とは 事例性と疾病性・ストレスのさまざまな要因・こどものストレスについて</p> <p>第3回 こころの発達・こころの健康とは こころの不調の早期発見とその症状・ソーシャルワーク実践からの事例について</p> <p>第4回 胎児期・乳幼児期・アタッチメントとは 母になること・胎児と母親・乳幼児期の精神保健（メンタルヘルス）について</p> <p>第5回 幼児期・学童期・思春期の精神保健とは 虐待の連鎖・マタニティブルー・産後うつ病・発達障害の発見と支援について</p> <p>第6回 思春期と小児の精神保健とは 家庭環境が思春期に及ぼす影響と小児期の生活環境と精神保健について</p> <p>第7回 小児のこころの問題と発達障害の出現とは 自閉スペクトラム症・ADHD・LDについて</p> <p>第8回 言葉の障害とは 新生児から児童期にみられる特徴とその発達について・しつけと精神障害について</p> <p>第9回 うつ病・強迫性障害・睡眠障害とは 習癖障害・習癖障害の要因・こどものうつについて</p> <p>第10回 児童虐待とは 児童虐待の種類と児童虐待防止法・世代伝播について</p> <p>第11回 精神保健活動とは 保育士・保護者・セルフケアについて</p> <p>第12回 乳幼児精神医学とは こどもの発達と精神障がい・ストレス脆弱性モデルについて</p> <p>第13回 障がい児・親への支援 障がい児を育てるといふこと・障害受容のプロセスについて</p> <p>第14回 事例・家族の世代伝播とは 配偶者選択の問題とアディクション問題について</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 精神科医療の実際と特に児童期・思春期における精神保健の現状を理解し、ライフサイクルにおける精神保健の問題やこころの病を捉える。家庭（家族）・学校・職場・教育現場での精神保健の諸問題を取り上げ、治療や支援に必要な知識とその理解を深めるためにDVDを教材として使用する。</p> <p>【到達目標】 精神保健の基本的な考え方を理解する。現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、支援の必要性とそのあり方について理解する。</p> <p>【卒業認定・学位授与の方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力と主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、理論的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	特に指定はしない
参考文献	授業内で随時紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 レポートにより評価する。</p> <p>【フィードバック方法】 講義の始めに前回の授業の質問や疑問点を解説する。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後および空き時間・オフィスアワーに対応します。研究室は104
履修条件	静岡産業大学との単位互換の集中講義・社会福祉学部・子ども学部の児童思春期のメンタルヘルスに関する集

	中講義。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	積極的な授業の参加をお願いいたします。出席カードがリアクションペーパーになっているので、質問や感想を記載して下さい。質問は授業の始めに復習をかねて説明をいたします。 これまで、約20年の精神科病院や精神科クリニックでソーシャルワーカーとしての体験をふまえながら、ソーシャルワーク実践と保健所等で約10年のアディクション家族教室でのグループワーク実践をふまえ具体的な事例をあげ授業を行います。
準備学習について	【事前学習】 毎回授業で行う重要なキーワードを説明するので、そのキーワードの予習を行っておくこと。(1時間) 【事後学習】 授業のレジュメから振り返り(復習)を行っておくこと。(1時間)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
草深光子			
添付ファイル			

テーマ	子どもの心と体の発育・発達を理解し、子どもがかかりやすい感染症や疾患、子どもに起こりやすい事故、子どもを取り巻く環境などについて学び、子どもの健康を守るための知識を得る。
授業計画	<p>第1回 子どもの心と体の健康と保健の意義① 生命の保持と情緒の安定のための保健活動の意義と目的 健康の概念と健康指標 現代社会における子どもの健康の現状と課題 【テキスト頁】なし（資料は用意します）</p> <p>第2回 子どもの心と体の健康と保健の意義② 妊娠・出産について 出生前診断、多胎妊娠、先天性異常、医療的ケア児 【テキスト頁】P. 229～232、242、243</p> <p>第3回 子どもの発育・発達と保健① わたしたちの体 身体発育 【テキスト頁】なし（資料は用意します）</p> <p>第4回 子どもの発育・発達と保健② 運動機能の発達 【テキスト頁】なし（資料は用意します）</p> <p>第5回 子どもの発育・発達と保健③ 感覚器の発達 精神機能の発達 【テキスト頁】なし（資料は用意します）</p> <p>第6回 子どもの発育・発達と保健④、子どもの健康状態の把握① 生理機能の発達 子どもの健康状態の観察 【テキスト頁】P. 52～74</p> <p>第7回 子どもの心と体の健康状態の把握② 発育・発達の把握と健康診断 【テキスト頁】P. 149～180</p> <p>第8回 子どもの心と体の健康状態の把握③ 保護者との情報共有 【テキスト頁】なし（資料は用意します）</p> <p>第9回 保育における健康と安全管理 事故防止と安全管理 【テキスト頁】P. 27～40</p> <p>第10回 子どもの病気の予防と適切な対応① 感染症について 予防接種 【テキスト頁】P. 119～128、143～148</p> <p>第11回 子どもの病気の予防と適切な対応② 子どものかかりやすい感染症 【テキスト頁】P. 128～143</p> <p>第12回 子どもの病気の予防と適切な対応③ アレルギー疾患 【テキスト頁】P. 214～227</p> <p>第13回 子どもの病気の予防と適切な対応④ その他の子どもの病気 てんかん、お腹の病気、腎臓の病気、歯科疾患、熱中症 など 【テキスト頁】P. 74～77、228～232</p> <p>第14回 保育における保健① 子どもの権利 子どもの虐待 【テキスト頁】P. 250～255</p> <p>第15回 保育における保健② 職員の健康管理 子どもの保健 【テキスト頁】P. 255～259</p>

<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業の概要】 子どもが心身ともに健やかに成長発達するために、健康の保持増進、疾病に関する知識を習得する。 【到達目標】 子どもの心身の発育・発達を理解し、健康の保持・増進や感染防御、関連機関との連携などの方法を知る。 【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身に付けることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>1) テキスト名：これだけはおさえたい！保育者のための子どもの健康と安全 ISBN:978-4-7944-8103-0 出版社：創成社 著者名：鈴木美枝子（編著）、内山有子 他（著） 価格（税抜）：2,500円 *ただし、「これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健」、ISBN:978-4-7944-8092-7、出版社：創成社、著者名：鈴木美枝子（編著）、内山有子 他（著）、価格（税抜）：2,200円を購入済みの場合は新たに上記のテキストの購入は必要ありません</p>
<p>参考文献</p>	<p>必要と思われる文献等は、適宜、講義の中で紹介する。</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<p>【成績評価の基準・方法】 講義後のリアクションペーパー（30%）、提出期限指定のレポート内容（30%）、学期末の課題レポート（40%）で評価する。 【フィードバックの方法】 ・期末レポートに関するフィードバックは、学内制度（成績問い合わせ制度）を通じて行う。 ・小レポートを回収した次の回の授業内でコメントをつけて返却する。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>質問は、授業中または講義終了後に受け付ける。</p>
<p>履修条件</p>	<p>【希望的要件】「生命の倫理」「医学知識」を履修していることが望ましい。 ・指定のテキストを用意し、講義には必ず持参すること。 ・講義を欠席した場合は、次回講義までに欠席時の講義内容を各自で確認すること。</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>健康な子どもであっても、成長発達過程で何らかの疾患を患ったり怪我をすることがあります。子どもの日常の様子を観察する力を身に付けることで、子どもの小さな変化に気づくことができるようになります。そのために「小児保健A」についての知識が必要になります。子どもの健やかな成長を支援できる大人になるために正しい知識を身に付けていただきたいと思います。 看護師としての知識や自身の子育ての経験を基に、わかりやすく伝えられるように努めます。</p>
<p>準備学習について</p>	<p>【事前学習】 授業計画欄にテキスト該当頁を記載しているので、事前にテキストで次回授業内容を確認の上、わからない用語、単語、内容があるときは、辞書、新聞、関連書籍、インターネットなどで予め調べてから授業に臨んでください。（2時間） 【事後学習】 授業で配布する資料を基に、授業時間外で振り返りを行うようにしてください。（1時間）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
石神利之、杉山香月子、伊東敦子、森直之、			
添付ファイル			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害を理解し、それらに対応する技術を身につける〈森〉</li> <li>・聴覚障害についての知識と、手話言語の実技〈伊東・杉山〉</li> <li>・視覚障害者における読書環境〈石神〉</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 身の回りにあるコミュニケーションを簡易化する技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの重要性（ディスカッション）</li> <li>・障害の種類と、特製</li> <li>・障害に応じた支援方法</li> <li>・小テスト</li> </ul> <p>第2回 ノートテイク①（基礎技能の習得、ノートテイクスキル）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートテイクの仕組み、必要性</li> <li>・タイピング技術の習得</li> <li>・情報を要約することの是非（ディスカッション）</li> <li>・情報の伝え方と、要約のポイント</li> <li>・音声認識技術の活用</li> </ul> <p>【事後学習】タッチタイピング練習（1時間） ※授業内容はPCを使うことを前提にした構成にしています</p> <p>第3回 動画に字幕を付ける①</p> <p>【事前学習】タッチタイピング練習（0.5時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画への字幕付与技術</li> <li>・字幕の必要性と活用シーンを理解する</li> <li>・字幕の起こし方と練習</li> <li>・小テスト</li> </ul> <p>【事後学習】字幕付与（0.5時間） ※授業内容はPCを使うことを前提にした構成にしています</p> <p>第4回 動画に字幕を付ける②</p> <p>【事前学習】タッチタイピング練習（0.5時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的な動画への字幕付与</li> <li>・表現方法を考え実践する（課題解決型学習）</li> <li>・小テスト</li> </ul> <p>【事後学習】字幕付与（0.5時間） ※授業内容はPCを使うことを前提にした構成にしています</p> <p>第5回 動画に字幕を付ける③</p> <p>【事前学習】タッチタイピング練習（0.5時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品発表と修正案</li> <li>・小テスト</li> </ul> <p>※授業内容はPCを使うことを前提にした構成にしています</p> <p>第6回 講義「手話とは」実技1. 身ぶりで伝えてみよう</p> <p>第7回 実技2. 自己紹介</p> <p>第8回 実技3. 学生生活</p> <p>第9回 実技4. 家族・仕事・趣味・世界の手話</p> <p>第10回 実技5・防災・地名 手話通訳者養成とは・全国手話検定とは 小テスト（範囲：第6～10回）</p> <p>第11回 点字の構成について</p> <p>第12回 基本的な語の書き表し方について</p> <p>第13回 分かち書きについて</p> <p>第14回 記号類の使い方について</p> <p>第15回 視覚障害者を取り巻く環境及び読書手段・小テスト（範囲：第11～15回）</p>

<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の種類や、それらをアシストしていく技術を学ぶ。</li> <li>・聴覚障がいに関するコミュニケーション技法・技術・知識を学び身に着け実践する。</li> <li>・点訳に関する実践を通し、基礎的な知識を学ぶ。</li> </ul> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉を学び世の中で実践する者として、聴覚障がいに関する施策や環境、支援手段を理解し、必要なときに適切な方法でコミュニケーションができる人になる。</li> <li>・視覚障害者の読書環境を正しく理解し、点訳者としての基礎知識及び技能を習得する。</li> </ul> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、コミュニケーション・スキルを身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>①（第1～5回授業）教材配布</p> <p>②（第6～10回授業）          テキスト名：静岡発～「手話は言語」～学習テキスト          出版社：（公社）静岡県聴覚障害者協会          著者名：（公社）静岡県聴覚障害者協会          価格（税抜）：1,000円（非課税対象）          ※上記テキストは、教員が第6回目の授業内で販売します。</p> <p>③（第11～15回授業）プリント配布</p>
<p>参考文献</p>	<p>・必修漢字・点訳問題集（石神）</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <p>第1～5回授業：受講態度（30%）、提出物・小テスト（70%）を総合的に評価する。（森）          第6～10回授業：受講態度（30%）、小テスト（70%）を総合的に評価する。（伊東・杉山）          第11～15回授業：受講態度（5%）、提出物（5%）、小テスト（90%）を総合的に評価する。（石神）</p> <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題は指定された方法（GoogleFormなど）で教員宛に提出すること。（森）</li> <li>・毎回、次の授業までに指定課題を提出する。（石神）</li> </ul> <p>【フィードバック方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回授業内にて総評解説・フィードバックを行う（森）</li> <li>・学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う（伊東・杉山）</li> <li>・宿題の回収後、校正表をつけて、返却する。（石神）</li> </ul>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義終了後、教室で受け付ける。また、学内メールで随時受け付ける。（森）</li> <li>・講義終了後、教室で受け付ける。（15分間）（伊東・杉山）</li> <li>・講義終了後、教室で受け付ける。（10分間）（石神）</li> </ul>
<p>履修条件</p>	<p>【希望的要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に作業を行う体験型授業があるため、個人のPCを持参できることが望ましい。用意できない場合は学生教務課へPC借用の相談をしておくこと（森）</li> </ul>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>（森）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字情報支援やプラネタリウム字幕付与などの実務経験を持つ教員から、実践的な支援方法が学べます。しっかり身につけていきましょう。</li> <li>・やむなく欠席した場合は、教員と一緒に受けている仲間に相談し、学習を進めてください。（伊東・杉山）</li> </ul> <p>ようこそ、手話の世界へ！ろう者と手話通訳士が講師を務めます。手話やろうに関する質問をお待ちしております。（石神）</p> <p>点字指導員として40年間、点訳者の養成及び点字図書制作事業に従事しています。点字図書制作事業に関する質問をお待ちしています。</p>
<p>準備学習について</p>	<p>（森）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業では要所を教えますが、身につけるためには自主練習も必要です。あらかじめ環境を整え、予習・練習をしてきてください。（0.5～1時間）（伊東・杉山）</li> <li>1) 授業内に予習内容を提示しますので、次回授業までに行っておくこと。（0.5時間）（石神）</li> <li>1) 授業内で質問をしますので、予習、復習を行うこと。          予習…必修漢字・テキスト（1時間）          復習…講義内容・指定課題（1時間）</li> </ol>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
張昌鎬			
添付ファイル			

テーマ	ケアマネジメントの歴史、定義、ケアマネジャーの役割を学びケアプラン作成が上手になる。
授業計画	<p>第1回 ケアマネジメントの理解 (ケアマネジメント定義・概要)  【事前学習】1回目のケアマネジメントの理解を読み概略を把握しておく (1時間)  【事後学習】1回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (1時間)  総合福祉館の経験を生かし、ケアプランによる支援の大切さを紹介する。</p> <p>第2回 ケアマネジメントの目的 (ケアマネジメント誕生の背景、目的)  【事前学習】2回目のケアマネジメント誕生の背景、目的を読み概略を把握しておく (1時間)  【事後学習】2回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (1時間)</p> <p>第3回 ケアマネジメントの機能 (ケアマネジメントの核心的機能、多面的機能を学ぶ)  【事前学習】3回目のケアマネジメントの機能を読み概略を把握しておく (1時間)  【事後学習】3回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (1時間)</p> <p>第4回 ケアマネジメントにおける社会資源 (ケアマネジメントから見る社会資源、社会資源の分類と特性、社会資源の開発・改善を学ぶ)  【事前学習】4回目のケアマネジメントにおける社会資源を読み概略を把握しておく (1時間)  【事後学習】4回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (1時間)</p> <p>第5回 ケアマネジメントの利用者 (介護保険とケアマネジメント、ケアマネジメントの対象の拡大を学ぶ)  【事前学習】5回目の介護保険とケアマネジメント、ケアマネジメントの対象の拡大を読み概略を把握しておく (1時間)  【事後学習】5回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (1時間)</p> <p>第6回 ケアマネジメントの利用者 (障害者とケアマネジメント、児童領域とケアマネジメント、その他の利用者に対して学ぶ)  【事前学習】6回目のケアマネジメントの利用者を読み概略を把握しておく (1時間)  【事後学習】6回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (1時間)</p> <p>第7回 ケアマネジャーの役割 (ケアマネジメントとケアマネジャー、ケアマネジメントの機能とケアマネジャーの役割を学ぶ)  【事前学習】7回目のケアマネジャーの役割を読み概略を把握しておく (1時間)  【事後学習】7回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (1時間)</p> <p>第8回 ケアマネジャーの役割 (ケアマネジメントの展開過程とケアマネジャーの役割に関して学ぶ)  【事前学習】8回目のケアマネジメントの展開過程とケアマネジャーの役割を読み概略を把握しておく (1時間)  【事後学習】8回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (1時間)</p> <p>第9回 ケアマネジメントの視点 (利用者主体の視点、自立支援とQOLの視点、エンパワメントの視点に関して学ぶ)  【事前学習】9回目のケアマネジメントの視点を読み概略を把握しておく (1時間)  【事後学習】9回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (1時間)</p> <p>第10回 ケアマネジメントの視点 (ストレングスの視点、ネットワークングの視点を学ぶ)  【事前学習】10回目のケアマネジメントの視点 (ストレングスの視点、ネットワークングの視点)を読み概略を把握しておく (1時間)  【事後学習】10回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (1時間)</p> <p>第11回 生活ニーズとダイヤモンド (生活ニーズとニーズの種類、生活ニーズの把握方法に関して学ぶ)  【事前学習】11回目の生活ニーズとダイヤモンドを読み概略を把握しておく (1時間)  【事後学習】11回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (1時間)</p> <p>第12回 介護保険制度におけるケアマネジメント (介護保険制度におけるケアマネジメントの位置づけ、ケアマネジメントの実施機関等を学ぶ)  【事前学習】12回目の介護保険制度におけるケアマネジメントを読み概略を把握しておく (1時間)  【事後学習】12回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (1時間)</p> <p>第13回 介護保険制度におけるケアマネジメント (介護支援専門員の定義と位置づけ、地域包括支援センターの機能を学ぶ)  【事前学習】13回目の介護支援専門員の定義と位置づけ、地域包括支援センターの機能を読み概略を把握しておく (1時間)  【事後学習】13回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (1時間)</p> <p>第14回 障害者施策にみるケアマネジメント (障害者自立支援法におけるケアマネジメントの位置づけ、相談支援専門委員の要件と役割を学ぶ)  【事前学習】14回目の障害者施策にみるケアマネジメントを読み概略を把握しておく (1時間)  【事後学習】14回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (1時間)</p> <p>第15回 前期のまとめ (前期のまとめと質疑応答)  【事前学習】前期の概略を把握しておく (1時間)  【事後学習】前期の授業に関する自分の考えや意見をプレゼンテーションしながら共に考える (1時間)</p>

	時間)
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>1. 概要: ケアマネジメントが生まれてきた経過からケアマネジメントの必要性、目的、構造、過程を学んだ後、在宅・施設のケアプランや対象別（高齢者・介護保険、障害者、児童）のケアプランの実際を学ぶ。</p> <p>2. 目的: 21世紀の社会福祉の大きな流れとして、これまで以上に福祉人材の重要性が指摘されている。すなわち、医療・保健・福祉の連携のなかで新しい専門職として定着されたケアマネジャーの役割をケアマネジメントが生まれてきた経過から、ケアプランの作成・実施、在宅や施設のケアプランの事例まで学ぶ。</p> <p>3. この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力と課題を解決へと導く力を身につけるようになる。</p> <p>4. この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「学士力」の構成要素の一つである、市民としての社会的責任や自己管理能力を身につけるようになる。</p>
テキスト	授業中資料提供
参考文献	講義中紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>小テストと学期末試験80%（配点 40%：40%） 授業での積極性（20%）</p> <p>【フィードバック方法】 毎回授業開始前に前回の小テスト解説の時、面談を受ける。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後を利用する。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>積極的な質問を歓迎する。</p> <p>総合福祉館2年、県社会福祉協議会1年間の従事したことがあり、授業中にその内容を紹介し共に考えることにします。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】 毎回授業中に予習内容を示めす。次回授業までに行うこと（1時間）。</p> <p>【事後学習】 毎回授業の終わりに行うテストを中心に復習を行い、次回の授業の初めの解説に確認する（1時間）。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
張昌鎬			
添付ファイル			

テーマ	事例に基づき、グループ中でプレゼンテーションしながらインテークからケアプラン作成や評価まで学ぶ。
授業計画	<p>第1回 ケアマネジメントの展開過程の流れ（ケースの発見、アセスメント、ケアプラン作成、モニタリング、ケア会議の関係を学ぶ）  【事前学習】1回目のケアマネジメントの展開過程の流れを読み概略を把握しておく（1時間）  【事後学習】1回目のケアマネジメントの展開過程の流れを読みまとめておく（1時間）  総合福祉館の経験をもとに、ケアプランの作成による援助の大切さに関するエピソードを紹介しながら共に考える。</p> <p>第2回 インテークから契約まで（ケースの発見と手続き、事例を通じて検証する）を学ぶ。  事例を基にグループ中で、プレゼンテーションし、利用者基本情報表に記入する。  【事前学習】2回目のインテークから契約までを読み概略を把握しておく（1時間）  【事後学習】2回目のインテークから契約までの内容や疑問点をまとめておく（1時間）</p> <p>第3回 インテークから契約まで（ケースの発見と手続き、事例を通じて検証する）を学ぶ。  事例を基にグループ中で、プレゼンテーションし、利用者基本情報表に記入する。  【事前学習】3回目のインテークから契約と利用者基本情報表の記入方法を読み概略を把握しておく（1時間）  【事後学習】3回目の授業を中心にインテークから契約と利用者基本情報表の記入方法をまとめておく（1時間）</p> <p>第4回 アセスメントの方法であるニーズアセスメント視点や方法を事例に基づき、グループ中でプレゼンテーションし、アセスメントシートを作成する。  【事前学習】4回目のアセスメントの方法であるニーズアセスメント視点や方法を事例に基づき読み概略を把握しておく（1時間）  【事後学習】4回目のアセスメントの方法であるニーズアセスメント視点や方法を事例に基づき、グループ中でプレゼンテーションした内容や疑問点をまとめておく（1時間）</p> <p>第5回 4回目につき、事例に基づきグループ中でプレゼンテーションし、アセスメントシートを作成する。  【事前学習】4回目につき事例に基づきグループ中でプレゼンテーションした内容や記入したアセスメントシートを読み概略を把握しておく（1時間）  【事後学習】5回目の授業を中心に4回目にグループ中でプレゼンテーションした内容や記入したアセスメントシートの内容や疑問点をまとめておく（1時間）</p> <p>第6回 5回目につき、事例に基づきグループ中でプレゼンテーションし、アセスメントシートと短期目標と長期目標との関連について学ぶ。  【事前学習】6回目の事例に基づきグループ中でプレゼンテーションし、アセスメントシートと短期目標・長期目標との関連を読み概略を把握しておく（1時間）  【事後学習】6回目の授業を中心にグループ中でプレゼンテーションした内容や記入したアセスメントシートと短期目標・長期目標との関連内容や疑問点をまとめておく（1時間）</p> <p>第7回 ケアプラン作成と居宅サービス計画書（1）の記入  事例に基づきグループ中でプレゼンテーションし、居宅サービス計画書（1）に記入する。  【事前学習】7回目のケアプラン作成と居宅サービス計画書（1）の記入を読み概略を把握しておく（1時間）  【事後学習】7回目のケアプラン作成と居宅サービス計画書（1）の記入内容や疑問点をまとめておく（1時間）</p> <p>第8回 ケアプラン作成と居宅サービス計画書（2）の記入  事例に基づきグループ中でプレゼンテーションし、居宅サービス計画書（2）に記入する。  【事前学習】8回目のケアプラン作成と居宅サービス計画書（2）の記入を読み概略を把握しておく（1時間）  【事後学習】8回目のケアプラン作成と居宅サービス計画書（2）の記入内容や疑問点をまとめておく（1時間）</p> <p>第9回 ケアプラン作成と居宅サービス計画書（3）の記入  事例に基づきグループ中でプレゼンテーションし、居宅サービス計画書（3）に記入する。  【事前学習】9回目のケアプラン作成と居宅サービス計画書（3）の記入を読み概略を把握しておく（1時間）  【事後学習】9回目のケアプラン作成と居宅サービス計画書（3）の記入内容や疑問点をまとめておく（1時間）</p> <p>第10回 ケアプラン作成とケア会議（担当者会議）の関係と担当者会議の依頼書作成を事例に基づきグループ中でプレゼンテーションを通じて学ぶ。  【事前学習】10回目のケアプラン作成とケア会議（担当者会議）の関係と担当者会議の依頼書作成を読み概略を把握しておく（1時間）  【事後学習】10回目のケア会議（担当者会議）の関係と担当者会議の依頼書作成を事例に基づきグループ中でプレゼンテーションした内容や疑問点をまとめておく（1時間）</p> <p>第11回 担当者会議の方法や役割とサービス担当者会議要点記入を事例に基づきグループ中でプレゼンテーションを通じて学ぶ。  【事前学習】11回目の担当者会議の方法や役割とサービス担当者会議要点記入を読み概略を把握</p>

	<p>しておく(1時間)  <b>【事後学習】</b> 11回目の担当者会議の方法や役割とサービス担当者会議要点記入内容や疑問点をまとめておく(1時間)</p> <p>第12回 サービス担当者会議とモニタリングの関係、モニタリングの意義や記録の方法を事例に基づきグループ中でプレゼンテーションを通じて学ぶ。</p> <p>第13回 <b>【事前学習】</b> 12回目のモニタリングの意義や記録の方法を読み概略を把握しておく(1時間)  <b>【事後学習】</b> 12回目のモニタリングの意義や記録の方法内容や疑問点をまとめておく(1時間)</p> <p>モニタリングの意義、方法、在宅訪問の注意点、モニタリング様式の記録方法に関して学ぶ。  <b>【事前学習】</b> 13回目のモニタリングの意義、方法、在宅訪問の注意点、モニタリング様式の記録方法を読み概略を把握しておく(1時間)  <b>【事後学習】</b> 13回目のモニタリングの意義、方法、在宅訪問の注意点、モニタリング様式の記録方法内容や疑問点をまとめておく(1時間)</p> <p>第14回 評価の意味、短期目標・長期目標と評価の関係、評価表作成に関して学ぶ。  <b>【事前学習】</b> 14回目の評価の意味、短期目標・長期目標と評価の関係、評価表作成を読み概略を把握しておく(1時間)  <b>【事後学習】</b> 14回目の評価の意味、短期目標・長期目標と評価の関係、評価表作成の内容や疑問点をまとめておく(1時間)</p> <p>第15回 後期講義のまとめとケアマネジメントの未来と展望に関して学ぶ(資料)。  <b>【事前学習】</b> 15回目の後期講義のまとめとケアマネジメントの未来と展望を読み概略を把握しておく(1時間)  <b>【事後学習】</b> 15回目の後期講義のまとめとケアマネジメントの未来と展望の内容や疑問点をまとめておく(1時間)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>1. 概要: ケアマネジメントが生まれてきた経過からケアマネジメントの必要性、目的、構造、過程を学んだ後、在宅・施設のケアプランや対象別(高齢者・介護保険、障害者、児童)のケアプランの実際を学ぶ。</p> <p>2. 目的: 21世紀の社会福祉の大きな流れとして、これまで以上に福祉人材の重要性が指摘されている。すなわち、医療・保健・福祉の連携のなかで新しい専門職として定着されたケアマネジャーの役割をケアマネジメントが生まれてきた経過から、ケアプランの作成・実施、在宅や施設のケアプランの事例まで学ぶ。</p> <p>3. この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力と課題を解決へと導く力を身につけるようになる。</p> <p>4. この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「学士力」の構成要素の一つである、市民としての社会的責任や自己管理能力を身につけるようになる。</p>
テキスト	授業中資料提供
参考文献	講義中紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	それぞれの事例によるケアプラン(インテークから評価まで)レポート80%(授業での積極性20%)
質問・相談の受付方法	講義終了後を利用する。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	積極的な質問を歓迎する。 総合福祉館2年、県社会福祉協議会1年間の従事したことがあり、授業中にその内容を紹介し共に考えることにします。
準備学習について	<b>【事前学習】</b> 毎回授業中に予習内容を示す。次回授業までに行うこと(1時間)。 <b>【事後学習】</b> 毎回授業の終わりに行うテストを中心に復習を行い、次回の授業の初めの解説に確認する(1時間)。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年	4	選択
担当教員			
大久保功			
添付ファイル			

テーマ	介護保険制度と要介護認定調査に関する研究 ケアマネジャーの業務、役割、専門性について考える
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（ゼミの進め方）</p> <p>第2回 調べ学習の進め方（担当項目の割り振り）</p> <p>第3回 調べ学習と発表の方法（研究に結びつける取り組み）</p> <p>第4回 研究テーマを見つけるヒント①－介護保険制度のこれまでとこれから－</p> <p>第5回 研究テーマを見つけるヒント②－要介護認定調査のしくみ－</p> <p>第6回 研究テーマを見つけるヒント③－ケアマネジャーの職務と専門性－</p> <p>第7回 介護保険制度をテーマとしたディスカッション①</p> <p>第8回 介護保険制度をテーマとしたディスカッション②</p> <p>第9回 要介護認定調査における調査内容の検証</p> <p>第10回 要介護認定調査の課題をテーマとしたディスカッション①</p> <p>第11回 要介護認定調査の課題をテーマとしたディスカッション②</p> <p>第12回 ケアマネジャーの業務と専門性を考える</p> <p>第13回 フィールドワークの準備学習①－企画会議－</p> <p>第14回 フィールドワークの準備学習②－専門職に聞いてみたいこと－</p> <p>第15回 フィールドワークの準備学習③－実施オリエンテーション－</p> <p>第16回 フィールドワーク①－施設見学（予定）－</p> <p>第17回 フィールドワーク②－専門職とのディスカッション（予定）－</p> <p>第18回 フィールドワークの事後学習</p> <p>第19回 プレ卒研のテーマ設定</p> <p>第20回 プレ卒研の取り組み・個別指導①</p> <p>第21回 プレ卒研の取り組み・個別指導②</p> <p>第22回 プレ卒研の取り組み・個別指導③</p> <p>第23回 プレ卒研の取り組み・個別指導④</p> <p>第24回 ケアマネジメント事例検討・サービス計画と給付管理①</p>

	<p>第25回 ケアマネジメント事例検討・サービス計画と給付管理②</p> <p>第26回 ケアマネジメント事例検討・サービス計画と給付管理③</p> <p>第27回 プレ卒研成果発表プレゼンテーション①</p> <p>第28回 プレ卒研成果発表プレゼンテーション②</p> <p>第29回 プレ卒研成果発表プレゼンテーション③</p> <p>第30回 卒業研究Ⅰの総括と卒業研究Ⅱに向けての展望</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 介護保険制度ならびに要介護認定調査については、これまでに様々な課題を指摘されながら運用されています。また、制度を支えるケアマネジャーの実践に関しても、業務内容の検証や専門性の再認識が必要と考えます。本ゼミではこれらの課題を整理し、各自のテーマを見つけて独自の研究に繋げていきます。要介護者が安心して介護保険制度を活用するための方向性を共に考えていきます。</p> <p>【到達目標】 ・介護保険制度を理解し、必要とされる方への確に説明できるレベルの能力を身につける ・要介護認定調査のしくみを理解し、アセスメントの視点を養う ・介護保険制度、ケアマネジャーの業務に関する課題や問題点を発見し、考えていく能力を身につける</p> <p>【学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「実践的に課題を発見する力」および「主体的に学習する力」を身につけることができる。また「学士力」の構成要素の一つである「問題解決力」「自己管理能力」を身につけることができる。</p>
テキスト	講義中に指示します
参考文献	講義中に適宜紹介します
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 発表・ディスカッションにおける積極性：50% レポート・成果物等の提出課題の評価：50%</p> <p>【課題に対するフィードバックの方法】 ゼミの中で随時個別指導を実施し、その際にフィードバックを行います。</p>
質問・相談の受付方法	オフィスアワーを含めた受付可能な時間をご案内しますので、積極的に質問や相談に来てください。
履修条件	特に設けません
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザインカレッジ【不可】</p>
メッセージ	担当教員は、介護福祉士としての介護経験、ケアマネジャーとしての実践経験を持ちます。ケアマネジャーの専門性とこれからの介護保険制度について、共に考え、課題を見出していきたいと思っております。今後の介護環境を良い方向へ導いていくための道筋を共に考えていきましょう。将来の実践者である皆さんの取り組みを支援します。
準備学習について	<p>【事前学習】各回のテーマに応じた文献資料の精読・調べ学習など（1.5時間） 【事後学習】当日に取り扱ったテーマを整理し、内容確認およびさらに掘り下げた調べ学習などを実施する（1.5時間）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年	4	選択
担当教員			
新井恵子			
添付ファイル			

テーマ	認知症ケアについて考える
授業計画	第1回 前期オリエンテーション ～高齢者施設と訪問介護の職員として10年従事した経験や、家族会との認知症カフェでのエピソードをもとに説明します～
	第2回 グループ討議①認知症高齢者へのケアと家族について
	第3回 学外活動へ向けた事前学習
	第4回 学外活動①
	第5回 学外活動②
	第6回 学外活動③
	第7回 学外活動結果報告
	第8回 施設見学へ向けた事前学習①—施設の理解—
	第9回 施設見学へ向けた事前学習②—サービス利用者の理解—
	第10回 研究方法の理解
	第11回 文献検索、講読①
	第12回 文献検索、講読②
	第13回 研究テーマ発表とディスカッション①
	第14回 研究テーマ発表とディスカッション②
	第15回 前期まとめ
	第16回 後期オリエンテーション
	第17回 研究計画書の理解
	第18回 フィールドワーク①—認知症カフェ等への参加、家族との意見交換—
	第19回 フィールドワーク②—福祉、介護専門職との意見交換—
	第20回 フィールドワーク③—地域課題についてディスカッション—
	第21回 研究計画書の作成①
	第22回 研究計画書の作成②
	第23回 研究計画書の作成③
	第24回 卒業研究発表聴講

	<p>第25回 中間発表①</p> <p>第26回 中間発表②</p> <p>第27回 施設見学①—地域の理解—</p> <p>第28回 施設見学②—施設等の理解—</p> <p>第29回 施設見学③—サービス利用者の理解—</p> <p>第30回 卒業研究Ⅱ、卒業論文執筆について</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることを実現すべく、専門職として認知症の人とその家族への支援や、認知症理解を深めるための地域への普及・啓発を考える。</p> <p>【到達目標】認知症ケアの現状を理解し、専門職としての知識を身につけ研究計画書が作成できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力、地域を視野に貢献する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しない。
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究計画書の完成度：プレゼンテーション：授業での積極性＝50：30：20</li> </ul> <p>【フィードバック方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表時に講評を口頭にて行う。課題提出時は、次回の授業時にコメントする。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	随時受け付けます。
履修条件	【希望的要件】認知症の高齢者介護に関心をもっている者が望ましい。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>企業との健康増進活動（島田市、藤枝市、焼津市内）、キャラバン・メイトとの商品開発等も予定しています。また、認知症カフェの企画・参加や家族会等との交流、施設見学（県内、県外）等を予定しています。高齢者施設と訪問介護事業所での経験や、家族会との認知症カフェ開催、認知症サポーター養成講座講師役（キャラバンメイト）としての経験も授業の中でそのエピソードや実務的な内容についても触れることができます。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】文献検索や収集、文献講読、認知症に関するできごとについての情報収集（2時間以上）</p> <p>【事後学習】授業終了後に課題を提示します。次回授業までに行うこと（2時間以上）</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年	4	選択
担当教員			
木下寿恵			
添付ファイル			

テーマ	「障がい者」と「支援する人たち」の現状について、理解して考える	
授業計画	第1回	前期オリエンテーション
	第2回	ゼミメンバーの関心や課題についての理解
	第3回	障がい者福祉に関する文献講読・映像資料鑑賞とディスカッション ①
	第4回	障がい者福祉に関する文献講読・映像資料鑑賞とディスカッション ②
	第5回	障がい者福祉に関する文献講読・映像資料鑑賞とディスカッション ③
	第6回	地域における障がい者の生活実態に関する事前学習 ①
	第7回	地域における障がい者の生活実態に関する事前学習 ②
	第8回	地域で生活している障がい者から話を聴く ①（グループディスカッション）
	第9回	地域で生活している障がい者から話を聴く ②（グループディスカッション）
	第10回	地域で生活している障がい者とのディスカッションについての振り返り
	第11回	レポート・論文の執筆上のルール、レポート・論文の書き方（文献検索・文献複写の方法）
	第12回	障がい者介護・福祉に関するディスカッション ①
	第13回	障がい者介護・福祉に関するディスカッション ②
	第14回	障がい者介護・福祉に関するディスカッション ③
	第15回	前期の総括
	第16回	後期オリエンテーション
	第17回	施設等見学に向けた準備学習 ①
	第18回	施設等見学に向けた準備学習 ②
	第19回	施設等見学に向けた準備学習 ③
	第20回	施設等見学（重症心身障害児者施設など）
	第21回	施設等見学（重症心身障害児者施設など）
	第22回	施設等見学についての振り返り
	第23回	施設等見学（障害者支援施設など）
	第24回	施設等見学（障害者支援施設など）

	<p>第25回 施設等見学についての振り返り</p> <p>第26回 文献講読とレポート作成 ①</p> <p>第27回 文献購読とレポート作成 ②</p> <p>第28回 研究レポート ゼミ内発表会 ①</p> <p>第29回 研究レポート ゼミ内発表会 ②</p> <p>第30回 卒業研究 I の総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】「障がい者」と「支援する人たち」の現状について、文献購読や映像資料鑑賞、障がい者福祉施設見学などを通して、ディスカッションしながら理解を深めていく。</p> <p>【授業の到達目標】「障がい者」と「支援する人たち」の実際について理解を深めることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「主体的に学習する力」「実践的に課題を発見する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「情報リテラシー」「論理的思考力」を身につけることができる。</p>
テキスト	必要に応じて資料を配布する
参考文献	指導中適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】授業での積極性：レポート等の提出物＝50：50</p> <p>【課題に対するフィードバック方法】当該授業もしくは次回授業内で総評を口頭で伝える。成績評価のフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	随時受け付ける
履修条件	【希望的要件】障がい者福祉分野に関心を持っている者が望ましい
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員（介護主任など）として障がい者介護に従事していました。障がい者本人や支援者の人たちとともにディスカッションしながら、障がい者福祉に関する理解を深めていただけましたらと考えています。
準備学習について	<p>【事前学習】文献購読、まとめ、レポート作成、プレゼンテーション準備等に取り組む(2時間以上)</p> <p>【事後学習】授業時に指示した課題に取り組む(2時間以上)</p>

講義科目名称： 卒業研究 I (谷)

授業コード：

英文科目名称： Graduation Study I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年	4	選択
担当教員			
谷功			
添付ファイル			

テーマ	介護福祉現場の実情についての理解を深め、未来の介護福祉士、介護福祉現場の在り方について考える。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	意見交換・施設見学等の検討①フィールドワークについて	
	第3回	意見交換・施設見学等の検討②今後の進め方	
	第4回	施設見学等の事前学習	
	第5回	施設見学①施設の概要についての理解	
	第6回	施設見学②職員との交流	
	第7回	施設見学等の事後学習（振り返り）	
	第8回	研究倫理の理解	
	第9回	研究手法についての理解	
	第10回	研究テーマの設定①ディスカッション	
	第11回	研究テーマの設定②研究テーマの決定（仮）	
	第12回	研究目的の明確化	
	第13回	仮説の設定	
	第14回	研究テーマの発表及びディスカッション	
	第15回	前期のまとめ及び後期授業の進め方	
	第16回	論文の作成方法	
	第17回	文献検索の方法	
	第18回	文献の講読①研究テーマ関連文献の講読	
	第19回	文献の講読②概要・課題等の要約	
	第20回	研究計画書の理解	
	第21回	研究計画書の作成①研究の目的・先行研究	
	第22回	研究計画書の作成②研究の方法	
	第23回	研究計画書の作成③倫理的配慮・期待される効果	
	第24回	研究計画書のプレゼンテーション	

	<p>第25回 質的研究の分析手法</p> <p>第26回 調査・研究方法の設定</p> <p>第27回 予備調査①フィールドワーク</p> <p>第28回 予備調査②調査結果の集計・分析</p> <p>第29回 予備調査報告</p> <p>第30回 まとめ及び卒業研究Ⅱの進め方</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】介護福祉の現場にはさまざまな危険や身体拘束等、利用者の人権を侵害するような因子が潜在している。また一方で、介護福祉職員を取り巻く環境においても健康を脅かす労働条件や離職問題等、働く側の人権問題も指摘することができる。これら介護福祉現場のさまざまな諸問題についての知見を深め、解決に向けた方法を身につけた専門職の養成を目的とするとともに、研究論文作成に向けた指導提供の場としたい。ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション等、アクティブラーニングを用いて実施する。</p> <p>【授業の到達目標】研究テーマを明確にし、研究計画書を作成することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部での学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「主体的に学習する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「問題解決力」を身につけることができる。</p>
テキスト	特に指定なし。
参考文献	講義中適宜紹介。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	研究計画書（50%）：プレゼンテーション（30%）：レポート（20%）で評価する。 フィードバックとして、研究計画書、プレゼンテーションおよびレポートへのコメントを行う。
質問・相談の受付方法	オフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	【希望的要件】介護に関心をもち、将来介護福祉職として就業を希望する者が望ましい。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	具体的には文献や先行研究等のテーマに基づいたディスカッション、ハンセン病療養所の見学、介護福祉現場等へのフィールドワークを予定しています。 特別養護老人ホーム、デイサービスの介護職員、介護支援専門員として従事した経験を交えながら、福祉、介護現場の諸課題について問題提起したいと思います。
準備学習について	介護に関する問題について関心を高め、情報収集をしておくこと。 【事前学習】授業終了時に次回の課題を提示するので、課題について調べる（1時間）。 【事後学習】授業の振り返り及び次回の授業にむけての取り組みについてまとめる（1時間）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年	4	選択
担当教員			
飛田義幸			
添付ファイル			

テーマ	日常のやり取りの中で自ら興味関心を持つテーマを探しながら、文献等の探し方や読み方、疑問の立て方など、自身の教養の幅を広げ知的に楽しむための初歩的なスキルの習得を目指す。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 教員の経験等紹介 私が地域包括支援センターで行っているSSTグループワークの体験についてお話できたらと思います。</p> <p>第3回 各自の関心・課題について表出</p> <p>第4回 個別の興味や仮テーマを言語化</p> <p>第5回 文献検索の仕方</p> <p>第6回 各自のテーマに沿った文献検索</p> <p>第7回 文献レビューの方法</p> <p>第8回 文献レビュー</p> <p>第9回 文献への疑問抽出</p> <p>第10回 疑問へのフィードバック</p> <p>第11回 疑問の絞り込みと現実性検討</p> <p>第12回 疑問からリサーチクエスションの仮設定</p> <p>第13回 リサーチクエスションの発表</p> <p>第14回 発表へのフィードバック</p> <p>第15回 中間まとめと個別指導</p> <p>第16回 前期の振り返りと各自の進捗状況の確認</p> <p>第17回 文献研究について</p> <p>第18回 質的研究について</p> <p>第19回 量的研究について</p> <p>第20回 事例研究について</p> <p>第21回 研究方法についてグループディスカッション 私が行ってきたグループワーク手法の紹介を兼ねてグループワークを行えたらと考えております。</p> <p>第22回 研究計画について</p> <p>第23回 研究計画書作成</p>

	第24回 研究計画発表
	第25回 研究内容の検討
	第26回 研究方法の検討
	第27回 進捗状況発表準備
	第28回 進捗状況の発表
	第29回 フィードバックとディスカッション
	第30回 まとめと個別指導
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>輪講や対話、グループワークを通じ各自の知的関心の方向性を探り、先行研究や書籍の検索・レビュー等により各自の疑問や探求心をリサーチクエスションとして深めていく。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力、および「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	ゼミ中で指示します。
参考文献	ゼミ中で指示します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>ゼミ活動への参加姿勢、各自のテーマに向けた取り組みや進捗状況、書籍・論文レビュー発表の内容で評価する（配点40：30：30）</p> <p>フィードバックとして、論文やレポート、提出課題や発表や対話、質問の内容について口頭で総評及び質疑応答を行う。</p>
質問・相談の受付方法	ゼミ中やその前後に直接ご相談ください。
履修条件	特になし。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>例えば、日々の自身の体験や書籍その他媒体から得られた情報の中から自身の興味や疑問について表出してみる等、自由で積極的な参加を期待します。</p> <p>地域活動支援センター及び就労継続支援事業（B型）の職員及び管理者としてその立ち上げや業務に12年間従事したことがあります。もし希望があれば、ゼミの中でもその経験や実務内容について触れられたらと思います。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】毎回ゼミ内で予習内容（事項検索、読書箇所、文献要約・感想、レポート作成等）を提示します。各自で学習を進め、不明点は適宜質問するようにしてください（1時間）。</p> <p>【事後学習】授業内で出された話題やそのキーワード、テーマについて、自身の言葉で噛み砕いて理解し、自分なりの新たな疑問を考えるようにしてください（1時間）。</p>

講義科目名称： 卒業研究 I (渡辺央)

授業コード： 38124

英文科目名称： Graduation Study I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年	4	選択
担当教員			
渡辺央			
添付ファイル			

テーマ	保健医療分野のソーシャルワーク		
授業計画	第1回	前期オリエンテーション	
	第2回	フィールドワークの検討①	
	第3回	フィールドワークの検討②	
	第4回	事前学習①	
	第5回	事前学習②	
	第6回	フィールドワークの実施	
	第7回	報告レポート作成	
	第8回	グループにおける調べ学習のテーマ設定	
	第9回	文献検索、論文の読み方、まとめ方①	
	第10回	文献検索、論文の読み方、まとめ方②	
	第11回	グループによる発表の準備①	
	第12回	グループによる発表の準備②	
	第13回	グループによる発表、討議①	
	第14回	グループによる発表、討議②	
	第15回	グループによる発表、討議③	
	第16回	後期オリエンテーション	
	第17回	研究テーマの検討	
	第18回	文献検索①	
	第19回	文献検索②	
	第20回	研究テーマの設定①	
	第21回	研究テーマの設定②	
	第22回	研究方法	
	第23回	研究計画書の作成①	
	第24回	研究計画書の作成②	

	<p>第25回 研究テーマに関する文献講読とまとめ①</p> <p>第26回 研究テーマに関する文献講読とまとめ②</p> <p>第27回 研究テーマに関する文献講読とまとめ③</p> <p>第28回 発表①</p> <p>第29回 発表②</p> <p>第30回 発表③</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】現代の保健・医療・福祉に関する学びを深め、課題を明らかにしながらソーシャルワークの視点による支援方法について考える。</p> <p>【到達目標】文献講読・クラス内での発表等を通して諸課題に対する理解を深めるとともに、各自の問題意識を明確化し、論文を作成する能力を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	特に指定しない。
参考文献	適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】研究に対する取り組み（50%）、発表内容（50%）により評価する。</p> <p>【フィードバック方法】各自の取り組み、発表に対して授業内でコメントをする。</p>
質問・相談の受付方法	授業後やオフィスアワーに対応する。
履修条件	【希望的要件】保健医療の分野に関心のある学生が望ましい。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に取り組んでください。</li> <li>・病院での実務経験を踏まえ、その実践的な内容についても触れていければと思います。</li> </ul>
準備学習について	<p>【事前学習】授業内で提示された事前課題に取り組む（1時間程度）</p> <p>【事後学習】レポート類の修正、発表の振り返りを行う（1時間程度）</p>



講義科目名称： 卒業研究 I (渡邊英)

授業コード：

英文科目名称： Graduation Study I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年	4	選択
担当教員			
渡邊英勝			
添付ファイル			

テーマ	福祉実践における研究方法を理解する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	研究とは何か	
	第3回	聞く力を学ぶ	
	第4回	課題を見つける力を学ぶ	
	第5回	情報を集める方法を学ぶ	
	第6回	情報を整理する力を学ぶ	
	第7回	論文を読む力を学ぶ	
	第8回	書く力を学ぶ	
	第9回	データを分析する方法を学ぶ	
	第10回	プレゼンテーション力を学ぶ	
	第11回	フィールドワークの方法を学ぶ	
	第12回	フィールドワークの実践準備	
	第13回	フィールドワークの実践	
	第14回	フィールドワークの振り返り	
	第15回	フィールドワークの省察と研究テーマの検討	
	第16回	後期オリエンテーション	
	第17回	研究計画書の作成方法を学ぶ	
	第18回	研究テーマの設定	
	第19回	先行研究の確認	
	第20回	研究方法の検討	
	第21回	研究計画書の作成①	
	第22回	研究計画書の作成②	
	第23回	研究計画書の作成③	
	第24回	研究計画書の中間報告	

	<p>第25回 研究計画書の修正①</p> <p>第26回 研究計画書の修正②</p> <p>第27回 研究計画書のプレゼンテーション</p> <p>第28回 フィールドワーク準備</p> <p>第29回 フィールドワーク実施</p> <p>第30回 フィールドワークの振り返り・卒業研究Ⅱの確認</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】福祉に関する自身の関心を明らかにし、それが研究とどう繋がっていくかを考える。福祉現場でどのような課題があるのか、またその課題にどのように取り組んでいるのか、地域間の違いがあるのか等を実際に見て、聞いて、体感して考えを深めていく。</p> <p>【到達目標】自らの研究テーマを明らかにし、研究計画書を完成させる。完成した研究計画を他者に伝える。</p> <p>【学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「主体的に学習する力」「課題を解決へと導く力」「協調と協働を実現する力」「地域を視野に貢献する力」及び、「学士力」の構成要素である「コミュニケーション・スキル」「問題解決力」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」等を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しない。
参考文献	指導中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	研究計画書の内容30%、研究計画書のプレゼンテーション20%、課題の取組30%、フィールドワークの取組20%
質問・相談の受付方法	オフィスアワー、研究室在室時等の時間で対応する。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	<p>積極的な質問を歓迎します。</p> <p>障害者福祉施設や社会福祉協議会に従事していました。授業中でそのエピソードや実務的な内容についても触れることができるとと思います。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】課題図書購読、まとめ、プレゼンテーション準備等に取り組む（2時間以上）</p> <p>【事後学習】授業時に指摘された事項を修正し、報告できるようにする（2時間以上）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年	4	選択
担当教員			
長坂和則			
添付ファイル			

テーマ	自分の興味関心から他の論文をや研究についてテーマを決定し研究方法を身につける。アクティブラーニングを用いたディスカッションを実施します。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 今後の予定と各々の進捗状況の確認 【事前学習】 参考文献を読み込み論文の構成を進めること (1時間) 【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)	
	第2回	仮説の検証 エビデンスの確認 エビデンスの意味を確認する 【事前学習】 参考文献を読み込み論文の構成を進めること (1時間) 【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)	
	第3回	仮説の検証 エビデンスの再確認 (参考・引用文献の見直し) 【事前学習】 参考文献を読み込み論文の構成を進めること (1時間) 【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)	
	第4回	グループディスカッション① 論文の下書きの指導 【事前学習】 自分のテーマについてグループディスカッションに備えて予習をしておくこと (1時間) 【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)	
	第5回	グループディスカッション② 論文の下書きの指導 (エビデンスの確認と引用・参考文献についての確認) 【事前学習】 自分のテーマについてグループディスカッションに備えて予習をしておくこと (1時間) 【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)	
	第6回	個別指導① 図・表 等の作成指導 (検証された事実) 【事前学習】 自分の研究論文を入力し構成しておくこと (1時間) 【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)	
	第7回	個別指導② 図・表 等の作成指導 (出典の記載方法の確認) 【事前学習】 自分の研究論文を入力し構成しておくこと (1時間) 【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)	
	第8回	個別指導③ 図・表 等の作成指導 (参考・引用文献からの事実) 【事前学習】 自分の研究論文を入力し構成しておくこと (1時間) 【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)	
	第9回	グループディスカッション① 個人発表による 【事前学習】 自分のテーマについてグループディスカッションに備えて予習をしておくこと (1時間) 【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)	
	第10回	グループディスカッション② 個人発表による 【事前学習】 自分のテーマについてグループディスカッションに備えて予習をしておくこと (1時間) 【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)	
	第11回	各々の研究内容に関する指導 本論 【事前学習】 自分の研究論文を入力し構成しておくこと (1時間) 【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)	
	第12回	各々の研究内容に関する指導 本論の展開 【事前学習】 自分の研究論文を入力し構成しておくこと (1時間) 【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)	
	第13回	各々の研究に関する指導 章立て等の適切さ等々 【事前学習】 参考文献を読み込み論文の構成を進めること (1時間) 【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)	
	第14回	パワーポイントによる中間発表① 【事前学習】 パワーポイントの作成と論文の構成の準備をしておくこと (1時間) 【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)	
	第15回	パワーポイントによる中間発表② 【事前学習】 パワーポイントの作成と論文の構成の準備をしておくこと 【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)	
	第16回	中間発表のまとめ (論文の点検と修正の指導) 【事前学習】 予め文献で調べておき発表の準備をしておくこと (1時間) 【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)	
	第17回	個別指導 論文の修正の要点の整理 【事前学習】 予め文献で調べておき発表の準備をしておくこと (1時間) 【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)	
	第18回	個別指導 論文の質疑新たなデータの確認 (関連白書・法改正等)	

第19回	<p>【事前学習】 予め文献で調べておき発表の準備をしておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)</p> <p>個別指導 確認作業における修正等</p>
第20回	<p>【事前学習】 自分の研究論文を入力し構成しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)</p> <p>卒業研究 中間発表の準備 ① パワーポイントの作成</p>
第21回	<p>【事前学習】 自分の研究論文を入力し構成しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)</p> <p>卒業研究 中間発表の準備 ② 論文の分量や論旨の確認</p>
第22回	<p>【事前学習】 自分の研究論文を入力し構成しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)</p> <p>卒業研究 中間発表の準備 ③ パワーポイントの作成②</p>
第23回	<p>【事前学習】 自分のテーマについてグループディスカッションに備えて予習をしておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)</p> <p>論文の完成に向けた指導 グループディスカッションによる論文の検証①</p>
第24回	<p>【事前学習】 自分のテーマについてグループディスカッションに備えて予習をしておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)</p> <p>論文の完成に向けた指導 グループディスカッションによる論文の検証②</p>
第25回	<p>【事前学習】 自分の研究論文を入力し構成しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】 指導を受けた内容を確認し修正する (1時間)</p> <p>論文の完成に向けた個別指導①</p>
第26回	<p>【事前学習】 自分の研究論文を入力し構成しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】 各自に与えられた参考文献を読み込んでください (1時間)</p> <p>論文の完成に向けた個別指導②</p>
第27回	<p>【事前学習】 自分の研究論文を入力し構成しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】 指導を受けた内容を確認し修正する (1時間)</p> <p>論文の完成に向けた個別指導③ 論文の完成</p>
第28回	<p>【事前学習】 自分の研究論文を入力し構成しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】 指導を受けた内容を確認し修正する (1時間)</p> <p>卒業研究論文の要旨作成</p>
第29回	<p>【事前学習】 指示を受けた内容を再確認し論文の修正をはかる (1時間)</p> <p>【事後学習】 指示を受けた内容を再確認し論文の修正をはかる (1時間)</p> <p>論文の完成に向けた個別指導③ 論文の点検・引用の確認</p>
第30回	<p>【事前学習】 論文の構成など再確認をしておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】 最終指導を受けた内容を確認し提出の準備をする (1時間)</p> <p>論文の完成に向けた個別指導③ 論文の点検・図表の確認・提出準備</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】 各々のテーマに沿って取り組んだ卒業研究を進めていく。 問題意識を高めゼミ生同士での研鑽を積み、文献レビューやアンケート調査等を実施し論文を完成させていく。 学士論文としてレベルに達するべく研究に取り組み、研究の方法論述などを身につけていく。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、課題を解決へと導く力及び「学士力」の構成要素の一つである、福祉・心理分野の体系的な学びを学習課題に取り組む力を身につけることができる。</p>
テキスト	特に指定はしない。
参考文献	ゼミ内で各々のテーマに沿った参考文献を紹介すると共に、先行研究の論文を検索する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	卒業研究論文の完成による。論文の要旨の内容60% 取り組む姿勢（積極性）40%とする。 フィードバックとして、論文やレポート、提出課題や発表の内容について口頭で総評及び質疑応答を行う。
質問・相談の受付方法	ゼミ終了後および空き時間またはオフィスアワーにて対応する。研究室は104
履修条件	【必須要件】卒業研究Ⅰ（長坂）の単位を取得済みの者に限る
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	意欲的に研究に取り組み、積極的に出席し参考文献やアンケートの質問紙など早めに完成するように一緒に頑張りましょう。 これまで約20年の精神科病院やクリニックにおけるソーシャルワーク実践をもとに講義を行い、保健福祉センターでのアドイクション家族教室での実践をふまえながらディスカッションを実施します。
準備学習について	毎回それぞれのテーマや課題を発表し合い、再度各々の取り組むべき課題を出しますので、次回にその成果を発表もしくは提出して下さい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年	4	選択
担当教員			
渡辺央			
添付ファイル			

テーマ	各自の関心のあるテーマについて論文作成に取り組む。
授業計画	第1回 前期オリエンテーション 第2回 研究テーマの確認・検討① 第3回 研究テーマの確認・検討② 第4回 先行研究レビュー① 第5回 先行研究レビュー② 第6回 研究テーマの決定 第7回 研究計画書の作成① 第8回 研究計画書の作成② 第9回 研究方法の確認 第10回 調査研究の準備・実施① 第11回 調査研究の準備・実施② 第12回 調査研究の準備・実施③ 第13回 調査研究の準備・実施④ 第14回 調査研究の準備・実施⑤ 第15回 調査研究の準備・実施⑥ 第16回 後期オリエンテーション（進捗状況の報告） 第17回 調査研究データの分析① 第18回 調査研究データの分析② 第19回 調査研究データの分析③ 第20回 調査研究データの分析④ 第21回 卒業論文の作成① 第22回 卒業論文の作成② 第23回 発表会準備① 第24回 発表会準備②

	第25回 発表会準備③
	第26回 卒業論文の作成③
	第27回 卒業論文の作成④
	第28回 卒業論文の作成⑤
	第29回 卒業論文の作成⑥
	第30回 卒業論文の作成⑦
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】卒業研究Ⅰでの取り組みを基に調査・研究を行う。</p> <p>【到達目標】卒業論文を作成し完成させる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考文献	各自のテーマに関連したものを適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】取り組み姿勢（30%）、卒業研究発表（20%）、卒業論文（50%）で評価する。</p> <p>【フィードバック方法】各自の取り組み、発表に対して授業内でコメントをする。</p>
質問・相談の受付方法	随時
履修条件	卒業研究Ⅰの単位修得者
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後まであきらめずにがんばりましょう。</li> <li>・病院での実務経験を踏まえ、その実践的な内容についても触れていければと思います。</li> </ul>
準備学習について	毎回授業内で予習内容を提示します。次回授業までに行っておくこと（1時間）

講義科目名称： 卒業研究Ⅱ（大久保）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年	4	選択
担当教員			
大久保功			
添付ファイル			

テーマ	各自の研究テーマを設定し、卒業論文の作成に取り組む。		
授業計画	第1回	オリエンテーション（卒業研究Ⅰの振り返り）	
	第2回	研究テーマの仮設定	
	第3回	研究計画書の作成①（原案作成）	
	第4回	研究計画書の作成②（内容検討）	
	第5回	研究計画書の作成③（計画確定）	
	第6回	情報収集①（文献検索・先行研究レビュー）	
	第7回	情報収集②（情報の整理）	
	第8回	情報収集③（情報と研究構想の結び付け）	
	第9回	執筆構想と章立て①（研究の目的）	
	第10回	執筆構想と章立て②（研究の方法）	
	第11回	執筆構想と章立て③（研究課程と執筆への結び付け）	
	第12回	執筆構想と章立て④（考察と結論への結び付け）	
	第13回	草稿執筆①（章ごとの執筆内容と記載分量の想定）	
	第14回	草稿執筆②（章ごとの執筆要点をまとめる）	
	第15回	中間発表と後期に向けての準備内容の確認	
	第16回	フィールドワーク（施設見学）	
	第17回	フィールドワーク（専門職とのディスカッション）	
	第18回	卒業論文執筆①（序論）	
	第19回	卒業論文執筆②（目的と方法）	
	第20回	卒業論文執筆③（内容と考察）	
	第21回	卒業論文執筆④（結論）	
	第22回	卒業論文執筆⑤（中間発表・内容チェック）	
	第23回	卒業論文執筆⑥（修正）	
	第24回	卒業論文執筆⑦（校正）	

	<p>第25回 卒業論文執筆⑧（最終チェック）</p> <p>第26回 卒業論文抄録作成</p> <p>第27回 卒業研究発表会プレゼンテーション資料作成</p> <p>第28回 卒業研究発表会リハーサル</p> <p>第29回 卒業研究発表会</p> <p>第30回 卒業研究Ⅱの振り返り・総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 テーマを設定して独自の研究を遂行し、その成果としての卒業論文の執筆、抄録の作成ならびに卒研発表を行う。</p> <p>【到達目標】 一連の手順や方法を体系的に理解ながら研究に取り組み、卒業論文を完成させて発表を行う。</p> <p>【学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「実践的に課題を発見する力」および「主体的に学習する力」を身につけることができる。また「学士力」の構成要素の一つである「問題解決力」「自己管理力」を身につけることができる。</p>
テキスト	なし
参考文献	研究のテーマに応じて紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 研究への取組み（中間発表を含む）：20% 卒業論文の完成（卒研発表を含む）：80%</p> <p>【課題に対するフィードバックの方法】 授業時に個別指導を行い必要に応じてフィードバックを行う</p>
質問・相談の受付方法	必要に応じて随時対応する
履修条件	卒業研究Ⅰ（大久保）の単位を取得済みの者
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	担当教員は、介護福祉士としての介護経験、ケアマネジャーとしての実践経験を持ちます。また、現在も要介護認定調査に携わりながら、介護保険制度の今日的な課題に対する調査研究を行っています。履修学生におかれましては、担当教員の取組みや活動を参考に、自らが関心のあるテーマを設定して研究および論文執筆に取り組んでください。安心して研究・執筆を進められるよう些細な質問にも適宜応じながら、共に考える姿勢で支援させていただきます。
準備学習について	<p>【事前学習】研究・執筆のスケジュールに合わせた内容の事前学習（90分）</p> <p>【事後学習】その日の実施内容の整理と次回までに行う内容の確認（90分）</p>



講義科目名称： 現代の精神保健の課題と支援 A/精神保健の課題と支援 A (2020以前入学生) 授業コード： 21030 21530

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
長坂和則			
添付ファイル			

テーマ	現代の精神保健の現状と課題を学び、ライフサイクルのおけるこころの問題や疾患を理解し、知識及び支援方法を身につける。
授業計画	<p>第1回 現代の精神保健分野の動向と基本的考え方① オリエンテーション 人間生態学的視点と精神保健についての基礎的な知識 こころとは… 現代社会と精神保健問題について</p> <p>第2回 現代の精神保健分野の動向と基本的考え方② 生活と嗜癖について (自己治療仮説とは) ・アディクション (依存症) 問題について</p> <p>第3回 家族に関連する精神保健の課題と支援① 家庭関係における暴力と精神保健 (多様なDV) ・出産育児・思春期の精神保健について</p> <p>第4回 家族に関連する精神保健の課題と支援② 社会的ひきこもりをめぐる精神保健・家族関係・グリーフワークについて</p> <p>第5回 家族に関連する精神保健の課題と支援③ 当事者からのメッセージ (統合失調症からの回復) について</p> <p>第6回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ① 学校教育における精神保健的課題・暴力や学級崩壊・教員の精神保健について</p> <p>第7回 精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ② いじめ・スクールソーシャルワーカーの役割について (DVD視聴)</p> <p>第8回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ 労働衛生の歴史・過労死・過労自殺・EAPシステム・ハラスメントについて</p> <p>第9回 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ① 災害被災者の精神保健・こころのケアチームとDPAT活動・犯罪被害者への支援について</p> <p>第10回 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ② 自殺予防と自殺対策・自殺未遂と自傷行為・自死遺族について</p> <p>第11回 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ③ 身体疾患に伴う精神保健・緩和ケア・貧困問題・こどものケアについて</p> <p>第12回 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ④ 社会的孤立・ホームレス・セルフネグレクト・ジェンダー・LGBTについて</p> <p>第13回 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ⑤ 多文化共生社会と異文化ストレス</p> <p>第14回 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ⑥ 反復違法行為と精神保健・ギャンブル障害・性加害について</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 精神科医療の実際と精神保健の現状を理解し、ライフサイクルにおける精神保健の問題やこころの病を捉える。家庭 (家族) ・学校・職場・教育現場・地域・諸外国における精神保健の諸問題を取り上げ、治療や支援に必要な知識とその理解を深めるためにDVDを教材として使用する。さらに、当事者のメッセージを聞くことを含める。スクールソーシャルワーカー・精神保健福祉士国家試験の必須科目となるため、知識のみではなく、精神保健福祉士としての実践現場での支援方法を身につける。</p> <p>【到達目標】 現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。精神保健の基本的な考え方を理解する。現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。精神保健の保持・増進と発生の予防のための支援および専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。</p> <p>【卒業認定・学位授与の方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力と主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、理論的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：現代の精神保健の課題と支援 I S B N : 978-4-335-61126-1 出版社：弘文堂 著者名：岡崎直人・長坂和則・山本由紀</p>
参考文献	なし

成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 筆記試験にて評価する。国家試験に準ずる形式で25問を出題し100点換算で評価する。</p> <p>【フィードバック方法】 講義の始めに前回の授業の質問や疑問点を解説する。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後および空き時間・オフィスアワーに対応します。研究室は104
履修条件	精神保健福祉士国家試験の指定科目である。精神保健福祉士養成課程のエントリーを希望する学生は、エントリー時まで本科目を修得しなければならない。精神保健福祉士受験資格取得及びスクール（学校）ソーシャルワーク養成課程履修における必須科目となっているため、1年次に修得しておくことが望ましい。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	積極的な授業の参加をお願いいたします。出席カードがリアクションペーパーになっているので、質問や感想を記載して下さい。質問は授業の始めに復習をかねて説明をいたします。これまで、約20年の精神科病院や精神科クリニックでソーシャルワーカーとしての体験をふまえながら、ソーシャルワーク実践と保健所等で約10年のアディクション家族教室でのグループワーク実践をふまえ具体的な事例をあげ授業を行います。
準備学習について	<p>【事前学習】 毎回授業で行う範囲を説明するので、その次の章を読み予習を行っておくこと。（1時間）</p> <p>【事後学習】 授業のレジュメと教科書を照らし合わせ、振り返り（復習）を行っておくこと。（1時間）</p>

講義科目名称： 現代の精神保健の課題と支援B/精神保健の課題と支援B (2020以前入学生) 授業コード： 21040 21540

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
長坂和則			
添付ファイル			

テーマ	現代の精神保健の現状と課題を学び、ライフサイクルのおけるこころの問題や疾患を理解し、知識及び支援方法を身につける。
授業計画	<p>第1回 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ⑦ 高齢化と精神保健・高齢化をめぐる現状・精神の老化について</p> <p>第2回 精神保健に関する発生の予防と対策① 予防の概念・DALY・キャプランの3予防</p> <p>第3回 精神保健に関する発生の予防と対策② アルコール関連問題に対する対策・ハームリダクションについて</p> <p>第4回 精神保健に関する発生の予防と対策③ 依存症当事者からのメッセージ (AAメンバー)</p> <p>第5回 精神保健に関する発生の予防と対策④ 薬物依存対策・薬物乱用・ギャンブル等依存症対策について</p> <p>第6回 精神保健に関する発生の予防と対策⑤ うつ病と自殺防止対策・ゲートキーパー・虐待の予防・認知症の介護家族支援について</p> <p>第7回 精神保健に関する発生の予防と対策⑥ 発達障害とは・発達障害者支援法・社会的ひきこもりについて</p> <p>第8回 精神保健に関する発生の予防と対策⑦ 大規模災害時に生じるメンタルヘルスの課題・サイコロジカル・ファーストエイド (PEA) 対人援助職のメンタルヘルスについて</p> <p>第9回 地域精神保健に関する偏見・差別等の課題① 地域保健法・母子保健法・精神保健にかかわる人材育成について</p> <p>第10回 地域精神保健に関する偏見・差別等の課題② 精神保健における偏見について (ヘイトクライム・リカバリーパレードなど)</p> <p>第11回 精神保健に関する専門職種 (保健師等) と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携① 精神障害者に対する国の機関の役割・精神保健福祉施策について</p> <p>第12回 精神保健に関する専門職種 (保健師等) と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携② 学会や啓発団体・セルフヘルプグループについて</p> <p>第13回 諸外国の精神保健の活動の現状及び対策① 世界の精神保健の実情・リカバリー論・リカバリー研究について</p> <p>第14回 諸外国の精神保健の活動の現状及び対策② 世界保健機関 (WHO) とは・メンタルヘルスアクションプラン</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 精神科医療の実際と精神保健の現状を理解し、ライフサイクルにおける精神保健の問題やこころの病を捉える。家庭 (家族)・学校・職場・教育現場・地域・諸外国における精神保健の諸問題を取り上げ、治療や支援に必要な知識とその理解を深めるためにDVDを教材として使用する。さらに、当事者のメッセージを聞くことを含める。スクールソーシャルワーカー・精神保健福祉士国家試験の必須科目となるため、知識のみではなく、精神保健福祉士としての実践現場での支援方法を身につける。</p> <p>【到達目標】 現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。精神保健の基本的な考え方を理解する。現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。精神保健の保持・増進と発生の予防のための支援および専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。</p> <p>【卒業認定・学位授与の方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力と主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、理論的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：現代の精神保健の課題と支援 I S B N：978-4-335-61126-1 出版社：弘文堂 著者名：岡崎直人・長坂和則・山本由紀</p>
参考文献	授業内で随時紹介する

成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 筆記試験にて評価する。国家試験に準ずる形式で25問を出題し100点換算で評価する。</p> <p>【フィードバック方法】 講義の始めに前回の授業の質問や疑問点を解説する。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後および空き時間・オフィスアワーに対応します。研究室は104
履修条件	精神保健福祉士国家試験の指定科目である。精神保健福祉士養成課程のエントリーを希望する学生は、エントリー時まで本科目を修得しなければならない。精神保健福祉士受験資格取得及びスクール（学校）ソーシャルワーク養成課程履修における必須科目となっているため、1年次に修得しておくことが望ましい。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	積極的な授業の参加をお願いいたします。出席カードがリアクションペーパーになっているので、質問や感想を記載して下さい。質問は授業の始めに復習をかねて説明をいたします。これまで、約20年の精神科病院や精神科クリニックでソーシャルワーカーとしての体験をふまえながら、ソーシャルワーク実践と保健所等で約10年のアディクション家族教室でのグループワーク実践をふまえ具体的な事例をあげ授業を行います。
準備学習について	<p>【事前学習】 毎回授業で行う範囲を説明するので、その次の章を読み予習を行っておくこと。（1時間）</p> <p>【事後学習】 授業のレジュメと教科書を照らし合わせ、振り返り（復習）を行っておくこと。（1時間）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
鵜領太郎			
添付ファイル			

テーマ	障害者福祉の理念について学び、「障害」と「障害者」の概念を理解する。精神障害者の実態に触れることを通して、社会的排除、社会的障壁について理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 精神保健福祉の原理を学ぶ意義 講義スケジュール及び成績評価、講義趣旨についての説明 ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士</p> <p>第2回 障害者福祉の思想と原理 優性思想と社会的防衛、基本的人権の尊重、社会正義の実現、法の下での平等</p> <p>第3回 障害者福祉の理念 リハビリテーション、ノーマライゼーション、エンパワメント、自立生活、機会均等、インクルージョン</p> <p>第4回 障害者福祉の歴史的展開 基本的人権の保障（自由権と社会権）、自立支援・社会参加支援、消費者としての権利保障</p> <p>第5回 「障害」と「障害者」の概念 国際生活機能分類（ICF）</p> <p>第6回 制度における「精神障害者」の定義 障害者基本法、障害者総合支援法</p> <p>第7回 精神障害の障害特性 蜂谷モデル、ICFモデル、上田敏モデル</p> <p>第8回 社会的排除と社会的障壁① 諸外国の動向 ピアーズ、魔女裁判／ピネル、精神障害者の保護及び精神保健ケア改善のための諸原則（1991）</p> <p>第9回 社会的排除と社会的障壁② 日本の精神保健施策に影響を与えた出来事 相馬事件（精神病患者看護法、精神病院法、呉秀三）、ライシャワー事件（精神衛生法の改正）、宇都宮病院事件（精神保健法、精神保健指定医）、大和川病院事件（精神保健福祉法における入院制度、地域移行）、池田小学校事件（医療観察法）、相模原事件（措置入院の運用等の整理）等</p> <p>第10回 社会的排除と社会的障壁③ 日本の社会的障壁 欠格条項、強制不妊手術、保健体育の教科書等、古典的偏見と制御可能型偏見 コンフリクトの種類（本質的コンフリクトと感情的コンフリクト）とレベル（マイクロ、メゾ、マクロ）、人権侵害としての施設コンフリクト、アルコール・薬物問題の取締法と刑罰、自己責任論と受療への障壁</p> <p>第11回 特定非営利活動法人わびねす特別講義 ハンセン病問題と社会活動（仮）</p> <p>第12回 精神障害者の生活実態① 精神科医療の特異性 強制入院・治療、精神科特例、病床数と在院日数、隔離、身体的拘束、多剤併用 等</p> <p>第13回 精神障害者の生活実態② 精神障害者の家族 保護義務者の歴史、家族とその生活実態、家族の多様性</p> <p>第14回 精神障害者の生活実態③ 精神障害者の社会生活 居住形態、家族の同居率、生活保障（生活保護・年金・手帳）、就労状況</p> <p>第15回 全体のまとめ 本授業のまとめ（質疑応答、グループ討議：本授業で学んだこと）</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 ソーシャルワークの定義、理念、方法、体系、歴史等を中心に、ソーシャルワーク全般と精神保健福祉との関連性についての学習を、講義及びグループワーク等アクティブラーニングを用いて実施する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. 「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。 2. 精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について理解する。 3. 精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、実践的に課題を発見する力、地域を視野に貢献する力を及び「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
テキスト	テキスト名：最新 精神保健福祉士養成講座 5 『精神保健福祉の原理』 ISBN978-4-8058-8256-6

	出版社：中央法規 著者名：日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集委員会 価格（税抜）3,000円
参考文献	空閑浩人著「ソーシャルワーク論」ミネルヴァ書房 2016 窪田暁子著「福祉援助の臨床－共感する他者として」 誠信書房 2013
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】 授業内課題（60%=4×15回）、レポート課題（30%=15%×2回） 授業への積極性・学習態度（10%）を総合的に評価する。 【フィードバック方法】 授業内課題に対する質疑、リアクションを次回の授業の冒頭を実施する。
質問・相談の受付方法	授業終了後及びオフィスアワー等（研究棟 105号室）にて質問・相談を受け付ける。 また、授業内課題に疑問点・質問を記載する欄があるため積極的に活用してほしい。
履修条件	【希望的条件】 「現代の精神保健の課題と支援A・B」の単位を修得していることが望ましい。 精神保健福祉士国家試験の指定科目である。 精神保健福祉士養成課程のエントリーを希望する学生は、エントリー時まで本科目を修得しなければならない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	精神保健福祉士を目指さなくとも精神保健福祉に関心ある学生を歓迎する。 出欠席は、授業終了時に提出する授業内課題により確認する。 精神保健福祉業務（精神科病院、地域活動支援センター、相談支援事業所における相談援助業務）に約15年間、従事してきた経験を基に精神保健福祉の実情についても紹介する。 授業の内容に応じて、実践者や当事者をゲストスピーカーとして招くことがある。
準備学習について	【事前学習】 毎回授業内で予習について指示する。（1時間程度） 【事後学習】 毎回授業で配布する資料の確認を指示する。（1時間程度）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
鵜領太郎			
添付ファイル			

テーマ	ソーシャルワークの定義、理念を学び、「精神保健福祉士」の資格化の経緯と精神保健福祉の原理と理念を知ることを通して、社会における「精神保健福祉士」の機能と役割について理解する。
授業計画	<p>第1回 「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯 精神医学ソーシャルワーカー協会設立、Y問題、倫理綱領の規定と経緯、資格化までの経緯</p> <p>第2回 精神保健福祉士の原理・価値 社会的復権と権利擁護、自己決定、当事者主体、社会正義、ごく当たり前の生活</p> <p>第3回 精神保健福祉士の観点・視点 人と環境の相互作用、生活者の視点、エンパワメント、リカバリー、アンチスティグマ、ハームリダクション</p> <p>第4回 精神保健福祉士とクライアントとの関係性 加害性、援助関係、間主観（相互主体性）、協働関係</p> <p>第5回 「精神保健福祉士」の機能と役割① 精神保健福祉士法制定と改訂の経緯、法の目的・定義、義務規定・誠実義務、信用失墜行為の禁止、秘密保持、連携等、資質向上の責務、社会福祉士法及び介護福祉士法との関係</p> <p>第6回 「精神保健福祉士」の機能と役割② 精神保健福祉士の倫理綱領、倫理的ジレンマ、専門職団体の意義と役割</p> <p>第7回 「精神保健福祉士」の機能と役割③ 精神保健福祉士の業務特性① 価値、理念、視点、知識、技術による業務構成</p> <p>第8回 「精神保健福祉士」の機能と役割④ 精神保健福祉士の業務特性② ミクロ・メゾ・マクロの連続性（包括的アプローチ）、連携（多職種連携・多機関連携）における精神保健福祉士の役割</p> <p>第9回 「精神保健福祉士」の機能と役割⑤ 精神保健福祉士の職場・職域① 配置状況（医療（病院・診療所））、福祉（障害福祉サービス等事業所）</p> <p>第10回 「精神保健福祉士」の機能と役割⑥ 精神保健福祉士の職場・職域② 配置状況（行政（精神保健福祉センター・保健所・市町村・保護観察所）、教育、司法、産業等）</p> <p>第11回 「精神保健福祉士」の機能と役割⑦ 精神保健福祉士の業務内容と業務指針、業務に基づく業務の展開例</p> <p>第12回 協働作業としてのソーシャルワークの展開① ソーシャルワークの展開 インテーク、契約、アセスメント、支援計画、支援（介入）、モニタリング、終結</p> <p>第13回 協働作業としてのソーシャルワークの展開② ソーシャルワークの3領域（ミクロ・メゾ・マクロ） 個別支援のあり方</p> <p>第14回 協働作業としてのソーシャルワークの展開③ グループを対象とした支援、地域を対象とした支援 グループワークのプログラム、プロセス、地域活動の展開、調査活動、広報、情報</p> <p>第15回 全体のまとめ 本授業のまとめ（質疑応答、グループ討議：本授業で学んだこと）</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 精神保健福祉士の機能、役割等を中心に、ソーシャルワーク全般と精神保健福祉との関連性についての学習を、講義及びグループワーク等アクティブラーニングを用いて実施する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. 精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。 2. 現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。 3. 精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、実践的に課題を発見する力、地域を視野に貢献する力を及び「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 精神保健福祉士養成講座 5 『精神保健福祉の原理』 ISBN978-4-8058-8256-6 出版社：中央法規 著者名：日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集委員会 価格（税抜）3,000円</p>

参考文献	空閑浩人著「ソーシャルワーク論」ミネルヴァ書房 2016 窪田暁子著「福祉援助の臨床－共感する他者として」誠信書房 2013
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】 授業内課題（60%=4%×15回）、レポート課題（30%=15%×2回） 授業への積極性・学習態度（10%）を総合的に評価する。 【フィードバック方法】 授業内課題に対する質疑、リアクションを次回の授業の冒頭実施する。
質問・相談の受付方法	授業終了後及びオフィスアワー等（研究棟 105号室）にて質問・相談を受け付ける。 また、授業内課題に疑問点・質問を記載する欄があるため積極的に活用してほしい。
履修条件	【希望的条件】 「現代の精神保健の課題と支援A・B」の単位を修得していることが望ましい。 精神保健福祉士国家試験の指定科目である。 精神保健福祉士養成課程のエントリーを希望する学生は、エントリー時まで本科目を修得しなければならない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	精神保健福祉士を目指さなくとも精神保健福祉に関心ある学生を歓迎する。 精神保健福祉業務（精神科病院、地域活動支援センター、相談支援事業所における相談援助業務）に約15年間、従事してきた経験を基に精神保健福祉の実情についても紹介する。 授業の内容に応じて、実践者や当事者をゲストスピーカーとして招くことがある。
準備学習について	【事前学習】 毎回授業内で予習について指示する。（1時間程度） 【事後学習】 毎回授業で配布する資料の確認を指示する。（1時間程度）



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
田中幸子			
添付ファイル			

テーマ	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク過程を学び、精神保健福祉士の実践展開を理解する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要 ソーシャルワークの構成要素、原理、理念、視点、知識、技術 【事前学習】 ソーシャルワークとは「何か」について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、原理・理念・視点について復習しておくこと（1時間）	
	第2回	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見インテークからアフターケア 【事前学習】 ミクロ・メゾ・マクロの視点について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、ソーシャルワークの展開過程について復習しておくこと（1時間）	
	第3回	ソーシャルワークの展開過程②ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける展開 【事前学習】 ミクロ・メゾ・マクロの視点について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、ソーシャルワーク実践のあり方を復習しておくこと（1時間）	
	第4回	精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点① 人と環境の相互作用とは 【事前学習】 ソーシャルワーク実践における人と環境の相互作用について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、ソーシャルワークの基本的視点について復習しておくこと（1時間）	
	第5回	精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点② 精神障害および精神保健の課題を有する人とその家族が置かれている状況について 【事前学習】 精神障害者やその家族がおかれている状況について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、精神疾患や精神障害者が抱える諸問題などを復習しておくこと（1時間）	
	第6回	精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点③ 精神疾患や精神障害の特性を踏まえたソーシャルワークの留意点とは 【事前学習】 精神疾患や精神障害の特性について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、ソーシャルワークの留意点について復習しておくこと（1時間）	
	第7回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程① アウトリーチとは 必要な支援にアクセスできない当事者や家族へのアプローチについて 【事前学習】 精神保健福祉分野のアウトリーチとは何かを理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、アウトリーチの目的と方法について復習しておくこと（1時間）	
	第8回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程② インテークとは（主訴の把握・スクリーニング・契約について） 【事前学習】 インテークとは何かを理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、インテークの目的について復習しておくこと（1時間）	
	第9回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程③ アセスメントとは（情報から情報分析・解釈へ、人と環境の相互作用から捉えた問題の特性について） 【事前学習】 アセスメントとは何かを理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、アセスメントの意味について復習しておくこと（1時間）	
	第10回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程④ アセスメントとは その2 本人に関する理解（発達・医療健康面・心理情緒面、ストレスコーピングなど） 環境に関する理解（社会関係・住環境、関連する法制度等）とアセスメントツール（エコマップ等のマッピング法） 【事前学習】 アセスメントにおける本人や環境に対する支援とは何かを理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、アセスメントとソーシャルワーク実践について支援復習しておくこと（1時間）	
	第11回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑤ 援助関係の形成技法 バイステックの援助関係を形成する技法・自己決定・協働（パートナーシップ）・転移と逆転移・バウンダリー・自己覚知について 【事前学習】 バイステックの7原則および援助関係とは何かを理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、援助関係技法および対人援助職に必要なバウンダリーなどについて復習しておくこと（1時間）	
	第12回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑥ 面接技術とその応用とは（面接の構造・マイクロカウンセリング・生活場面面接・動機づけ面接について） 【事前学習】 面接技術の意味について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、様々な面接技術について復習しておくこと（1時間）	
	第13回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑦ 支援の展開・人と環境へのアプローチ・事例分析とは（エコロジカルアプローチとエンパワメントアプローチの展開について） 【事前学習】 エコロジカルアプローチとエンパワメントアプローチとは何かを理解しておくこと（1時間） 【事後学習】 講義で学んだ、支援の展開のアプローチの方法の違いについて復習しておくこと（1時間）	
	第14回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑧ 支援の展開・ケアマネジメント（ケアマネジメントのプロセス・ケアマネジメントの実際・ACT、ストレングスモデルに基づくケアマネジメ	

第15回	<p>ント・障害者総合支援法におけるケアマネジメント等について)</p> <p>【事前学習】 ケアマネジメントの意義について理解しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】 講義で学んだ、ケアマネジメントの実際について復習しておくこと (1時間)</p> <p>まとめ これまで学んだソーシャルワークの過程について、精神保健福祉士として従事して来た経験をふまえ事例を挙げながら具体的に理解を深める</p> <p>【事前学習】 これまで学んだソーシャルワークの過程について授業でのレジュメから事前課題として提示した資料から理解しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】 講義で学んだ、ソーシャルワークの過程について復習しておくこと (1時間)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】</p> <p>ソーシャルワークの基盤となる原則や理念を中心に据えながら、ソーシャルワークの理論と方法についての学習を、講義及びグループワーク等のアクティブラーニングを用いて実施する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害および精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワーク過程を理解する。</li> <li>・精神障害および精神保健福祉の課題を持つ人の家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。</li> <li>・精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。</li> </ul> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力と倫理観を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）</p> <p>ISBN:978-4-8058-8257-3</p> <p>中央法規出版 最新精神保健福祉士養成講座</p> <p>価格3,300円（税込）</p>
参考文献	<p>適宜授業内で紹介する。</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <p>授業内課題（60%=4%×15回）、レポート課題（30%）、授業への積極性（10%）を総合的に評価する。</p> <p>【課題に対するフィードバック方法】</p> <p>授業内課題に記載された質疑等について、次回の授業の冒頭にてフィードバックを行う。</p>
質問・相談の受付方法	<p>講義終了後及び空き時間に質問・相談を受け付ける。</p> <p>また、授業内課題に質問を記載する欄を設ける。</p>
履修条件	<p>「現代の精神保の課題と支援A・B」の単位を修得済もしくは、履修中であること。</p> <p>「精神保健福祉の原理A」の単位を修得済であることが望ましい。</p> <p>精神保健福祉士国家試験の指定科目である。</p> <p>精神保健福祉士養成課程のエントリーを希望する学生は、エントリー時までには本科目を履修しなければならない。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>授業終了時に提出する授業内課題により出席を確認する。</p> <p>精神科病院、就労継続支援施設等での勤務を経て、現在は産業分野（EAP）で業務を行っている。現役の精神保健福祉士が行う授業であるため、ソーシャルワークをより身近に感じてもらえるよう、エピソード等を交えながら授業を展開していく。</p> <p>授業の内容に応じてゲストスピーカーを招くことがある。</p>
準備学習について	<p>毎回、授業で予習と復習について指示をする。</p>

講義科目名称： ソーシャルワークの理論と方法（精神） B 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
田中幸子			
添付ファイル			

テーマ	精神保健福祉分野における個別支援からソーシャルアクションへの実践展開を学び、マイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開過程 インテークからターミネーションに至るプロセス、マイクロ・メゾ・マクロの視点 【事前学習】精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの展開過程について理解しておくこと（ソーシャルワークの理論と方法（精神）Aの復習をしておくこと）（1時間） 【事後学習】講義で学んだソーシャルワークの展開過程について復習しておくこと（1時間）	
	第2回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法① ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義 【事前学習】ソーシャルアドミニストレーションの概念について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】講義で学んだソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義について復習しておくこと（1時間）	
	第3回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法② 組織と精神保健福祉士の関係性 【事前学習】組織経営（医療経営・事業経営）、専門職と被用者（二重のロイヤリティ）について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】講義で学んだ組織と精神保健福祉士の関係性について復習しておくこと（1時間）	
	第4回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法③ 組織介入・組織改善の実践モデル 【事前学習】生活モデルにおける組織介入技法について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】講義で学んだ組織介入・組織改善の実践モデルについて復習しておくこと（1時間）	
	第5回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法④ 組織運営管理の実際 【事前学習】PDCAサイクルについて理解しておくこと（1時間） 【事後学習】講義で学んだ組織運営管理の実際について復習しておくこと（1時間）	
	第6回	コミュニティワーク① 精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義 【事前学習】コミュニティワークについて理解しておくこと（1時間） 【事後学習】講義で学んだコミュニティワークについて復習しておくこと（1時間）	
	第7回	コミュニティワーク② 地域における精神保健福祉の向上 【事前学習】精神保健福祉に関する普及啓発について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】講義で学んだ地域における精神保健福祉の向上について復習しておくこと（1時間）	
	第8回	個別支援からソーシャルアクションへの展開① 基本的視点 【事前学習】当事者ニーズを軸とした展開・包括的アプローチ、マイクロ・メゾ・マクロの連続性について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】講義で学んだソーシャルワークにおける基本的視点について復習しておくこと（1時間）	
	第9回	個別支援からソーシャルアクションへの展開② 個別支援から地域における体制整備 【事前学習】個別支援会議、地域における協議会について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】講義で学んだ地域における体制整備について復習しておくこと（1時間）	
	第10回	個別支援からソーシャルアクションへの展開③ 政策提言・政策展開 【事前学習】公益財団法人日本精神保健福祉士協会について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】講義で学んだ政策提言・政策展開について支援復習しておくこと（1時間）	
	第11回	個別支援からソーシャルアクションへの展開④ 精神障害者の地域移行・地域定着に関わる展開（事例分析） 【事前学習】社会的入院、地域移行・地域定着について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】講義で学んだ地域移行・地域定着について復習しておくこと（1時間）	
	第12回	関連分野における精神保健福祉士の実践展開① 学校・教育分野 【事前学習】スクールソーシャルワーカーについて理解しておくこと（1時間） 【事後学習】講義で学んだスクールソーシャルワークについて復習しておくこと（1時間）	
	第13回	関連分野における精神保健福祉士の実践展開② 産業分野 【事前学習】EAPについて理解しておくこと（1時間） 【事後学習】講義で学んだ産業分野におけるソーシャルワークについて復習しておくこと（1時間）	
	第14回	関連分野における精神保健福祉士の実践展開③ 司法分野 【事前学習】社会復帰調整官、福祉専門官について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】講義で学んだ司法分野におけるソーシャルワークについて復習しておくこと（1時間）	
	第15回	まとめ これまで学んだソーシャルワークの展開過程について 精神保健福祉士として従事して来た経験をふまえて事例を挙げながら具体的に理解を深める 【事前学習】これまで学んだソーシャルワークの展開過程について授業でのレジュメから事前課題として提示した資料から理解しておくこと（1時間） 【事後学習】講義で学んだ、ソーシャルワークの過程について復習しておくこと（1時間）	

授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 ソーシャルワークの基盤となる原則や理念を中心に据えながら、ソーシャルワークの理論と方法についての学習を、講義及びグループワーク等のアクティブラーニングを用いて実施する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。</li> <li>・個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。</li> <li>・精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。</li> </ul> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力と倫理観を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：ソーシャルワークの理論と方法（精神専門） ISBN:978-4-8058-8257-3 中央法規出版 最新精神保健福祉士養成講座 価格3,300円（税込）</p>
参考文献	適宜授業内で紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 授業内課題（60%=4%×15回）、レポート課題（30%）、授業への積極性（10%）を総合的に評価する。</p> <p>【課題に対するフィードバック方法】 授業内課題に記載された質疑等について、次回の授業の冒頭にてフィードバックを行う。</p>
質問・相談の受付方法	<p>講義終了後及び空き時間に質問・相談を受け付ける。 また、授業内課題に質問を記載する欄を設ける。</p>
履修条件	<p>「現代の精神保の課題と支援A・B」の単位を修得済もしくは、履修中であること。 「精神保健福祉の原理A・B」の単位を修得済であることが望ましい。 精神保健福祉士国家試験の指定科目である。 精神保健福祉士養成課程のエントリーを希望する学生は、本科目を履修しなければならない。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>授業終了時に提出する授業内課題により出席を確認する。 精神科病院、就労継続支援施設等での勤務を経て、現在は産業分野（EAP）で業務を行っている。現役の精神保健福祉士が行う授業であるため、ソーシャルワークをより身近に感じてもらえるよう、エピソード等を交えながら授業を展開していく。 授業の内容に応じてゲストスピーカーを招くことがある。</p>
準備学習について	毎回、授業で予習と復習について指示をする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
飛田義幸			
添付ファイル			

テーマ	精神障害リハビリテーションを軸に、精神保健福祉士の視点から、リハビリテーションの概念や方法について学び、自身でのアプローチを考える
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則（1）精神障害リハビリテーションの理念と定義 【予習箇所】教科書p20-32</p> <p>第2回 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則（2）医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション 【予習箇所】教科書p33-35</p> <p>第3回 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則（3）精神障害リハビリテーションの基本原則 【予習箇所】教科書p36-47</p> <p>第4回 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則（4）精神障害リハビリテーションとソーシャルワークとの関係 【予習箇所】教科書p2-8</p> <p>第5回 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則（5）地域及びリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義 【予習箇所】教科書p48-53</p> <p>第6回 精神障害リハビリテーションの構成及び展開（1）精神科リハビリテーションの対象とチームアプローチ 【予習箇所】教科書p54-75</p> <p>第7回 精神障害リハビリテーションの構成及び展開（2）リハビリテーションのプロセス 【予習箇所】教科書p76-87</p> <p>第8回 精神障害リハビリテーションの構成及び展開（3）精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割 【予習箇所】教科書p9-17</p> <p>第9回 中間まとめと中テスト 【予習箇所】配布資料1-8</p> <p>第10回 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関（1）医学的リハビリテーションプログラム 【予習箇所】教科書p90-111</p> <p>第11回 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関（2）職業的リハビリテーションプログラム 【予習箇所】教科書p112-138</p> <p>第12回 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関（3）社会的リハビリテーションプログラム 【予習箇所】教科書p139-162</p> <p>第13回 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関（4）教育的リハビリテーション・その他プログラム 【予習箇所】教科書p163-173</p> <p>第14回 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関（5）家族支援プログラム 【予習箇所】教科書p174-194</p> <p>第15回 精神障害リハビリテーションの動向と実際 精神障害当事者や家族を主体とした（主として依存症の）リハビリテーション 【予習箇所】教科書p208-219</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 精神保健福祉士の視点から、精神障害リハビリテーションの概念・プログラム・実施機関等について講義や映像資料にて概観し、その効果やアプローチについてディスカッション等により考えていく。</p> <p>【到達目標】 精神障害リハビリテーションプログラムの知識を修得し、精神保健福祉士の視点から精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連や精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、福祉心理学科の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、および「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の</p>

	理解を身につけることができる。
テキスト	テキスト名：最新 精神保健福祉士養成講座 3 精神障害リハビリテーション論 ISBN：978-4-8058-8254-2 出版社：中央法規出版 著者名：日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 価格：(税別) 2,700円
参考文献	適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	授業参加への積極性(配点10) 授業中の中テスト(配点45) 学期末試験(配点45)
質問・相談の受付方法	授業中やその前後に声をかけるか、207研究室にお越し下さい。
履修条件	「現代の精神保健の課題と支援A・B」が修得済もしくは履修中であること。 「精神保健福祉の原理A・B」が修得済もしくは履修中であること。 「精神医学と精神医療A・B」が修得済もしくは履修中であること。 「精神保健福祉制度論A・B」が修得済もしくは履修中であること。 精神保健福祉士国家試験の指定科目である。精神保健福祉士養成課程のエントリーを希望する学生は本科目を履修しなければならない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ【不可】
メッセージ	精神保健福祉士を目指す方には必須の科目となります。中テスト及び期末試験を行いますので、復習等積極的な自主学習を行う様にしてください。 地域活動支援センター及び就労継続支援事業(B型)の職員及び管理者としてその立ち上げや業務に12年間従事したことがあります。授業の中でもその経験や実務内容について触れられたらと思います。
準備学習について	【事前学習】 毎回予習箇所を熟読し不明点を明確にして授業に臨んでください(2時間) 【事後学習】 当該回の配布資料をもとに授業時間外で振り返りを行うようにしてください(2時間)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
飛田義幸			
添付ファイル			

テーマ	精神保健福祉士の視点から、関連する法制度の体系や概要について理解し、その課題について考える
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 【予習箇所】教科書を準備しておく。教科書の「刊行にあたって」、「はじめに」及び「資格取得の手引き」を読んでおく。</p> <p>第2回 精神障害者に関する法律の体系（１）社会保障と精神保健福祉士 【予習箇所】教科書P2-15</p> <p>第3回 精神障害者に関する法律の体系（２）制度の仕組みと施策の体系 【予習箇所】教科書P16-26</p> <p>第4回 精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割（１）精神保健福祉法の概要（入院形態、入院方法と権利擁護） 【予習箇所】教科書P32-46</p> <p>第5回 精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割（２）精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割 【予習箇所】教科書P47-52</p> <p>第6回 医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割（１）審判、処遇の流れと処遇内容 【予習箇所】教科書P68-71</p> <p>第7回 医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割（２）医療観察法における精神保健福祉士の役割 【予習箇所】教科書P71-78</p> <p>第8回 中間まとめと中テスト 【予習箇所】配布資料1-7</p> <p>第9回 精神障害者の医療に関する課題（１）非自発的入院と意思決定支援 【予習箇所】教科書P80-86</p> <p>第10回 精神障害者の医療に関する課題（２）家族等の同意と家族支援 【予習箇所】教科書P87-89</p> <p>第11回 精神障害者の医療に関する課題（３）地域移行、地域定着支援 【予習箇所】教科書P89-91</p> <p>第12回 精神障害者の医療に関する課題（４）アウトリーチとチームアプローチ 【予習箇所】教科書P92-94</p> <p>第13回 精神障害者の医療に関する課題（ひきこもり支援施策） 【予習箇所】教科書P65-67</p> <p>第14回 精神障害者の医療に関する課題（医療計画・自殺対策） 【予習箇所】教科書P53-58</p> <p>第15回 精神障害者の医療に関する課題（精神科救急・依存症施策） 【予習箇所】教科書P60-64</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 精神保健福祉士の視点に立ち、わが国における精神障害者にかかわる法や制度の概要について講義や視聴覚資料にて概観し、法制度の課題や活用した支援についてディスカッション等により考える。</p> <p>【到達目標】 精神障害者に関する法制度の体系、精神保健福祉法、医療観察法等、生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規制される精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、福祉心理学科の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、および「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 精神保健福祉士養成講座 4 精神保健福祉制度論 ISBN：978-4-8058-8255-9 出版社：中央法規出版 著者名：日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 価格：（税別）2,700円</p>
参考文献	適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に	<p>授業参加への積極性（配点10） 授業中の中テスト（配点45） 学期末試験（配点45）</p>

対するフィードバック方法	
質問・相談の受付方法	授業中やその前後に声をかけるか、207研究室にお越し下さい。
履修条件	「現代の精神保健の課題と支援A・B」が修得済みもしくは履修中であること。 「精神保健福祉の原理A」が修得済みであり、「精神保健福祉の原理B」が履修中であること。 精神保健福祉士国家試験の指定科目である。精神保健福祉士養成課程のエントリーを希望する学生は、エントリー時まで本科目を修得しなければならない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ【不可】
メッセージ	精神保健福祉士を目指す方には必須の科目となります。中テスト及び期末試験を行いますので、復習等積極的な自主学習を行う様にしてください。 地域活動支援センター及び就労継続支援事業（B型）の職員及び管理者としてその立ち上げや業務に12年間従事したことがあります。授業の中でもその経験や実務内容について触れられたらと思います。
準備学習について	【事前学習】 毎回予習箇所を熟読し不明点を明確にして授業に臨んでください（2時間） 【事後学習】 当該回の配布資料をもとに授業時間外で振り返りを行うようにしてください（2時間）



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
飛田義幸			
添付ファイル			

テーマ	精神障害者に関連する法制度の体系や内容、精神保健福祉士に求められる役割について理解を深め、その課題や活用について考えていく
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 精神障害者に関する制度活用（事例から） 【予習箇所】教科書 p 27-30</p> <p>第2回 精神障がい者の医療に関する課題 依存症・高次脳機能障害支援施策 【予習箇所】教科書 p 60-64</p> <p>第3回 相談支援制度と精神保健福祉士の役割（1）相談支援制度の概要と成立の経緯 【予習箇所】教科書p111-123</p> <p>第4回 相談支援制度と精神保健福祉士の役割（2）相談支援制度における精神保健福祉士の役割 【予習箇所】教科書p123-126</p> <p>第5回 居住支援制度と精神保健福祉士の役割（1）居住支援制度の概要 【予習箇所】教科書p128-136</p> <p>第6回 居住支援制度と精神保健福祉士の役割（2）居住支援制度における精神保健福祉士の役割 【予習箇所】教科書p137-140</p> <p>第7回 就労支援制度と精神保健福祉士の役割（1）就労支援制度（障害者総合支援法等）の概要 【予習箇所】教科書p144-154</p> <p>第8回 就労支援制度と精神保健福祉士の役割（2）就労支援制度における精神保健福祉士の役割 【予習箇所】教科書p154-156</p> <p>第9回 中間まとめと中テスト 【予習箇所】配布資料1-8</p> <p>第10回 精神障害者の生活支援制度に関する課題 相談・居住・就労支援制度における課題 【予習箇所】教科書p126-127 p140-143 p 156-159</p> <p>第11回 精神障害者の経済的支援制度に関する課題 精神障害者の生活実態と課題、生活保護被保護者の地域移行の課題 【予習箇所】教科書160-172</p> <p>第12回 生活保護制度と精神保健福祉士の役割 生活保護制度の概要と精神保健福祉士の役割 【予習箇所】教科書p202-217</p> <p>第13回 生活困窮者自立支援制度と精神保健福祉士の役割 生活困窮者自立支援制度の概要と精神保健福祉士の役割 【予習箇所】教科書p218-226</p> <p>第14回 低所得者対策と精神保健福祉士の役割（1）低所得者対策（生活福祉資金貸付制度、無料定額宿泊所等） 【予習箇所】教科書p227-231</p> <p>第15回 低所得者対策と精神保健福祉士の役割（2）低所得者対策における精神保健福祉士の役割 【予習箇所】教科書p231-236</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 わが国における精神障害者にかかわる法や制度の概要や課題について講義や視聴覚資料にて学び、精神保健福祉士として法制度を活用した支援や専門職としての役割についてディスカッション等により考えていく。</p> <p>【到達目標】 精神障害者に関する法制度の体系、生活支援に関する制度、生活保護制度や生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解し、障害者に関する法制度を適切に活用し法制度の限界と課題について考えることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与の方針との関連】 この科目の履修を通じて、福祉心理学科の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、および「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 精神保健福祉士養成講座 4 精神保健福祉制度論 ISBN：978-4-8058-8255-9 出版社：中央法規出版 著者名：日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 価格：（税別）2,700円</p>
参考文献	適宜紹介します。

成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	授業参加への積極性（配点10） 授業中の中テスト（配点45） 学期末試験（配点45）
質問・相談の受付方法	授業中やその前後に声をかけるか、207研究室にお越し下さい。
履修条件	「現代の精神保健の課題と支援A・B」が修得済みもしくは履修中であること。 「精神保健福祉の原理A・B」が修得済みもしくは履修中であること。 「精神医学と精神医療A・B」が修得済みもしくは履修中であること。 「精神障害リハビリテーション論」が修得済みもしくは履修中であること。 精神保健福祉士国家試験の指定科目である。精神保健福祉士養成課程のエントリーを希望する学生は本科目を履修しなければならない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ【不可】
メッセージ	精神保健福祉士を目指す方には必須の科目となります。中テスト及び期末試験を行いますので、復習等積極的な自主学習を行う様にしてください。 地域活動支援センター及び就労継続支援事業（B型）の職員及び管理者としてその立ち上げや業務に12年間従事したことがあります。授業の中でもその経験や実務内容について触れられたらと思います。
準備学習について	【事前学習】 毎回予習箇所を熟読し不明点を明確にして授業に臨んでください（2時間） 【事後学習】 当該回の配布資料をもとに授業時間外で振り返りを行うようにしてください（2時間）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
芳賀道匡			
添付ファイル			

テーマ	代表的な心理療法およびカウンセリングの現場での適用の実際について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：心理学的支援の枠組み</p> <p>第2回 古典とカウンセリングの基礎Ⅰ：精神分析</p> <p>第3回 古典とカウンセリングの基礎Ⅱ：クライアント中心療法①(基本的態度)</p> <p>第4回 古典とカウンセリングの基礎Ⅲ：クライアント中心療法②(基本的技法、関連する心理療法)</p> <p>第5回 エビデンスベースドプラクティス</p> <p>第6回 うつ病への認知行動療法</p> <p>第7回 不安症への認知行動療法</p> <p>第8回 統合失調症、心的外傷後ストレス障害への認知行動療法</p> <p>第9回 睡眠障害、ダイエットと認知行動療法</p> <p>第10回 家族療法</p> <p>第11回 集団心理療法①</p> <p>第12回 集団心理療法②</p> <p>第13回 バイオフィードバック療法、遠隔心理療法</p> <p>第14回 遊戯療法、箱庭療法</p> <p>第15回 日本発の心理療法、心理療法のオリエンテーションと統合</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】 臨床心理学における心理療法及びカウンセリングについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】 臨床心理学における心理療法及びカウンセリングの基礎について説明することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである①知識・技能を理解する力、及び「学士力」の構成要素の一つである②人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p> <p>(特記事項) 第5回と第10回において小テストを行う。さらに、第15回において授業内試験を行う。</p>
テキスト	なし。
参考文献	<p>臨床心理学入門：多様なアプローチを越境する 初版 ISBN：978-4-641-22003-4 著者：岩壁 茂・福島哲夫・伊藤絵美(著)</p> <p>公認心理師の基礎と実践3 臨床心理学概論 第1版 ISBN：978-4-866-16053-5 著者：野島一彦(著、監、編)・岡村達也(著、編)</p>
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に	本試験(70%)、小テスト(20%)、コメントシート(10%) 成績評価のフィードバックについては、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う

対するフィードバック方法	
質問・相談の受付方法	毎回の出席フォームや、授業終了後またはオフィスアワーの時間帯にて相談を受ける。
履修条件	【必須要件】「臨床心理学概論」の単位を取得済であること。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	公認心理師受験に必須の科目です。 現場での実務経験の話も交えつつ、臨床心理学概論で十分に紹介しなかった心理療法、心理アセスメント等についてより深く学びます。 第1回目の授業で大事なことを説明するので、必ず出席して下さい。 よろしくお願いします。
準備学習について	予習は、シラバスに示してある各事項について調べておく（2時間×15回＝30時間）。復習は、配布資料を中心に行うこと（2時間×15回＝30時間）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
梶木てる子			
添付ファイル			

テーマ	心理検査を含む心理アセスメントについて学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、心理アセスメントとは</p> <p>第2回 心理アセスメントの観点</p> <p>第3回 心理アセスメントの展開</p> <p>第4回 ケース・フォーミュレーション</p> <p>第5回 面接法</p> <p>第6回 観察法、面接における観察</p> <p>第7回 心理検査1（知能検査）</p> <p>第8回 心理検査2（発達検査、認知機能検査）</p> <p>第9回 心理検査3（質問紙法）</p> <p>第10回 心理検査4（作業検査法、自記式評価）</p> <p>第11回 心理検査5（投影法）</p> <p>第12回 質問紙法検査の受検と結果算出の実習</p> <p>第13回 質問紙法検査の結果算出と解釈、報告書の作成の実習</p> <p>第14回 個別式検査の施行の実習</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】講義、ディスカッション、実習などを通して、心理アセスメントに関する知識や基本的スキルを学ぶ。</p> <p>【到達目標】心理アセスメントに関する知識や基本的スキルを習得する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」、「主体的に学習する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「コミュニケーション・スキル」、「論理的思考力」、「倫理観」を身につけることができる。</p>
テキスト	なし。随時、資料を配布する。
参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】授業参加への積極性（15%）、提出課題の完成度（25%）、授業内の小テスト（60%）から評価する。</p> <p>【フィードバック方法】課題への総評は次回の授業時に行う。成績評価のフィードバックについては、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後の教室にて、またはオフィスアワーの時間帯にて受け付ける。
履修条件	心理学概論A B、発達心理学A B、心理学統計法A B、臨床心理学概論の単位を取得済みあるいは履修中であることが望ましい。
特別学生の履修可否	科目等履修生【要件を満たしていれば可】 聴講生【要件を満たしていれば可】

	キャリアデザイン・カレッジ生【要件を満たしていれば可】
メッセージ	2018年以降の入学生にとっては公認心理師養成科目になります。2年後期の心理演習Aの履修条件にも影響してきますので、公認心理師の受験資格取得を考えている方は必ず履修してください。また、心理職として心理検査をはじめとする心理アセスメントを実践してきた経験を授業のなかで反映させていきたいと考えています。
準備学習について	授業で小テストを実施します。授業時間外で振り返りを行うようにしてください。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
梶木てる子、上野永子、芳賀通匡			
添付ファイル			

テーマ	心理面接による心理学的支援の基本ならびに心理アセスメントにおける技能から支援計画までの展開を学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：リレーションづくり（自己開示）</p> <p>第2回 面接の流れ、言語的・非言語的コミュニケーション（基本的かかわり技法）</p> <p>第3回 情報の収集・集約に向けたコミュニケーション1（いいかえ、要約の働き）</p> <p>第4回 情報の収集・集約に向けたコミュニケーション2（質問の働き）</p> <p>第5回 インテーク面接で収集する情報と面接記録、記録書式に即した情報収集</p> <p>第6回 インテーク面接と治療面接、観察の体験</p> <p>第7回 受容・傾聴・共感的理解に向けたコミュニケーション1（感情の反映・意味の反映）</p> <p>第8回 受容・傾聴・共感的理解に向けたコミュニケーション2（リフレクション）</p> <p>第9回 WISC - IV知能検査の実際1（言語理解指標の特徴）</p> <p>第10回 WISC - IV知能検査の実際2' 知覚推理指標の特徴</p> <p>第11回 WISC - IV知能検査の実際3（ワーキングメモリ指標の特徴）</p> <p>第12回 WISC - IV知能検査の実際4（処理速度指標の特徴）</p> <p>第13回 WISC - IV知能検査の実際5（結果算出と報告書の作成）</p> <p>第14回 心理アセスメントの展開例1（発達障がいをもつ児童への支援）</p> <p>第15回 心理アセスメントの展開例2（発達障がいをもつ青年の就労支援）</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>本講義では、ロールプレイによるカウンセリングの実習を通して、心理面接の基本を学びます。また、心理アセスメントの実習を通して、心理アセスメントを実施するための技能を取得し、アセスメントに基づいて支援計画を作成する知識を身に付けることを目標とします。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」と「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「コミュニケーション・スキル」と「チームワーク、リーダーシップ」を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しない。
参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	授業参加への積極性（25%）、單元ごとのレポート（25%、25%、25%）にて評価する。レポートに関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。
質問・相談の受付方法	授業終了後に教室で、またはオフィスアワーに研究室で受け付ける。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理学概論AB、臨床心理学概論、心理学的支援法、心理的アセスメントの単位を修得済み、または履修中であることが望ましい。</li> <li>本科目は複数のクラスを開講する予定であり、1クラスにつき履修人数を15名までとする。そのため、いずれかのクラスで履修希望者が15名を上回った場合、履修学生数を各クラスで案分する。履修者が15名を下回った</li> </ul>

	<p>場合は1クラス開講になることもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修を希望する学生は、年度当初の履修登録については任意のクラスを選択し、登録すること。ただし、授業開始時にクラスを変更する可能性がある。</li> <li>・履修クラスは、後期の授業開始前に学生の希望も聴取したうえで、各クラスの履修希望の状況を勘案して決定する。このため、希望通りの曜日・時間に履修できない場合がある。</li> </ul>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>医療施設や学校などで心理職としての実務経験を持つ教員が担当し、実践的な授業を展開します。特別な事情のない限り遅刻や欠席のないように心がけてください。また、受講者数や講義の進行具合によって、クラス数や、シラバスに変更がある場合があります。</p>
準備学習について	<p>毎授業後に履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理するようにしてください（1時間）。</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
榑木てる子、芳賀道匡			
添付ファイル			

テーマ	心理的支援の理論と介入手法の実際について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 榑木 オリエンテーション、リラクゼーション技法（呼吸法、自律訓練法等）</p> <p>第2回 榑木 芸術療法（表現療法）の手法1 コラージュ療法</p> <p>第3回 榑木 芸術療法（表現療法）の手法2 風景構成法、箱庭療法</p> <p>第4回 榑木 芸術療法（表現療法）の手法3 集団療法としての芸術療法、遊戯療法</p> <p>第5回 榑木 システムズ・アプローチ1 「問題」の理解</p> <p>第6回 榑木 システムズ・アプローチ2 「問題」の介入手法</p> <p>第7回 榑木 災害支援、被害者支援、トラウマケア</p> <p>第8回 榑木 心理教育とコミュニティ・アプローチ</p> <p>第9回 芳賀 森田療法、内観療法、動作法の手法</p> <p>第10回 芳賀 体験的心理療法の手法</p> <p>第11回 芳賀 認知行動療法の手法1 エクスポージャー、系統的脱感作</p> <p>第12回 芳賀 認知行動療法の手法2 アサーションとSST</p> <p>第13回 芳賀 認知行動療法の手法3 問題解決技法、行動活性化</p> <p>第14回 芳賀 認知行動療法の手法4 認知療法</p> <p>第15回 芳賀 認知行動療法の手法5 第3世代の認知行動療法</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】各種の心理療法や支援法に関するロールプレイや体験またはディスカッション、文献講読などを通して、各種の心理療法や支援法の手順や特徴について学ぶ。</p> <p>【到達目標】心理的支援としての介入手法の基本的技能や特徴について説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」と「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「コミュニケーション・スキル」を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しない。
参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>授業各回のミニレポート（25%）</p> <p>単元ごとのレポート課題3本（25%、25%、25%）</p> <p>成績評価のフィードバックについては、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後の教室にて、またはオフィスアワーの時間帯にて受け付ける。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理演習Aの単位を取得した者。</li> <li>1クラスの履修者数は15名以下である。履修者数に合わせて開講クラス数は変化する。</li> </ul>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生 【不可】</p> <p>聴講生 【不可】</p>

	キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	医療施設や学校などで心理職としての実務経験を持つ教員が担当し、実践的な授業を行います。特別な事情のない限り遅刻や欠席のないように心がけてください。また、受講者数や講義の進行具合によって、クラス数やシラバスに変更が出る場合があります。
準備学習について	毎授業後に履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理するようにしてください（1時間）。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
梶木てる子、芳賀道匡			
添付ファイル			

テーマ	心理的支援の理論と介入手法の実際について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 芳賀 オリエンテーション、リラクゼーション技法（呼吸法、自律訓練法等）</p> <p>第2回 芳賀 認知行動療法の手法1 エクスポージャー、系統的脱感作</p> <p>第3回 芳賀 認知行動療法の手法2 アサーションとSST</p> <p>第4回 芳賀 認知行動療法の手法3 問題解決技法、行動活性化</p> <p>第5回 芳賀 認知行動療法の手法4 認知療法</p> <p>第6回 芳賀 認知行動療法の手法5 第3世代の認知行動療法</p> <p>第7回 芳賀 森田療法、内観療法、動作法の手法</p> <p>第8回 芳賀 体験的心理療法の手法</p> <p>第9回 梶木 芸術療法（表現療法）の手法1 コラージュ療法</p> <p>第10回 梶木 芸術療法（表現療法）の手法2 風景構成法、箱庭療法</p> <p>第11回 梶木 芸術療法（表現療法）の手法3 集団療法としての芸術療法、遊戯療法</p> <p>第12回 梶木 システムズ・アプローチ1 「問題」の理解</p> <p>第13回 梶木 システムズ・アプローチ2 「問題」の介入手法</p> <p>第14回 梶木 災害支援、被害者支援、トラウマケア</p> <p>第15回 梶木 心理教育とコミュニティ・アプローチ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】各種の心理療法や支援法に関するロールプレイや体験またはディスカッション、文献講読などを通して、各種の心理療法や支援法の手順や特徴について学ぶ。</p> <p>【到達目標】心理的支援としての介入手法の基本的技能や特徴について説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」と「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「コミュニケーション・スキル」を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しない。
参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>授業各回のミニレポート（25%）</p> <p>単元ごとのレポート課題3本（25%、25%、25%）</p> <p>成績評価のフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後の教室にて、またはオフィスアワーの時間帯にて受け付ける。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理演習Aの単位を取得した者。</li> <li>1クラスの履修者数は15名以下である。履修者数に合わせて開講クラス数は変化する。</li> </ul>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生 【不可】</p> <p>聴講生 【不可】</p>

	キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	医療施設や学校などで心理職としての実務経験を持つ教員が担当し、実践的な授業を行います。特別な事情のない限り遅刻や欠席のないように心がけてください。また、受講者数や講義の進行具合によって、クラス数やシラバスに変更が出る場合があります。
準備学習について	毎授業後に履修者同士でディスカッションの実施などを通して、自分の意見を整理するようにしてください（1時間）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	選択
担当教員			
梶木てる子、芳賀道匡			
添付ファイル			

テーマ	①問題の理解と支援計画、②チームアプローチ、③他職種連携及び地域支援、④職業倫理と法的義務を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、職業倫理と法的義務、チームアプローチや連携の実際</p> <p>第2回 心理アセスメント1（情報の組み立て方、事例の理解）</p> <p>第3回 心理アセスメント2（心理評価、観察評価）</p> <p>第4回 心理アセスメント3（質問紙法による検査）</p> <p>第5回 心理アセスメント4（認知機能検査、発達検査）</p> <p>第6回 心理アセスメント5（描画法）</p> <p>第7回 心理アセスメント6（投影法）</p> <p>第8回 心理アセスメント7（ケース・フォーミュレーション）</p> <p>第9回 医療保健分野の事例の理解と支援計画</p> <p>第10回 医療保健分野の事例に対する面接、支援介入の実際（ロールプレイ等）</p> <p>第11回 福祉分野の事例の理解と支援計画</p> <p>第12回 福祉分野の事例に対する面接、支援介入の実際（ロールプレイ等）</p> <p>第13回 支援者支援の事例と支援計画</p> <p>第14回 支援者支援の事例に対する面接、支援介入の実際（ロールプレイ等）</p> <p>第15回 他職種連携、地域支援、チームアプローチの事例</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】修得してきた知識や技能を活用して、ロールプレイ、事例検討、ディスカッション、調べ学習、文献講読等を通して、①個別的な心理的問題の見立てと支援計画、②要心理支援者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、③他職種連携と地域支援、④職業倫理と法的義務について学ぶ。</p> <p>【到達目標】多様な要心理支援者の問題に対する見立てと支援計画ならびに、①チームアプローチ、②他職種連携・地域支援のあり方、③公認心理師としての職業倫理と法的義務について理解することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」、「実践的に課題を発見する力」、「地域を視野に貢献する力」及び「学士力」の構成の要素の一つである「問題解決力」と「倫理観」を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しない。
参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>授業毎回のレポート（25%）</p> <p>単元ごとのレポート課題3本（25, 25, 25%）</p> <p>成績評価のフィードバックについては、学内制度（成績問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後の教室にて、またはオフィスアワーの時間帯にて受け付ける。
履修条件	「心理演習A」ならびに「心理演習B」の単位を取得していること。 公認心理師受験資格に対応した科目であり、公認心理師受験資格を目指す学生以外の履修を認めない。また、3

	<p>年前期までに配当された公認心理師指定科目の単位を原則すべて修めていることを求める。 また、2クラスの開講を予定しているが、履修者が少ない場合は1クラス開講になることもある。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>医療施設や学校などで心理職としての実務経験を持つ教員が担当し、実践的な授業を行います。特別な事情がない限り、遅刻や欠席のないように心がけてください。また、受講者数や授業の進行具合によってクラス数やシラバスに変更が出る場合があります。</p>
準備学習について	<p>毎授業後に履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理するようにしてください（1時間）。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
植田裕吾			
添付ファイル			

テーマ	公認心理師の職務の遂行にあたり、具体的な課題について概観する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・公認心理師とは 授業の進め方を確認し、公認心理師法を紹介する。</p> <p>第2回 公認心理師の役割の理解と法的義務 公認心理師の職務遂行における公認心理師法の留意点（主治医の指示、名称独占、信用失墜の禁止、資質向上の責務、等）について概説する。</p> <p>第3回 公認心理師の倫理 守秘義務等、公認心理師として職務に当たるうえで必要な倫理について検討する。</p> <p>第4回 情報の適切な取扱い 守秘義務と連携・情報共有について検討する。</p> <p>第5回 心理に関する支援を要する者等の安全の確保 心理学的支援を必要とする者の安全の確保や自己決定権について概説する。</p> <p>第6回 保健医療分野の業務</p> <p>第7回 福祉分野の業務</p> <p>第8回 教育分野の業務</p> <p>第9回 司法分野の業務</p> <p>第10回 産業分野の業務</p> <p>第11回 多職種連携と地域連携、チームとしての活動</p> <p>第12回 自己課題の発見・解決能力</p> <p>第13回 生涯学習と自己研鑽</p> <p>第14回 今後の課題と展開 公認心理師の活動の今後について、知っておくべきことと覚えておくべきポイントを提示する。</p> <p>第15回 公認心理師の活動について 公認心理師としての具体的な活動内容を検討する。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 国家資格である公認心理師の役割と倫理、現場によって求められる職務、連携、支援の質の向上といった実務に関わる課題について概説する。講義形式で行うが、演習やディスカッションを取り入れることがある。</p> <p>【到達目標】 公認心理師の役割、倫理、具体的な業務とその責任について基本的な事項を説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」「生涯学習力」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：公認心理師の基礎と実践① 公認心理師の職責 ISBN：978-4-86616-051-1 出版社：遠見書房 編者：野島一彦編（2018） 価格（税抜）：2,000円</p>
参考文献	授業の中で適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 毎回の授業における小テストと、学期末レポートの評価を合計して成績評価を行う。それぞれの配点については次の通りとする。 毎回の小テストと学期末のレポートで評価する（配点 30：70）。</p> <p>【フィードバック方法】 成績評価のフィードバックについては、学内制度を通じて行う。</p>

質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控室で受け付ける。
履修条件	なし。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	2018年度入学生から、公認心理師養成科目（必修）です。 公認心理師資格取得後も含め、現場に適した心理支援とは何か、考えながら学習を深めてください。また、授業でディスカッションを行う場合は、積極的にコメントし、受講生同士の学びを深めてください。 担当教員の心理専門職として活動した体験等を反映させたいと考えます。
準備学習について	【事前学修】各回のテーマに関して下調べをする（60分程度）。 【事後学修】授業資料とノートをまとめ、実際に公認心理師として活動する際にどのような問題が起こるかに ついて想定し、その解決策を検討する（60分程度）



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
松原弘泰			
添付ファイル			

テーマ	健康心理学ならびに医療心理学について学ぶ		
授業計画	第1回	オリエンテーション、心の健康に関わる現場と医療について授業の進め方を確認し、健康と医療について概説する。	
	第2回	ストレスの心理・生理と心身の疾病 セリエの理論を基に、ストレスについて概説する。	
	第3回	心の健康とストレスマネジメント ラザルスの理論を基に、ストレスとそのマネジメントについて概説する。	
	第4回	健康心理学におけるアセスメント・医療心理学におけるアセスメント それぞれの心理学における代表的なアセスメントについて概説する。	
	第5回	医療領域における法律・制度・倫理および多職種協働について 医療領域における法律や制度、倫理ほか多職種協働、コミュニケーションの重要性について概説する	
	第6回	精神科（小児・思春期・青年期）における心理社会的課題と心理支援 知的障害や神経発達の障害について概説する。	
	第7回	精神科（成人期）における心理社会的課題と心理支援（統合失調症について） 統合失調症、心理社会的治療について概説する。	
	第8回	精神科（成人期）における心理社会的課題と心理支援（気分障害・その他の疾患） 気分障害およびその他の疾患について概説する。	
	第9回	精神科（高齢期）における心理社会的課題と心理支援 高齢者の心理の特徴と認知症について概説する。	
	第10回	心療内科・内科における心理社会的課題と心理支援 心身症とその治療について概説し、リラクゼーションについて紹介する。	
	第11回	心身症とその治療について概説し、リラクゼーションについて紹介する。 周産期や出生前診断、遺伝カウンセリングについて概説する。	
	第12回	産業保健領域、地域保健活動と自殺予防活動 自助グループと嗜癖の問題、自死やその予防について概説する。	
	第13回	神経科・リハビリテーション領域 てんかん、高次脳機能障害、リハビリテーションについて概説する。	
	第14回	医療観察法・犯罪加害者への支援・犯罪被害者への支援 医療観察法制度とその実際、犯罪加害や犯罪被害への支援を概説する。	
	第15回	災害時などにおける課題と必要な心理支援 災害時の心理状況や反応、その心理学的支援について概説する。	
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	【概要】精神疾患を含め心の健康問題や、医療保健分野における心理支援に関する知識について概説する。 【到達目標】心の健康問題や医療保健分野の心理支援に関する基本的な事項を説明できる。 【卒業認定・学位授与との関連】この科目の学修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」を身につけることができる。		
テキスト	指定しない。		
参考文献	テキスト名：公認心理師カリキュラム準拠 健康・医療心理学 ISBN：978-4-263-26577-2 編者：宮脇稔、大野太郎、藤本豊、松野俊夫 出版社：医歯薬出版  テキスト名：保健医療・福祉領域で働く心理職のための法律と倫理 保健と健康の心理学 標準テキスト② ISBN：9784779510878 編者：山崎久美子、津田彰、島井哲志 出版社：ナカニシヤ出版		
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】毎回の小テストと学期末のレポートにて評価する（配点50：50） 【フィードバック方法】成績評価のフィードバックについては、学内制度を通じて行う。		

質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控室にて受けつける。
履修条件	なし。
特別学生の履修可否	科目等聴講生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	公認心理師養成科目になります。 心理職として医療機関での勤務経験を授業のなかで反映させたいと考えます。
準備学習について	授業に先立ち、授業計画で示されている授業内容について下調べをしてください（60分程度）。授業後は、資料とノートをまとめ、知識の整理と定着を図ってください（60分程度）。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	選択
担当教員			
梶木てる子、芳賀道匡、片岡祥			
添付ファイル			

テーマ	教育分野、産業・労働分野、医療・保健分野で働く公認心理師の実務のありようについて学ぶ。		
授業計画	1回	オリエンテーション（1）心理実習の概要、スケジュール、成績評価	
	2回	オリエンテーション（2）見学実習の心構えとマナー	
	3回	教育分野の事前学習	
	4回	教育分野の見学実習	
	5回	教育分野の事後学習	
	6回	保健分野の事前学習	
	7回	保健分野の見学実習	
	8回	保健分野の事後学習	
	9回	産業・労働分野の事前学習	
	10回	産業・労働分野の見学実習	
	11回	産業・労働分野の事後学習	
	12回	医療分野の事前学習	
	13回	医療分野の見学実習	
	14回	医療分野の事後学習	
	15回	前期の振り返り	
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】公認心理師が働く各施設の見学に向けて、事前学習、見学実習、事後学習の流れで学ぶ。</p> <p>【到達目標】公認心理師が働く各施設の見学実習を通して、①チーム・アプローチや多職種連携・地域連携のあり方、②支援プロセスで生じる職業倫理や法的義務の判断、③一職業人として求められる望ましい態度の3点について理解をし、考えを深めることができる。</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「実践的に課題を発見する力」と「地域を視野に貢献する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「倫理観」、「市民としての社会的責任」を身につけることができる。</p>		
テキスト	静岡福祉大学（編）「心理実習の手引き」		
参考文献	授業のなかで適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	事前学習とグループディスカッションへの積極性（40%）、「教育」分野、「産業・労働」分野、「医療・保健」分野の見学実習レポート（各20%）とする。レポートに関するフィードバックは、学内の成績問い合わせ制度を通じて行う。		
質問・相談の受付方法	授業終了後に教室で、またはオフィスアワーに研究室で受け付ける。		
履修条件	心理実習へのエントリーがなされ、実習費が納められている者。かつ、3年次までの公認心理師指定科目の単位を原則すべて取得し、GPAが一定の水準に達している者。		

	3クラスの開講を想定しているが、履修者が少ない場合は1クラス開講になることもある。
特別学生の履修可否	不可
メッセージ	担当教員は医療施設で心理職として常勤勤務した経験や、教育機関での生徒・学生相談の勤務経験などがあります。そのなかで当事者やご家族などの周囲にいる人々の苦悩やトラブルを色々と見聞きしてきました。履修者の実習体験に応じて、こうしたエピソードなども適宜、紹介し、心理支援のあり方について考えていきたいと思っています。 また、実習先の施設の都合を含む諸事情により、実習に行く順番が変更になる可能性があります。
準備学習について	毎授業後に履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理するようにしてください (0.5時間)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	1	選択
担当教員			
梶木てる子、芳賀道匡、片岡祥			
添付ファイル			

テーマ	司法・犯罪分野、児童福祉分野、精神保健福祉分野の各分野で働く公認心理師の実務のありようについて学ぶ。
授業計画	<p>1回 前期レポートのフィードバック・シェアリング</p> <p>2回 司法・犯罪分野の事前学習</p> <p>3回 司法・犯罪分野の見学実習</p> <p>4回 司法・犯罪分野の事後学習</p> <p>5回 児童福祉分野の事前学習</p> <p>6回 児童福祉分野の見学実習</p> <p>7回 児童福祉分野の事後学習</p> <p>8回 精神保健福祉分野の事前学習</p> <p>9回 精神保健福祉分野の見学実習</p> <p>10回 精神保健福祉分野の事後学習</p> <p>11回 後期の振り返り</p> <p>12回 後期レポートのフィードバック・シェアリング</p> <p>13回 実習報告会の準備 1（報告内容の整理）</p> <p>14回 実習報告会の準備 2（報告資料の作成）</p> <p>15回 実習報告会</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】公認心理師が働く各施設の見学に向けて、事前学習、見学実習、事後学習の流れから学ぶ。</p> <p>【到達目標】公認心理師が働く各施設の見学を通して、①チーム・アプローチや多職種連携・地域連携の理解、②支援プロセスで生じる職業倫理や法的義務の判断の理解、③一職業人として求められる望ましい態度の3点について理解し、考えを深めることができる。</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「実践的に課題を発見する力」、「地域を視野に貢献する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「倫理観」、「市民としての社会的責任」を身につけることができる。</p>
テキスト	静岡福祉大学（編）「心理実習の手引き」
参考文献	授業のなかで適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	事前学習とグループディスカッションへの積極性（40%）、「司法・犯罪」分野、「児童福祉」分野、「精神保健福祉」分野の見学実習レポート（各20%）とする。レポートに関するフィードバックは、学内の成績問い合わせ制度を通じて行う。
質問・相談の受付方法	授業終了後に教室で、またはオフィスアワーに研究室で受け付ける。
履修条件	心理実習へのエントリーがなされ、実習費が納められている者。かつ、3年次までの公認心理師指定科目の単位を原則すべて取得し、GPAが一定の水準に達している者。 3クラスの開講を想定しているが、履修者が少ない場合は1クラス開講になることもある。

特別学生の履修可否	不可
メッセージ	担当教員は、医療施設での常勤勤務の経験や、学校での学生・生徒相談の勤務経験などがあります。そのなかで、当事者やご家族などの周囲にいる人々の苦悩やトラブルを色々と見聞きしてきました。履修者の実習体験に応じて、そうしたエピソードなども適宜、紹介し、心理支援のあり方について考えていきたいと思っています。また、実習先の施設の都合を含む諸事情により、実習に行く順番が変更になる可能性があります。
準備学習について	毎授業後に履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理するようにしてください (0.5時間)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
谷功			
添付ファイル			

テーマ	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎
授業計画	<p>第1回 個々人の認知世界</p> <p>第2回 自分と他者の理解</p> <p>第3回 発達心理学からみた人間関係</p> <p>第4回 社会心理学からみた人間関係</p> <p>第5回 人間関係とストレス</p> <p>第6回 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎</p> <p>第7回 コミュニケーションの概念</p> <p>第8回 コミュニケーションの基本構造と手段</p> <p>第9回 対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション</p> <p>第10回 対人援助における基本的態度 ～グループワークからの学び～</p> <p>第11回 援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則</p> <p>第12回 組織の条件とコミュニケーションの特徴</p> <p>第13回 組織における情報の流れ</p> <p>第14回 組織において求められるコミュニケーション</p> <p>第15回 コミュニケーション技法を活かす ～各種コミュニケーション技法と実際～ 特別養護老人ホーム、デイサービスを中心とした居宅サービスの現場における、利用者、家族、他職種とのコミュニケーションの実際の場面を事例として取り上げます。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。グループワーク等、アクティブラーニングを用いて実施する。</p> <p>【授業の到達目標】 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につけることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、コミュニケーション・スキルを身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版</p> <p>ISBN：978-4-8058-8390-7</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>課題（レポート）：授業での積極性＝70：30</p> <p>総合評価に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	特に設けない。

特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	介護福祉士の国家試験を受験する上での指定科目です。特別養護老人ホーム、デイサービスの介護職員、介護支援専門員として従事した経験談を交えながら、福祉、介護の現場における利用者、家族、他職種とのコミュニケーションがより理解しやすい授業展開を図りたいと思います。
準備学習について	テキスト本「最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版」に目を通しておくこと。 【事前学習】直前の授業で行った内容の復習を1時間程度行って次回授業に臨んでください。(1時間) 【事後学習】毎回の授業で資料を配布します。それをもとに授業時間外で振り返りを行うようにしてください。(1時間)



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
本多祥子			
添付ファイル			

テーマ	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活について理解する。
授業計画	<p>第1回 人間の成長と発達の基礎的理解① ・「成長」「発達」の原則・法則（「成長」「発達」「成熟」の違い） ・生理的発達（スキヤモンの発達曲線/グループワーク）</p> <p>第2回 人間の成長と発達の基礎的理解② ・「成長」「発達」の考え方と環境 ・「成長」「発達」に影響する要因</p> <p>第3回 発達段階と発達課題① ・発達理論</p> <p>第4回 発達段階と発達課題② ・発達理論における発達段階と発達課題</p> <p>第5回 発達段階と発達課題③ ・身体的機能の「成長」「発達」 ・発達段階別の特徴的な疾病</p> <p>第6回 発達段階と発達課題④ ・心理的機能の発達</p> <p>第7回 発達段階と発達課題⑤ ・社会的機能の発達</p> <p>第8回 老年期の特徴と発達課題① ・老年期の定義</p> <p>第9回 老年期の特徴と発達課題② ・老化とは</p> <p>第10回 老年期の特徴と発達課題③ ・老年期の発達課題 ・老年期をめぐる今日的課題</p> <p>第11回 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活① ・老年期に経験しやすいライフイベント ・喪失体験と死別への適応 ※医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、老年期の環境に伴うこころとからだの変化について実例を挙げて説明します。</p> <p>第12回 高齢者のこころの問題と精神障害 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活② ・身体的な変化と生活への影響</p> <p>第13回 老年期の統合失調症とせん妄 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活③ ・心理的な変化と生活への影響</p> <p>第14回 老年期の日常生活 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活④ ・社会的な変化と生活への影響</p> <p>第15回 総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】 命の誕生から死に至るまでの心身の発達や成長・成熟、生理的变化を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ライフサイクルの各期における身体的・心理的・社会的特徴、発達課題について理解することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 第2版 ISBN：978-4-8058-8401-0 出版社：中央法規 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィード	<p>・学期末試験：課題：授業での積極性＝50：30：20</p> <p>・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p> <p>・課題レポートは、レポートを回収した次の回の授業内で総評を口頭で伝える。</p>

バック方法	
質問・相談の受付方法	講義終了後、オフィスアワー等で適宜受け付ける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	介護福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目です。 積極的な発言を期待します。 医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、授業の中でそのエピソードや実務的な内容についても触れることができるとと思います。
準備学習について	【事前学習】授業内で予習内容を提示します。(1時間) 【事後学習】授業内で復習内容を提示します。(1時間)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
秋山みゆき			
添付ファイル			

テーマ	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。
授業計画	<p>第1回 老化に伴う身体的な変化と生活への影響① 加齢による生理機能の全体的な低下 骨格系・筋系と脳・神経系の機能低下と日常生活への影響</p> <p>第2回 老化に伴う身体的な変化と生活への影響② 感覚器系・血液・循環器系の機能低下と日常生活への影響</p> <p>第3回 老化に伴う身体的な変化と生活への影響③ 呼吸器系・消化器系・泌尿器系の機能低下と日常生活への影響</p> <p>第4回 老化に伴う身体的な変化と生活への影響④ 生殖器系・内分泌系・免疫系の機能低下と日常生活への影響</p> <p>第5回 老化に伴う心理的变化と生活への影響① 認知機能の変化 知的機能の変化 パーソナリティの変化</p> <p>第6回 老化に伴う心理的变化と生活への影響② 老化と動機づけ、適応</p> <p>第7回 老化に伴う社会的変化と生活への影響① 社会の中での生活上の課題 高齢者の社会的活動の現状と課題</p> <p>第8回 老化に伴う社会的変化と生活への影響② 社会における老化理論</p> <p>第9回 高齢者と健康① 健康長寿の向けての健康 高齢者に多い症状・疾患の特徴（総論）</p> <p>第10回 高齢者と健康② 高齢者に多い疾患・症状（骨格系・筋肉系）と生活上の留意点</p> <p>第11回 高齢者と健康③ 高齢者に多い疾患・症状（脳神経系・皮膚・感覚系）と生活上の留意点</p> <p>第12回 高齢者と健康④ 高齢者に多い疾患・症状（循環器系・呼吸器系・消化器系）と生活上の留意点</p> <p>第13回 高齢者と健康⑤ 高齢者に多い疾患・症状（腎臓・泌尿器系・内分泌代謝系・歯・口腔疾患）と生活上の留意点</p> <p>第14回 高齢者と健康⑥ 高齢者に多い疾患・症状（悪性疾患・感染症・精神疾患・その他）と生活上の留意点</p> <p>第15回 高齢者と健康⑦ 保健医療職との連携</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】 老化に伴うこころとからだの変化および高齢者に多い疾病や健康について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 高齢者の健康に関連する基礎的知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 発達と老化の理解 第2版 ISBN：978-4-8058-8401-0 出版社：中央法規 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末試験：提出物・授業での積極性＝50：50</li> <li>・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控室（研究室棟1階）で受け付ける。

履修条件	【希望的要件】発達と老化の理解Aの単位取得済が望ましい。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。特別養護老人ホームや障害者支援施設でケアした経験を活かし、発達と老化の背景にある医学的知識をわかりやすく説明していきます。積極的な発言を期待します。
準備学習について	【事前学習】授業内で予習内容を提示します。(1時間) 【事後学習】授業内で復習内容を提示します。(1時間)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
新井恵子			
添付ファイル			

テーマ	認知症介護の基礎
授業計画	<p>第1回 認知症を取り巻く状況（認知症高齢者の現状と今後）</p> <p>第2回 認知症ケアの理念と視点 介護に従事していた際の介護現場の実際に触れながら、認知症ケアの理念と視点について解説します。</p> <p>第3回 本人本位の視点ー認知症の人の体験ー 認知症の高齢者と若年性認知症の人の体験を通し、認知症の人を主体とする視点について学びます。</p> <p>第4回 認知症ケアの歴史</p> <p>第5回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識① 認知機能の障害 脳のしくみと記憶・認知症による障害を学びます。</p> <p>第6回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識② 認知症の人の心理 認知症の人の体験から考えます。</p> <p>第7回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識③ 生活上の障害</p> <p>第8回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識④ 対人関係の障害</p> <p>第9回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識⑤ 社会関係の障害</p> <p>第10回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア① パーソン・センタード・ケア他 生活に及ぼす認知機能の変化と影響をもとに、パーソン・センタード・ケア、ユマニチュード、回想法等を学びます。</p> <p>第11回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア② アセスメントツール、診断</p> <p>第12回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア③ コミュニケーションの方法（グループワーク） 認知機能障害の事例を用いて認知症の人へのかかわり方、コミュニケーションの方法を検討する機会とします。</p> <p>第13回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア④ 認知症の人へのケア（ディスカッション） 認知機能障害の事例を用いて検討した内容を発表し、他者の考えも含め、認知症の人へのかかわり方、コミュニケーションの方法等から認知症の人へのケアについて考える機会とします。</p> <p>第14回 予防と認知症の治療</p> <p>第15回 総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 認知症に関する基礎的知識を理解し、認知症のある人の生活における介護の視点を述べるができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 第2版」</p> <p>ISBN：978-4-8058-8402-7</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中、適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <p>学期末試験：レポート：授業での積極性＝60：25：15</p> <p>【フィードバック方法】 授業内の発表は、口頭にて講評を行う。レポートは、提出後の次の授業内で口頭にてコメントする。学期末試験については、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>

質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。 高齢者施設と訪問介護の職員として従事した経験を、授業の中で、そのエピソードや実務的な内容についても触れることができると思います。
準備学習について	【事前学習】認知症の人の手記を読み、認知症の「人」の理解に努めること。授業時に課題を提示しますので、次回授業までに行うこと（1時間以上） 【事後課題】授業時に課題を提示。次回までに取り組み授業に臨むこと（1時間）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
大久保功			
添付ファイル			

テーマ	認知症の人の症状とそれに伴う日常生活への影響を考え、本人の力、家族の力、地域の力を活用し、各々の連携をふまえた認知症ケアについての理解を深める。
授業計画	<p>第1回 認知症への気づき - パーソン・センタード・ケア  【事前学習】 テキストを読み「パーソン・センタード・ケア」の視点を理解する。(1時間)  【事後学習】 「パーソン・センタード・ケア」の3つのステップを確認する。(1時間)</p> <p>第2回 認知症の人の理解とアセスメント  【事前学習】 テキストを読み認知症の理解のためのアセスメント・ツールを確認する。(1時間)  【事後学習】 テキスト記載のアセスメントシートの特徴を説明できるようにする。(1時間)</p> <p>第3回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア  介護の実務経験を基に、認知症の人とのコミュニケーションと生活ケアの留意点を解説します。  【事前学習】 テキストの該当部分を読み、認知症に伴う生活への支障を理解する。(1時間)  【事後学習】 認知症の人の特性に配慮したコミュニケーション留意点を理解する。(1時間)</p> <p>第4回 認知症の人へのさまざまなアプローチ  【事前学習】 テキストを読み「ユマニチュード」の基本的な考え方を理解する。(1時間)  【事後学習】 ユマニチュードの「4つの柱」「5つのステップ」について理解する。(1時間)</p> <p>第5回 認知症の人の終末期医療と介護  【事前学習】 テキストを読み認知症の人の終末期の特徴を理解する。(1時間)  【事後学習】 終末期における課題と意思決定支援について再確認する。(1時間)</p> <p>第6回 認知症の人の生活と環境づくり  【事前学習】 テキストを読み物理的環境の役割と重要性を確認する。(1時間)  【事後学習】 認知症の人に適した環境づくりのポイントを整理する。(1時間)</p> <p>第7回 家族への支援① - 介護者自身の体験 -  認知症関連の民間支援団体の取り組みを参考に、介護者の現状や思いについて触れていきます。  【事前学習】 テキストを読み、家族が抱える苦しみや思いを考える。(1時間)  【事後学習】 テキストを再読し、家族を支える介護福祉士の役割を理解する。(1時間)</p> <p>第8回 家族への支援② - レスパイトケアと介護福祉職が行う家族への支援 -  具体的なレスパイトケアの内容や方法について考える演習(レスパイトケアの提案に関するプレゼンテーション)を通して、家族の休息と介護の継続について考えます。  【事前学習】 テキストを読み「休まない家族」の背景について捉えておく。(1時間)  【事後学習】 テキストを再読し「レスパイトケア」について説明できるようにする。(1時間)</p> <p>第9回 家族への支援③ - 家族会などのピアサポート -  認知症当事者によるメッセージに触れ、本人と家族の理解や民間支援について考えてみます。  【事前学習】 テキストを読み「家族会」の役割について理解する。(1時間)  【事後学習】 認知症当事者の思いについて理解を深める。(1時間)</p> <p>第10回 介護福祉職への支援  介護福祉職の働く環境と離職防止を考える演習(プレゼンテーション)を通して、身近な課題としての認識を深めます。  【事前学習】 介護福祉職の働く環境と離職の要因について考える。(1時間)  【事後学習】 働きやすい環境を整備するための課題について整理する。(1時間)</p> <p>第11回 国による認知症施策  【事前学習】 テキストを読み、国が掲げる認知症施策の種類を知る。(1時間)  【事後学習】 テキストを再読し、国の施策の具体的な内容について整理する。(1時間)</p> <p>第12回 地域における認知症施策  ケアマネジャーとしての実践経験から、地域支援の具体例について解説します。  【事前学習】 テキストを読み、認知症施策に関する地域支援について知る。(1時間)  【事後学習】 テキストを再読し、具体的な地域支援の内容について整理する。(1時間)</p> <p>第13回 多職種連携と協働① - 介護保険制度における認知症対応 -  ケアマネジャーとしての実践経験を基に、介護保険制度における認知症対応について直近の改正内容を含めて解説します。  【事前学習】 テキストを読み、介護保険制度と認知症対策の概要を捉えておく。(1時間)  【事後学習】 「認知症対応型共同生活介護」および「小規模多機能型居宅介護」の概要を説明できるようにする。(1時間)</p> <p>第14回 多職種連携と協働② - 認知症ケアにたずさわる多職種 -  【事前学習】 テキストを読み、多職種連携と協働の基本的な考え方を理解する。(1時間)  【事後学習】 テキストを再読し、多職種連携の実践について理解する。(1時間)</p> <p>第15回 総括と重要事項の再確認  授業内容を総括し、資格取得試験等に関連して求められる知識についても触れていきます。  【事前学習】 シラバスを参照しながら各回の授業を振り返る。(1時間)  【事後学習】 テキストのチェック項目やノートの記載内容の確認、配布資料の整理などを行う。(1時間)</p>

授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 認知症の症状やケアに関する基礎的な知識を得るとともに、認知症の進行とそれに伴う症状の特徴、本人および家族への支援や配慮、専門職との協働、地域連携などについて理解する。</p> <p>【到達目標】 認知症の進行に応じた生活への影響を理解することができる。また、本人および家族へのケアとアプローチ、地域や専門職との連携について考えることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、課題を解決へと導く力、「学士力」の構成要素の一つである、倫理観、コミュニケーション・スキル、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解 第2版』</p> <p>ISBN：978-4-8058-8402-7</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中、適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <p>学期末試験：レポート等の提出物＝80：20</p> <p>【フィードバックの方法】</p> <p>期末試験や提出物に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	介護福祉士国家試験受験資格取得の指定科目です。介護職員、ケアマネジャーとしての実践経験をふまえ、認知症の症状と生活への影響などについて具体的に解説します。また、本人や家族の心情に対する理解、多様な専門職や地域における支援者との連携についても触れていきます。テキスト学習の他、認知症に関連した文献、記事などを読むことにより関心を深めてください。
準備学習について	<p>【事前学習】 次回授業の内容についてテキストの該当ページを読んでおく（1時間）</p> <p>【事後学習】 学習内容の項目についてネット検索等でさらに理解を深める（1時間）</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
木下寿恵			
添付ファイル			

テーマ	障がいのある人の生活を理解し、介護の視点を習得する
授業計画	<p>第1回 障害の基礎的理解① (障害の概念、障害の法的定義)</p> <p>第2回 障害の基礎的理解② (障害者福祉の基本理念)</p> <p>第3回 障害の基礎的理解③ (障害者福祉に関する制度、障害者福祉制度と介護保険制度)</p> <p>第4回 視覚障がいを持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第5回 視覚障がいを持っている人たちの生活② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第6回 聴覚・言語障がいを持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第7回 聴覚・言語障がいを持っている人たちの生活② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第8回 障害を持っている人たちの心理、肢体不自由(運動機能障がい)を持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第9回 肢体不自由(運動機能障がい)を持っている人たちの生活② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援)、肢体不自由者にとっての補装具 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第10回 知的障がいを持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第11回 知的障がいを持っている人たちの生活② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第12回 精神障がいを持っている人たちの生活(障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解、障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第13回 内部障がいを持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第14回 内部障がいを持っている人たちの生活② (障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第15回 内部障がいを持っている人たちの生活③ (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】障がいのある人たちの心理や身体状況に関する基礎的知識を習得するとともに、障がいのある人たちが経験している事柄を理解し、家族等周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ</p> <p>【授業の到達目標】障がいのある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的知識を習得することができる。障がいのある人の地域での生活を理解し、家族や地域周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得することができる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「実践的に課題を発見する力」「課題を解決へと導く力」及び「学士力」の構成要素の一つである「コミュニケーション・スキル」「問題解決力」を身につけることができる</p>

テキスト	テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第2版 ISBN：978-4-8058-8403-4 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編 価格（税抜）：2,200円
参考文献	『最新 介護福祉士養成講座 11 ころとからだのしくみ 第2版』中央法規出版 *1年次に購入したものそれぞれの障がいと当事者に関する文献などは、講義内で適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】学期末試験：レポート等提出物=80：20 【フィードバック方法】学期末試験やレポートに関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う
質問・相談の受付方法	オフィスアワー（後日掲示）とメール(kino@suw.ac.jp)を積極的に活用してほしい。
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。 身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員（介護主任など）として6年6ヵ月間介護に従事していました。日常生活を支援する中での障がい者とその家族の思いや状況などを、授業の中でお伝えしていきたいと考えています
準備学習について	【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと(2時間) 【事後学習】 授業で配布したプリントやテキストの該当ページを読み復習しておくこと(2時間)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
鈴木政史			
添付ファイル			

テーマ	障害の特性や生活を理解し、支援方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 高次脳機能障害 pp. 184-188</p> <p>第2回 高次脳機能障害の特性に応じた支援 pp. 188-195</p> <p>第3回 発達障害 pp. 197-202 自閉症スペクトラムの特性や支援を実務経験を基に説明します。</p> <p>第4回 発達障害の特性に応じた支援 pp. 203-209</p> <p>第5回 重症心身障害 pp. 148-153</p> <p>第6回 重症心身障害の特性に応じた支援 pp. 153-156</p> <p>第7回 難病 pp. 210-215</p> <p>第8回 難病の特性に応じた支援 pp. 215-219</p> <p>第9回 障害がある人に対する介護の基本的視点 (配布資料)</p> <p>第10回 連携と協働、地域のサポート体制 pp. 224-237、到達度評価について</p> <p>第11回 社会資源の利用と開発 (配布資料)</p> <p>第12回 連携と協働、チームアプローチ pp. 238-246</p> <p>第13回 チームアプローチにおける支援者の役割 (配布資料)</p> <p>第14回 家族への支援 pp. 250-261</p> <p>第15回 家族の介護力の評価と介護負担の軽減 pp. 262-274</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】福祉教育では車椅子体験や視覚障害体験などの疑似体験を通して障害の理解を深める取り組みを行っています。一方で障害があることの大変さは理解できても、障害がある人の気持ちまで理解することは困難です。本講義では、演習やグループワーク、疑似体験などを通して可能な限り障害の特性を理解し、障害児者支援の視点、支援方法などを学びます。</p> <p>【授業の到達目標】様々な障害について理解を深め、支援の基本的な視点や他職種との連携、地域支援などの知識・技術を身につけることを到達目標とします。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができます。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 第2版 ISBN：978-4-8058-8403-4 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編 価格(税抜)：2,200円</p>
参考文献	配布資料等にて適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】受講態度(ワークシートの記載内容に対する評価)：50%、学期末に実施する到達度評価：50%を評価の素材として総合的に評価します。</p> <p>【フィードバック方法】フィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を利用してください。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後やオフィスアワーを活用してください。

履修条件	特にありません。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。 受講にあたって調整や配慮が必要な場合は事前に協議し、もっとも適切な方法を個別に検討します。必ず受講開始前に相談してください。なお、講義の進捗状況、テキストの改訂等に応じて授業計画が変更になる場合があります。 社会福祉協議会や社会福祉法人で障害者支援に6年間携わっていました。講義では障害者支援の実際や障害の特性について伝えることができればよいと考えています。
準備学習について	【事前学習】事前にテキストや配布資料の該当箇所を読み、わからない用語や制度を調べてください（1時間以上）。 【事後学習】原則として毎回の授業でワークシートに取り組みます。授業時間外で振り返り、障害福祉に関する話題（ニュースや記事）、講義やワークシートで取り扱った障害特性、支援方法などを調べてください（1時間以上）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
本多祥子			
添付ファイル			

テーマ	生活支援技術の根拠となる日常生活に関連したこころやからだのしくみを理解する。
授業計画	<p>第1回 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ① 清潔の意義、入浴の意義、清潔がもたらす効果</p> <p>第2回 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ② 皮膚のしくみ、皮膚の汚れのしくみ、陰部の清潔</p> <p>第3回 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ③ 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響</p> <p>第4回 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ④ 変化の気づきと対応についてのディスカッション</p> <p>第5回 排泄に関連したこころとからだのしくみ① 正常な排泄行為、泌尿器、消化器</p> <p>第6回 排泄に関連したこころとからだのしくみ② 排尿のしくみ、排尿障害</p> <p>第7回 排泄に関連したこころとからだのしくみ③ 排便のしくみ、排便障害</p> <p>第8回 排泄に関連したこころとからだのしくみ④ 変化の気づきと対応についてのディスカッション</p> <p>第9回 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ① 睡眠の役割、睡眠を引き起こすしくみ、睡眠のリズム、睡眠時の環境</p> <p>第10回 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ② 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響</p> <p>第11回 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ③ 変化の気づきと対応についてのディスカッション</p> <p>第12回 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ① 死の徴候、終末期とは、終末期ケア、全人的痛みとケア</p> <p>第13回 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ② 終末期から「死」までの心身機能の変化と特徴</p> <p>第14回 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ③ 死（悲嘆）の受容五段階、エリザベス・キューブラー・ロス、グリーフケア</p> <p>第15回 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ④ 他職種との連携 ※医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、他職種連携について事例を挙げて説明します。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみを学ぶ。</p> <p>【到達目標】入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階のケアなどの生活支援技術に必要な基礎的知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ 11 第2版 ISBN：978-4-8058-8400-3 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格（税抜）：2,600円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末試験：課題：授業での積極性＝50：30：20</li> <li>・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> <li>・課題レポートは、レポートを回収した次の回の授業内で総評を口頭で伝える。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	オフィスアワー等で適宜受けつける。

履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	介護福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目です。 積極的な発言を期待します。 医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、授業の中でその時のエピソードや実務的な内容についても触れることができると思います。
準備学習について	【事前学習】授業内で予習内容を提示します。(1時間) 【事後学習】授業で学習した内容について振り返りをしてください。(1時間)

講義科目名称： 介護福祉/介護福祉（共通・再 2020以前入学 授業コード： 31201 61000 生）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
谷功			
添付ファイル			

テーマ	介護福祉の基本となる理念・自立支援の考え方
授業計画	<p>第1回 介護とは何か ～介護の概念と対象～</p> <p>第2回 介護の成り立ち</p> <p>第3回 介護の社会化とその背景 ～複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ～</p> <p>第4回 介護の概念の変遷① ～1970年代～1990年代～</p> <p>第5回 介護の概念の変遷② ～2000年代以降～</p> <p>第6回 介護福祉の基本となる理念 ～尊厳の保持と自立支援～</p> <p>第7回 自立に向けた介護 ～自立支援の考え方～</p> <p>第8回 自己決定・自己選択とは</p> <p>第9回 個別ケアの考え方 ～自立支援に向けた個別ケアと介護過程～</p> <p>第10回 ICFの考え方 ～ICFの視点に基づく介護～</p> <p>第11回 自立支援とリハビリテーション</p> <p>第12回 自立支援と介護予防</p> <p>第13回 介護予防サービスの種類と特徴</p> <p>第14回 自立支援に向けた個別ケアの具体的展開① ～特別養護老人ホーム～ 特別養護老人ホームに従事した際に現場で実施された、個別ケアの具体的な展開事例を取り上げます。</p> <p>第15回 自立支援に向けた個別ケアの具体的展開② ～居宅サービス～ 居宅サービスに従事した際に現場で実施された、個別ケアの具体的な展開事例を取り上げます。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 介護の概念や対象、理念に対する理解を通じて、自立支援に向けた支援者としての基本的視点を学ぶとともに、個別ケアの重要性についての理解を深める。また介護保険制度で提供される具体的な介護サービスの内容について学ぶ。</p> <p>【授業の到達目標】 介護の概念や対象及びその理念等について理解することができる。また、自立支援と介護保険制度、介護予防サービスの関連性について理解することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I 第2版 ISBN：978-4-8058-8392-1 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格（税別）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィード	<p>課題（レポート）：授業での積極性＝70：30 総合評価に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>

バック方法	
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士の国家試験を受験する上での指定科目です。 特別養護老人ホーム、サービスの介護職員、介護支援専門員として従事した経験談を交えながら、福祉、介護の現場がより理解しやすい授業展開を図りたいと思います。
準備学習について	高齢者やその家族が抱える問題について、日頃から興味、関心をもって考えてみてください。 【事前学習】直前の授業で行った内容の復習を1時間程度行って次回授業に臨んでください。（1時間） 【事後学習】毎回の授業で資料を配布します。それをもとに授業時間外で振り返りを行うようにしてください。（1時間）



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
新井恵子			
添付ファイル			

テーマ	介護を必要とする人の生活理解と生活支援
授業計画	<p>第1回 生活とは何か①（ディスカッション）</p> <p>第2回 生活とは何か② 生活の構成要素、生活の特性について学びます</p> <p>第3回 介護を必要とする人の理解 介護を必要とする人の生活の多様性を学びます</p> <p>第4回 高齢の人たちの暮らしと介護① 施設利用の高齢者の事例から、介護を必要とする人の暮らしを学びます</p> <p>第5回 障害をもった人たちの暮らしと介護 障害を持つ人の事例から、介護を必要とする人の暮らしを学びます</p> <p>第6回 その人らしさとは何か①（グループワーク）</p> <p>第7回 その人らしさとは何か② 尊厳を支える介護の視点から「その人らしさ」を構成する要素を学びます</p> <p>第8回 介護を必要とする人の生活ニーズの理解（グループワーク） 介護を必要とする人の生活と生活を支援するしくみについて学びます</p> <p>第9回 生活のしづらさの理解 高齢者施設や訪問介護に従事した際に経験した利用者とのエピソードを例に、利用者と生活障害の関係性について解説します</p> <p>第10回 生活のしづらさに対する支援① 生活のしづらさを解消するための介護福祉士の視点（介護福祉士の役割と機能）について学びます</p> <p>第11回 生活のしづらさに対する支援② 家族介護者への支援について学びます</p> <p>第12回 感染症対策① 介護福祉職に必要な感染に関する知識を学びます</p> <p>第13回 感染症対策② 介護を必要とする人の特性を理解し、感染症対策について学びます</p> <p>第14回 感染症対策③ 感染症対策の方法を実践をとおして学びます</p> <p>第15回 介護を必要とする人の生活のまとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】生活の特性や介護を必要としている人の理解を通じて、高齢者や障害を持った人の暮らしを把握し、その人らしさや利用者の生活ニーズについて学ぶ。また尊厳を支える介護や自立支援に向けた介護についての視点を理解する。</p> <p>【到達目標】介護福祉士としての介護の基礎を述べることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第2版 ISBN：978-4-8058-8393-8 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編 価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末試験：授業時の課題、レポート：授業での積極性=60：25：15</li> </ul> <p>【フィードバック方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の課題、レポートを回収した次の回の授業内で講評を口頭で伝える。</li> <li>・学期末試験は、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。

履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生に限る
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。 高齢者施設と訪問介護事業所において従事した経験を、授業の中でそのエピソードや実務的な内容についても触れることができると思います。
準備学習について	【事前学習】授業時に、テキスト該当ページと課題を提示。次回授業までに準備すること（1時間以上） 【事後学習】授業内容について、履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理すること（1時間）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
木下寿恵			
添付ファイル			

テーマ	介護福祉士の役割と職業倫理
授業計画	<p>第1回 社会福祉士及び介護福祉士法の関連規定</p> <p>第2回 介護問題を取り巻く状況と介護福祉士制度 介護福祉士としての実務経験に基づき、介護問題を取り巻く変遷と現状について解説します</p> <p>第3回 介護福祉士の役割と機能</p> <p>第4回 社会福祉士及び介護福祉士法 実際の介護現場で起こり得る事象をもとに、義務規定の重要性について解説します</p> <p>第5回 求められる介護福祉士像</p> <p>第6回 専門職能団体の役割、専門職能団体としての介護福祉士会</p> <p>第7回 介護福祉士の倫理 ～日本介護福祉士会倫理綱領と行動規範～</p> <p>第8回 生命倫理について、介護実践における倫理について 介護福祉士としての実務経験に基づき、介護福祉の専門性と倫理、介護福祉士に求められる専門職としての態度について解説します</p> <p>第9回 個人情報とプライバシーの保護 実際の介護現場で起こり得る事象をもとに、個人情報の取り扱いの重要性について解説します</p> <p>第10回 介護現場における人権侵害、利用者の人権と介護①（身体拘束の禁止） 介護福祉士としての実務経験に基づき、実際の介護現場で取り組んでいる介護の様子などを紹介します</p> <p>第11回 利用者の人権と介護②（高齢者虐待防止法） 介護福祉士としての実務経験に基づき、実際の介護現場で取り組んでいる介護の様子などを紹介します</p> <p>第12回 利用者の人権と介護③（障害者虐待防止法） 介護福祉士としての実務経験に基づき、実際の介護現場で取り組んでいる介護の様子などを紹介します</p> <p>第13回 介護現場における倫理的対応の実際①（在宅サービス利用者） 介護福祉士としての実務経験に基づき、実際の介護現場で取り組んでいる倫理的な対応について紹介します</p> <p>第14回 介護現場における倫理的対応の実際②（施設入所者） 介護福祉士としての実務経験に基づき、実際の介護現場で取り組んでいる倫理的な対応について紹介します</p> <p>第15回 利用者の人権を守るために必要なしくみ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】介護問題を取り巻く状況を通して、介護福祉士が誕生した背景を学ぶとともに、介護福祉士の法的根拠及び専門職能団体としての役割や機能を理解する。また、介護現場における利用者の人権やプライバシー保護を理解し、介護従事者の職業倫理を学ぶ。</p> <p>【授業の到達目標】介護問題を取り巻く状況について理解し、介護福祉士の役割と機能を理解することができる。介護従事者の職業倫理を身につけることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「実践的に課題を発見する力」「課題を解決へと導く力」及び「学士力」の構成要素の一つである「倫理観」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ 第2版 ISBN：978-4-8058-8392-1 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編 価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィード	<p>【成績評価の基準・方法】学期末試験：レポート＝80：20 【フィードバック方法】学期末試験やレポートに関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>

バック方法	
質問・相談の受付方法	オフィスアワー(後日掲示)とメール(kino@suw.ac.jp)を積極的に活用してほしい。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。 身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員(介護主任など)として6年6ヵ月間介護に従事していました。介護現場における介護福祉士の現実について、授業の中でお伝えしていきたいと考えています。
準備学習について	【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと(2時間) 【事後学習】 授業内で配布した資料やテキストの該当ページを読み復習しておくこと(2時間)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
大久保功			
添付ファイル			

テーマ	介護支援を必要とする人の生活を支えるしくみと地域連携について学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業概要、学びの視点、社会への関心と情報収集などについてお話しします。</p> <p>第2回 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ① ー高齢者の生活を支えるフォーマルサービスー</p> <p>第3回 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ② ー障害者の生活を支えるフォーマルサービスー</p> <p>第4回 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ③ ー生活を支えるインフォーマルサービスー</p> <p>第5回 介護保険制度によるサービスの種類 介護保険制度とサービスの概要および近年の改正点等にも触れながら解説します。</p> <p>第6回 介護保険サービスの利用と費用負担 介護支援専門員（ケアマネジャー）の実務経験に基づき、介護保険サービスの利用と費用負担について解説します。サービス給付と自己負担費用の関係性を学びます。</p> <p>第7回 介護保険サービスの算定基準、単価、自己負担割合等の試算 介護保険サービスの利用と給付管理について解説します。サービスの種類と単価、費用負担のしくみなどを学び、実際に経費を算出してみます。</p> <p>第8回 障害者総合支援法によるサービス 障害者の生活支援、自立支援、地域支援なども含めて解説していきます。</p> <p>第9回 インフォーマルサービスについて考える演習 フォーマルサービスの不足を補う新たなインフォーマルサービスの提案を各自で考え、プレゼンテーションを行います。</p> <p>第10回 地域連携の意義と目的 介護福祉実践における地域連携の実際と必要性について学んでいきます。</p> <p>第11回 地域連携にかかわる機関の理解 関係する諸機関の機能や役割について解説します。</p> <p>第12回 地域連携にかかわる民間の組織 公的機関と民間組織について整理し、それぞれの機能や特性について解説します。</p> <p>第13回 地域連携にかかわる人々 地域連携における実践者とそれぞれの役割について学んでいきます。</p> <p>第14回 地域連携の実際 事例に基づき地域連携の実際について考えていきます。</p> <p>第15回 総括・重要事項の再確認 授業の総括として、公的サービス、民間支援、地域連携などの重要ポイントを再確認し、介護福祉士資格取得に向けて求められる知識について考えてみます。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 介護を必要とする人への支援と介護実践の学びを深め、地域連携の視点を養う。</p> <p>【到達目標】 介護福祉のフォーマルおよびインフォーマルな支援、地域連携を説明することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、および「学士力」の構成要素の一つである、市民としての社会的責任について身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『最新・介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本Ⅰ 第2版』 ISBN：978-4-8058-8392-1 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格（税抜）：2,200円</p> <p>テキスト名：『最新・介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ 第2版』 ISBN：978-4-8058-8393-8 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編 価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。

成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 学期末試験：レポート提出＝80：20</p> <p>【フィードバックの方法】 評価に関するフィードバックは、学内制度（成績問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】 介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生 【不可】</p> <p>聴講生 【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生 【不可】</p>
メッセージ	介護福祉士国家試験受験のための指定科目です。介護支援専門員（ケアマネジャー）としての実践経験を生かし、介護を必要とする人を支える社会のしくみやサービスの種類、地域連携などについて解説します。また、アクティブラーニング授業の一環として、介護保険サービスにおける給付管理の演習や、新たなインフォーマルサービスの可能性について提案する機会などを設けます。日頃からニュース報道や配信記事などを通じて、介護を必要とする人の生活とそれに関連した社会の動きなどに着目して行ってください。
準備学習について	<p>【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示します。次回授業までに行っておいてください。（1時間）</p> <p>【事後学習】 テキストの再読、資料の整理、その他提示された復習内容を行ってください。（1時間）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
谷功			
添付ファイル			

テーマ	協働する多職種の機能と役割
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 多職種連携・協働とは</p> <p>第3回 多職種連携・協働を要請する社会の動き</p> <p>第4回 多職種連携・協働を阻むもの</p> <p>第5回 多職種連携・協働のためのチームづくり</p> <p>第6回 多様な視点と受容を必要とする協働</p> <p>第7回 多職種連携・協働に求められる基本的な能力①（グループワークによる事例検討） 多職種連携・協働について事例に基づくグループワークを行います。</p> <p>第8回 多職種連携・協働に求められる基本的な能力②（事例検討のプレゼンテーション） 多職種連携・協働について事例に基づくグループワークの発表を行います。</p> <p>第9回 多職種連携・協働に求められる基本的な能力③（ディスカッション） グループワーク発表後にディスカッションを行います。</p> <p>第10回 協働する多職種の機能と役割① ～他福祉職～</p> <p>第11回 協働する多職種の機能と役割② ～保健医療職～</p> <p>第12回 協働する多職種の機能と役割③ ～その他の関連職～</p> <p>第13回 専門職連携実践とは何か</p> <p>第14回 介護現場における多職種連携の実際① ～実態調査から～</p> <p>第15回 介護現場における多職種連携の実際② ～事例を通して～ 複数の生活課題がある世帯の事例を基に、担当者の介護支援専門員としての職務経験をふまえた形で、改善すべき課題の抽出や支援体制の構築などのことについて解説していきます。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 介護実践における協働職種の機能と役割について理解する。そのうえで、多職種との連携の重要性を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 介護が必要な人が住み慣れた地域で安心して生活するためにはどのような支援体制が必要であるかを理解する。それに伴い、行政機関、社会福祉協議会、地域包括支援センターの機能と役割について説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、地域を視野に貢献する力及び「学士力」の構成要素の一つである、市民としての社会的責任を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ 第2版 ISBN：978-4-8058-8393-8 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格（税別）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	試験またはレポート：授業での積極性＝80：20 試験・レポートおよび総合評価に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。

履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士の国家試験を受験する上での指定科目です。特別養護老人ホーム、デイサービスの介護職員、介護支援専門員として従事した経験談を交えながら、多職種連携と協働・地域連携について分かりやすい授業展開を図りたいと思います。
準備学習について	【事前学習】直前の授業で行った内容の復習を1時間程度行って次回授業に臨んでください。（1時間） 【事後学習】毎回の授業で資料を配布します。それをもとに授業時間外で振り返りを行うようにしてください。（1時間）



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
谷功			
添付ファイル			

テーマ	介護における安全の確保とリスクマネジメント・介護従事者の安全
授業計画	<p>第1回 リスクマネジメントとは何か</p> <p>第2回 介護における安全の確保とリスクマネジメント 特別養護老人ホーム、デイサービスの介護職員、介護支援専門員として経験した、介護事故とその予防例について取り上げて解説します。</p> <p>第3回 リスクマネジメントの意義と目的 ～介護現場における事故防止・安全対策～ グループワークによる介護事故のロールプレイ</p> <p>第4回 リスクマネジメントの実際①観察・正確な技術・予測・分析 グループワークによる介護事故の検証</p> <p>第5回 リスクマネジメントの実際②セーフティマネジメントと緊急連絡システム グループワークによる介護事故への予防策の検討</p> <p>第6回 リスクマネジメントの実際③転倒、転落防止・骨折予防対策 グループワークによる介護事故及び予防策のまとめ</p> <p>第7回 リスクマネジメントの実際④利用者の生活の安全対策 リスクマネジメントの学びに関するプレゼンテーション</p> <p>第8回 感染症対策① ～介護福祉職に必要な感染に関する知識～</p> <p>第9回 感染症対策② ～感染予防のための観察ポイント～</p> <p>第10回 介護従事者の安全 ～介護従事者の安全な労働環境～</p> <p>第11回 健康管理の意義と目的</p> <p>第12回 健康管理に必要な知識と技術</p> <p>第13回 心身の健康管理① ～ストレス・燃え尽き症候群～</p> <p>第14回 心身の健康管理② ～腰痛予防対策～</p> <p>第15回 安心して働ける環境づくり</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】介護現場に潜む危険因子を理解するとともに、それらへの対策を講じることができる専門職としての技術を養うことを目的とする。また、心身ともに健康で末永く働き続けるために必要な、安心して働ける職場環境づくりへの知識と技術について習得していく。グループワーク及びプレゼンテーション等、アクティブラーニングを用いて実施する。</p> <p>【授業の到達目標】介護現場における危険の予測および対応策を示すことができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、課題を解決へと導く力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決できる能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本II</p> <p>ISBN：978-4-8058-5464-9</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編</p> <p>価格（税別）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>課題（レポート）：授業での積極性＝70：30</p> <p>課題および総合評価に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>

質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士の国家試験を受験する上での指定科目です。特別養護老人ホーム、サービスの介護職員、介護支援専門員として従事した経験談を交えながら、福祉、介護の現場がより理解しやすい授業展開を図りたいと思います。
準備学習について	【事前学習】直前の授業で行った内容の復習を1時間程度行って次回授業に臨んでください。(1時間) 【事後学習】毎回の授業内容やグループワークの取り組みについて、授業時間外で振り返りを行うようにしてください。(1時間)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
大久保功			
添付ファイル			

テーマ	介護実践に必要とされる基本的なコミュニケーション能力を身につける。
授業計画	<p>第1回 介護を必要とする人とのコミュニケーション 本人の状況の理解、支援関係の構築、意思決定支援など、介護を必要とする人とその家族に対するコミュニケーションの基本事項について、今後の学びの視点をふまえて解説します。</p> <p>第2回 介護におけるコミュニケーションの対象</p> <p>第3回 援助関係とコミュニケーション 介護福祉士、介護支援専門員として経験を基に、援助関係構築のための原則について解説します。</p> <p>第4回 コミュニケーション態度に関する基本技術 コミュニケーションの基本である、傾聴、受容、共感などについて学びます。</p> <p>第5回 質問の技法・対人距離 質問の方法や対人距離について具体的に学んでいきます。</p> <p>第6回 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本</p> <p>第7回 目的別のコミュニケーション技術 気持ちを動かすための動機づけや意思決定支援などについて学んでいきます。</p> <p>第8回 集団におけるコミュニケーション技術</p> <p>第9回 介護における家族とのコミュニケーション ー家族との関係づくりー 介護福祉士としての実践経験を基に、家族支援にかかわるコミュニケーションについてお話しします。</p> <p>第10回 家族の気持ちや意向の確認 ー専門職への期待や望みー 家族間で異なる気持ちや意向の確認について、介護支援専門員の実践経験を基にお話しします。</p> <p>第11回 利用者および家族との情報共有と関係調整 ー複数の家族の存在と意向調整ー</p> <p>第12回 家族への助言・指導・調整 介護福祉士の定義規定に示される「介護者に対しての介護に関する指導」の要点を含めて解説します。</p> <p>第13回 利用者と家族の意向の調整 本人、家族の間で異なる気持ちと意向調整の対応についてお話しします。</p> <p>第14回 家族関係と介護ストレスへの対応</p> <p>第15回 総括・授業のまとめ 授業内容を振り返り、利用者や家族とのよりよいコミュニケーションの構築について考えてみます。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】介護を必要とする人への理解とともに、支援関係の構築、意思決定支援など、基本的なコミュニケーションの知識、技法を習得する。また、家族の状況・生活場面の違いによる適切なコミュニケーション方法などについての理解を深める。</p> <p>【到達目標】介護を必要とする人の状況を理解した上で、適切なコミュニケーションの基本的な技術を表現できる。また、家族への支援やチームワークを構築するために必要なコミュニケーション技術について説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力、および「学士力」の構成要素の一つであるコミュニケーション・スキルを身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『最新・介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術 第2版』</p> <p>ISBN：978-4-8058-8394-5</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介

成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 学期末試験：レポート等の提出物＝８０：２０</p> <p>【フィードバックの方法】 期末試験や提出物に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生 【不可】</p> <p>聴講生 【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生 【不可】</p>
メッセージ	介護福祉士養成のための指定科目です。介護福祉士、介護支援専門員としての経験を基に、介護実践における適切で円滑なコミュニケーションの秘訣や留意点などをお話しします。多様な場面に応じたコミュニケーションの方法を学んで頂ければと思います。
準備学習について	<p>【事前学習】授業内で予習内容を提示します。次回の授業までに行っておいてください。（１時間）</p> <p>【事後学習】テキストの再読、配布資料の整理、その他提示された復習内容を行ってください。（１時間）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
大久保功			
添付ファイル			

テーマ	障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する 介護におけるチームのコミュニケーションを理解する
授業計画	<p>第1回 障害の特性に応じたコミュニケーション コミュニケーションに影響する心身の障害について解説</p> <p>第2回 視覚障害のある人に対するコミュニケーション技術</p> <p>第3回 聴覚障害のある人に対するコミュニケーション技術</p> <p>第4回 構音障害・失語症のある人に対するコミュニケーション技術</p> <p>第5回 認知症の人に対するコミュニケーション技術</p> <p>第6回 うつ病・抑うつ状態・統合失調症の人に対するコミュニケーション技術</p> <p>第7回 知的障害・発達障害のある人に対するコミュニケーション技術</p> <p>第8回 高次脳機能障害のある人に対するコミュニケーション技術</p> <p>第9回 重度心身障害のある人に対するコミュニケーション技術</p> <p>第10回 介護におけるチームのコミュニケーション 介護福祉士の実践経験を基に、チーム力を高めるコミュニケーションの意義について解説</p> <p>第11回 報告・連絡・相談の技術 報告・連絡・相談の大切さを共有するプレゼンテーションの実施</p> <p>第12回 記録の技術</p> <p>第13回 会議・議事進行・説明の技術</p> <p>第14回 事例検討に関する技術 ケアマネジャー業務の実践経験に基づき、介護現場における事例検討の方法などについて解説</p> <p>第15回 情報の活用と管理のための技術 個人情報保護と適切な活用についての理解</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 利用者の特性に応じたコミュニケーション技術、介護現場におけるチームの機能を生かすためのコミュニケーションのあり方などについて解説する。</p> <p>【到達目標】 障害の特性を理解し、適切なコミュニケーション技術を表現できる。また、チームケアにおけるコミュニケーションの意義を理解し、実践的な報告、連絡、相談、記録、会議などの技法を説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部での学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである主体的に学習する力、および「学士力」の構成要素の一つであるコミュニケーション・スキルを身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「最新・介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術 第2版」（「コミュニケーション技術A」の授業時に使用したもの）</p> <p>ISBN：978-4-8058-8394-5</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <p>学年末試験：レポート等の提出物＝80：20</p> <p>【フィードバックの方法】</p> <p>評価に関するフィードバックは、学内制度（成績問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。

履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目です。担当者は介護福祉士、ケアマネジャーなどの職種における実践経験を持っております。心身の状態や障がいの特性に配慮したコミュニケーションの方法について、具体的な事例を交えてわかりやすく解説できればと思います。
準備学習について	【事前学習】授業内で予習内容を提示します。次回の授業までに行っておいてください。（1時間） 【事後学習】テキストの再読、配布資料の整理など、その都度指示された復習内容を行ってください。（1時間）

講義科目名称： 生活支援技術 A（2023入学生） / 生活支援技術 A・B（2022以前入学生） 授業コード： 62200

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択
担当教員			
大久保功			
添付ファイル			

テーマ	生活支援の基本的な考え方と自立に向けた居住環境の整備
授業計画	<p>第1回 生活支援の理解</p> <p>第2回 生活支援の基本的な考え方①（ライフサイクルと生活の豊かさ）</p> <p>第3回 生活支援の基本的な考え方②（生活支援のポイント）</p> <p>第4回 根拠に基づく生活支援技術</p> <p>第5回 利用者を理解するためのICFの視点</p> <p>第6回 利用者主体の生活支援技術の実践</p> <p>第7回 生活支援とチームアプローチ</p> <p>第8回 住まいの役割と機能・自立に向けた居住環境の整備</p> <p>第9回 生活行為と生活空間・起居様式</p> <p>第10回 加齢と生活空間①（寝室・トイレ・浴室）</p> <p>第11回 加齢と生活空間②（洗面脱衣室・台所・居間・食事室）</p> <p>第12回 快適な室内環境①（季節・室温・通気）</p> <p>第13回 快適な室内環境②（明るさ・音・住まいの維持・管理）</p> <p>第14回 住宅内の事故と安全対策・災害に対する備え</p> <p>第15回 居住環境の整備における多職種との連携</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】介護を必要とする人の生活そのものに着目し、生活支援の基本的な考え方を捉え、異なる生活習慣や価値観を尊重した支援方法、居住環境の整備などについて学んでいく。</p> <p>【到達目標】生活支援の基本的な考え方を説明できる。安全で快適な居住環境について説明することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力および「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I 第2版』</p> <p>ISBN：978-4-8058-8395-2</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <p>定期試験：学年末試験：課題提出＝80：20</p> <p>【フィードバック方法】</p> <p>期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。

履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。介護福祉士、介護支援専門員の実務経験をもとに、生活支援の基本的な考え方、チームアプローチ、安全で快適な住まいの環境などについて解説していきます。
準備学習について	日頃からニュースや新聞を通じて、介護を必要とする人の生活に関心を持ってください。 【事前学習】テキストの次回の講義に該当する部分を読んでおく。(1時間) 【事後学習】当日授業のテキスト該当部分と配布資料の再読。(1時間)



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択
担当教員			
木下寿恵			
添付ファイル			

テーマ	尊厳を支える介護の観点から、安全確保と自立に向けた身じたく・衣服の着脱等に関する介護を学ぶ		
授業計画	第1回	自立に向けた身じたくの介護（身じたくの意義と目的）、ICFの視点に基づくアセスメント 介護福祉士の実務経験に基づき、より実践的なアセスメントの視点について解説します	
	第2回	生活習慣と装いの楽しみを支える介護について	
	第3回	整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用① 整容(洗面、整髪) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します	
	第4回	整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用② 整容(ひげの手入れ、化粧) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します	
	第5回	「医行為でないと考えられる行為」とは、整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用③ 整容(爪) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します	
	第6回	整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用④ 軟膏塗布、湿布貼付、点眼 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します	
	第7回	整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用⑤ 口腔ケア 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します	
	第8回	整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用⑥ 口腔リハビリテーション・口腔体操 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します	
	第9回	整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用⑦ 口腔ケア（実技） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導します	
	第10回	衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用① 衣服の着脱 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します	
	第11回	衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用② 衣服の着脱(座位での介助)（実技） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導します	
	第12回	衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用③ 衣服の着脱(臥位での介助)（実技） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導します	
	第13回	利用者の状態・状況に応じた身じたくの介助（技術確認）① 前半グループ 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導します	
	第14回	利用者の状態・状況に応じた身じたくの介助（技術確認）② 後半グループ 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導します	
	第15回	他職種の役割と協働・連携	
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】身だしなみや衣服を整えるという生活行為は、社会的心理的にも影響を及ぼす大切なものである。利用者の心身の状態を理解し、その人に合わせた身じたくや衣服の着脱の方法についての知識と技術を習得する</p> <p>【到達目標】利用者の能力を活用・発揮し、身じたくに関するADLの自立を支援するための生活支援技術を実践できる。また、実践の根拠について、説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「主体的に学習する力」「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「論理的思考力」「問題解決力」「チームワーク、リーダーシップ」</p>		

	プ」を身につけることができる
テキスト	テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版 ISBN：978-4-8058-8396-9 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,200円
参考文献	『最新 介護福祉士養成講座 11 ころとからだのしくみ 第2版』中央法規出版 * 「ころとからだのしくみA・B」(1年次前・後期科目)の使用テキスト 講義中適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】学期末試験：レポート：技術確認=50：40：10 【フィードバック方法】演習後の振り返りレポートは、次回の授業内でコメントをつけて返却する。学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。
質問・相談の受付方法	オフィスアワー(後日掲示)を積極的に活用してほしい。 実技演習後の振り返りレポートに、積極的に記入してほしい。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。 介護実習室での演習では、演習にふさわしい服装、履物、身だしなみに整えてください。 身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員(介護主任など)として6年6か月間介護に従事していました。生活支援とはどういうものなのか、介助や支援を受けるとはどういう気持ちなのかを、授業の中でお伝えしていきたいと思います。
準備学習について	【事前学習】毎回の授業内で予習内容を提示する。次回までに行っておくこと(1時間) 【事後学習】授業において演習した生活支援技術とそれに関連する技術について、復習と自主練習を行うこと(1時間)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1	選択
担当教員			
谷功			
添付ファイル			

テーマ	自立に向けた移動の介護
授業計画	<p>第1回 自立に向けた移動の介護（移動の意義と目的） ～高齢者施設や通所介護に従事した際に経験した利用者とのエピソードを例に解説します～</p> <p>第2回 安全で的確な移動・移乗介助の技法、福祉用具の意義と活用 ①ボディメカニクス</p> <p>第3回 安全で的確な移動・移乗介助の技法、福祉用具の意義と活用 ②体位変換</p> <p>第4回 安全で的確な移動・移乗介助の技法、福祉用具の意義と活用 ③臥位から座位</p> <p>第5回 安全で的確な移動・移乗介助の技法、福祉用具の意義と活用 ④安楽な体位の保持</p> <p>第6回 安全で的確な移動・移乗介助の技法、福祉用具の意義と活用 ⑤座位から立位</p> <p>第7回 安全で的確な移動・移乗介助の技法、福祉用具の意義と活用 ⑥歩行介助</p> <p>第8回 安全で的確な移動・移乗介助の技法、福祉用具の意義と活用 ⑦車いすへの移乗</p> <p>第9回 安全で的確な移動・移乗介助の技法、福祉用具の意義と活用 ⑧車いすの移動</p> <p>第10回 安全で的確な移動・移乗介助の技法、福祉用具の意義と活用 ⑨ストレッチャーへの移乗と移動</p> <p>第11回 安全で的確な移動・移乗介助の技法、福祉用具の意義と活用 ⑩リフトを用いた移乗</p> <p>第12回 利用者の状態・状況に応じた介護①（技術確認・座位から立位） ～高齢者施設、通所介護の職員として従事した経験から、基礎に加え介護の現場で求められる技術を確認します～</p> <p>第13回 利用者の状態・状況に応じた介護②（技術確認・歩行介助） ～高齢者施設、通所介護の職員として従事した経験から、基礎に加え介護の現場で求められる技術を確認します～</p> <p>第14回 災害時における移動介助</p> <p>第15回 他職種の役割と協働・連携（グループワーク）</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】人間にとっての移動の意義や目的を考え、根拠に基づいた介護の方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】利用者の能力を活用・発揮し、移動に関するADLの自立を支援するための生活支援技術の基本を実施できる。また、実践の根拠について、説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I 第2版</p> <p>ISBN：978-4-8058-8395-2</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>小テスト：技術確認：授業での積極性＝40：40：20</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストと技術確認を行った次の授業内で講評を口頭で伝える。</li> <li>・総合評価に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	適宜受け付けます。

履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生に限る。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。 実習室での演習では、演習にふさわしい服装、履物、身だしなみに整えてください。技術の習得には、復習が必要です。空き時間を利用し、主体的に技術を習得してください。 高齢者施設と通所介護の職員として10年従事したことがあります。授業の中で、そのエピソードや実務的な内容についても触れることができるとと思います。
準備学習について	【事前学習】次回の授業内容をシラバスで確認し、テキストの該当部分に目を通しイメージを持って授業に参加してください。(30分) 【事後学習】授業で実施した各生活支援技術について、実習室の空き時間を使って練習してください。(90分)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	選択
担当教員			
新井恵子			
添付ファイル			

テーマ	自立に向けた食事の介護
授業計画	<p>第1回 自立に向けた食事の介護（グループワーク）</p> <p>第2回 食事の意義と目的について</p> <p>第3回 自立支援を支える食事の介助とは（グループワーク）</p> <p>第4回 食事におけるアセスメント（グループワーク）</p> <p>第5回 ICFの視点に基づくアセスメント（プレゼンテーション）</p> <p>第6回 おいしく食べることを支える介護とは 高齢者施設、訪問介護の職員として従事した際に経験した利用者とのエピソードを例に、「おいしく食べる」ことを支える介護について解説します</p> <p>第7回 食事における介護技術とは</p> <p>第8回 食事の介助、福祉用具の意義と活用 演習を行い、食事介助の方法と福祉用具の活用について学びます</p> <p>第9回 安全で的確な食事の介助の方法 様々な食事形態の食事から安全に介助する方法を学びます</p> <p>第10回 誤嚥・窒息防止のための日常生活の留意点 誤嚥等しやすい食事（食品）を理解し、演習をとおして留意点を学びます</p> <p>第11回 脱水予防のための日常生活の留意点 水分摂取の必要性を理解し、脱水を予防するための水分摂取の演習をとおして留意点を学びます</p> <p>第12回 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点（技術確認） 基礎に加え介護の現場で求められる介助技術を確認します</p> <p>第13回 機能低下している人の介助の留意点（技術確認） 基礎に加え介護の現場で求められる介助技術を確認します</p> <p>第14回 認知症の人の介助の留意点（グループワーク） 認知症の人の食事介助や留意点について学びます</p> <p>第15回 多職種との連携、役割と協働について 食事にかかわる職種の役割理解と連携、協働について学びます</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 食事に関する意義と目的、健康維持や楽しく食事をするための食事介助の方法を学ぶ。また、誤嚥防止や脱水予防を理解する。</p> <p>【到達目標】 利用者の能力を活用・発揮し、食事に関するADLの自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版 ISBN：978-4-8058-8396-9 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 学期末試験：課題・技術確認＝50：50</p> <p>【フィードバック方法】 ・課題提出、技術確認を行った次の授業内で口頭にて講評を行う。 ・学期末試験、成績評価については、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	適宜受け付けます。

履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生に限る
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。 実習室での演習では、演習にふさわしい服装、履物、身だしなみに整えてください。技術の習得には、復習が必要です。空き時間を利用し、主体的に技術を習得してください。 高齢者施設と訪問介護事業所の職員として従事した経験を、授業の中で、そのエピソードや実務的な内容（技術）についても触れることができればと思います。
準備学習について	【事前学習】生活の中で「食べる」ことの意味を考えること。授業後に課題を提示しますので、課題に取り組み次回の授業に臨んでください。（1時間） 【事後学習】授業後は配布資料等を読み返し理解を深めること。演習で行った技術の練習をすること。（1時間以上）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	選択
担当教員			
木下寿恵			
添付ファイル			

テーマ	尊厳を支える介護の観点から、自立に向けた入浴・清潔保持の介護の方法を学ぶ
授業計画	<p>第1回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護(入浴・清潔保持の意義と目的)、ICFの視点に基づくアセスメント、爽快感と安楽を支える介護 介護福祉士としての実務経験に基づき、より実践的なアセスメントの視点について解説します</p> <p>第2回 入浴・清潔保持の介護における緊急時の対応について、内部障害を持っている人たちへの入浴介助時の留意点</p> <p>第3回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用① 個別浴(個浴)／目・鼻・耳の清潔保持／陰部清拭 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について解説します</p> <p>第4回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用② 特殊浴(特浴・機械浴)、シャワー浴 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について解説します</p> <p>第5回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用③ 個別浴(個浴) (実技) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第6回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用④ 特殊浴(特浴・機械浴)・シャワー浴(実技) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第7回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用⑤ 手浴(実技) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第8回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用⑥ 足浴(実技) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第9回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用⑦ 洗髪(実技) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第10回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用⑧ 洗髪(実技) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第11回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用⑨ 全身清拭(実技) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第12回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用⑩ 全身清拭(実技) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第13回 利用者の状態・状況に応じた介助(技術確認)① 前半グループ 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第14回 利用者の状態・状況に応じた介助(技術確認)② 後半グループ 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第15回 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、他職種の役割と協働・連携</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】入浴・清潔保持に関する意義と目的を学び、爽快感があり安楽な入浴・清潔保持の介助の方法を学ぶ。利用者の状態・状況に応じた安全で的確な入浴・清潔保持の生活支援技術を習得する</p> <p>【授業の到達目標】利用者の能力を活用・発揮し、入浴・清潔保持に関するADLの自立を支援するための生活支援技術を実践できる。また、実践の根拠について、説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部での学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「主体的に学習する力」「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「論理的思考力」「問題解決力」「チームワーク、リーダーシップ」を身につけることができる</p>
テキスト	テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版 ISBN：978-4-8058-8396-9

	<p>出版社：中央法規出版          著者名：介護福祉士養成講座編集委員会          価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	<p>『最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版』中央法規出版 * 「生活支援技術A・B・D」(1年次前期科目)の使用テキスト          『最新 介護福祉士養成講座 11 ころとからだのしくみ 第2版』中央法規出版 * 「ころとからだのしくみA・B」(1年次前・後期科目)の使用テキスト          講義中適宜紹介する</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】学期末試験：レポート：技術確認=50：40：10          【フィードバック方法】演習後の振り返りレポートは、次回の授業内でコメントをつけて返却する。学期末試験に関するフィードバックは、学内制度(成績問い合わせ制度)を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	<p>オフィスアワー(後日掲示)を積極的に活用してほしい。          実技演習後の振り返りレポートに、積極的に記入してほしい。</p>
履修条件	<p>【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】          聴講生【不可】          キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>介護福祉士国家試験の指定科目です。          介護実習室での演習では、演習にふさわしい服装、履物、身だしなみを整えてください。          身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員(介護主任など)として6年6ヵ月間介護に従事していました。生活支援とはどういうものなのか、介助や支援を受けるとはどういう気持ちなのかを、授業の中でお伝えしていきたいと考えています。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】毎回授業内で予習内容を提示する。次回までに行っておくこと(1時間)          【事後学習】授業において演習した生活支援技術とそれに関連する技術について、復習と自主練習を行うこと(1時間)</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	選択
担当教員			
木下寿恵			
添付ファイル			

テーマ	尊厳を支える介護の観点から、自立に向けた排泄介護を学ぶ		
授業計画	第1回	自立に向けた排泄の介護（排泄の意義と目的）、ICFの視点に基づくアセスメント、気持ちよい排泄を支える介護 介護福祉士としての実務経験に基づき、より実践的なアセスメントの視点について解説します	
	第2回	排泄のメカニズムと排泄障害①（正常な排泄と排泄障害）	
	第3回	排泄のメカニズムと排泄障害②（排尿障害の原因）	
	第4回	排泄のメカニズムと排泄障害③（排尿障害の対処法） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します	
	第5回	排泄のメカニズムと排泄障害④（排便に関する障害の原因）	
	第6回	排泄のメカニズムと排泄障害⑤（排便に関する障害の対処法） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します	
	第7回	福祉用具の意義と活用（自己導尿カテーテル使用時の介助、浣腸・座薬挿入方法と介助、ストーマの介助） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します	
	第8回	安全で的確な排泄の介助の技法、福祉用具の意義と活用① トイレ・ポータブルトイレでの介助（実技） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います	
	第9回	安全で的確な排泄の介助の技法、福祉用具の意義と活用② オムツ・パッド交換の介助（実技） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います	
	第10回	安全で的確な排泄の介助の技法、福祉用具の意義と活用③ オムツ・パッド交換の介助（実技） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います	
	第11回	安全で的確な排泄の介助の技法、福祉用具の意義と活用④ 尿器・差し込み便器を使用した介助（実技） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います	
	第12回	安全で的確な排泄の介助の技法、福祉用具の意義と活用⑤ 尿器・差し込み便器を使用した介助（実技） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います	
	第13回	利用者の状態・状況に応じた介助（技術確認）① 前半グループ 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います	
	第14回	利用者の状態・状況に応じた介助（技術確認）② 後半グループ 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います	
	第15回	利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、他職種の役割と協働・連携	
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】人間にとっての排泄の意義と目的を理解し、羞恥心に配慮し快適な排泄を支える介護の方法を学ぶ。利用者の状態・状況に応じた安全で的確な排泄の生活支援技術を習得する。</p> <p>【授業の到達目標】利用者の能力を活用・発揮し、排泄に関するADLの自立を支援するための生活支援技術を実践できる。また、実践の根拠について、説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「主体的に学習する力」「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「論理的思考力」「問題解決力」「チームワーク、リーダーシップ」を身につけることができる。</p>		
テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版 *1年次に購入したもの ISBN：978-4-8058-8396-9 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会</p>		

	価格（税抜）：2,200円
参考文献	『最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版』中央法規出版 *1年次に購入したもの 『最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ 第2版』中央法規出版 *1年次に購入したものの講義中適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】学期末試験：レポート：技術確認=50：40：10 【フィードバック方法】演習後の振り返りレポートは、次回の授業内でコメントをつけて返却する。学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績問い合わせ制度）を通じて行う。
質問・相談の受付方法	オフィスアワー（後日掲示）を積極的に活用してほしい。 実技演習後の振り返りレポートに、積極的に記入してほしい。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。 介護実習室での演習では、演習にふさわしい服装、履物、身だしなみを整えてください。 身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員（介護主任など）として6年6ヵ月間介護に従事していました。生活支援とはどういうものなのか、介助や支援を受けるとはどのような気持ちなのかを、授業の中でお伝えしていきたいと考えています。
準備学習について	【事前学習】毎回授業内で予習内容を提示する。次回までに行っておくこと（1時間） 【事後学習】授業において演習した生活支援技術とそれに関連する技術について、復習と自主練習を行うこと（1時間）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	選択
担当教員			
本多祥子			
添付ファイル			

テーマ	終末期における介護
授業計画	<p>第1回 人生の最終段階における介護</p> <p>第2回 終末期ケアとは</p> <p>第3回 終末期における介護の意義と目的</p> <p>第4回 終末期におけるアセスメント</p> <p>第5回 終末期の経過に沿った支援</p> <p>第6回 人生の最終段階にある人の死に対する心理の理解</p> <p>第7回 チームケアの実践①医療との連携 ※医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、医療と介護の連携について実例を挙げて説明します。</p> <p>第8回 チームケアの実践②終末期における介護 ※医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、終末期介護について実例を挙げて説明します。</p> <p>第9回 チームケアの実践③臨終時の対応 ※医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、臨終期の対応について実例を挙げて説明します。</p> <p>第10回 チームケアの実践④施設での看取り グループワークによるディスカッション</p> <p>第11回 予測されない死</p> <p>第12回 人生の最終段階にある人と家族への支援の視点</p> <p>第13回 人生の最終段階にある人と家族への支援（最期の別れへの配慮）</p> <p>第14回 グリーフケア</p> <p>第15回 他職種の役割と協働・連携 ※医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、他職種との協働・連携について実例を挙げて説明します。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】人生の最終段階における介護とは何かを理解し、死を見つめながらも生きている人々の日々を意味あるものにするために、介護福祉士としてどのような役割があるのかを学ぶ。</p> <p>【到達目標】人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援やチームケアの実践について具体的に述べることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解、問題解決力、生涯学習力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ</p> <p>ISBN : 978-4-8058-5767-0</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末試験：課題：授業での積極性＝50：30：20</li> <li>・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> <li>・課題レポートは、レポートを回収した次の回の授業内で総評を口頭で伝える。</li> </ul>

質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。 医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、授業の中でその時のエピソードや実務的な内容についても触れることができると思います。
準備学習について	【事前学習】日頃から終末期について関心を持ち、新聞やニュースなどを通して終末期ケアにおける課題や可能性について考えること。(1時間) 【事後学習】毎回授業内で予習・復習内容を提示するので、次回授業までに行っておくこと。(1時間)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
新井恵子			
添付ファイル			

テーマ	介護過程の理解と展開方法
授業計画	<p>第1回 介護過程とは</p> <p>第2回 介護過程の意義と基礎的理解</p> <p>第3回 介護過程の展開の基本視点</p> <p>第4回 生活支援の考え方と介護過程の必要性 本人の望む生活の実現に向けた生活課題の分析</p> <p>第5回 具体的生活場面からの介護過程（グループワーク）</p> <p>第6回 介護過程とニーズ 訪問介護の職員として従事した際に経験した利用者とのエピソードを例に、ニーズの捉え方について解説します</p> <p>第7回 介護過程を展開するための一連のプロセス</p> <p>第8回 介護過程の全体像 高齢者施設、訪問介護の職員として従事した際に経験した、個別援助計画書や訪問介護計画書等を例に解説します</p> <p>第9回 根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程の展開</p> <p>第10回 介護過程の展開① アセスメントとは、情報収集</p> <p>第11回 介護過程の展開② 情報分析・解釈、課題の明確化</p> <p>第12回 介護過程の展開③ 介護計画の立案、目標</p> <p>第13回 介護過程の展開④ 支援内容と方法、評価</p> <p>第14回 課題や目標の理解と明確化</p> <p>第15回 介護計画の立案、実施時の留意点</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】利用者一人ひとりの身体状況や生活状況に応じた、課題を理解し目標を定め、求められる支援を導くためには介護過程という思考の展開が必要であることを学ぶ。</p> <p>【到達目標】介護過程の展開方法の基本的な視点を述べることができる。他科目で学んだ理論、知識、技術を統合し展開できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版</p> <p>ISBN：978-4-8058-8398-3</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <p>学期末試験：課題の提出と完成度＝50：50</p> <p>【フィードバック方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題、学期末試験、成績評価については、学内制度（成績成績問い合わせ制度）を通じて行う。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	適宜受け付けます。

履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生に限る
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。 講義科目ですが、ワークシート等を使用し、個人・グループワークの演習も行います。 よって①時間厳守 ②授業内容に関すること以外の私語厳禁 ③ワークシートの管理 以上の点に留意してください。 高齢者施設と訪問介護事業所（サービス提供責任者）で従事した経験を、授業の中で、そのエピソードや実務的な内容についても触れることができればと思います。
準備学習について	【事前学習】授業時にテキスト該当ページを伝えますので、一読し次の授業に臨むこと（1時間） 【事後学習】授業時に課題を提示しますので、次の授業までに作成し授業に臨むこと（1時間以上）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
谷功			
添付ファイル			

テーマ	介護過程の実践的展開
授業計画	<p>第1回 自立に向けた介護過程の展開について</p> <p>第2回 事例からの検討①在宅生活と施設生活</p> <p>第3回 事例からの検討②家族の支援と一人暮らし</p> <p>第4回 事例からの検討③自立と寝たきり</p> <p>第5回 介護過程の実践的展開について 介護支援専門員として実際に経験した、介護過程の展開事例（ケアプラン）を紹介し解説します。</p> <p>第6回 介護過程の展開に必要な記録と記録方法</p> <p>第7回 記録の書き方と基本知識</p> <p>第8回 利用者の状況、状態に応じた介護過程 事例を通じたグループワークによる介護計画の立案</p> <p>第9回 自立に向けた介護過程の事例からの検討 介護計画の内容に関するディスカッション</p> <p>第10回 自立に向けた介護過程の展開①アセスメント</p> <p>第11回 自立に向けた介護過程の展開②介護計画の立案</p> <p>第12回 自立に向けた介護過程の展開③介護計画の実施</p> <p>第13回 自立に向けた介護過程の展開④介護計画の実施状況の把握と記録</p> <p>第14回 自立に向けた介護過程の展開⑤介護計画の評価と修正</p> <p>第15回 事例に学ぶ介護過程のまとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】「介護過程A」の基礎的知識を活用し、利用者の様々な状態・状況に応じた介護過程の展開を理解した上で、自立に向けた実践的な介護過程の展開技術を学ぶ。グループワーク及びディスカッション等、アクティブラーニングを用いて実施する。</p> <p>【授業の到達目標】利用者の生活理解と必要なニーズを説明できる。様々な事例に対応して、利用者状況に応じ、自立に向けた介護過程の展開を行うことができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座9「介護過程」第2版 ※「介護過程A」と同じもの ISBN：978-4-8058-8398-3 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィード	<p>課題（レポート）：授業での積極性＝70：30 総合評価に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>

バック方法	
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生。 原則「介護過程A」の単位取得済の学生。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士の国家試験を受験する上での指定科目です。特別養護老人ホーム、デイサービスの介護職員、介護支援専門員として従事した経験談を交えながら、福祉、介護の現場がより理解しやすい授業展開を図りたいと思います。
準備学習について	【事前学習】直前の授業で行った内容の復習を1時間程度行って次回授業に臨んでください。(1時間) 【事後学習】毎回の授業内容やグループワークの取り組みについて、授業時間外で振り返りを行うようにしてください。(1時間)



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
大久保功			
添付ファイル			

テーマ	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 介護過程の展開を再確認します。</p> <p>第2回 ケアマネジメントの全体像／介護過程とケアマネジメントの関係性 介護福祉職が担当する「介護計画」、介護支援専門員（ケアマネジャー）が担当する「ケアマネジメント」、双方の役割について解説します。</p> <p>第3回 各事業所におけるさまざまなアプローチ</p> <p>第4回 居宅サービスにおけるチームアプローチの意義と介護福祉士の役割 介護福祉士および介護支援専門員（ケアマネジャー）としての経験をもとに、チームアプローチにおける介護福祉士の実践的な役割について解説します。</p> <p>第5回 介護過程とチームアプローチ ー協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性ー 事例を提示しながら具体的な学びを深めます。</p> <p>第6回 関係する人々との連携 ーチームとしての介護過程の展開ー 介護過程の展開に関わる専門職と専門職以外の支援者等との協働、連携について解説します。</p> <p>第7回 利用者の生活と介護過程① ー利用者の生活状況の把握ー</p> <p>第8回 利用者の生活と介護過程② ー生活課題の明確化ー</p> <p>第9回 利用者の生活と介護過程③ ー居宅サービス計画の策定ー</p> <p>第10回 利用者の生活と介護過程④ ーサービス担当者会議の実施ー グループワークによる模擬サービス担当者会議を実施します。</p> <p>第11回 事例検討・利用者の生活と介護過程の展開① ー情報共有・アセスメントー</p> <p>第12回 事例検討・利用者の生活と介護過程の展開② ー訪問介護計画の立案ー</p> <p>第13回 事例検討・利用者の生活と介護過程の展開③ ー訪問介護計画の実施ー</p> <p>第14回 事例検討・利用者の生活と介護過程の展開④ ー訪問介護計画の評価ー</p> <p>第15回 地域生活支援における介護過程のまとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】利用者のさまざまな生活に着目し、アセスメント、計画の立案、実施、評価といった一連の介護過程の展開について、事例検討などを取り入れながら学習する。</p> <p>【授業の到達目標】居宅における利用者の生活理解と必要なニーズを説明することができる。利用者の地域生活の継続に向けた多職種との協働、連携をふまえた介護過程の展開を述べるができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、課題を解決へと導く力、および「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『最新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程 第2版』 ISBN：978-4-8058-8398-3 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 学期末試験：課題提出＝80：20 【フィードバック方法】 試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。

履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生。 介護過程A・Bを「履修中」か「単位取得済」であること。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士の国家試験を受験する上での指定科目です。担当者の介護支援専門員（ケアマネジャー）の実務経験をふまえ、具体的な実践例などを紹介しながら介護過程の展開を学習していきます。
準備学習について	介護過程A・Bを「単位取得済」の方は、これまでの内容を復習をしておいてください。 【事前学習】授業時に提示する内容について、次回の授業までに行っておいてください。（1時間） 【事後学習】授業時に取り扱った内容を振り返り、各自でまとめ学習を行ってください。（1時間）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
谷功			
添付ファイル			

テーマ	施設入所者の事例を通して、身体状態や本人の思いなどに着目した介護過程の展開
授業計画	<p>第1回 介護過程の展開の理解～介護過程を展開するための一連のプロセス～</p> <p>第2回 特別養護老人ホームで生活する利用者の事例①～特別養護老人ホームにおける入所者の状態像を把握～</p> <p>第3回 特別養護老人ホームで生活する利用者の事例②～「要介護3以上」の利用者の身体状態と日常生活動作～</p> <p>第4回 特別養護老人ホームで生活する利用者の事例③～事例検討、インテーク、アセスメント、課題抽出～</p> <p>第5回 特別養護老人ホームで生活する利用者の事例④～必要なケアの内容、優先順位、目標設定を考える～</p> <p>第6回 特別養護老人ホームで生活する利用者の事例⑤～具体的な支援内容の検討と今後の状態予測～</p> <p>第7回 介護老人保健施設で生活する利用者の事例①～居宅生活の再開に向けた施設ケアを考える～</p> <p>第8回 介護老人保健施設で生活する利用者の事例②～課題抽出、目標設定、様式への記載～</p> <p>第9回 介護老人保健施設で生活する利用者の事例③～居宅復帰後の課題について～</p> <p>第10回 介護過程とケアマネジメントの関係性</p> <p>第11回 施設サービスにおけるチームアプローチの意義と介護福祉士の役割 担当者の介護福祉士としての実務経験を基に、チームアプローチの意義や必要性、チームにおける介護福祉士の役割について、グループワークを通して学んでいきます。</p> <p>第12回 障害者支援施設で生活する利用者の事例①～年齢の若い障害者、中途障害者の事例検討～</p> <p>第13回 障害者支援施設で生活する利用者の事例②～現状の課題と将来への展望～</p> <p>第14回 障害者支援施設で生活する利用者の事例③～知的障害者の施設ケアについて考える～</p> <p>第15回 入所型施設における介護過程のまとめ これまでの事例や支援構想などを振り返り、施設入所者の介護過程の展開について総括していきます。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】入所施設における事例を通じて、計画の立案、実施、評価などの一連の介護過程について学びを深める。</p> <p>【到達目標】状態の把握、課題抽出、目標設定、具体的支援内容の検討に関して、独自の思考に基づき、討議ができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、課題を解決へと導く力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座9「介護過程」</p> <p>ISBN：978-4-8058-5769-4</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介
成績評価の基準・方法及び課題（試	<p>課題（レポート）：授業での積極性＝70：30</p> <p>総合評価に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>

験やレポート) に対するフィードバック方法	
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生 原則「介護過程A・B・C」の単位取得済の学生
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目です。 担当者の介護福祉士、介護支援専門員等の職務経験を生かし具体的な事例提示をしながら、入所型施設における介護過程の展開を捉えていきます。テキストの事例の他、担当者の経験に基づきオリジナルで作成した事例も提示していきます。
準備学習について	【事前学習】授業時に提示する事例をよく読み、ケースの状態像や課題を認識する（1時間） 【事後学習】授業時に取り扱った事例を振り返り、授業時とは異なる視点での介護過程の展開を考えてみる（1時間）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	選択
担当教員			
谷功			
添付ファイル			

テーマ	介護福祉実習Ⅲで取り組んだ介護過程を事例報告としてまとめ、発表
授業計画	<p>第1回 事例報告の意義、事例のまとめ方 介護職員研修会におけるケーススタディ（事例研究）の取組みについて紹介し、その必要性について説明します。</p> <p>第2回 介護福祉実習Ⅲ振り返り 介護福祉実習Ⅲの取組みに関するプレゼンテーション</p> <p>第3回 原稿作成① はじめに、事例紹介について</p> <p>第4回 原稿作成② 生活課題について</p> <p>第5回 原稿作成③ テーマと目標設定について</p> <p>第6回 原稿作成④ 援助計画について</p> <p>第7回 原稿作成⑤ 援助経過について</p> <p>第8回 原稿作成⑥ 考察について</p> <p>第9回 草稿の提出</p> <p>第10回 草稿の見直し① 文章構成について</p> <p>第11回 草稿の見直し② 文章表現について</p> <p>第12回 最終草稿提出</p> <p>第13回 発表準備① パワーポイント作成</p> <p>第14回 発表準備② 発表原稿作成</p> <p>第15回 発表準備③ 発表内容の見直し</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 介護福祉実習Ⅲで担当した自己の介護過程の実践を振り返り、介護過程に対する理解を深めるとともに、介護福祉事例報告集としてまとめる。プレゼンテーション等、アクティブラーニングを用いて実施する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、課題を解決へと導く力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座9「介護過程」 ISBN：978-4-8058-5769-4 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>以下の割合で評価する。 事例報告書：プレゼンテーション：各課題の提出＝40：40：20 総合評価に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。

履修条件	【必須要件】介護福祉実習Ⅲを終了し、介護過程に取り組んでいること。 介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生。 原則、「介護過程A・B・C・D」の単位取得済の学生。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士養成のための指定科目です。積極的に授業に参加することを期待します。各自、パソコンを準備すること。また、特別養護老人ホーム、サービスの介護職員、介護支援専門員として従事した経験談を交えながら、福祉、介護の現場で展開される介護過程がより理解しやすい授業展開を図りたいと思います。
準備学習について	【事前学習】介護過程の実践を振り返り、実習で取り組んだ内容を整理して次回授業に臨んでください。（1時間） 【事後学習】毎回の授業で取り組んだ内容について、授業時間外で進捗状況や内容の再確認を行うようにしてください。（1時間）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	選択
担当教員			
新井恵子、木下寿恵、本多祥子、大久保功			
添付ファイル			

テーマ	介護福祉実習 I (施設・居宅)の準備として、実習の意義と目的、実習内容等を理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、介護福祉実習の意義と目的ならびに各段階の実習目標に関する理解 介護福祉実習の意義と目的について理解し、各段階の実習目標について理解します。</p> <p>第2回 知識と技術の統合① -介護福祉実習 I (施設)の意義と目標、介護福祉実習 I (施設)の実習施設・事業所の理解- 介護福祉実習 I (施設)の意義と目的について理解し、実習する施設・事業所の種類や目的、利用者の状態などについて理解します。</p> <p>第3回 知識と技術の統合② -介護福祉実習 I (居宅)の意義と目標、居宅介護サービス利用者の理解- 介護福祉実習 I (居宅)の意義と目的について理解し、実習する事業所の目的や利用者の状態などについて理解します。</p> <p>第4回 先輩からのメッセージ-介護福祉実習 I を行う前に伝えたいこと- すでに介護福祉実習 I・IIなどを修得した先輩たちがそれぞれの体験をもとに、介護福祉実習 Iでの実習の様子や事前に行っておいた方がよい準備などについて話します。</p> <p>第5回 技術チェックに関する説明、施設・事業所見学に関する事前指導 第9～10回授業における「技術チェック」の意義と目的、授業に臨む姿勢について理解します。 第6回授業における「施設・事業所見学」の意義と目的、見学時の姿勢・態度や準備などについて理解します。</p> <p>第6回 施設・事業所見学 実際の施設・事業所の様子を見学します。</p> <p>第7回 介護福祉実習 I (施設)の実習予定施設・事業所の概要の理解 介護福祉実習 I (施設)で実習予定の施設・事業所について、学生自らがテキストや資料などを用いながら、概要を理解していきます。</p> <p>第8回 介護福祉実習 I (施設・居宅)に関する準備・手続き (個人票、誓約書作成等) 介護福祉実習 I (施設・居宅)の両実習において必要な準備と手続きについて理解します。 実習施設・事業所に提出する書類についてその意味を理解し、書き方を習得し作成します。</p> <p>第9回 技術チェック① 移動・着脱・食前準備・実習記録の書き方 ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験から、介護の現場で求められる技術を確認します。～</p> <p>第10回 技術チェック② 移動・着脱・食前準備・実習記録の書き方 ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験から、介護の現場で求められる技術を確認します。～</p> <p>第11回 正月飾りから四季を考える 正月飾りをしながら、日本の暮らしと文化について考えます。</p> <p>第12回 個人面談 介護福祉実習 I (施設)の巡回指導担当教員と学生で面談します。</p> <p>第13回 実習の心構え 介護福祉実習を行う上での「実習前」「実習中」「実習後」それぞれにおける、心構えや諸注意、遵守事項などについて理解します。</p> <p>第14回 実習の諸注意 介護福祉実習 I (施設・居宅)の直前指導として、それぞれの実習に際しての諸注意を確認します。</p> <p>第15回 知識と技術の統合③ -実習振り返り：ディスカッション- 介護福祉実習 I (施設)終了後、グループごとに学生それぞれが実習における自らの体験を振り返り、今後取り組むべき課題を明確化します。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 介護福祉実習の意義と目的を学び、介護福祉実習 I (施設・居宅)の目標の理解を図る。介護福祉実習 I (施設・居宅)の準備として、多様な実習施設及び事業所、利用者への理解を深める。また、具体的な手続き、書類準備、心構え、記録の書き方等の方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 介護福祉実習 I (施設・居宅)の目標を理解し、介護福祉実習 I (施設・居宅)の準備を整えることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「主体的に学習する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「自己管理能力」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版 ISBN：978-4-8058-8399-0 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格(税抜)：2,200円</p>

	<p>テキスト名：介護実習で困らないためのQ&amp;A 実習生としての心得50  ISBN：978-4-8058-5093-0  出版社：中央法規出版  著者名：青木宏心  価格（税抜）：1,800円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】書類等の提出状況：授業での積極性＝50：50  *年度末の実習終了となるため、成績は「保」と表記されます。最終的な評価は、次年度前期の成績表に表記されます。  【フィードバック方法】フィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはそれぞれの教員の研究室で随時受け付ける。
履修条件	<p>【必須要件】  ・介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る  ・1年次前期に開講される「生活支援技術A」「生活支援技術B」「生活支援技術C」「生活支援技術D」の4科目の単位を修得済みであること  ・1年次後期に開講される「生活支援技術E」「生活支援技術F」を履修する者、または単位修得済みの者。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】  聴講生【不可】  キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>介護福祉実習Ⅰに向けての準備と振り返りの時間となりますので、分からないことがあった際にはそのままにせず質問をしてください。欠席した場合は、できるだけ速やかに自ら担当教員のところに出向いて、授業内容に関する指示や次回までの課題などを確認し取り組むようにしてください。  高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験を、授業の中でそのエピソードや実務的な内容を触れることができればと思います。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】実習に向けた準備（実習施設種別や実習課題の理解）のため、テキスト内容を読んでおくこと（1時間以上）  【事後学習】配布資料やテキストを読み返し、理解を深めること。授業時に提示した課題を作成すること（1時間以上）</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1	選択
担当教員			
新井恵子、木下寿恵、本多祥子、大久保功			
添付ファイル			

テーマ	介護福祉実習Ⅱに向けて、目的、実習内容等を理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、介護福祉実習Ⅰ(居宅)の振り返り 介護福祉実習Ⅰ(居宅)における自らの体験を振り返り、今後取り組むべき課題を明確化します。</p> <p>第2回 介護福祉実習Ⅰ(施設)の振り返り 介護福祉実習Ⅰ(施設)の実習施設・事業所からの評価と自己評価を照らし合わせて、自らの課題について分析し考えます。</p> <p>第3回 「実習記録」の書き方 介護福祉実習Ⅰの自らの実習記録を見返し、書き方について学習します。</p> <p>第4回 知識と技術の統合① ー介護福祉実習Ⅱの意義・目的ー 介護福祉実習Ⅱの意義と目的について理解します。</p> <p>第5回 知識と技術の統合② ー介護福祉実習Ⅱの実習施設の理解ー 介護福祉実習Ⅱで実習する施設の種類や目的、利用者の状態などについて理解します。</p> <p>第6回 介護福祉実習Ⅱに関する準備・手続き(個人票、誓約書作成等) 介護福祉実習Ⅱにおいて必要な準備と手続きについて理解します。 実習施設に提出する書類についてその意味を理解し、作成します。</p> <p>第7回 知識と技術の統合③ ー介護過程の理解ー 介護過程の実践的展開について、これまでに学習した知識を統合し理解します。</p> <p>第8回 熱い思いを語る会&amp;七夕飾りから四季を考える 各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した際に経験したことを基に、介護の魅力をお話します。 七夕飾りをしながら、日本の暮らしと文化について考えます。</p> <p>第9回 個人面談 介護福祉実習Ⅱの巡回指導担当教員と学生で面談します。</p> <p>第10回 技術チェック① 着脱・排せつ ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験から、介護の現場で求められる技術を確認します。～</p> <p>第11回 技術チェック② 移動・シーツ交換 ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験から、介護の現場で求められる技術を確認します。～</p> <p>第12回 介護技術チェック③ 実習記録・個別援助計画書の書き方 ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験から、介護の現場で求められる技術を確認します。～</p> <p>第13回 実習の心構え 実習における心構えや諸注意、遵守事項などについて理解します。 介護福祉実習Ⅱで取り組む課題について再度確認します。</p> <p>第14回 実習直前指導 実習施設からの諸注意を確認し、実習に向けた直前準備を整えます。</p> <p>第15回 知識と技術の統合④ ー実習振り返りー 介護福祉実習Ⅱ終了後、グループごとに学生それぞれの実習における自らの体験を振り返り、今後取り組むべき課題を明確化します。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】介護福祉実習Ⅰを振り返り、実習で体験した利用者・家族とのコミュニケーションや個別ケアへの学びを深める。介護福祉実習Ⅱへの準備として、個別性に応じた生活支援技術や多職種協働、個別ケアの方法としての介護過程を学ぶ。</p> <p>【到達目標】介護福祉実習Ⅰでの課題を振り返り、介護福祉実習Ⅱに向けた準備を整えることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「主体的に学習する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「自己管理能力」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版 ※1年次に購入したものを使用します ISBN：978-4-8058-8399-0 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格(税抜)：2,200円</p> <p>テキスト名：介護実習で困らないためのQ&amp;A 実習生としての心得50 ※1年次に購入したものを使用します ISBN：978-4-8058-5093-0 出版社：中央法規出版</p>

	著者名：青木宏心 価格（税抜）：1,800円
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】書類の提出状況：授業での積極性＝50：50 【フィードバック】フィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはそれぞれの教員の研究室で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る。 「介護総合演習A」を単位取得済（取得見込）の者に限る。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉実習Ⅱに向けた準備をする大切な授業ですので、遅刻や欠席などをしないように体調管理に努めてください。欠席した場合は、できるだけ速やかに自ら担当教員のところに向向いて、授業内容に関する指示や次回までの課題などを確認し取り組むようにしてください。 高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験を、授業の中でそのエピソードや実務的な内容を触れることができればと思います。
準備学習について	【事前学習】介護福祉実習Ⅰを振り返り、介護福祉実習に向けた課題に取り組むこと（1時間以上） 【事後学習】配布資料を読み返し理解を深めること。授業時に提示した課題を作成すること。（1時間以上）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	選択
担当教員			
新井恵子、木下寿恵、本多祥子、大久保功			
添付ファイル			

テーマ	介護福祉実習Ⅲの意義と目的、実習内容等を理解する
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、介護福祉実習の意義と目標 介護福祉実習Ⅲに臨むにあたって、介護福祉実習の意義と目的を再確認し理解を深めます。</p> <p>第2回 知識と技術の統合① ー介護福祉実習Ⅲの意義、利用者の理解ー 介護福祉実習Ⅲの意義と目的を理解し、実習する施設の種別ごとの利用者の状態などについて理解します。</p> <p>第3回 知識と技術の統合②ー介護福祉実習Ⅲの目標を達成するために、どのように取り組むかー これまでの実習における自らの課題を踏まえて、介護福祉実習Ⅲの目標を達成するために必要なことについて考えます。</p> <p>第4回 知識と技術の統合③ ー介護福祉士の専門性と資質とは、介護福祉士として働くことの意味とはー これまでの実習体験をもとに、多職種との協働の中で介護福祉士としての役割について考え、介護福祉士に求められる資質と専門性について考えます。</p> <p>第5回 介護過程の理解① ー情報収集の方法、計画書立案ー 介護過程の実践的展開について理解します。</p> <p>第6回 介護福祉実習Ⅲに関する準備・手続き（個人票、誓約書作成等） 介護福祉実習Ⅲにおいて必要な準備と手続きについて理解します。 実習施設に提出する書類についてその意味を理解し、作成します。</p> <p>第7回 介護過程の理解② ー実施時の留意点、評価ー 介護過程の実践的展開について理解します。</p> <p>第8回 和菓子作りから四季を考える 各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した際に経験したことを基に、介護の魅力をお話します。 和菓子作りをしながら、日本の暮らしと文化について考えます。</p> <p>第9回 個人面談 介護福祉実習Ⅲの巡回指導担当教員と学生で面談します。</p> <p>第10回 技術チェック① 着脱、排せつ ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験から、介護の現場で求められる技術を確認します。～</p> <p>第11回 技術チェック② 移乗、シーツ交換 ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験から、介護の現場で求められる技術を確認します。～</p> <p>第12回 技術チェック③ 実習記録・個別援助計画書の書き方 ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験から、介護の現場で求められる技術を確認します。～</p> <p>第13回 実習の心構え 実習における心構えや諸注意、遵守事項などについて理解します。 介護福祉実習Ⅲで取り組む課題について再度確認します。</p> <p>第14回 実習直前指導 ① 実習施設の理解を深める 実習施設からの諸注意を確認し、実習に向けた直前準備を整えます。</p> <p>第15回 実習直前指導 ② 個別援助計画の準備を行う 介護福祉実習Ⅲで取り組む個別援助計画について、準備を整えます。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】専門職としての倫理観や技術の確立を目指す介護福祉実習Ⅲへの準備を図る。また、介護過程の実践を振り返ることで、取り組みについての評価を行う。</p> <p>【到達目標】介護福祉実習Ⅲに向けた準備を整えることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「主体的に学習する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「自己管理能力」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 ※1年次に購入したものを使用します ISBN：978-4-8058-5770-0 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格（税抜）：2,200円</p> <p>テキスト名：介護実習で困らないためのQ&amp;A 実習生としての心得50 ※1年次に購入したものを使用します ISBN：978-4-8058-5093-0 出版社：中央法規出版</p>

	著者名：青木宏心 価格（税抜）：1,800円
参考文献	講義中適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】書類の提出状況：授業での積極性＝50：50 【フィードバック】フィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはそれぞれの教員の研究室で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る。 「介護総合演習B」を単位取得済みの者に限る。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉実習Ⅲに向けた準備をする大切な授業ですので、遅刻や欠席などをしないように体調管理に努めてください。欠席した場合は、できるだけ速やかに自ら担当教員のところに向向いて、授業内容に関する指示や次回までの課題などを確認し取り組むようにしてください。 高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験を、授業の中でそのエピソードや実務的な内容を触れることができればと思います。
準備学習について	【事前学習】介護福祉実習Ⅱを振り返り、これまでの実習記録および個別援助計画を見直すこと。介護福祉実習Ⅲに向けた課題に取り組むこと。（1時間以上） 【事後学習】配布資料を読み返し理解を深めること。授業時に提示した課題を作成すること。（1時間以上）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	1	選択
担当教員			
新井恵子、木下寿恵、本多祥子、大久保功			
添付ファイル			

テーマ	施設実習を振り返るとともに、取り組んだ介護過程を検証する		
授業計画	第1回	オリエンテーション、介護福祉実習Ⅲの振り返り（グループディスカッション） 介護福祉実習Ⅲにおける自らの体験を振り返り、グループごとにディスカッションします。 実習施設からの評価と自己評価を照らし合わせて、自らの課題について分析し考えます。	
	第2回	介護実践の科学的探求① - サービスを利用する人 -	
	第3回	介護実践の科学的探求② - エビデンスに基づいた介護実践とは - ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験から、ケアプラン・個別援助計画について説明します。～	
	第4回	介護実践の科学的探求③ - 介護過程の取組み -	
	第5回	静岡県中部看護専門学校との連携授業①	
	第6回	介護福祉事例報告書の作成① - 受け持ち利用者の概要 -	
	第7回	介護福祉事例報告書の作成② - 計画内容、実施状況 -	
	第8回	静岡県中部看護専門学校との連携授業②	
	第9回	介護福祉事例報告書の作成③ - 結果、考察 -	
	第10回	介護福祉事例報告書の作成④ - 最終確認 -	
	第11回	静岡県中部看護専門学校との連携授業③	
	第12回	介護福祉事例報告会のプレ発表① - 発表 -	
	第13回	介護福祉事例報告会のプレ発表② - 発表と修正（グループディスカッション） -	
	第14回	介護福祉事例報告会① - プレゼンテーション（前半グループ） -	
	第15回	介護福祉事例報告会② - プレゼンテーション（後半グループ） -	
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	【授業の概要】専門職としての倫理観や技術の確立を目指す介護福祉実習Ⅲを振り返り、共有化する。また、実習において学んだ利用者の特性に応じた生活支援技術や多職種協働、個別ケアの方法として取り組んだ介護過程を振り返り、介護福祉士としての目指すべき姿について考える。 【到達目標】介護福祉実習を振り返り、介護福祉事例報告書を作成することができる。また、介護福祉事例報告会において発表することができる。 【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「主体的に学習する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「論理的思考力」を身につけることができる。		
テキスト	テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 ※1年次に購入したものを使用します ISBN：978-4-8058-5770-0 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格（税抜）：2,200円		
参考文献	講義中適宜紹介する		
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】介護福祉事例報告書の内容と介護福祉事例報告会の発表：授業での積極性＝50：50 【フィードバック方法】介護福祉事例報告書ならびに介護福祉事例報告会に関するフィードバックは、報告会の際に講評を口頭で伝える。		

質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはそれぞれの教員の研究室で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る 「介護総合演習C」を単位取得済（取得見込）の者に限る
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉の学びの総仕上げの一つとして、意欲的に取り組んでください。 高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験を、授業の中でその実務的な内容に触れることができればと思います。
準備学習について	【事前学習】介護福祉実習Ⅲを振り返り、これまでの実習記録および個別援助計画を見直すこと。（1時間以上） 【事後学習】授業時に提示された課題を作成すること。（1時間以上）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	選択
担当教員			
本多祥子			
添付ファイル			

テーマ	医療的ケアを安全に実施するための基礎的知識を学ぶ
授業計画	<p>第1回 経管栄養の基礎的知識(1) 消化器系のしくみとはたらき</p> <p>第2回 経管栄養の基礎的知識(2) 消化・吸収とよくある消化器の症状</p> <p>第3回 経管栄養の基礎的知識(3) 経管栄養とは 経管栄養が必要な状態、観察のポイント</p> <p>第4回 経管栄養の基礎的知識(4) 経管栄養の種類 医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、経管栄養の実例を挙げて説明します。</p> <p>第5回 経管栄養の基礎的知識(5) 経管栄養実施上の留意点、こどもの経管栄養</p> <p>第6回 経管栄養の基礎的知識(6) 経管栄養に関係する感染と予防、経管栄養に伴うケア</p> <p>第7回 経管栄養の基礎的知識(7) 利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 (グループワークによるロールプレイ)</p> <p>第8回 経管栄養の基礎的知識(8) 経管栄養により生じる危険と対策、安全確認、急変・事故発生時の対応 (グループワークによるディスカッション)</p> <p>第9回 経管栄養の実施手順(1) 経管栄養の器具・器材とそのしくみ、清潔の保持</p> <p>第10回 経管栄養の実施手順(2) 経管栄養法の実施手順と留意点、経管栄養に必要な根拠に基づくケア</p> <p>第11回 経管栄養の実施手順(3) 経管栄養法の評価項目と評価の視点、報告および記録のポイント</p> <p>第12回 健康状態の把握と維持(1) バイタルサイン測定方法</p> <p>第13回 健康状態の把握と維持(2) 清潔操作方法</p> <p>第14回 健康状態の把握と維持(3) 救急蘇生法/演習</p> <p>第15回 総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】医療的ケア(経管栄養)の実施に関する基礎的知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】医療的ケアに必要な基礎的知識について、具体的に述べることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題解決能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 医療的ケア 15 第2版 ISBN : 978-4-8058-8404-1 出版社：中央法規 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格(税抜)：2,600円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末試験：課題：授業での積極性＝50：30：20</li> <li>・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う。</li> <li>・課題レポートは、レポートを回収した次の回の授業内で総評を口頭で伝える。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	オフィスアワー等で適宜受け付ける。

履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目です。 予習、復習に努めてください。 医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、授業の中でその時のエピソードや実務的な内容についても触れることができるとと思います。
準備学習について	【事前学習】授業内で予習内容を提示します。(1時間) 【事後学習】授業で学習した内容について振り返りをしてください。(1時間)



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	選択
担当教員			
本多祥子			
添付ファイル			

テーマ	医療的ケアを安全・適切に実施するための専門的技術を学ぶ	
授業計画	第1回	喀痰吸引実施手順（1）口腔内吸引手順・留意点（講義） 看護師としてこれまで経験してきた喀痰吸引（口腔内）における実践事例などを取り上げながら説明します。
	第2回	口腔内吸引演習①
	第3回	口腔内吸引演習②
	第4回	口腔内吸引演習③／口腔内吸引試験①
	第5回	口腔内吸引演習④／口腔内吸引試験②
	第6回	口腔内吸引演習⑤／口腔内吸引試験③
	第7回	喀痰吸引実施手順（2）鼻腔内吸引手順・留意点（講義） 看護師としてこれまで経験してきた喀痰吸引（鼻腔内）における実践事例などを取り上げながら説明します。
	第8回	鼻腔内吸引演習①
	第9回	鼻腔内吸引演習②
	第10回	鼻腔内吸引演習③／鼻腔内吸引試験①
	第11回	鼻腔内吸引演習④／鼻腔内吸引試験②
	第12回	鼻腔内吸引演習⑤／鼻腔内吸引試験③
	第13回	喀痰吸引実施手順（3）気管カニューレ内吸引手順・留意点（講義） 看護師としてこれまで経験してきた喀痰吸引（気管カニューレ内）における実践事例などを取り上げながら説明します。
	第14回	気管カニューレ内吸引演習①
	第15回	気管カニューレ内吸引演習②
	第16回	気管カニューレ内吸引演習③／気管カニューレ内吸引試験①
	第17回	気管カニューレ内吸引演習④／気管カニューレ内吸引試験②
	第18回	気管カニューレ内吸引演習⑤／気管カニューレ内吸引試験③
	第19回	経管栄養実施手順（1）胃ろう経管栄養手順・留意点（講義） 看護師としてこれまで経験してきた経管栄養（胃ろう）における実践事例などを取り上げながら説明します。
	第20回	胃ろう経管栄養演習①
	第21回	胃ろう経管栄養演習②
	第22回	胃ろう経管栄養演習③／胃ろう経管栄養試験①
	第23回	胃ろう経管栄養演習④／胃ろう経管栄養試験②

	<p>第24回 胃ろう経管栄養演習⑤／胃ろう経管栄養試験③</p> <p>第25回 経管栄養実施手順（2）経鼻経管栄養手順・留意点（講義） 看護師としてこれまで経験してきた経管栄養（経鼻）における実践事例などを取り上げながら説明します。</p> <p>第26回 経鼻経管栄養演習①</p> <p>第27回 経鼻経管栄養演習②</p> <p>第28回 経鼻経管栄養演習③／経鼻経管栄養試験①</p> <p>第29回 経鼻経管栄養演習④／経鼻経管栄養試験②</p> <p>第30回 経鼻経管栄養演習⑤／経鼻経管栄養試験③</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>医療的ケアの基本研修（講義50時間と演習）をA、B、Cの3つの単元で構成する。医療的ケアCは、毎週2回の授業を15週で全30回実施する。</p> <p>【概要】医療的ケアAと医療的ケアBで学んだ基礎的知識をもとに、シミュレーターなどを使用しながら、喀痰吸引（口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部）、経管栄養（胃ろう、経鼻経管栄養）の演習を行う。</p> <p>【到達目標】医療的ケアを安全・適切に実施できる技術を身につける。（全5種類の技術試験に合格する）</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 医療的ケア 15 第2版 ISBN：978-4-8058-8404-1 出版社：中央法規 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格（税抜）：2,600円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内の技術試験：授業に関する積極性＝70：30</li> <li>・技術試験に関するフィードバックは、授業内および学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	オフィスアワー等で適宜受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生、医療的ケアAおよび医療的ケアBの単位取得済みの学生に限る。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>介護福祉士国家試験の指定科目です。</p> <p>医療的ケアCは、毎週2回（2コマ続き）のペースで全30回（全30コマ）行い、医療的ケアA、医療的ケアBで学んだ医療的ケアの基本的な知識や技術を実践的に学びます。積極的に練習を行い、医療的ケアを安全・適切に提供できる技術を身につけましょう。看護師としてこれまで経験してきた喀痰吸引および経管栄養における実践事例などを取り上げながら、わかりやすく説明したいと思います。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】今回の演習範囲にあたるテキストや配布資料を読んで、喀痰吸引・経管栄養の手順と留意点について把握しておくこと。（1時間以上）</p> <p>【事後学習】授業で学習した喀痰吸引・経管栄養の実技練習を行い、技術の習得に努めること。（1時間以上）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2	選択
担当教員			
新井恵子、木下寿恵、本多祥子、大久保功			
添付ファイル			

テーマ	介護を要する人々や介護福祉サービス、施設等の実際を理解する
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の実習オリエンテーション等に参加し、実習施設の概要（沿革、利用者の状況、介護内容、日課、行事等）を知る。</li> <li>2. 言語的・非言語的コミュニケーションを通じて、利用者、家族を理解するとともに、利用者を尊重する態度を養う。</li> <li>3. 入浴、食事、排泄、環境整備等の介護技術の確認をする。</li> <li>4. サービスに関わる多職種協働の実践を見学し、連携のあり方を学ぶ。</li> <li>5. 在宅で生活している高齢者や障害者と家族の状況を理解し、在宅生活の継続のために提供されているサービスの実際を学ぶ。</li> <li>6. 地域での生活を支える居宅介護サービスの概要や機能を理解し、地域における生活支援の実践について学ぶ。</li> </ol>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】介護福祉実習は、実際に利用者が生活している在宅や施設において、介護福祉士に求められる知識、技術、価値、倫理等を総合的に実践する機会である。介護福祉実習 I では、多様な介護現場で、利用者理解を中心として、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を実施する。また、利用者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・事業所の役割を理解し、地域における生活支援の実践を学ぶ。</p> <p>【到達目標】実習施設・事業所において、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等に取り組むことができる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「実践的に課題を発見する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「自己管理能力」「倫理観」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができる</p>
テキスト	介護福祉実習委員会「介護福祉実習の手引き」（1年次後期に配布）
参考文献	適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】実習施設の評価：実習日誌等の内容と提出状況：実習での積極性＝40：30：30 *年度末の実習終了となるため、成績は「保」と表記されます。最終的な評価は、次年度前期成績表に表記されます。</p> <p>【フィードバック方法】フィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	介護福祉実習の期間中は、原則として1週間に1回、担当教員が巡回指導を行うので、その機会に巡回担当教員に質問し相談すること。
履修条件	<p>【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る。 「介護総合演習A」を履修中である者に限る。 生活支援技術A～Fの単位を取得済み、または取得見込みの者に限る。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	実習施設での遅刻や欠席は認められません。体調管理に十分留意してください。各教員の高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験を、巡回時にも触れながら指導できればと思います。
準備学習について	介護福祉実習前には、介護福祉士指定科目を復習し、「介護総合演習A」で連絡・指示した準備を確認すること。介護福祉実習の期間中は、実習を振り返り実習記録等を作成し課題を明らかにし、翌日の実習目標を立てること（2時間以上）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	3	選択
担当教員			
新井恵子、木下寿恵、本多祥子、大久保功			
添付ファイル			

テーマ	介護を要する人々や介護福祉サービス、施設等の実際を理解する
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の実習オリエンテーションに参加し、実習施設の概要（沿革、利用者の状況、介護内容、日課、行事等）を知る。</li> <li>2. 利用者一人ひとりの障害を理解し、生活支援技術の実践を通じて、個別性に応じた生活支援技術の工夫の必要性を学ぶ。</li> <li>3. 利用者・家族、職員とのかかわりを通じて、コミュニケーションの方法を学ぶ。</li> <li>4. サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて多職種の役割を理解し、多職種連携やチームケアを体験的に学び、チームの一員としての介護福祉士の役割を学ぶ。</li> <li>5. 介護過程の実践的展開を学ぶ初期段階として、情報の収集、分析、介護目標の設定、計画立案に取り組むことができる。</li> </ol>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】介護福祉実習は、実際に利用者が生活している在宅や施設において、介護福祉士に求められる知識、技術、価値、倫理等を総合的に実践する機会である。介護福祉実習Ⅱでは、利用者のさまざまな生活や介護実践の場・施設等の機能、利用者一人ひとりの障害とそれに応じた生活支援技術の工夫を学び、多職種の役割を理解し多職種協働の実践を体験的に学び、チームの一員としての介護福祉士の役割を学ぶ。また、介護過程の実践的展開を学ぶ初期段階として、情報の収集、分析、個別援助計画の立案に取り組む。</p> <p>【到達目標】利用者の生活や介護実践の場・施設等の機能を述べることができる。利用者一人ひとりの障害とそれに応じた生活支援技術の工夫を考えることができる。多職種の役割を理解してチームの一員としての介護福祉士としての役割を述べるができる。介護過程の実践的展開を学ぶ初期段階として、情報の収集、分析、個別援助計画の立案に取り組むことができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素である「主体的に学習する力」「実践的に課題を発見する力」「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素である「論理的思考力」「自己管理能力」「倫理観」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決できる能力」を身につけることができる。</p>
テキスト	介護福祉実習委員会「介護福祉実習の手引き」（1年次に使用したもの）
参考文献	適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】実習施設の評価：実習日誌等の内容・提出状況：実習での積極性＝40：30：30</p> <p>【フィードバック方法】フィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	介護福祉実習の期間中は、原則として1週間に1回、担当教員が巡回指導を行うので、その機会に巡回担当教員に質問し相談すること。
履修条件	<p>【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る。</p> <p>「介護福祉実習Ⅰ」を単位取得済みであり、かつ「介護総合演習B」を履修中である者に限る。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	実習施設への遅刻や欠席は認められません。体調管理に十分留意してください。各教員の高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験を、巡回時にも触れながら指導できればと思います。
準備学習について	介護福祉実習前には、介護福祉実習Ⅰで明らかになった自己の課題解決に取り組み、介護福祉士指定科目の復習に努め、「介護総合演習B」で連絡・指示した準備を確認すること。介護福祉実習の期間中は、実習を振り返り実習記録等を作成し課題を明らかにし、翌日の実習目標を立てること（2時間以上）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年	5	選択
担当教員			
新井恵子、木下寿恵、本多祥子、大久保功			
添付ファイル			

テーマ	施設等での介護福祉士としての倫理、技術等を深く学ぶ
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者一人ひとりの障害や個性を踏まえて、安全、快適、自立に配慮した生活支援技術を実践する。</li> <li>2. 一人の利用者を受け持ち、アセスメント、個別援助計画の立案、実施、評価といった一連の介護過程の実践的展開を学ぶ。</li> <li>3. 専門職としての職業倫理を自覚し、必要な姿勢を身につけると共に、他職種協働のチームアプローチの意義を理解する。</li> </ol>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】介護福祉実習は、実際に利用者が生活している在宅や施設において、介護福祉士に求められる知識、技術、価値、倫理等を総合的に実践する機会である。介護福祉実習Ⅲでは、高齢者や障害者、家族の状況を理解し、介護福祉士としての職業倫理を踏まえた介護過程の実践的展開、利用者の個性に即した生活を支援するための技術を学ぶ</p> <p>【到達目標】高齢者や障害者、家族の状況を理解し、介護福祉士としての職業倫理を踏まえた介護過程の実践的展開ができる。利用者の個性に即した生活を支援するための技術を体験し述べるができる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素である「主体的に学習する力」「実践的に課題を発見する力」「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素である「論理的思考力」「問題解決力」「自己管理能力」「倫理観」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができる</p>
テキスト	介護福祉実習委員会「介護福祉実習の手引き」（1年次に使用したもの）
参考文献	適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】実習施設の評価：実習日誌等の内容・提出状況：実習での積極性＝40：30：30</p> <p>【フィードバック方法】フィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	介護福祉実習の期間中は、原則として1週間に1回、担当教員が巡回指導を行うので、その機会に巡回担当教員に質問し相談すること。
履修条件	<p>【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る。</p> <p>「介護福祉実習Ⅱ」を単位取得済みであり、かつ「介護総合演習C」を履修中である者に限る。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	実習施設での遅刻や欠席は認められません。体調管理に十分留意してください。各教員の高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験を、巡回時にも触れながら指導できればと思います。
準備学習について	介護福祉実習前は、これまでの介護福祉実習で明らかとなった自己の課題解決に取り組み、介護福祉士指定科目の復習に努め、「介護総合演習C」で連絡・指示した準備を確認すること。介護福祉実習の期間中は、実習を振り返り実習記録等を作成し課題を明らかにし、翌日の実習目標を立てること（2時間以上）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	選択
担当教員			
新井恵子			
添付ファイル			

テーマ	認知症の症状に関する基礎知識と認知症の人のケアの方法
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・認知症の人をケアする前に 高齢者施設や訪問介護での経験の中で出会った利用者とのエピソードを紹介し、認知症ケアについて解説します</p> <p>第2回 認知症の合図（中核症状と周辺症状の理解） 認知症サポーター養成講座</p> <p>第3回 行政の取組み 市や関係団体等の取組みを紹介します。（外部講師予定）</p> <p>第4回 介護する家族の声（認知症の人と家族の会）</p> <p>第5回 認知症の人の生きる世界 VR体験（予定）をとおして、認知症の人の世界を考えます。</p> <p>第6回 演習：認知症の人に対するアクティビティ① 香りを中心として アロマオイルを用いたハンドトリートメントの実践をとおして学びます</p> <p>第7回 演習：認知症の人に対するアクティビティ② 運動を中心として ふまねっと、リアル野球盤、モルックの中から一つを選び、実践をとおして学びます</p> <p>第8回 演習：認知症の人に対するアクティビティ③ ゲームを中心として 学外活動の実践をとおして学びます</p> <p>第9回 認知症の人や高齢者とのコミュニケーション 外部活動の実践をとおして学びます</p> <p>第10回 グループワーク①認知症への気づき、その人の理解</p> <p>第11回 グループワーク②行動の背景を読み解く</p> <p>第12回 グループワーク③利用者本位の介護計画書の作成</p> <p>第13回 グループワーク④プレ発表（企画の根拠・内容、方法）</p> <p>第14回 プレゼンテーション</p> <p>第15回 まとめ・認知症ケアのこれから</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】認知症の人が日常生活において、何を体験し何を考えているのかを理解しかかわり方を学ぶ。認知症の人を支える家族の思いを理解する。</p> <p>【到達目標】認知症の人の行動には理由があることを理解し、その理由とケア方法を考え説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力、実践的に課題を発見する力、地域を視野に貢献する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しない。講義中、必要に応じて資料を配布。
参考文献	適宜紹介
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 課題発表・完成度：レポート：授業での積極性＝55：30：15</p> <p>【フィードバック方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートを回収した次の回の授業内に講評を口頭にて行う。</li> <li>・演習発表については、発表後に講評を口頭にて行う。</li> <li>・成績評価については、学内制度（成績問い合わせ制度）を通じて行う。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	講義終了後に教室やオフィスアワー等で随時受け付けます。
履修条件	特に設けない。

特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	状況に応じて施設見学や市内外で開催されるイベント等への参加を行い、実践的に学ぶ予定です。また、外部講師（行政、関連団体等）やVR体験をとおして認知症の人や認知症対策の理解に繋がりたいと思います。高齢者施設、訪問介護事業所に職員として従事した経験や、認知症対策や認知症予防活動、認知症サポーター養成講座の講師（キャラバンメイト）の経験から、そのエピソードや実務的な内容についても授業の中で触れることができると思います。
準備学習について	【事前学習】認知症の人の書籍を読むことや、ニュース等に関心をもち、支援（ケア）方法を考えること（1時間）。 【事後学習】授業毎に履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理すること（1時間以上）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
城崎俊典			
添付ファイル			

テーマ	医療マネジメントの基礎について
授業計画	<p>第1回 医療とマネジメント</p> <p>第2回 医療資源と医療保険制度</p> <p>第3回 病院の組織と役割（機能）</p> <p>第4回 医療情報システムの概要 電子カルテシステムとオーダーエン트리システムについて説明します。</p> <p>第5回 医療情報システムと患者の流れ（部門システム） 私が勤務する病院で使用している電子カルテシステムを参考にして情報の流れと患者の動線について説明します。</p> <p>第6回 個人情報保護法と情報セキュリティ 課題レポート提出</p> <p>第7回 組織管理の基礎 組織の理解・目的、チームビルディング、チームマネージメントの基礎、組織管理の基礎について説明します。</p> <p>第8回 組織行動の基礎 意思決定、行動理論、リーダーシップ理論の基礎について説明します。</p> <p>第9回 問題解決技法の基礎</p> <p>第10回 医療経営戦略論の基礎1 戦略・戦術の考え方、立て方について説明します。</p> <p>第11回 問題解決技法の演習 KJ法を使った問題解決の演習をします。</p> <p>第12回 医療経営戦略論の基礎2 経営分析の手法とマーケティング論の基礎について説明します。</p> <p>第13回 医療現場でのアクションプランの立て方 私が勤務する病院でのアクションプランをサンプルにして説明します。</p> <p>第14回 医療従事者が身につけておくべきプレゼンテーション技術と医療統計</p> <p>第15回 まとめ 医療マネジメント論のまとめを説明します。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 医療・福祉現場に従事するために必要な医療管理、医療経営、経営戦略、組織管理、組織行動、医療情報システムなどについて基本的な事項について学び、医療マネジメントの基礎を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療マネジメントの意義について説明できる</li> <li>2. 病院経営の仕組み、病院機能と役割を説明できる</li> <li>3. リーダーシップ、モチベーション、チームビルディングなどについて説明できる</li> <li>4. 経営戦略の立て方や各種分析手法の基本を説明できる</li> <li>5. 医療情報システムの仕組みと個人情報保護の概要を説明できる</li> </ol> <p>【特記事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各授業の最後に確認試験を実施する。</li> </ol> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素である、実践的に課題を発見する力、課題を解決へと導く力を身につけることができる。また「学士力」の構成要素である、情報リテラシー、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	別途作成した講義資料を使用する
参考文献	適宜、紹介。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学期末の筆記試験と授業での確認試験および課題レポート提出（1回）で評価する（配点50：40：10）。</li> <li>2. 総合成績や期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> <li>3. 確認試験を行った次の回の授業前に回答及び説明をおこなう。</li> </ol>



対するフィードバック方法	
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室で受け付ける。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	1. 原則として欠席は認めません。 2. やむなく欠席する場合は、友人に欠席した授業の内容を確認し、自習してから次の授業に臨んでください。 3. 病院の職員として、臨床検査技師20年、医療情報システム担当者20年、統括マネージャーを3年と長期にわたって働いています。授業の中では、医療現場での経験をいかし、病院管理、医療経営の基礎、病院情報システムの役割など病院業務についてわかりやすく伝えていきたいと思ひます。
準備学習について	1. 毎回授業で次回講義用の資料を配布します。それをもとに事前学習を行うようにしてください(2時間)。 2. 授業での確認試験を実施します。それをもとに事後学習を行うようにしてください(2時間)。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
城崎俊典			
添付ファイル			

テーマ	地域医療連携の基礎について
授業計画	<p>第1回 医療と医療資源</p> <p>第2回 社会保障制度の概要</p> <p>第3回 医療保険制度の概要</p> <p>第4回 医療供給体制と医療計画</p> <p>第5回 診療報酬制度と医療関連法規</p> <p>第6回 個人情報保護法と情報セキュリティ</p> <p>第7回 医療情報システム① 医療情報の基礎知識について説明します。</p> <p>第8回 医療情報システム②（電子カルテシステムと部門システム） 私が勤務する病院で使用されている電子カルテシステムを参考にして情報の流れと患者の動線について説明します。</p> <p>第9回 地域医療連携システムと介護連携システム 静岡県内で導入されている”ふじのくにねっと”および”シズケアかけはし”について説明します。</p> <p>第10回 地域医療連携と地域医療連携パス 地域医療連携の基本と地域医療連携パスについて説明します。</p> <p>第11回 地域医療連携室の役割 地域医療連携室の役割でもある入院支援、退院支援などについて説明します。</p> <p>第12回 地域包括ケアシステム 地域包括ケアシステムの基本を説明します。</p> <p>第13回 医療介護福祉の連携と多職種連携1 チーム医療と地域での役割について説明します。</p> <p>第14回 医療介護福祉の連携と多職種連携2 在宅、訪問看護、介護の協働について説明します。</p> <p>第15回 まとめ 地域医療連携論のまとめをします。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 医療・介護・福祉の現場に従事するために、日本の医療制度、関係法規、診療報酬制度などを学び、地域医療連携に係わる様々な基本的知識を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療制度と医療供給体制について説明できる</li> <li>2. 医療情報システムの仕組みを説明できる</li> <li>3. 地域医療連携の仕組みを説明できる</li> <li>4. 地域医療連携室の役割を説明できる</li> <li>5. 医療介護福祉の連携、多職種連携について説明できる</li> </ol> <p>【特記事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各授業の最後に確認試験を実施する。</li> </ol> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素である、知識・技能を理解する力、地域を視野に貢献する力を身につけることができる。また、「学士力」の構成要素である、情報リテラシーを身につけることができる。</p>
テキスト	別途作成した講義資料を使用する
参考文献	適宜、紹介。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学期末の筆記試験と授業での確認試験で評価する（配点60：40）。</li> <li>2. 総合成績や期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> <li>3. 確認試験を行った次の回の授業前に回答及び説明をおこなう。</li> </ol>

対するフィードバック方法	
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室で受け付ける。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	1. 原則として欠席は認めません。 2. やむなく欠席する場合は、友人に欠席した授業の内容を確認し、自習してから次の授業に臨んでください。 3. 病院の職員として、臨床検査技師20年、医療情報システム担当者20年、統括マネージャーを3年と長期にわたって働いています。授業の中では、医療現場での経験をいかし、医療制度、地域医療連携の基礎、医療介護福祉の連携、病院情報システムの役割など病院業務についてわかりやすく伝えていきたいと思ひます。
準備学習について	1. 毎回授業で次回講義用の資料を配布します。それをもとに事前学習を行うようにしてください（2時間）。 2. 授業での確認試験を実施します。それをもとに事後学習を行うようにしてください（2時間）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
渡辺央			
添付ファイル			

テーマ	保健医療の分野におけるソーシャルワーク実践を理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業の目的、進め方の確認）、医療をめぐる課題</p> <p>第2回 現代の医療と福祉</p> <p>第3回 医療と医療ソーシャルワークの歴史</p> <p>第4回 患者の理解</p> <p>第5回 患者の尊厳と権利</p> <p>第6回 医療の場の理解① 施設と体制</p> <p>第7回 医療の場の理解② 多職種によるチーム医療</p> <p>第8回 患者・家族の生活を支える社会資源</p> <p>第9回 医療ソーシャルワーカーの業務</p> <p>第10回 救急医療におけるソーシャルワーク</p> <p>第11回 ターミナルケアにおけるソーシャルワーク／在宅医療におけるソーシャルワーク</p> <p>第12回 周産期医療におけるソーシャルワーク／小児医療におけるソーシャルワーク</p> <p>第13回 医療ソーシャルワーカーの実際① 現場の理解</p> <p>第14回 医療ソーシャルワーカーの実際② 業務の理解（現職者による講話）</p> <p>第15回 医療ソーシャルワークの展望</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】保健医療の分野では、保健・医療・福祉の連携と統合がソーシャルワーカーに求められ、その基本的な知識や技術、価値に基づく専門職としてのスタンスを学ぶ。</p> <p>【到達目標】現代の保健・医療・福祉を取り巻く状況を理解した上で、対象者の抱える生活課題とその支援方法について考察することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	決まり次第ActiveAcademyでお知らせします。
参考文献	決まり次第ActiveAcademyでお知らせします。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <p>小テスト・小レポート 60点</p> <p>期末レポート 40点</p> <p>【フィードバック方法】小レポートを回収した次の回の授業内で総評を口頭で伝える。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後、オフィスアワーに対応します。
履修条件	特に設けません。
特別学生の履修可否	科目等履修生 【可】 聴講生 【可】

	キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健医療の分野に関心のある学生の受講を歓迎します（他学科履修も可能です）。</li> <li>・支援する立場からだけでなく、患者や家族の立場からも医療福祉のあり方について考える機会にしたいと思います。</li> <li>・病院での実務経験を踏まえ、授業の中でそのエピソードなどについても触れることができればと思います。</li> </ul>
準備学習について	<p>【事前学習】 授業内で提示した予習内容に取り組む（2時間程度）</p> <p>【事後学習】 授業で学習した内容を復習する（2時間程度）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2	選択
担当教員			
土屋厚子、東佳美			
添付ファイル			

テーマ	健康な人を含めた集団を対象として、疾病の予防、心身の健康の増進、生活の質の向上を目指す方法論を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 公衆衛生とは何か（担当：土屋）テキストp1～14 公衆衛生の歴史と考え方、人々の健康と社会との関わりを理解する。</p> <p>第2回 健康教育とヘルスプロモーション（担当：土屋）テキストp217～230 個人だけでは解決できない健康課題を、社会全体で解決するための方法について、具体例を基に学ぶ。健康都市とは何かについて学ぶ。</p> <p>第3回 健康の指標（担当：土屋）テキストp30～50 ある集団の健康水準を理解するために必要な「健康の指標」には、どのような種類があり、どのようなことがわかるのか、基礎的な知識を身につける。</p> <p>第4回 疫学（担当：土屋）テキストp15～28 病気の発症の要因を明らかにして、予防や治療、対策を検討する疫学の基礎を学ぶ。</p> <p>第5回 感染症とその予防（担当：土屋）テキストp52～89 感染症が広がる要因と経路を理解し、予防の基礎を学ぶ。 特に、新型コロナウイルス、インフルエンザ、食中毒、性感染症ほか、身近な感染症の対策について学ぶ。</p> <p>第6回 災害医療と保健活動、環境と健康（担当：土屋）テキストp92～118、p144 環境の変化が人々の健康に与える影響について理解し、環境保全についてどのような対策が取られているかを知る。 また、自然災害時に、どのような医療や保健活動が必要になるかを学ぶ。</p> <p>第7回 医療・介護の保障制度、老人保健（担当：東）テキストp120～150 p200 我が国の医療保障制度の特色とその仕組みについて学ぶ。 介護保険制度の成立から改正の経緯、要支援又は要介護サービスの給付内容について理解する。 また、高齢者への保健医療施策、老人保健法について学ぶ。</p> <p>第8回 地域保健活動（ヘルスサービスの構造）（担当：土屋）テキストp134～150 地域の住民が適切なヘルスサービスを受けるためにどのような保健、医療施設とマンパワーがあるのか学ぶ。</p> <p>第9回 生活習慣病の予防（担当：東）テキストp186～203 日本人の最大の死因である生活習慣病についての対策を学ぶとともに、生活習慣病の原因と予防の知識を身につけることで、自身と周囲の人々の健康を守る手法を身につける。</p> <p>第10回 精神保健、難病対策（担当：土屋）テキストp206～215、p232～242 日本におけるこころの健康の現状と、入院医療から地域生活中心の支援へと改革が進む精神保健医療行政について学ぶ。 また、自殺、発達障害、依存症、災害時のメンタルヘルスなど新たな課題について学ぶ。 難病についての基本理念を理解し、難病法成立後の医療体制や社会参加への支援施策について学ぶ。</p> <p>第11回 母子保健、老人保健（担当：東）テキストp152～165 母子に関する法律や施策と母子保健活動の理解を通して、日本の母子を取り巻く課題について学ぶ。 特に女性の生涯を通しての心身の健康やDV・虐待防止について学ぶ。</p> <p>第12回 学校保健（担当：東）テキストp168～183 学校保健制度とその内容、および公衆衛生制度の中の学校保健の位置づけについて学ぶ。 また、近年の学校をめぐるアレルギー、いじめ、自殺などの重要施策について学ぶ。</p> <p>第13回 産業保健（担当：土屋）テキストp244～261 働く人々の健康を守る産業保健の現状と安全管理の方法（作業環境管理、作業管理、健康管理）について学ぶ。</p> <p>第14回 保健・医療・福祉の制度と連携（担当：土屋）テキスト全般 これまでに講義した内容をもとに、公衆衛生の立場から保健・医療・福祉の制度とその連携について討論する。</p> <p>第15回 これからの公衆衛生の課題（担当：土屋）テキスト全般 21世紀の我が国は、人口問題、疾病構造の変化、科学技術の発展、価値観の変化、さらには世界レベルでの地球環境問題など予期しない出来事を含め過去に例を見ないような変化が引き起こされている。これらに対処するために公衆衛生が果たす役割について討論する。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】 地域で生活する人々の疾病を予防し、健康を増進するために、地域社会全体を対象として捉える公衆衛生的な考え方やその方策を学び、各授業計画のテーマについて理解し、説明できることを到達目標とする。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「地域を視野に貢献する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「市民としての社会的責任」を身につけることができる。</p>

テキスト	テキスト名：わかりやすい公衆衛生学 ISBN：978-4-86174-066-4 出版社：ヌーヴェルヒロカワ 編集者：清水忠彦・佐藤拓代 価格（税抜）：2,200 円
参考文献	テキスト名：国民衛生の動向 出版社：厚生労働統計協会
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	成績評価の基準：小テスト(40%)、レポート(60%)により評価。 フィードバック方法：学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う。
質問・相談の受付方法	講義中随時又は授業終了後の教室、または講師控室にて受け付ける。
履修条件	なし。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	1 公衆衛生を学ぶことで、自分自身や家族、周囲の人々の心身の健康を守る視点や手法を身につけることができる。 2 公衆衛生の現場経験が豊富な保健師から、事例を通してわかりやすく公衆衛生を学ぶことができる。 3 授業は、テキストと授業毎に配布するプリントを中心に行う。
準備学習について	テキスト(わかりやすい公衆衛生学)にあらかじめ目を通し予習しておくこと(30分)。 毎回、授業の講義内容の資料を配布します。それをもとに授業時間外で復習を行うようにすること(1時間)。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
山本幸司			
添付ファイル			

テーマ	リハビリテーションの理解と関わり。
授業計画	<p>第1回 リハビリテーションの歴史と理念</p> <p>第2回 障害に対する基本的な考え方 ICFの理解</p> <p>第3回 リハビリテーションに関係する諸制度</p> <p>第4回 リハビリテーションの種類と関連職種 チームアプローチについて</p> <p>第5回 ADLとIADLの理解</p> <p>第6回 福祉用具と住宅改造 (義肢 車いす 日常生活用具)</p> <p>第7回 福祉用具と住宅改造 (住宅改造 トイレ 浴室) 福祉の街づくり</p> <p>第8回 リハビリテーション介護とは (在宅生活の目標)</p> <p>第9回 老化と廃用症候群</p> <p>第10回 障害別リハビリテーションの実際 脳血管障害</p> <p>第11回 障害別リハビリテーションの実際 関節リュウマチ パーキンソン病 脊髄損傷</p> <p>第12回 障害別リハビリテーションの実際 大腿骨頸部骨折 内部障害</p> <p>第13回 認知症のリハビリテーション</p> <p>第14回 終末期のリハビリテーション</p> <p>第15回 地域リハビリテーション</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】</p> <p>リハビリテーションの理念と障害に関する基本を知り、ソーシャルワーカーの役割を考える。リハビリテーションは各領域の専門職が連携して、全人的復権という目標を達成する仕事であることを学習します。特に医療、介護現場におけるリハビリテーションの理解を深めます。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	プリント配布。
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	学期末のレポートで評価する。
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控室（研究室棟1階）で受け付ける。次のメールでも受け付ける。（アドレス apolon-reha@kenshikai.or.jp）
履修条件	特に設けない。



特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	担当講師は介護老人保健施設の現役理学療法士です。 医療・介護・福祉の実際にも携わっており、現場での経験を直接お伝えしたい。 積極的な質問を歓迎します。
準備学習について	一般的に認知されているリハビリテーションのイメージをとらえておくこと。 授業毎に2時間以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨むこと。 授業終了後に次回の予習内容を指示する。

講義科目名称： アニマルセラピー演習（自由科目）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	選択
担当教員			
萩原裕二			
添付ファイル			

テーマ	福祉・教育・医療現場で求められるアニマルセラピーとアニマルセラピストについて学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション アニマルセラピーとは セラピー犬の紹介</p> <p>第2回 アニマルセラピーの歴史と現在 日本、海外 使役犬の役割</p> <p>第3回 動物介在活動（AAA）動物介在教育（AAE）動物介在療法（AAT）分類</p> <p>第4回 ドッグセラピーの探求① AAA 定義と効果</p> <p>第5回 ドッグセラピーの探求②-1 AAE 定義と効果</p> <p>第6回 ドッグセラピーの探求②-2 AAE 子どもの心理</p> <p>第7回 ドッグセラピーの探求③-1 AAT 定義と効果</p> <p>第8回 ドッグセラピーの探求③-2 AAT 感染症 精神障害</p> <p>第9回 ドッグセラピーの探求③-3 AAT リハビリテーション 緩和ケア</p> <p>第10回 ドッグセラピーAAT 模擬実習 グループワーク アニマルセラピストとして実際に経験した「セラピー犬の持つ不思議な力」に関するエピソードを例に解説します。</p> <p>第11回 セラピードッグの育成 犬の特徴 習性 トレーニング</p> <p>第12回 動物福祉animal welfare 犬の特徴と人との関わり</p> <p>第13回 動物行動学 人と動物のコミュニケーション</p> <p>第14回 アニマルセラピストに求められるもの</p> <p>第15回 アニマルセラピーまとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 アニマルセラピーとは、動物と触れ合うことで精神的・身体的に機能を向上させることにより、生活の質を向上させる療法であり、人との触れ合いを通して、高齢者や障害がある人、疾病を抱える人QOL（生活の質）の向上、教育機関、医療機関での手助けをしていきます。この科目では、動物介在活動・教育・療法と福祉・教育・医療現場で活躍が期待されるアニマルセラピストについて学びます。</p> <p>【到達目標】 アニマルセラピストとして福祉活動に従事するために必要な、動物の知識や世話・健康管理・コントロール、感染症や障害、リハビリテーションなど動物・福祉に関する知識・技術を修得することを到達目標とします。</p> <p>【卒業認定・学位授与の方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、生涯学習力を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しない。
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 授業中の質疑応答の積極性と水準、毎回の小テスト、学期末の筆記試験で評価する（配点20：30：50）</p> <p>【フィードバック方法】 学期末の筆記試験に関するフィードバックは学内制度を通じて行う。 小テストは次の回の授業内で総評を口頭で伝える。</p>
質問・相談の受付	講義終了後、教室あるいは講師控室で受け付ける。

方法	
履修条件	定員50名（定員を超えた場合は、健康福祉学科及び上学年を優先する）
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	アニマルセラピスト認定資格に必要な科目です。資格取得を希望する場合は資格取得の手引を参照してください。 第1回と第10回はセラピードッグが同行します。その他の回についても、極力同行したいと考えています。 アニマルセラピストとして6年間活動しています。授業の中でそのエピソードや内容について触れることができればよいと思います。
準備学習について	毎回授業で小テストを実施します。授業時間外で事前学習や振り返りを行うようにしてください（2時間）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択 (2022以前入学者は必修)
担当教員			
菅井篤			
添付ファイル			

テーマ	「生きる力」としての国語について
授業計画	<p>第1回 読解力は必要か</p> <p>第2回 「読む」とは何か</p> <p>第3回 暗記と理解</p> <p>第4回 忘れてしまうのはなぜ？</p> <p>第5回 読解力の向上と書写に関する事項 (字形・文字の大きさ・配列等)</p> <p>第6回 マンガはダメですか？</p> <p>第7回 図とイラストを用いたプレゼンテーション</p> <p>第8回 読解力とメタ認知</p> <p>第9回 批判的思考</p> <p>第10回 先入観と主観</p> <p>第11回 言葉の意味がわかって読む</p> <p>第12回 子どもと国語</p> <p>第13回 文章が表すものをディスカッションする</p> <p>第14回 学校教育における国語</p> <p>第15回 まとめ (学期末レポートのアナウンス含む)</p> <p>各講義において、PBL、反転授業、ディスカッション、ディベートなどのアクティブラーニングを適宜取り入れる。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 児童生徒を指導するのに必要な国語の性質を主に読解の観点から学ぶ。</p> <p>【到達目標】 国語の基礎を身につけ、児童生徒に必要な国語の読解についての基礎を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>(1冊目) テキスト名：14歳からの読解力教室：生きる力を身につける ISBN：978-4305709226 出版社：笠間書院 著者名：犬塚美輪 価格(税抜き)：1400円</p> <p>(2冊目) テキスト名：AIに負けない子どもを育てる ISBN：978-4492762509 出版社：東洋経済新報社 著者名：新井紀子</p>

	価格（税抜き）：1600円
参考文献	その他、授業時に指示。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	成績評価の基準・方法及び課題 1. 問題意識をもった授業参加、話し合い・発表など役割遂行等の授業関与度 30% 2. 毎時間の振り返り 30% 3. 提出物(レポート) 40% フィードバック 学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。
質問・相談の受付方法	授業終了後またはオフィスアワー
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生 【可】 聴講生 【可】
メッセージ	児童相談所職員と小学校教員として10年間従事しました。小学校では国語科教科主任を務め、教科経営に携わりました。
準備学習について	【事前学習】 授業テーマについて関心を持ち、自分なりの課題や考えをもって参加する。（2時間） 【事後学習】 資料を参考に授業内容への理解をさらに深めるとともに、自分自身のあり方を見つめる。（1時間）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2	必修
担当教員			
永田恵実子、小林広昭、木戸直美			
添付ファイル			

テーマ	保育・教育を理解するため、保育・教育現場での実際の体験実習を通して、子どもの姿や保育者・教師のかかわり方などについて具体的に学ぶ。さらに、2年以降で行う保育実習、教育実習の現場（子ども、施設、援助方法等）について理解し、実習準備を行う。		
授業計画	第1回	オリエンテーション [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、復習をしておきましょう。（1時間）	
	第2回	現場実習に向けて(礼儀・マナーなど) [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。（1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、復習をしておきましょう。（1時間）	
	第3回	保育技術について(幼児の遊び・手遊びなど) [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。（1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、復習をしておきましょう。（1時間）	
	第4回	幼児との交流の準備 [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。（1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、復習をしておきましょう。（1時間）	
	第5回	幼児との交流 通し [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。（1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、復習をしておきましょう。（1時間）	
	第6回	幼児との交流（続き） [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。（1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、復習をしておきましょう。（1時間）	
	第7回	幼児との交流の振り返り [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。（1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、復習をしておきましょう。（1時間）	
	第8回	現場実習1回目の事前学習(A保育所 B小学校)と見学記録の書き方 [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。（1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、復習をしておきましょう。（1時間）	
	第9回	現場実習1回目 通し [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。（1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、復習をしておきましょう。（1時間）	
	第10回	現場実習1回目（続き） [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。（1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、復習をしておきましょう。（1時間）	
	第11回	現場実習の振り返り [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。（1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、復習をしておきましょう。（1時間）	
	第12回	現場実習2回目の事前学習 [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。（1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、復習をしておきましょう。（1時間）	
	第13回	現場実習2回目 通し [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。（1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、復習をしておきましょう。（1時間）	
	第14回	現場実習2回目（続き） [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。（1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、復習をしておきましょう。（1時間）	
	第15回	現場実習の振り返り [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。（1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、復習をしておきましょう。（1時間）	

	<p>(1時間)</p> <p>第16回 幼稚園実習の事前学習 ※本年度 変更 夏休みの課題の発表  [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間)  [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第17回 幼稚園実習(夏期休業中の9月中旬) 通し ※本年度 変更 夏休みの課題の発表  [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間)  [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第18回 幼稚園実習 // (続き) ※本年度 変更 施設のDVDの視聴  [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間)  [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第19回 幼稚園実習 // (続き) ※本年度 変更 施設のDVDの視聴  [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間)  [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第20回 幼稚園実習の振り返り ※以後 保育所・小学校・幼稚園の現場見学が可能な場合は実施  [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間)  [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第21回 施設実習の事前学習(DVDなど)  [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間)  [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第22回 施設実習 通し  [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間)  [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第23回 施設実習(続き)  [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間)  [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第24回 施設実習の振り返り  [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間)  [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第25回 4回の現場実習のまとめ  [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間)  [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第26回 実習についてのグループワーク  [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間)  [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第27回 先輩との実習等の話し合い(4年生との交流会)  [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間)  [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第28回 実習についてのグループワーク  [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間)  [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第29回 先輩との実習等の話し合い(4年生との交流会)  [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間)  [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第30回 1年間のまとめ  [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間)  [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】1年次年次通年の科目である。「保育」を理解するための入門として保育・教育の現場(幼稚園・保育所・児童福祉施設・小学校)で見学・観察を行い、幼稚園・保育所・児童福祉施設・小学校の役割やさまざまな子どもの姿、保育者・教師の関わり方を学ぶ。学んだことを各自レポートし、グループワーク等を行う。</p> <p>【到達目標】これらの学びの中で各自の視点や課題を見つけ、「保育」「福祉」「教育」への理解を深めることを目的とする。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、コミュニケーション・スキル、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	特にありません。毎回授業時に複数の資料を配布します。
参考文献	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保認定こども園教育保育要領、小学校学習指導要領
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に	授業及び体験実習への参加状況(50%)、課題の提出状況とその内容(50%)で評価します。実習の振り返りや提出物へのコメントは、実習後の振り返りの授業内で行います。

対するフィードバック方法	
質問・相談の受付方法	授業の前後、メールやオフィスアワー等で受け付けます。
履修条件	子ども学科に在籍する学生に限ります。
特別学生の履修可否	科目等履修生 【不可】 聴講生 【不可】
メッセージ	保育・教育・現場を見せていただける貴重な機会です。日頃の体調管理に留意し、前向きに学んで下さい。また、担当教員の現場経験も生かして、より実践的な学びに取り組みます。
準備学習について	現場での実習が主の授業ですので、体調管理に気を付けて下さい。 復習レポート作成（2時間）します。個別に課されるレポートは、早めにまとめて、期日までに必ず提出して下さい 事前学習として、社会人を意識したマナーや学習態度を積み重ねていきます。準備（2時間）を目安とします。また、グループでの振り返り学習（2時間程度）とします。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択(2018以前は必修)
担当教員			
菅井篤			
添付ファイル			

テーマ	0歳から18歳までの子どもが会う可能性のある多様な社会的場面で起こるコミュニケーションの検討を通じて、言葉の発達過程を読み解く。
授業計画	<p>第1回 言葉の機能</p> <p>第2回 幼児語</p> <p>第3回 会話</p> <p>第4回 真似</p> <p>第5回 感情</p> <p>第6回 「公」と「私」の使い分け</p> <p>第7回 語り</p> <p>第8回 文化とピアトーキング</p> <p>第9回 ジェンダー実践と言語イデオロギー</p> <p>第10回 実践としての書き言葉</p> <p>第11回 学習言語とIRE/F連鎖</p> <p>第12回 教室内の言葉</p> <p>第13回 パイリンガルとコードスイッチング</p> <p>第14回 継承語とアイデンティティ</p> <p>第15回 まとめ（学期末レポートのアナウンス含む）</p> <p>各講義において、PBL、反転授業、ディスカッション、ディベートなどのアクティブラーニングを適宜取り入れる。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 子どもの言葉の発達を個人と社会の変化と捉え、それぞれの変化の過程で互いにどのように絡まりあるのかを学修する。</p> <p>【到達目標】 子どもの言語発達についての基礎を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：子どもの発達とことば ISBN：978-4894768550 出版社：ひつじ書房 著者：伊藤崇 価格（税抜）：1600円</p>
参考文献	特になし。

成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	成績評価の基準・方法及び課題 1. 問題意識をもった授業参加、話し合い・発表など役割遂行等の授業関与度 30% 2. 毎時間の振り返り 30% 3. 提出物(レポート) 40% フィードバック 学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。
質問・相談の受付方法	授業終了後またはオフィスアワー
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	児童相談所職員と小学校教員として10年間従事しました。小学校では国語科教科主任を務め、教科経営に携わりました。
準備学習について	【事前学習】 授業テーマについて関心をもち、自分なりの課題や考えをもって参加する。（2時間） 【事後学習】 資料を参考に授業内容への理解をさらに深めるとともに、自分自身のあり方を見つめる。（1時間）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
白鳥絢也			
添付ファイル			

テーマ	学習指導要領を基準に各学校で編成される教育課程について、意義や編成方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行う意義等について。
授業計画	<p>【遠隔授業実施 15/15回】</p> <p>ライブ型授業、オンデマンド型授業 全15回（集中講義）において遠隔授業を実施する。 第1回「Zoom」によるライブ型授業 第2回～第15回「AAA」によるオンデマンド型授業を進める。 AAAの「レポート提出」機能から、遠隔授業の実施方法や進め方を周知する。 出席確認は「Forms」のURLを記載、質問は「AAA」の課題提出、アンケート、「Forms」や「メール」を通じて回答する。</p> <p>第1回 オリエンテーション（社会における教育課程の役割と機能） 【遠隔授業】 Zoomによるライブ型授業</p> <p>第2回 学習指導要領・幼稚園教育要領の性格と位置付け及び教育課程編成の目的 【遠隔授業】 オンデマンド型授業</p> <p>第3回 学校の教育課程編成の基本原理 【遠隔授業】 オンデマンド型授業</p> <p>第4回 学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷（1945年～1968年） 【遠隔授業】 オンデマンド型授業</p> <p>第5回 学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷（1977年～1998年） 【遠隔授業】 オンデマンド型授業</p> <p>第6回 学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷（2003年～2018年） 【遠隔授業】 オンデマンド型授業</p> <p>第7回 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義と重要性 【遠隔授業】 オンデマンド型授業</p> <p>第8回 教科・領域・学年をまたいだカリキュラム 【遠隔授業】 オンデマンド型授業</p> <p>第9回 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法と例示 【遠隔授業】 オンデマンド型授業</p> <p>第10回 実践的授業に即した教育課程編成の方法 【遠隔授業】 オンデマンド型授業</p> <p>第11回 教育課程全体を活かしたマネジメントの意義 【遠隔授業】 オンデマンド型授業</p> <p>第12回 幼児及び児童や学校・地域の実態を踏まえた教育課程や指導計画 【遠隔授業】 オンデマンド型授業</p> <p>第13回 カリキュラム評価の基礎 【遠隔授業】 オンデマンド型授業</p> <p>第14回 今日の学力課題と評価 【遠隔授業】 オンデマンド型授業</p> <p>第15回 授業のまとめ（学習指導要領と教育課程編成の原理及び目的、社会的役割） 【遠隔授業】 オンデマンド型授業</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】</p> <p>小学校及び幼児教育の指導者を目指す者として、学校教育での教育課程の役割・機能・意義と編成の基本原則及び教育実践に即した方法を理解するとともに、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、教育課程全体をマネジメントする意義の理解を図る。また、現代の教育問題とも関連づけ、子どもの発達に即した教育ができるように、多様な子どもへの科学的知見に基づく適切な対応が考察できる態度を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①学習指導要領・幼稚園教育要領の性格と位置付け、教育課程編成の目的を把握し、その改訂の変遷、主な改訂内容と社会的背景を理解しているとともに、それが社会において果たしている役割や機能を説明できる。②教育課程編成の基本原則を理解し、教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示できる。③単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、幼児及び児童や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を説明できる。④学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、カリキュラム評価の基礎的な考え方を説明できる。</p>

	<p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、①知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、②人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 ISBN：978-4-491-03460-7 出版社：東洋館出版社 著者名：文部科学省 価格（税抜）201円</p> <p>テキスト名：『幼稚園教育要領（平成29年告示）』 SBN：978-4-8278-1563-4 出版社：東山書房 著者名：文部科学省 価格（税抜）251円</p> <p>テキスト名：『教育深夜便 子ども”明日”に心を寄せながら』 ISBN：9784866935041 出版社：三恵社 著者名：川野辺敏 価格（税抜き）：1,700円</p>
参考文献	小学校学習指導要領解説、幼稚園教育要領解説 ※その他必要な資料はその都度紹介、または配布する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 学生に対する評価 成績評価の割合は、学期末筆記試験（レポートに切り替える場合もある）70%、平常点30%（予習ノート10%・授業参加態度10%・小論文10%）で評価する。予習ノート及び授業参加態度、小論文は授業時に評価します。</p> <p><b>【フィードバック方法】</b> 学期末筆記試験等に関するフィードバックは、成績評価の問い合わせ制度を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控室（研究室棟1階）で受け付ける。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生 <b>【可】</b> 聴講生 <b>【可】</b>
メッセージ	<p>焼津市内の小学校教員として10年間勤めていました。授業の中でそのエピソードや実務的な内容についても触れることができるとと思います。また、アイスブレイクやグループワーク等を取り入れた、アクティブ・ラーニング型の授業を想定しています。</p> <p>目の前のこと一つひとつに「着実」に取り組む姿勢を大切にしていきたいと思います。また、本を読むことと同時に、将来お金を貯めてぜひ初めての土地や外国の地へ足をのばしてください。本物は体験の中にあります。自分が見えてきます。</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 授業終了時に、シラバスに則り、次回の学習課題を確認する。（30分）</p> <p><b>【事後学習】</b> 各回に配布する資料の再読と課題の実施等を行うこと。（60分）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
小川勤			
添付ファイル			

テーマ	教職への道筋をデザインする - 教員になるか、教師になれるか -		
授業計画	第1回	イントロダクション〔「教員になるか、教師になれるか」〕 「教員になるか、教師になれるか」とはどのようなことか。教職にかかるこの進路選択のテーマから、本講義(学び)の意味を考える。 オリエンテーション：講義の進め方、受講上のルール、注意点、成績評価の方法、講師紹介	
	第2回	教職の意義〔なぜ教師を目指すのか〕 教職とは何か。いい先生とはどんな先生なのか。教師をめぐる環境、教師に求められる適性、資質、能力とは何か。	
	第3回	教師像の再考〔「理想の先生像」を探る〕 教職観の変遷から、今日求められる教師像やその資質能力を理解した上で、各自がめざす姿とは何かを、グループワークの中から明らかにする。	
	第4回	教育活動の実際(1)〔教師として学校現場を知る〕 学内講師(元小学校校長)による小学校の教師とはどのような活動を行い、どのような資質、能力が必要なのかについて、講演を聞きながらまとめる。	
	第5回	学校教育の機能(1)〔学校制度のしくみや働きを学ぶ〕 学校教育における制度の目的やしくみ、働きの根拠を、法(日本国憲法や教育基本法等)の視点から知る一方、学校を取り巻く文部科学省や教育委員会等の教育行政機関の働きにも着目する。	
	第6回	学校教育の機能(2)〔学校の組織と運営を学ぶ〕 校長、教諭等教職員の違いや人数等の配置とその根拠、また担任決めや職務内容、その分担決め等について、学校現場の年度末・年度初を想定し理解する。	
	第7回	学校教育の機能(3)〔校務分掌から現場を読み解く〕 校務分掌表から教員の職務の全体を知った上で、学校現場が「なぜ、日本の教育の最前線」となるのか。今日の学校教育を取り巻く要請を、どのように協働して取り組んでいるのを理解する。	
	第8回	教育活動の実際(1)〔「教師の一日」を知る〕 学内講師(元小学校教師)による小学校教師の一日についての講演を聞く。そこから、「なぜ、多忙化(「ブラック」等の問題視)となるのか。」学校現場や教師が持つ仕事本来の特性や事情を知り、多忙化を達成感や充実感に転換する工夫や資質能力とは何かを理解する。	
	第9回	教育活動の実際(2)〔「チーム学校」の意味を学ぶ〕 生徒指導上の問題事例を通して、解決になぜ「チーム学校」が必要なのか。自らの適性に照らし、何が求められているのかを考える。	
	第10回	教師の役割と仕事(1)〔教師の仕事の特質と内容〕 教師の仕事に対する自己イメージ。教師の仕事とは何か。教師の授業観。	
	第11回	教師の役割と仕事(2) 教師の一日。教師の1年間(学級担任として)。多様化する教師の役割期待。「開かれた学校作り」と教師	
	第12回	教師の職場環境 教師の勤務実態。教師の悩みと不満。学校の人間関係。教師のライフサイクルと異動。	
	第13回	教師の身分〔教育公務員の任用と服務〕 身分保障の裏返しとなる服務や勤務、研修の義務がなぜあるのか。判例等を通して知ると共に、今後の教員免許の発行や更新のしくみを合わせて理解する。	
	第14回	教職への進路選択と教員採用選考〔先生になるためには〕 教員免許状と進路選択。教職への道(採用の方法)。教員採用試験の実態。	
	第15回	まとめと振り返り〔新たな「先生をめざす」一歩を踏み出す〕 「教員になるか、教師になれるか」から、本講義(学び)を振り返り、自らが新たな力の獲得に踏み出す進路選択をディスカッションによって共有する。	
	定期試験	期末課題レポートの提出	
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 「教員になるか、教師になれるか」この教員と教師の違いから、教職の「きっかけ」とその後の「見通し」がどのように持てるのか。特に、自らが学校現場(入口)を潜り抜けた先の、「いかに教師であるか」「教職の世界で生きるとは何か」に及ぶ基礎知識と、その理解にとどまるだけでなく、自らの感性や経験との「差」から、何を身に付けるべきか獲得のため歩み出す契機とする。</p> <p>【到達目標】 教職の意義、教員の役割や職務内容等について理解を深め、「教師とは何か、教職とは何か」について、(1)きっかけとなる自らの教師像を見直し、どのような方向(進路)へ向かうべきか判断できる。(2)学校現場(入口)で求められる資質能力の全体をつかみ、本授業を起点に身に付けるべき力の獲得に歩み出すことができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p>		

	この科目の履修を通じて、子ども学部で学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身に付けることができる。
テキスト	特に指定しない。授業の中で参考文献等を適宜紹介する。
参考文献	教職概論―教師を目指す人のために 第5次改訂版 ISBN：978-4-313-61142-9 出版社：学陽書房 著者：佐藤晴雄 価格（税抜き）：2,400円
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	授業やグループワークへの取組態度(10%)、授業の振り返り（レポート課題）の提出状況と内容(70%)、定期試験〔期末課題レポート〕(20%)を総合して評価する。
質問・相談の受付方法	授業後、またはオフィスアワーを利用してください。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	本講座では、元小学校校長や元小学校教員である学内講師2名から小学校現場の実態について話を聞くとともに、学校現場で求められる資質、能力がどのようなものであるかを理解することを主要なテーマとする。「教員」になるということは、どのようなことなのかを自分事として、判断し、実行できる力を身に付けるように指導支援していく。
準備学習について	授業時に取り組むべき課題や発表の指示を適宜出します。事前に各自の準備をしておいてください。（1時間） 授業後は取り組んだ内容をワークシートや資料等と関連付けて整理しておいてください。（1時間）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	2	必修
担当教員			
徳浪芳江			
添付ファイル			

テーマ	ナショナルカリキュラムにおける保育の基本・内容を理解し、具体的な事例から、保育内容と計画とを関連づけて保育実践を考える。
授業計画	<p>第1回 保育の基本と保育内容：保育所保育指針 乳児</p> <p>第2回 乳児の遊びの考察：3つの視点から</p> <p>第3回 保育の基本と保育内容：保育所保育指針 満3歳未満</p> <p>第4回 満3歳未満児の遊びの考察：5領域から</p> <p>第5回 保育の基本と保育内容：幼稚園教育要領 満3歳以上</p> <p>第6回 満3歳以上児の遊びの考察：5領域から</p> <p>第7回 保育内容の全体的な構造</p> <p>第8回 保育内容の変遷：保育の発祥</p> <p>第9回 保育内容の変遷：大正から昭和前期</p> <p>第10回 保育内容の変遷：当時の保育内容の具体的中身を知る</p> <p>第11回 保育内容の変遷：第二次世界大戦から現代</p> <p>第12回 さまざまな連携における保育内容：家庭や小学校</p> <p>第13回 指導計画と省察と保育内容：自然発生した集団の遊びの理解と個の理解</p> <p>第14回 指導計画の作成と発表：子どもの遊びの連続性を方向性として</p> <p>第15回 前半のまとめ</p> <p>第16回 保育実践における保育内容：子どもの遊びと保育者の役割</p> <p>第17回 遊びの援助の構想と発表：遊びの停滞を事例に</p> <p>第18回 保育者の役割①：遊びの観察記録の方法</p> <p>第19回 保育者の役割②：遊びの観察記録の方法の実際：グループワーク</p> <p>第20回 保育者の役割③：遊びの観察記録による考察</p> <p>第21回 遊びの展開と教材研究</p> <p>第22回 教材作成と発表</p> <p>第23回 保育の構想と指導計画の作成：3歳児 グループワーク</p> <p>第24回 保育の構想と指導計画の発表と検討：3歳児 グループワーク</p>

	<p>第25回 保育の構想発表と検討：4歳児 グループワーク</p> <p>第26回 保育の構想と指導計画の発表と検討：4歳児 グループワーク</p> <p>第27回 保育の構想と指導計画の作成：5歳児 グループワーク</p> <p>第28回 保育の構想発表と検討：5歳児 グループワーク</p> <p>第29回 養護と教育における保育内容：多様なニーズへの対応</p> <p>第30回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」における保育目標、子どもの発達、保育内容を関連付けて理解し、子どもの遊びを通じた子ども理解を踏まえ、保育を計画し、実践し、検討することを、具体的事例を通して学び、グループで保育構想を練り、発表しあう。また、現代的なニーズに対応する多様な保育を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 保育の基本・保育内容を踏まえ、子どもの遊びにおける指導方法を指導計画と関連付けながら考え、保育実践を構想する力を養うことができる。また、多様な保育について理解することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>①テキスト名：幼稚園教育要領解説書 ISBN：9784577814475 出版社：フレーベル館 著者名：文部科学省 価格（税抜）：240円</p> <p>②テキスト名：保育所保育指針解説 ISBN：978-4577814482 出版社：フレーベル館 著者名：厚生労働省 価格（税抜）：320円</p> <p>③テキスト名：子どもと共に学び合う 演習・保育内容総論 第2版 ISBN：978-4-86015-454-7 著者名：井上孝之・山崎敦子 編 出版社名：みらい 価格（税抜）：2,100円</p>
参考文献	『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』（内閣府他編、フレーベル館） 講義中、適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 小テスト(30%)、提出課題(60%)、授業への取り組み態度(10%)により、総合的に評価する。</p> <p>【フィードバック方法】 課題・小テストを行った後に、授業内で解説する。</p>
質問・相談の受付方法	講義の前後に、教室あるいは講師控室(研究棟1階)で受け付ける。
履修条件	—
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】
メッセージ	保育者として、公立保育園で保育者・園長として34年間・市役所担当課において公立こども園の指導者として6年間、短大教員として5年間の経験があります。授業では、現場や実習指導での経験も交えてお話したいと思います。
準備学習について	予習として、授業の振り返りやテスト準備として約1時間、復習として課題への取り組み等で約1時間を想定している。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	2	選択
担当教員			
小川 勤、菅井篤、小林広昭			
添付ファイル			

テーマ	この科目は小学校および幼稚園における教職実践力を身につけるために、これまでに学んだ教育理論や教育技術、教育実習体験等を総合的にとらえ、教員としての使命や責務を理解し、教師としての応用力と実践力とともに、教員としての豊かな人間性を養うことをねらいとする。授業形態は、各講師が3～4コマずつを担当するオムニバス方式により実施する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 本授業の目的、授業の進め方、成績評価方法等についてガイダンスを実施する。 4年前期までの教育実習や学校体験活動等で学んだ事柄等に基づいてグループや個人で省察する。</p> <p>第2回 教員の役割（1） これまでの学びを振り返り、特に高めたい教科等を確認する。 子どもの成長を促す方法を考える（活動・行事で子どもを育てる）</p> <p>第3回 教員の役割（2） 学級経営の基本的な考え方</p> <p>第4回 校長経験者による講義「教師の使命感・責務、教員について」</p> <p>第5回 教員の資質 「教員の社会性や対人関係能力」 対人関係コミュニケーションについての講義とグループ討議</p> <p>第6回 現代の教育課題に関する解決策を考える 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題（学力・学校の荒れ・特別支援、他国籍児童の対応など）について仮想的な問題を提示し、グループで解決策を探索する。</p> <p>第7回 グループワーク その1 教育実習に向けて準備している3年生と、自らの教育実習の経験交流。またグループワーク。</p> <p>第8回 グループワーク その2 現職養護教諭による現在の幼児・児童・生徒についての講義およびグループワーク</p> <p>第9回 事例研究 「発達障害と学級経営、学習指導」 発達障害の現状についての講義と対応方法・支援方法についてグループ討議</p> <p>第10回 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題（学力・学校の荒れ・特別支援、他国籍児童の対応など）について仮想的な問題を提示し、グループで解決策を探索する。</p> <p>第11回 幼児・児童の発達・学習をめぐる現代の教育問題（学力・学校の荒れ・特別支援、他国籍児童の対応など）について仮想的な問題を提示し、グループで解決策を探索する。</p> <p>第12回 幼小の連携に関する基礎的理解をする。 学内講師による幼小連携に関する基本的考え方や現状を講義で学んだ後に、幼小連携の在り方についてグループ協議。</p> <p>第13回 事例研究 その1 いじめ問題への対応 実際の事例をもとにいじめ問題への対応についてグループ討議。</p> <p>第14回 事例研究 その2 不登校問題への対応 実際の事例をもとに不登校問題への対応についてグループ討議</p> <p>第15回 新しい教育課題 への対応 教育の情報化、プログラミング教育、新しい教科「道徳」、外国語活動等についての講義とグループ討議</p> <p>第16回 教職実践演習のまとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】教育現場における最新の教育課題等について、大学の教員と小学校教諭経験を持つ授業者が、オムニバス方式で講義・演習・グループ討議などを実施して理解を深める。今までの学習をさらに補い、実践感覚を養い、自信を持って教職に就けるようにする。</p> <p>達成目標・到達目標</p> <p>① 教員の職務と役割を概観し、教師としての責務を理解し、使命感を持つことができる。</p> <p>② これまでに学んできた専門知識や技能を教職実践の視点からとらえ直して述べることができる。</p> <p>③ 小学校教育及び幼児教育の諸課題をふまえ、教科等の授業を計画・運営できるようにする。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、課題を解決へと導く力、及び「学士力」の構成要素の一つである、これまで獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	『小学校学習指導要領』（平成20年3月告示 文部科学省）。これ以外に授業時に必要な資料やレジュメを配布する。

参考文献	授業時にオムニバス担当の各講師が参考文献等を紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	授業への姿勢、課題提出物などの平常点30% 課題レポート・プレゼンテーション70% 個別課題は、事例として全体にもフィードバックする。
質問・相談の受付方法	授業の前後、担当教員のオフィスアワー時などに受け付ける。
履修条件	小学校教諭免許取得予定者の者。幼稚園教諭免許取得予定の者。
特別学生の履修可否	科目等履修生 【不可】 聴講生 【不可】
メッセージ	現場教員を意識、想定しながらの授業参加を求める。 オムニバス担当の各教員の現場経験を十分に生かした実践的な学びの場とする。
準備学習について	現場教員、社会人を意識し、主体的に取り組む。 事前学習は、探求テーマに関わる下調べや資料準備を行う（1コマ分を目安に）。（30分） 事後学習は、振り返りと新たな課題を整理する（1コマ分を目安に）。（30分）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期、前期	3年、4年	1	選択
担当教員			
永田恵実子			
添付ファイル			

テーマ	幼稚園教育実習に向けての準備、および実習後の反省と自己評価に基づき実習を総括し、その上で新たな自己課題を明確にする。
授業計画	<p>第1回. 実習の意義と目的、実習の方法と内容</p> <p>第2回. 幼稚園の1日、幼稚園での子どもの様子</p> <p>第3回. 子どもの理解と幼稚園教諭の仕事</p> <p>第4回. 実習記録の意義と日誌の書き方①—基本的な記述の理解</p> <p>第5回. 日誌の書き方②—よい日誌とは何かを理解する</p> <p>第6回. 指導案の書き方①—基本的な指導案について</p> <p>第7回. 指導案の書き方②—より良い指導案を理解し作成する</p> <p>第8回. 実習オリエンテーション（1週間実習）</p> <p>第9回. 実習の振り返りと報告会</p> <p>第10回. 3週間実習に向けて（自己課題の設定）</p> <p>第11回. 一日責任実習指導案について</p> <p>第12回. 実習オリエンテーション（3週間実習）</p> <p>第13回. 実習の振り返りと自己評価</p> <p>第14回. 反省報告会</p> <p>第15回. 個別指導</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】幼稚園教育実習の意義と目的を理解し、自らの課題を明確にする。講義や現場の保育者の話を通して子どもへの理解を深め、日誌の書き方・指導案作成や保育教材に関する知識と技術を身に付け、実習に向けた準備を整える。実習後は実習の反省と自己評価を行ったうえで、新たな自己課題と学習課題を明確にする。</p> <p>【到達目標】実習指導を通して実習を完遂し、幼稚園教諭免許を取得し、学士（子ども学）授与に向けて取り組む。各自毎回の授業の準備、ふりかえりを行うこと。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、コミュニケーション・スキル、自己管理能力、問題解決力、を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『実習の手引き』（本学作成） 著者：静岡福祉大学編</p> <p>テキスト名：『指導計画の考え方・立て方』第2版 ISBNコード：978-4-89347-248-9 出版社：萌文書林 著者：久富陽子編 価格（税抜）：1,800円</p> <p>その他：幼稚園教育要領</p>
参考文献	随時、紹介する。

成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	受講態度（50％）と、レポート・関係書類・課題等の提出状況とその内容（50％）により、総合的に評価する。授業の性質上、出席は必須とする。 前半実習と後半実習の各事後指導を通して、フィードバックを行う。
質問・相談の受付方法	授業終了時、メール、研究室在室中は随時（アポイントを取ってから来てください）。
履修条件	【必須要件】 ～2018年度生：下記 4 科目を単位取得済みであること。 「教育原理」「教育・保育課程論」「教職・保育者論」「教育心理学」  2019年度生～：下記 8 科目を単位取得済み、もしくは履修中であること。 「教育原理」／「教職・保育者論」または「教職論」 「教育心理学」／「教育・保育課程論」または「教育課程論」 「保育内容総論」「音楽Ⅱ」「造形表現Ⅱ」「保育内容（環境Ⅱ）」
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	幼稚園教諭免許を取得するための、幼稚園教育実習に向けた授業です。この授業は学内勤務と同様の意味があるので、欠席・遅刻をしないように体調を整えて授業に臨みましょう。累計2回を超える欠席（忌引および感染症による出席停止を除く）の場合は単位の修得を認めませんので、そのつもりで受講してください。  担当教員の現場経験を生かしながら、実践的な学びを進めます。  ※なお以下の場合、原則として本科目も不可となる可能性があります ①幼稚園教育実習が不可の場合 ②履修条件にある実習内規科目を「履修中」で実習に臨み、結果的にその年度で当該内規科目が不可となった場合 ③課題や提出書類を期限内に提出できない場合 ④授業に欠席や遅刻をして、実習の準備が滞った場合
準備学習について	すでに体験済みのこれまでの実習を振り返り、幼稚園の子どもたちをイメージしながら、教材研究や部分実習の指導案などを考えましょう。 事前学習は、各回の課題に関わる相当の時間を準備学習にあてる（2時程度）。 さらに、グループ学習（2時間程度）を行い、各課題について学ぶ。 事後学習は、授業後の課題や新たな問題に向けて主体的に取り組む（2時間程度）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期、前期	3年、4年	4	選択
担当教員			
永田恵実子			
添付ファイル			

テーマ	幼稚園教育の実際、幼稚園教諭の仕事および子どもについて理解を深める。
授業計画	<p>1 幼稚園の一日の流れを理解する（子どもの活動・保育環境・保育者の援助など）</p> <p>2 幼稚園教育課程・保育計画・指導計画について理解する</p> <p>3 子どもの観察やかかわりを通して、幼児の心身の発達を理解する</p> <p>4 幼稚園教諭の職務内容や倫理、社会的な役割および職員間の連携について理解する</p> <p>5 一日の保育を日誌に記録し、省察する態度を身につけ、子どもへの理解を深める</p> <p>6 部分実習の指導案を作成し、生活や遊びなどの一部分を担当する（部分実習）</p> <p>7 一日の保育指導案を作成し、それに基づいて保育実践を行い、個々の子どもを把握する力を養う</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】幼稚園における観察実習を通して、幼稚園教諭としての仕事や園の一日の流れをに対する理解を深める。また、部分実習・責任実習を通して指導計画や援助・支援の実際を体験し、実践力を身につける。さらに実習園での指導を通して、自己のあり方や課題を明確にする。</p> <p>【到達目標】実習履修により幼稚園教諭免許を取得し、学士（子ども学）授与に向けて取り組む。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、コミュニケーション・スキル、自己管理能力、問題解決力、を身につけることができる。</p>
テキスト	『実習の手引き』（「保育実習Ⅰ」で既に使用しているテキストです。購入は不要です）
参考文献	『幼稚園教育要領』文部科学省
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	実習園の評価（50%）、日誌（40%）、個別指導教員による評価（10%）を点数化して評価する。事後指導を通して、フィードバックを行う。
質問・相談の受付方法	授業前後、メール、研究室在室中は随時（アポイントを取ってきてください）
履修条件	<p>【必須要件】</p> <p>～2018年度生：下記 4 科目を単位取得済みであること。 「教育原理」「教育・保育課程論」「教職・保育者論」「教育心理学」</p> <p>2019年度生～：下記 8 科目を単位取得済み、もしくは履修中であること。 「教育原理」／「教職・保育者論」または「教職論」 「教育心理学」／「教育・保育課程論」または「教育課程論」 「保育内容総論」「音楽Ⅱ」「造形表現Ⅱ」「保育内容（環境Ⅱ）」</p>
特別学生の履修可否	科目等履修生 【不可】 聴講生 【不可】
メッセージ	<p>幼稚園教諭免許を取得するための、幼稚園教育実習に向けた授業です。この授業は学内勤務と同様の意味があるので、欠席・遅刻をしないように体調を整えて授業に臨みましょう。累計2回を超える欠席（忌引および感染症による出席停止を除く）の場合は単位の修得を認めませんので、そのつもりで受講してください。担当教員の現場経験を生かしながら、実践的な学びを進めます。</p> <p>なお以下の場合、原則として本科目も不可となる可能性があります</p> <p>①幼稚園教育実習指導が不可の場合 ②履修条件にある実習内規科目を「履修中」で実習に臨み、結果的にその年度で当該内規科目が不可となった場合 ③課題や提出書類を期限内に提出できない場合 ④欠席や遅刻をして、連絡が遅れたり、実習の準備が滞った場合</p> <p>幼稚園教育実習は大学生活最後の実習で実習期間も長いので、体調を整えて実習に臨みましょう。また、これまで学んだ知識や技術、種々の実習での反省を活かし、実りの多い実習となるように努力しましょう。</p>

	※必ず最後のレポート提出と事後報告会には出席してください。
準備学習について	すでに体験済みのこれまでの実習を振り返り、幼稚園の子どもたちをイメージしながら、教材研究や部分実習の指導案などを考えましょう。 事前学習は、各回の課題に関わる相当の時間を準備学習にあてる（2時程度）。 事後学習は、課題の振り返り、記録指導案作成（3時間程度）を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	2	選択
担当教員			
永田恵実子、木戸直美			
添付ファイル			

テーマ	幼稚園教職課程科目の履修履歴(教育実習を含む)や様々な活動を通して、保育者として必要な資質能力が実践力として有機的に統合され、形成されたかを確認する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 保育者としての使命感や責任感、教育的愛情等に関する探求① 保育実践者</p> <p>第3回 保育者としての使命感や責任感、教育的愛情等に関する探求② 子ども理解</p> <p>第4回 保育者としての使命感や責任感、教育的愛情等に関する探求③ 遊びと環境づくり</p> <p>第5回 保育者としての社会性や対人関係能力等に関する探求① 現場保育者の講話</p> <p>第6回 保育者としての社会性や対人関係能力等に関する探求② 年間行事</p> <p>第7回 保育者としての社会性や対人関係能力等に関する探求③ 職場体制</p> <p>第8回 幼児への理解と学級経営等に関する探求① 現場保育者の講話</p> <p>第9回 幼児への理解と学級経営等に関する探求② 保護者対応</p> <p>第10回 幼児への理解と学級経営等に関する探求③ 通信・連絡帳</p> <p>第11回 幼稚園保育内容等の指導力等に関する探求① 模擬保育(グループA)</p> <p>第12回 幼稚園保育内容等の指導力等に関する探求② 模擬保育(グループB)</p> <p>第13回 幼稚園保育内容等の指導力等に関する探求③ 模擬保育(やり直しのグループ)</p> <p>第14回 保育実践力の総合的探求</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】保育者としての実践力について、使命感・責任感・教育的愛情、社会性・対人関係能力幼児への理解力・学級経営、保育内容の指導力などの観点で、それらの習得状況を総合的に診断・指導する。ロールプレイング、グループワーク、実技指導、事例研究、模擬保育などの方法を取り入れ、より実践的な学習とする。</p> <p>【到達目標】4年間の学びのまとめとして、幼稚園免許取得の上に、学士(子ども学)に向けて取り組む。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、課題を解決へと導く力、及び「学士力」の構成要素の一つである、これまで獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力、を身につけることができる。</p>
テキスト	テキストは指定しません。随時資料を配布します。
参考文献	「個人履修カルテ」(個別記入ワークシート) 教職課程の各科目で使用したテキスト等
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	授業への姿勢、課題提出物(内容、提出期限も含める)などの平常点50% 課題レポート・プレゼンテーション50% 個別や、グループ課題は、授業内でフィードバックする。
質問・相談の受付方法	授業の前後、担当教員のオフィスアワー時などに受け付ける。

履修条件	保育士資格と幼稚園教諭免許取得予定の者。
特別学生の履修可否	科目等履修生 【不可】 聴講生 【不可】
メッセージ	現場保育者、社会人を意識、想定しながらの授業参加を求める。 授業担当者の現場経験を十分に生かし、実践的な学びの場とする。
準備学習について	現場保育者、社会人を意識し、主体的に取り組む。 事前学習は、探求テーマに関わる下調べや資料準備を行う（2時間程度）とグループ課題学習（2時間程度） 事後学習は、振り返りと新たな課題を整理する（2時間程度）を行う。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
村松幹子			
添付ファイル			

テーマ	保育士として必要な乳児保育の基礎知識を理解し、習得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 自己紹介 授業の進め方について 保育所における乳児保育の視聴（ビデオ）</p> <p>第2回 乳児保育の意義・目的・歴史の変遷 講義（エピソードを通して） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第3回 乳児保育の現状と課題 講義（社会的状況の把握から） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第4回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈1〉 社会的発達 講義（具体的な保育の場面からの理解） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第5回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈2〉 身体的発達 講義（発達のめやす 写真からの理解） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第6回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈3〉 精神的発達 講義（保育の写真を参考に） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第7回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈4〉 自己の形成 講義（具体的な保育場面から） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第8回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈5〉 集団の中の育ち 講義（保育の写真を参考に） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】保育所保育指針第2章1項、2項を一読しておく（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第9回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本 〈1〉 保育者のかかわりの基本 講義（エピソードなどから） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第10回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本 〈2〉 保育所と保護者との連携 講義（おたよりを参考に） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第11回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本 〈3〉 3歳未満児の生活と環境 講義（保育所での実践例を使いながら）</p>

	<p>わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第12回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本〈4〉3歳未満児の遊びと環境 講義（保育所での実践例を使いながら）</p> <p>わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第13回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本〈5〉2歳から3歳への移行期の保育 講義（保育所での実践例を使いながら）</p> <p>わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第14回 乳児保育の計画・記録・評価の意味 講義（保育所での実践例を使いながら）</p> <p>わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第15回 連携と協働 職員間・関係機関・保護者 講義（具体的な事例から）</p> <p>わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 乳児保育の意義と目的、3歳未満児の発達の理解 毎回の授業の冒頭においてわらべうたを1曲ずつ、覚えていく。</p> <p>【到達目標】 乳児保育に必要な基礎知識を身に付け、実践へとつなげる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：乳児保育の理論と実践 I S B N：978-4-332-70196-5 出版社：光生館 著者名：阿部和子・大方美香 編著 価格（税別）：本体1,900円</p>
参考文献	保育所保育指針
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 授業への意欲・授業の中で行われる10回の小テストの合計点（100点満点）で評価する。</p> <p>【フィードバック方法】 学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う</p>
質問・相談の受付方法	授業終了時・随時
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】聴 講 生 【可】
メッセージ	保育園園長として20年余り、授業の中で経験と実践に基づく具体的な見識を伝えていこうと思います。毎回の授業で保育の場で実際に活用しているわらべうた等を学びます。また授業においては事例やエピソード、写真、動画等ををふんだんに活用して進めていきます。
準備学習について	<p>【事前学習】授業内で提示する。次回授業までに行っておくこと 【事後学習】毎回の授業でわらべうたを学ぶ。楽譜等を配布するので必ず、ファイリングし、復習しておく。小テストに備えた授業の振り返り</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1	選択
担当教員			
村松幹子			
添付ファイル			

テーマ	乳児保育の基礎知識に基づき、実践について学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方 授業内容について、乳児保育Ⅰの振り返り</p> <p>【事前学習】乳児保育Ⅰの振り返りをしておく（1時間） 【事後学習】写真絵本作成の計画立案（1時間）</p> <p>第2回 子どもと保育者のかかわりの基本 〈1〉子どもの主体性を尊重した関わり 講義（実践から学ぶ：保育の写真を参考に） 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）パフォーマンスの準備 【事後学習】ポイントのまとめ、振り返り</p> <p>第3回 子どもと保育者のかかわりの基本 〈2〉共感的・受容的・応答的な関わり：0歳児 講義（写真からの気づき） 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）パフォーマンスの準備 【事後学習】ポイントのまとめ、振り返り</p> <p>第4回 子どもと保育者のかかわりの基本 〈3〉共感的・受容的・応答的な関わり：1歳児 講義（写真とエピソードから） 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）パフォーマンスの準備 【事後学習】ポイントのまとめ、振り返り</p> <p>第5回 子どもと保育者のかかわりの基本 〈4〉共感的・受容的・応答的な関わり：2歳児 講義（エピソードを読んでグループワーク） 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）パフォーマンスの準備 【事後学習】ポイントのまとめ、振り返り</p> <p>第6回 乳児保育における発育や発達をふまえた生活と遊びの実践 〈1〉1日の流れ 講義（実際の日課から） 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）パフォーマンスの準備 【事後学習】ポイントのまとめ、振り返り</p> <p>第7回 乳児保育における発育や発達をふまえた生活と遊びの実践 〈2〉環境の構成 講義（保育室をどう、整えるか） 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）パフォーマンスの準備 【事後学習】ポイントのまとめ、振り返り</p> <p>第8回 乳児保育における発育や発達をふまえた生活と遊びの実践 〈3〉生活と援助の実践 講義（具体的な対応の実践 授乳・食事・排泄・睡眠・着脱等） 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）パフォーマンスの準備 【事後学習】ポイントのまとめ、振り返り</p> <p>第9回 乳児保育における発育や発達をふまえた生活と遊びの実践 〈4〉遊びと援助の実践 講義（具体的な場面と結びつけながら） 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）パフォーマンスの準備 【事後学習】ポイントのまとめ、振り返り</p> <p>第10回 乳児保育における発育や発達をふまえた生活と遊びの実践 〈5〉子ども同士の関わりと援助の実践 講義（エピソードから考える・・・グループワーク） 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）パフォーマンスの準備 【事後学習】ポイントのまとめ、振り返り</p> <p>第11回 乳児保育における配慮の実践 健康・安全・情緒の安定 講義（実践事例と照らし合わせて） 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間）パフォーマンスの準備 【事後学習】ポイントのまとめ、振り返り</p> <p>第12回 乳児保育における配慮の実践 環境の変化・集団生活 講義（実際の遊びを通して実感する） 【事前学習】事前にテキスト該当ページを一読し、把握しておく（1時間）パフォーマンスの準備 【事後学習】写真絵本の準備</p>

	<p>第13回 乳児保育における計画 (1) 長期的な指導計画と短期的な指導計画  講義 (日案の作成をしてみる) 写真絵本の披露  【事前学習】 事前にテキスト該当ページを一読し、把握しておく (1時間) パフォーマンスの準備  【事後学習】 ポイントのまとめ、振り返り</p> <p>第14回 乳児保育における計画 (2) 個別計画と記録・評価  講義 (具体的な事例に落とし込んでみる)  【事前学習】 事前にテキスト該当ページを一読し、把握しておく (1時間)  【事後学習】 ポイントのまとめ、振り返り</p> <p>第15回 乳児保育の実践 まとめ  講義 (エピソードを読んでグループワーク)  【事前学習】 これまでの振り返りと内容の確認  【事後学習】 授業全体の振り返り</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】  乳児保育のための具体的な実践方法の理解  毎回の授業においてわらべうた、絵本のパフォーマンス  写真絵本の作成と披露</p> <p>【到達目標】  乳児保育における多面的な配慮の実際を身に付ける</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】  この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名： 乳児保育の理論と実践  ISBN:978-4-332-70196-5  出版社：光生館  著者名：阿部和子・大方美香  価格 (税別)：1,900円</p>
参考文献	<p>保育所保育指針</p>
成績評価の基準・方法及び課題 (試験やレポート) に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】  授業への意欲・グループワークへの参加態度 (20%) パフォーマンス：わらべうた・絵本 (20%)  写真絵本作成 (20%) 小テスト (40%)</p> <p>【フィードバック方法】  学内制度 (成績評価問い合わせ制度) を通じて行う</p>
質問・相談の受付方法	<p>授業終了時・随時</p>
履修条件	<p>特になし</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】</p>
メッセージ	<p>保育の現場において保育士として、園長として多くの乳児たちとかわって来ました。そこで得た見識や具体的な支援の方法などを伝えていきたいと思えます。  全ての授業において素材として勤務する自園の取り組みを活用して学んでいきます。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】 パフォーマンスの準備  【事後学習】 授業の振り返り</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
草深光子			
添付ファイル			

テーマ	子どもを取り巻く環境を学び、発育・発達過程における健康保持・増進の意義、また、子どもに起こりやすい疾病とその予防法などを理解する。
授業計画	<p>第1回 子どもと体の健康と保健の意義① 生命の保持と情緒の安定のための保健活動の意義と目的 健康の概念と健康指標 【テキスト頁】 P. 1～24</p> <p>第2回 子どもと体の健康と保健の意義② 現代社会における子どもの健康の現状と課題 母子保健施策 【テキスト頁】 P. 25～38</p> <p>第3回 子どもと体の健康と保健の意義③ 地域における保健活動と子どもの虐待防止 【テキスト頁】 P. 39～50</p> <p>第4回 子どもの発育・発達と保健① 身体発育および運動機能の発達と保健 【テキスト頁】 P. 51～64</p> <p>第5回 子どもの発育・発達と保健② 生理機能の発達と保健 【テキスト頁】 P. 65～76</p> <p>第6回 子どもの心身の健康状態とその把握① 健康状態の観察および心身の不調等の早期発見 【テキスト頁】 P. 77～88</p> <p>第7回 子どもの心身の健康状態とその把握② 発達・発育の把握と健康診断 【テキスト頁】 P. 89～100</p> <p>第8回 子どもの心身の健康状態とその把握③ 保護者との情報共有 【テキスト頁】 P. 101～110</p> <p>第9回 子どもの疾病の予防及び適切な対応① 主な疾病の特徴① 新生児の病気、先天性の病気 【テキスト頁】 P. 111～122</p> <p>第10回 子どもの疾病の予防及び適切な対応② 主な疾病の特徴② 循環器、呼吸器、血液、消化器の病気 【テキスト頁】 P. 123～134</p> <p>第11回 子どもの疾病の予防及び適切な対応③ 主な疾病の特徴③ アレルギー、免疫、腎泌尿器、内分泌の病気 【テキスト頁】 P. 135～146</p> <p>第12回 子どもの疾病の予防及び適切な対応④ 主な疾病の特徴④ 脳の病気、そのほかの病気 【テキスト頁】 P. 147～158</p> <p>第13回 子どもの疾病の予防及び適切な対応⑤ 主な疾病の特徴⑤ 感染症① 感染症の予防と対策・対応について 【テキスト頁】 P. 159～170</p> <p>第14回 子どもの疾病の予防及び適切な対応⑥ 主な疾病の特徴⑥ 感染症② 子どものかかりやすい感染症について 【テキスト頁】 なし（資料は用意します）</p> <p>第15回 子どもの疾病の予防及び適切な対応⑦ 子どもの疾病の予防と適切な対応 【テキスト頁】 P. 171～186</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 子どもが心身ともに健やかに成長発達するために、専門職として健康の保持増進、疾病に関する知識・技術を習得する。</p> <p>【到達目標】 子どもの心身の発育・発達を理解し、健康の保持・増進や感染防御、関連機関との連携などの方法を知る。</p>

	<p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自ら立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>1) テキスト名：新基本保育シリーズ11 子どもの保健 ISBN:978-4-8058-5791-5 出版社：中央法規 著者名：松田博雄、金森三枝（編著） 価格（税抜）：2,000円</p>
参考文献	必要と思われる文献等は、適宜、講義の中で紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 講義後のリアクションペーパー（30%）、提出期限指定のレポート内容（30%）、学期末の筆記試験または課題レポート（40%）で評価する。 <b>【フィードバックの方法】</b> ・期末試験や期末レポートに関するフィードバックは、学内制度（成績問い合わせ制度）を通じて行う。 ・小レポートを回収した次の回の授業内でコメントをつけて返却する。</p>
質問・相談の受付方法	質問は、授業中または講義終了後に受け付ける。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【希望的要件】1年次に「生命の倫理」「医学知識」を履修していることが望ましい。</li> <li>・指定のテキストを用意し、講義には必ず持参すること。</li> <li>・講義を欠席した場合は、次回講義までに欠席時の講義内容を各自で確認すること。</li> </ul>
特別学生の履修可否	科目等履修生 <b>【不可】</b> 聴講生 <b>【不可】</b>
メッセージ	健康な子どもであっても、成長発達過程で何らかの疾患を患ったり怪我をすることがあります。こどもの日常の様子を観察する力を身につけることで、子どもの小さな変化に気づくことができるようになります。そのために「子どもの保健」についての知識や技術が必要になります。看護師としての知識や自身の子育ての経験を基に、わかりやすく伝えられるように努めます。
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 授業計画欄にテキスト該当頁を記載しているので、事前にテキストで次回授業内容を確認の上、わからない（用語、単語、内容）があるときは、（辞書、新聞、関連書籍、インターネットなど）で予め調べてから授業に臨んでください（2時間）。 <b>【事後学習】</b> 授業で配布する資料を基に、授業時間外で振り返りを行うようにしてください（1時間）。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
平岡篤武			
添付ファイル			

テーマ	今日の子どもや保護者を取り巻く社会環境は大きく変化しており、大変ストレスの多い教育環境である。教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築くための力を育み、集団適応力、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童及び生徒の発達の状況に対応しながら、個々の心理的特性や教育的課題、保護者の状況などを適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義や理論、技法に関する基礎知識を含む）を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、 教育相談の位置づけと必要性</p> <p>第2回 教育相談に必要なメンタルヘルス知識①（青年期まで）</p> <p>第3回 教育相談に必要なメンタルヘルス知識②（青年期以降）</p> <p>第4回 教育相談の実際①（発達障害の理解と対応）</p> <p>第5回 教育相談の実際②（不登校の理解と対応）</p> <p>第6回 教育相談の実際③（いじめの理解と対応）</p> <p>第7回 教育相談の実際④（非行の理解と対応）</p> <p>第8回 教育相談の実際⑤（自傷・自殺の理解と対応）</p> <p>第9回 教育相談の実際⑥（虐待の理解と対応）</p> <p>第10回 教育相談の実際⑦（保護者支援の理解と対応）</p> <p>第11回 教育相談に役立つ技法と連携</p> <p>第12回 教育相談に必要な基礎的知識と技法の演習①（効果的コミュニケーションの基礎）</p> <p>第13回 教育相談に必要な基礎的知識と技法の演習②（ペース合わせ、質問、応答）</p> <p>第14回 教育相談に必要な基礎的知識と技法の演習③（明確化、リフレーミング、ねぎらい）</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業概要】</b> 本授業は、1. 教育相談の意義と理論 2. 教育相談の方法（カウンセリングの基礎的事項を含む）3. 教育相談の実際と組織的な取り組みや連携、という理論と方法に関して行われる。学校というコミュニティで行われる教育相談が、どのような対象に、どのように行われるのか、適宜ロールプレイやグループディスカッションを取り入れながら主体的に学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> ・学校における教育相談の意義と理論（心理学の基礎的な理論・概念を含む）を理解している。 ・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解し、幼児、児童及び生徒の不応答や問題行動の意味並びに彼らの発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。 ・受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。 ・職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。 ・幼児、児童及び生徒が表す行動に対する発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。 ・教育相談計画の作成や学校内の教師や他のスタッフ（SCやSSWなど）との連携及び学校外の専門機関との連携の意義や必要性を理解できる。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与の方針との関連】</b> ・この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、課題を解決へ導く力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力、チームワーク、リーダーシップ、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題に</p>

	それらを適用し、その課題を解決できる能力を身につけることができる。
テキスト	テキスト名：N e x t 教科書シリーズ 教育相談 第2版 I S B N : 9784335002519 出版社：弘文堂 著者名：津川律子・山口義枝・北村世都編著 価格（税抜）：2200円
参考文献	テキスト名：生徒指導提要（改訂版） ISBN: 出版社：文部科学省 令和4年12月 著者名：文部科学省 価格（税抜）：市販されていない（文科省サイト <a href="https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt_jidou02-000024699-001.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt_jidou02-000024699-001.pdf</a> で閲覧、ダウンロード可）。 テキスト名：児童生徒の教育相談の充実について－生き生きとした子供を育てる相談体制づくり－ ISBN: 出版社：文部科学省「教育相談に関する調査研究協力者会議」 平成21年3月 著者名：文部科学省 価格（税抜）：市販されていない（文科省サイト <a href="https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2010/01/12/1287754_1_2.pdf">https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2010/01/12/1287754_1_2.pdf</a> で閲覧、ダウンロード可）。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】 学生に対する評価：学期末のレポートまたは試験で評価する。 【フィードバック方法】 期末試験や期末レポートに関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室にて受け付ける。
履修条件	子ども学科のみ履修可
特別学生の履修可否	科目等履修生 【不可】 聴 講 生 【不可】
メッセージ	児童相談所や児童心理治療施設で30年、スクールカウンセラー、乳児院、及び児童相談所のスーパーバイザーとして約10年の臨床経験を背景に授業を進めていきます。
準備学習について	【事前学習】 ・毎回授業内で予習内容を提示します。次回授業までに行うようにしてください（1時間） 【事後学習】 ・毎回授業で確認（小テストまたは小レポート）を実施します。授業時間外で振り返りを行うようにしてください。（1時間）



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
小林広昭			
添付ファイル			

テーマ	小学校算数科の目標及び内容についての理解と授業づくりに必要な見方・考え方を養う。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業・学修の進め方） 算数と私：学生自身の算数に対する思いと経験を振り返り、本講義におけるめあてを明らかにする。</p> <p>第2回 算数教育の歴史1：戦前までの日本の算数教育についての理解 日本の算数・数学教育の歴史と黒表紙、緑表紙教科書の内容に触れ、学生が学んだ算数・数学との違いを理解する。</p> <p>第3回 算数教育の歴史2：戦後の学習指導要領の変遷 戦後の学習指導要領の改訂の流れについて理解するとともに、学生自身が学んだ算数・数学の授業の実際について振り返り、小グループでディスカッションする。</p> <p>第4回 現行学習指導要領の意図の目標 学習指導要領の用語の理解を深めるとともに、これまでの算数・数学教育との違いを明らかにする。</p> <p>第5回 「数と計算」①：下学年の数と計算の内容（教材研究と指導の実際） 内容を概観するとともに、いくつかの内容について教科書の扱いとその指導の具体について、グループでディスカッションし、目指す授業を探る。</p> <p>第6回 「数と計算」②：上学年の数と計算の内容（教材研究と指導の実際） 内容を概観するとともに、いくつかの内容について教科書の扱いとその指導の具体について、グループでディスカッションし、目指す授業を探る。</p> <p>第7回 「図形」①：幼保との関連と下学年の図形の内容（教材研究と指導の実際） 内容を概観するとともに、いくつかの内容について教科書の扱いとその指導の具体について、グループでディスカッションし、目指す授業を探る。</p> <p>第8回 「図形」②：上学年の図形（教材研究と指導の実際） 内容を概観するとともに、いくつかの内容について教科書の扱いとその指導の具体について、グループでディスカッションし、目指す授業を探る。</p> <p>第9回 「測定」：量の比較と測定（教材研究と指導の実際） 内容を概観するとともに、いくつかの内容について教科書の扱いとその指導の具体について、グループでディスカッションし、目指す授業を探る。</p> <p>第10回 「変化と関係」（教材研究と指導の実際） 内容を概観するとともに、いくつかの内容について教科書の扱いとその指導の具体について、グループでディスカッションし、目指す授業を探る。</p> <p>第11回 「データの活用」：下学年から上学年へのつながり（教材研究と指導の実際） 内容を概観するとともに、いくつかの内容について教科書の扱いとその指導の具体について、グループでディスカッションし、目指す授業を探る。</p> <p>第12回 生活の中の算数：身の回りにある算数からの考察 これまでの学習指導要領の内容と生活の中の算数とのつながりをグループワークで探りプレゼンテーションする。算数を学習することのよさについて理解を深める。</p> <p>第13回 ICTと算数 算数の内容とICTの活用場面をグループワークで探り、その有効性についてディスカッションする。</p> <p>第14回 算数と数学との関連 中学校・高等学校における数学と算数のつながりについて、グループワークで探り、全体でディスカッションする。</p> <p>第15回 これからの算数教育 算数・数学を学ぶ意義について、これまでの学習を踏まえてグループワークで検討し、プレゼンテーションする。それを受けて、算数の学習について自分の考えをまとめる。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 事前に予習課題を提示するので、各自、取り組み、疑問点・課題を明らかにしておく。その上で、具体的な内容や場面に応じて、自らの算数の学習経験と児童用教科書等をもとに、望まれる授業像について、グループワークやディスカッションを通して、明らかにしていく。学習指導要領の記述は、難しい面があるが、できるだけ具体的な事例や自分自身の言葉で理解し、授業づくりにつなげていけるようにする。毎回の授業において、主体的に自らの考えをもち、対話を通して、算数・数学に対する見方・考え方を深めていくことをねらいとする。</p> <p>【到達目標】 ①算数科の目標と内容について、資質・能力の育成という面から理解する。 ②自らの算数授業の経験と学習指導要領、児童用教科書をもとに、目指すべき算数の授業像を明らかにしていく。 ③グループワークやディスカッションを通して、協働的な学びを体験するとともに、模擬授業づくりへの素地を養う。 ④算数・数学への興味・関心を高める。</p>

	<p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素である、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力、表現と創造する力及び「学士力」の構成要素である、論理的思考力、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決できる能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：出版社：「小学校学習指導要領解説(平成29年告示)算数編」 ISBN：978-4-536-59010-5 出版社：日本文教出版 著者名：文部科学省 価格(税抜)：224円</p>
参考文献	<p>「幼稚園教育要領解説(平成30年3月)」文部科学省 「中学校学習指導要領解説 数学編 平成29年7月」文部科学省</p>
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 ①予告して、小テスト(40%) 小学校学習指導要領の基本用語について ②算数科における基本用語について、調べ、プレゼンテーションを行う。(30%) ③グループワークやディスカッションへの取り組みと毎時間に実施する振り返り(15%) 自分自身の課題意識をもち、自らの考えを表現する。他の意見を吸収し、学びを深めることができる。 ④最終講義での振り返り(15%)</p> <p>【フィードバック方法】 通常のフィードバックは授業内や次時の授業で行う。最終講義の振り返り、期末試験に関するフィードバックは学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	<p>講義終業後、及びオフィスアワー</p>
履修条件	<p>特になし</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】</p>
メッセージ	<p>小学校での担任経験21年、管理職経験15年を生かして、算数の授業づくりの楽しさを学んでほしいと思います。算数・数学が苦手だった人、得意だった人、それは、思い込みかもしれません。これからの算数に求められる資質・能力の育成、授業づくりの基礎になることについて、具体をもとに学んでいきましょう。</p>
準備学習について	<p>○事前学習 毎回、次回まで取り組むべき課題について提示します。ただ、取り組むだけでなく、自らの課題や疑問点を明らかにしておいてください。(1.5時間) ○事後学習 返却される小テスト、振り返り等は、授業中のフィードバックとともに、見直しをし、学習の仕方についての評価・改善を行ってください。(1時間)</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
小林広昭			
添付ファイル			

テーマ	これからの算数の授業づくりに必要な教材研究、指導法、児童理解について具体的な事例を通して学び、教師としての実践力を高める。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（講義のねらいと進め方、前提となる知識・技能の確認） 算数の授業づくりは、難しいのか？ディスカッションし、授業づくりに必要な要素を理解する。</p> <p>第2回 学習指導要領改訂の主旨と算数科の目標と目指す授業 算数科における資質・能力、数学的な活動、数学的な見方・考え方、算数における主体的・対話的で深い学びについて理解し、目指す授業像を明らかにする。</p> <p>第3回 算数科の目指す授業の実現と学習指導案の作成 目指す授業実現のために教師に求められるもの、算数科学習指導案についての理解。</p> <p>第4回 算数科学習指導案の作成・改善① 選択した内容について教材研究、学習指導案を作成する。</p> <p>第5回 算数科学習指導案の作成・改善② グループごとに、算数科学習指導案の検討と改善を行う。</p> <p>第6回 算数科学習指導案の作成・改善③ 全体での算数科学習指導案作成の留意点をもとに、グループで再検討をし、改善修正を行う。</p> <p>第7回 模擬授業の実践①「数と計算」領域 算数科学習指導案による模擬授業と授業研究会を行う。授業を見る視点と研究会の進め方と教材研究の方法とその生かし方の理解</p> <p>第8回 模擬授業の実践②「数と計算」領域 算数科学習指導案による模擬授業と授業研究会を行う。授業を見る視点と研究会の進め方と教材研究の方法とその生かし方の理解</p> <p>第9回 模擬授業の実践③「図形」領域 算数科学習指導案による模擬授業と授業研究会を行う。授業を見る視点と研究会の進め方と教材研究の方法とその生かし方の理解</p> <p>第10回 模擬授業の実践④「図形」領域 算数科学習指導案による模擬授業と授業研究会を行う。授業を見る視点と研究会の進め方と教材研究の方法とその生かし方の理解</p> <p>第11回 模擬授業の実践⑤「測定」領域 算数科学習指導案による模擬授業と授業研究会を行う。授業を見る視点と研究会の進め方と教材研究の方法とその生かし方の理解</p> <p>第12回 模擬授業の実践⑥「変化と関係」領域 算数科学習指導案による模擬授業と授業研究会を行う。授業を見る視点と研究会の進め方と教材研究の方法とその生かし方の理解</p> <p>第13回 模擬授業の実践⑦「データの活用」領域 算数科学習指導案による模擬授業と授業研究会を行う。授業を見る視点と研究会の進め方と教材研究の方法とその生かし方の理解</p> <p>第14回 模擬授業の実践⑧ 算数科学習指導案による模擬授業と授業研究会を行う。授業を見る視点と研究会の進め方と教材研究の方法とその生かし方の理解</p> <p>第15回 資質・能力の育成を目指す授業づくりについて振り返り、成果と課題をまとめる。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 学習指導要領の内容について領域ごとに理解を深め、小グループで担当を決め、学習指導案を作成、プレゼンテーションを行う。それを受け、全体でディスカッションをし、指導案検討の手法を学ぶ。さらに、学習指導案の改善を図り、模擬授業、授業研究会を行い、実際の授業づくり、授業実践、授業評価の手法について理解を深めていく。授業づくりという問題解決のプロセスを経験し、学生自身の主体的・対話的で深い学びを促し、実践力を高めていく。</p> <p>【到達目標】 ①算数科の目標と内容について、授業づくりを通して、理解を深める。 ②学習指導案について理解し、学習指導要領、児童用教科書を参考にして、目指す授業を実現する学習指導案を作成できる。 ③模擬授業や授業研究会を経験し、教材研究、学習指導法、児童理解・評価について理解を深め、実践力を高める。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素である、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力、表現と創造する力及び「学士力」の構成要素である、論理的思考力、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決できる能力を身につけることができる。</p>

テキスト	<p>テキスト名：出版社：「小学校学習指導要領解説(平成29年告示)算数編」  ISBN：978-4-536-59010-5  出版社：日本文教出版  著者名：文部科学省  価格(税抜)：224円</p>
参考文献	<p>「幼稚園教育要領解説(平成30年3月)」文部科学省  「中学校学習指導要領解説 数学編 平成29年7月」文部科学省</p>
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】  ①小学校学習指導要領についての小テスト(20%)  ②模擬授業の学習指導案と模擬授業の振り返り(40%)  学生自身の学修への取り組み、態度とその成果や変容について、記述する。  ③毎時間の取り組み態度と振り返り(20%)  ④最終講義での振り返り(20%)  【フィードバック方法】  通常のフィードバックは授業内や次時の授業で行う。  最終講義の振り返り、成績に関するフィードバックは学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終業後、及びオフィスアワー
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	<p>資質・能力の育成を目指す算数科の授業づくりは、難しい課題です。だからこそ、挑戦する価値のある課題でもあります。上手な授業をすることが目的ではありません。教師として、子どもたちのための授業づくりのプロセスを学んでほしいと思います。小学校での担任経験21年、管理職経験15年を生かして、少しでもみなさんと楽しいけど楽しい算数の授業づくりの時間を過ごしたいと思います。</p>
準備学習について	<p>事前学習：  ①算数科学習指導案の作成と模擬授業を行う内容について、小学校学習指導要領解説(平成29年告示)算数編を読んで理解しておく。(1.5時間)  ②第1回目の授業で模擬授業の学習指導案作成のグループ編成と分担を決めます。発表前にそのグループと分担に沿って、学習指導案の作成(分担ごとに3時間～)  ③ディスカッション後にそこで意見を受け、学習指導案の修正・改善をし、模擬授業の準備を行う。(2時間～)  事後学習：  ①毎授業後に各自振り返りをし、次の課題解決に生かせるようにする。(1時間)  ②模擬授業後には、個人で、そこまでの取り組みと振り返りをレポートにまとめること。(1.5時間)</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	選択
担当教員			
木村光男			
添付ファイル			

テーマ	小学校学習指導要領解説生活編に示された教科の目標、育成を目指す資質・能力を理解し、これまでに蓄積した生活科の特質・学習指導理論を踏まえ、単元構想・授業計画及び模擬授業を行う方法を身に付け、学習評価の考え方を理解する。
授業計画	<p>【遠隔授業実施 3/15回】 オンデマンド型授業</p> <p>第1回 オリエンテーション・生活科の学習指導の特質と要点 【面接授業】</p> <p>第2回 生活科の内容理解・教材研究（1）「地域と生活」 【面接授業】</p> <p>第3回 生活科の内容理解・教材研究（2）「飼育・栽培単元（1年生）」 【面接授業】</p> <p>第4回 生活科の内容理解・教材研究（3）「飼育・栽培単元（2年生）」 【面接授業】</p> <p>第5回 生活科の内容理解・教材研究（4）「学校と生活」 【面接授業】</p> <p>第6回 生活科の内容理解・教材研究（5）「生活の出来事の伝え合い」 【面接授業】</p> <p>第7回 生活科の内容理解・教材研究（6）「自然やものを使った遊び」 【遠隔授業】 AAAを利用したオンデマンド型授業</p> <p>第8回 生活科の内容理解・教材研究（7）「家族単元」 【面接授業】</p> <p>第9回 生活科における主体的・対話的で深い学びの検討 【面接授業】</p> <p>第10回 生活科の授業設計と評価の在り方 【面接授業】</p> <p>第11回 生活科指導と単元構想 【遠隔授業】 AAAを利用したオンデマンド型授業</p> <p>第12回 生活科授業設計（子どもの体験を充実させる工夫） 【遠隔授業】 AAAを利用したオンデマンド型授業</p> <p>第13回 生活科学習指導案の協働的な探究 【面接授業】</p> <p>第14回 模擬授業の計画・情報機器及び教材の効果的活用法 【面接授業】</p> <p>第15回 模擬授業の実践 【面接授業】</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 本科目は、生活科の授業設計を行う方法を身に付ける。また、生活科の主な教材（学習材）内容と児童が身に付ける資質・能力の調和的な実現を目指して展開する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活科の指導法についてアウトラインを掴み、授業設計に生かすことができる。</li> <li>2. 生活科の単元構想及び授業指導案を作成できるようになる。</li> <li>3. 生活科の教材研究の方法を理解し、児童の興味関心に合った授業設計を考案することができる。</li> <li>4. 児童の活動を見取り、学びと変容を具体的に評価する観点を習得する。</li> </ol> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 本科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決できる能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『小学校学習指導要領』 文部科学省 ISBN：9784491034607 出版社：文部科学省 著者名：東洋館出版</p>

	<p>価格（税抜）：201円</p> <p>テキスト名：『小学校学習指導要領解説 生活編』 文部科学省 ISBN：9784491034645 出版社：文部科学省 著者名：東洋館出版 価格（税抜）：134円</p> <p>テキスト名：『みんなでまなぶ しょうがっこう せいかつ 上下』（文部科学省検定本） ISBN：9784762556135（上巻）、9784762556142（下巻） 出版社：学校図書 著者名：山口令司他 価格（税抜）：916円（上巻）、913円（下巻） ※初回授業で販売する。</p>
参考文献	<p>はじめに子どもありき—教育実践の基本 著者：平野朝久 出版社：学芸出版</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 定期試験：50% 授業後の振り返りレポート、単元計画案及び学習指導案に関する課題提出物：40% 協同的活動における参加態度：10% 【フィードバック方法】 学修課題に対するフィードバックは、必要に応じて授業の冒頭で実施する。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控室(研究室棟1階)で受け付ける。
履修条件	小学校教育に理解を示すこと
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】、聴講生【可】
メッセージ	教員として約30年間従事したことがある。授業の中で、そのエピソードや実務的な内容についても触れるようにする。
準備学習について	予習は、授業内容に関するテキストを1時間以上読んでくること。 復習は、授業内容に関するテキスト・配布した資料を約1時間読み直し、理解を深めること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
山添ジョセフ 勇			
添付ファイル			

テーマ	図画工作の基礎と「つくること」について。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 図画工作科の意義と目的</p> <p>第2回 平面表現の題材と材料・用具について</p> <p>第3回 立体表現の題材と材料・用具について</p> <p>第4回 子どもの発達と表現</p> <p>第5回 造形遊びをする活動</p> <p>第6回 絵や立体、工作に表す活動</p> <p>第7回 教材研究1 版画</p> <p>第8回 教材研究2 木工</p> <p>第9回 指導計画・指導案・評価</p> <p>第10回 模擬指導（1）造形遊びの題材</p> <p>第11回 模擬指導（2）1・2年の題材</p> <p>第12回 模擬指導（3）3・4年の題材</p> <p>第13回 模擬指導（4）5・6年の題材</p> <p>第14回 模擬指導（5）ICT機器を用いた題材、総合的な題材</p> <p>第15回 まとめ 表現と鑑賞 授業実践の実際</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 図画工作科の基礎となるさまざまな造形体験を通して、材料・用具・教材に関する知識と技能を習得し、学習指導要領に示されている教科の目標や内容についての理解を深める。また、実際に教材研究と模擬指導を行うことによって指導方法について学習する。</p> <p>【到達目標】 図画工作科の目標と内容を理解し、育みたい資質・能力を授業場面において育成できる指導力の獲得を目指す。授業に用いる材料・用具・教材に関する基本的な知識と技能を習得し、指導に必要な造形美術に対する考え方や態度を獲得することを目標とする。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、実践的に課題を発見する力、表現と創造する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、コミュニケーション・スキルと倫理観と生涯学習力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省 ISBN：9784536590112 出版社：日本文教出版株式会社 著者名：文部科学省 価格（税抜）：100円</p>
参考文献	<p>『小学校学習指導要領』文部科学省 『平成27年度版文部科学省検定教科書』日本文教出版/開隆堂出版 『〔平成29年版〕小学校 新学習指導要領ポイント総整理 図画工作 東洋館出版社』</p>

成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 授業態度と授業課題（60%）、模擬指導と指導案（20%）課題レポート（20%）から総合的に評価する。</p> <p>【フィードバック方法】 小レポートを回収した次の回で総評を口頭で伝える。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控室（研究室棟1階）で受け付ける。
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	科目等履修生 <b>【可】</b> 聴講生 <b>【可】</b>
メッセージ	「つくること」に対する相談なども歓迎します。主な著書や活動：令和二年度版図画工作教科書共同著者（日本文教出版）、こどもがたのしくつくるはじめてのこうさく著者（高橋書店）、プログラミング教育キット「KOOV」コンテンツ開発（SONYグローバルエデュケーショナル）、造形ワークショッププログラム提供（NPO法人CANVAS・吉本クリエイティブエージェンシー）、こども造形教室「アートユニット深沢アート研究所」など。
準備学習について	<p>【事前学習】テキストを基に予習を行うこと。（1時間）</p> <p>【事後学習】授業で学んだ知識・技能・題材について自分なりの考察を深め、復習を行うこと。（1時間）</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
木村光男			
添付ファイル			

テーマ	特別活動では、その意義を理解した上で「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を持ち、学校内外と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識、技能等の習得を目指す。総合的な学習の時間では、その特質や意義及び各学校においてカリキュラムマネジメントする際の考え方を理解する。その上で、総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。また、総合的な学習の時間の指導と評価の考え方及び実践上の留意点を理解する。
授業計画	<p>【遠隔授業実施 6/15回】 オンデマンド型授業</p> <p>第1回 オリエンテーション・総合的な学習の時間で扱う探究課題 【面接授業】</p> <p>第2回 総合的な学習の時間の意義・誕生の背景・実態 【面接授業】</p> <p>第3回 総合的な学習の時間における学習過程の実際 【遠隔授業】 AAAを利用したオンデマンド型授業</p> <p>第4回 総合的な学習の時間における主体的で対話的で深い学び 【面接授業】</p> <p>第5回 総合的な学習の時間における探究のプロセスと育成すべき資質・能力 【面接授業】</p> <p>第6回 探究のプロセスにおける「情報の収集」 【遠隔授業】 AAAを利用したオンデマンド型授業</p> <p>第7回 探究のプロセスにおける「整理・分析」と単元計画 【面接授業】</p> <p>第8回 総合的な学習の時間におけるカリキュラムマネジメントと評価の在り方 【遠隔授業】 AAAを利用したオンデマンド型授業</p> <p>第9回 探究のプロセスにおける「まとめ・表現」と指導の在り方 【面接授業】</p> <p>第10回 特別活動の構造と特徴 【遠隔授業】 AAAを利用したオンデマンド型授業</p> <p>第11回 特別活動の目標及び育成すべき資質・能力 【面接授業】</p> <p>第12回 特別活動における学級活動の実際 【遠隔授業】 AAAを利用したオンデマンド型授業</p> <p>第13回 特別活動における学級活動の指導の在り方 【面接授業】</p> <p>第14回 特別活動における学校行事 【遠隔授業】 AAAを利用したオンデマンド型授業</p> <p>第15回 特別活動における学習指導の協同的な探究 【面接授業】</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 特別活動では学校教育における特別活動の重要性とその教育的意義を明らかにし、生徒に身に付けさせるべき力とその際の教師の指導性について習得する。一方、総合的な学習の時間では、探究的な見方・考え方を働かせながら、横断的・総合的な学習を通して、アイデンティティの育成を目指している。このような、総合的な学習の時間の特質を理解した上で、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 特別活動の意義、目標及び内容を理解する。</li> <li>(2) 特別活動の指導の在り方を理解する。</li> <li>(3) 総合的な学習の時間の意義と原理を理解する。</li> <li>(4) 総合的な学習の時間の指導計画を作成できる。</li> <li>(5) 総合的な学習の時間の指導と評価を理解する。</li> </ol>

	【卒業認定・学位授与方針との関連】 下記「メッセージ」欄参照
テキスト	<p>テキスト名：『総合的な学習の時間の指導法』 ISBN： 9784536601061 出版社：日本文教出版 著者：村川雅弘他(2018) 価格(税抜)：2300 円</p> <p>テキスト名：『小学校学習指導要領解説特別活動編』 ISBN： 9784491034690 出版社：東洋館出版社 著作権所有：文部科学省(2018) 価格(税抜)：155円</p> <p>テキスト名：『小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』 ISBN： 9784491034683 出版社：東洋館出版社 著作権所有：文部科学省(2018) 価格(税抜)：121円</p>
参考文献	適宜資料も配布します。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 レポート・学修課題および試験(80%)、演習における協働的な活動(20%)</p> <p>【フィードバック方法】 レポート等のフィードバックは、基本的に授業内で実施する。</p>
質問・相談の受付方法	授業前後の時間
履修条件	小学校教育に理解を示すこと
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	<p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部が学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題解決力を身につけることができる。 教員として約30年間従事したことがある。授業の中で、そのエピソードや実務的な内容についても触れるようにする。</p>
準備学習について	<p>予習は、授業内容に関するテキストを1時間以上読んでくること。 復習は、授業内容に関するテキスト・配布した資料を約1時間読み直し、理解を深めること。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
灰谷和代			
添付ファイル			

テーマ	子どもと家庭にかかわる福祉制度や支援について学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、子ども・家庭・福祉とは 【事後学習】 子ども・家庭・福祉についてまとめる (1時間)</p> <p>第2回 子ども家庭福祉の展開①子ども観と子どもの権利 【事前学習】 子ども観と子どもの権利を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 子ども観と子どもの権利についてまとめる (1時間)</p> <p>第3回 子ども家庭福祉の展開②歴史的展開 【事前学習】 子ども家庭福祉の歴史的展開を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 子ども家庭福祉の歴史的展開についてまとめる (1時間)</p> <p>第4回 子どもと家庭にかかわる法制度・関係機関と専門職の役割 【事前学習】 法制度・関係機関・専門職を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 法制度・関係機関・専門職についてまとめる (1時間)</p> <p>第5回 乳幼児期の子どもがいる家庭の支援と制度①母子保健 【事前学習】 母子保健を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 母子保健についてまとめる (1時間)</p> <p>第6回 乳幼児期の子どもがいる家庭の支援と制度②保育 【事前学習】 保育を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 保育についてまとめる (1時間)</p> <p>第7回 乳幼児期の子どもがいる家庭の支援と制度③子育て支援 【事前学習】 子育て支援を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 子育て支援についてまとめる (1時間)</p> <p>第8回 少年期の子どもがいる家庭の支援と制度①児童健全育成 【事前学習】 児童健全育成を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 児童健全育成についてまとめる (1時間)</p> <p>第9回 少年期の子どもがいる家庭の支援と制度②非行 【事前学習】 非行を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 非行についてまとめる (1時間)</p> <p>第10回 少年期の子どもがいる家庭の支援と制度③いじめ・不登校 【事前学習】 いじめ・不登校を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 いじめ・不登校についてまとめる (1時間)</p> <p>第11回 障がいのある子どもがいる家庭の支援と制度 【事前学習】 障がい児の支援と制度を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 障がい児の支援と制度についてまとめる (1時間)</p> <p>第12回 ひとり親家庭の支援と制度 【事前学習】 ひとり親家庭の支援と制度を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 ひとり親家庭の支援と制度についてまとめる (1時間)</p> <p>第13回 子どもの貧困の現状と対策 【事前学習】 子どもの貧困の現状と対策を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 子どもの貧困の現状と対策についてまとめる (1時間)</p> <p>第14回 児童虐待とDV (ドメスティックバイオレンス) の現状と課題 【事前学習】 児童虐待とDVの現状と課題を調べ事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】 児童虐待とDVの現状と課題についてまとめる (1時間)</p> <p>第15回 子ども家庭福祉における支援の実際 子ども家庭福祉における多問題家族の事例を用いて支援の実際を知る ※事例は、担当教員の実務経験に基づいて作成したオリジナル事例を用いる 【事前学習】 今までの授業を振り返りまとめる (1時間) 【事後学習】 子ども家庭福祉における支援の実際についてまとめる (1時間)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】 子ども家庭福祉の歴史的展開などを理解した上で、子どもの年代ごとや子ども家庭の課題ごとの福祉制度や支援システムについて学ぶことで、保育現場や児童福祉現場での子どもと家庭の課題を解決に導くための基本的な知識と力を養うことを到達目標としている。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部で学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」と「主体的に学習する力」、および「学士力」の構成要素の一つである「人間の文化、社会と自然に関する知識の理解」「チームワーク・リーダーシップ」を身につける。</p>
テキスト	<p>テキスト名：新版 よくわかる子ども家庭福祉 第2版 ISBN： 9784623095131 出版社：ミネルヴァ書房 著者名：吉田幸恵、山縣文治 編著</p>

	価格（税抜）：2,400円
参考文献	必要に応じて授業の中で紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 授業への積極性（ワークシート・コメントペーパーの提出状況と記述内容、ディスカッションやグループワーク等への参加状況等による評価）（50%）、学期末のレポート（50%）で評価する。</p> <p>【課題に対するフィードバック方法】 ワークシートやコメントペーパーを回収した時は、次の授業内で総評を口頭で伝える。ディスカッション等の報告内容については必要に応じてコメントする。</p>
質問・相談の受付方法	授業の前後やメール等で受け付ける。
履修条件	特に設けないが、子ども学科の必修科目である。
特別学生の履修可否	科目等履修生 <b>【可】</b> 聴講生 <b>【可】</b>
メッセージ	毎回（第1回目を除く）の授業で、各自が事前にまとめた事前ワークシートを基にディスカッション等の時間を設ける。毎回の授業終わりに次の事前ワークシートを配布するので次回授業までに必ずまとめておくこと。また、毎回の授業でコメントペーパーの提出を求める。※初回授業で詳細を説明するので必ず出席すること。担当教員は、保育所等での保育、地域における子育て支援、市役所等での相談援助の実務経験があるため、必要に応じて実務経験に基づく現場の実際などを紹介する。
準備学習について	<p>【事前学習】毎回（第1回目授業を除く）、次の授業にかかわる内容についてテキスト等を調べて事前ワークシートにまとめる（1時間）</p> <p>【事後学習】毎回、授業終了後にテキストや配布資料を読んでまとめる（1時間）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
福田幸夫、灰谷和代			
添付ファイル			

テーマ	社会的養護の基本理念と原則に則った子どもの支援について	
授業計画	第1回	<p>授業オリエンテーション、社会的養護の意義と変遷</p> <p>社会的養護の歴史を踏まえ、現代社会における子どもと家族が抱える問題について学び、社会的養護を学ぶ意味と保育士の役割を理解する。(テキスト第1講 p2～p18)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第2回	<p>児童の人権擁護と社会的養護</p> <p>子どもの権利を社会的養護の場でどのように展開するか、また、施設保育士としての倫理と責務について学ぶ。(テキスト第2講 p19～p33)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*前回授業の復習小テスト</p> <p>*前回授業の復習課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第3回	<p>家庭の機能と社会的養護(レポート授業①)</p> <p>子どもが生活する場における家庭機能について理解し、家庭養護と施設養護の体系を学ぶ。(テキスト第3講 p34～48)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*前回授業の復習小テスト</p> <p>*前回授業の復習課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第4回	<p>社会的養護の基本原則Ⅰ：養育一日常生活支援一</p> <p>子どもの人権に配慮した日常生活支援の実際を学び、施設規模による養育への影響について考察する。(テキスト第4講 p49～61)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*前回授業の復習小テスト</p> <p>*前回授業の復習課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第5回	<p>社会的養護の基本原則Ⅱ：保護一自己実現に向けた支援一</p> <p>施設における子どもの支援と親子関係調整、地域との関係調整について理解する。(テキスト第5講 p62～73)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*前回授業の復習小テスト</p> <p>*前回授業の復習課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第6回	<p>社会的養護の基本原則Ⅲ：子どもであることへの回復一治療的支援一</p> <p>被虐待児の心の癒しや傷の回復への支援、施設内の他職種とのチームワークについて理解する。(テキスト第6講 p74～p85)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*前回授業の復習小テスト</p> <p>*前回授業の復習課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第7回	<p>社会的養護の基本原則Ⅳ：生活文化と生活力の習得一自立支援一</p> <p>日常生活を通して生活文化と生活力を習得する支援の実際を具体的に学ぶ。自立支援のあり方を学び、保育士の専門性を理解する。(テキスト第7講 p86～p100)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*前回授業の復習小テスト</p> <p>*前回授業の復習課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第8回	<p>社会的養護の基本原則Ⅴ：生命倫理観の醸成一性と性の倫理一(レポート授業②)</p> <p>性と性の倫理について、社会的養護における捉え方、支援について学ぶ。映像資料により、命の誕生と特別養子縁組を題材に生命倫理について考える。(テキスト第8講 p101～p117)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*前回授業の復習小テスト</p> <p>*前回授業の復習課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第9回	<p>社会的養護の制度と実施体系</p> <p>制度と実施の体系、社会的養護に携わる専門職について学ぶ。(テキスト第9講 p118～p134)</p> <p>*授業内課題の提出</p> <p>*前回授業の復習小テスト</p> <p>*前回授業の復習課題の提出</p> <p>*次回までの復習課題の提示</p>
	第10回	<p>施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ一乳児院と児童養護施設一</p>

	<p>乳児院・児童養護施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。(テキスト第10講 p135～p147) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第11回 施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ—障害児の入所施設— 障害児の入所施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。(テキスト第11講 p148～p159) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第12回 施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ—児童自立支援施設と児童心理治療施設— 社会に適応しづらい子どもの入所施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。(テキスト第12講p160～170) *復習課題⑤ (提出期限：7月31日) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第13回 家庭養護の特徴・対象・形態—里親・ファミリーホーム— 里親とファミリーホームについて、制度と養育の実際を学ぶ。(テキスト第13講 p171～p194) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第14回 社会的養護の現状と課題Ⅰ 施設の運営管理について基礎的に知識を得る。また、保育士としての倫理の確立と権利擁護の仕組みについて学ぶ。(テキスト第14講 p195～p215) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示 *総括レポート課題提示 (提出期限：15回授業時)</p> <p>第15回 社会的養護の現状と課題Ⅱ 被措置児童等虐待の防止、地域福祉との関係、施設保育士として求められる専門性について学ぶ。(テキスト第14講 p216～p238) *授業内課題の提出 *前回授業の復習小テスト *前回授業の復習課題の提出 *総括レポートの提出</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】児童福祉施設で働く施設保育士に必要な社会的養護の知識と技術を習得する。児童養護の歴史と体系、関連する法律、児童福祉施設や里親による養育の実際と自立支援、家族支援について学ぶ。「児童虐待」「トラウマ」「愛着障害」「発達障害」等に関する知識を身につけ、生活場面における支援、家族関係の調整、学校や地域との連携、援助者の資質、倫理等について理解する。</p> <p>【到達目標】 ①権利擁護を踏まえた子どもの支援について理解し、説明できる。 ②社会的養護における子どもとその家庭に対する支援方法について理解し、説明できる。 ③社会的養護の理念と原則について理解し、説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、①知識・技能を理解する力、②主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである⑩倫理観を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ ISBN：978-4-89347-324-0 出版社：萌文書林 著者名：吉田眞理編著、坂本正路、高橋一弘、村田紋子 価格(税抜)：2,000円</p>
参考文献	<p>『子ども虐待』西澤哲(講談社)、『児童福祉施設の子どもたち』大久保真紀(高文研)、『「家族」をつくる養育里親という生き方』村田和木(中央公論新社)</p>
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>授業内の課題提出30%、復習小テスト14回25%、復習課題14回25%、総括レポート1回20% 次回授業日に、授業内課題や復習小テストについて講評及び回答をフィードバックし、解説する。成績については、学内の成績評価問い合わせ制度に則り、説明を行う。</p>
質問・相談の受付方法	<p>講義終了後、教室あるいは講師控室(研究棟1階)で受け付ける。 また、各授業回にて提出課題に質問記入欄を設け、次回授業でフィードバックする。</p>
履修条件	<p>座席は状況により固定するので、従うこと。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生 <b>【可】</b> 聴講生 <b>【可】</b></p>
メッセージ	<p>母子生活支援施設の母子支援員として7年間働いていました。授業のなかで、実務経験からのエピソードに触れていきたいと思っています。社会的養護では、様々な事情を抱え、実の親によらない養育環境で育つ子どもについて学びます。保育士として必要な専門的知識を身に付けるとともに、将来、様々な状況にある子どもと家族に対して理解して関われる「市民」となってください。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】各授業の前に1時間程度の予習として、所定のテキストページを読み、不明な単語等は調べておいてください。 【事後学習】授業後は復習課題(次回提出)をし、1時間程度再度テキストと授業時のプリントなどを読み返して復習し、次回の小テストに備えてください。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	1	選択
担当教員			
福田幸夫、灰谷和代			
添付ファイル			

テーマ	社会的養護における支援の実際について		
授業計画	第1回	授業オリエンテーション、社会的養護とはなにか（復習） 子どもの権利条約を基礎とした子どもの権利の内容と権利擁護の意味、権利を守るための仕組みについて学ぶ。実習体験を踏まえて社会的養護の学びを振り返る。（テキストp7～11） *授業内課題の提出 *レポート①出題（テーマ例：実習体験と社会的養護の学び） *次回までの復習課題の提示	
	第2回	社会的養護と保育士の倫理 保育士等の倫理について学ぶ。全国保育士会倫理綱領、全国児童養護施設協会倫理綱領等についてグループワークにより能動的に学ぶ。専門職として倫理を守ることの重要性を理解する。（テキストp12～13） *授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示	
	第3回	社会的養護の背景 社会的養護における施設養護の実際について学ぶ。主に、子どもの貧困、児童虐待、障害など、入所児童が抱える生活困難について学び、必要な支援について理解する。（テキストp16～23） *授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示	
	第4回	社会的養護の実施体系：実習体験に学ぶ入所施設・通所施設 施設実習で体験したことについてプレゼンテーションを行い、各施設について理解を深める。あらかじめレポート課題で実習の振り返りを行い、実習施設の日課、対象児童の特徴、支援内容などについて相互に学びを深める。（テキストp34～40） *授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示 *レポート①提出	
	第5回	社会的養護に関わる専門技術（1）：専門職としての支援のあり方 児童養護施設のリーディングケアの事例を通して、子どもに対する支援のあり方を考察する。寄り添う支援、自立支援について学ぶ。（テキストp24～31） *授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示	
	第6回	社会的養護に関わる専門技術（2）：相談支援の技術 相談支援を行う際の専門知識と技術について学ぶ。他職種連携、行動問題への対処、バイスチックの7つの原則、守秘義務など、施設実習における体験を振り返りながら理解を深める。（テキストp48～60） *授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示	
	第7回	施設ごとの支援の実際：乳児院 実習体験、VTR教材をもとに、グループワークを行う。相互に意見交換を行いながら、乳児院における支援について学びを深める。事例検討を行い、実践力をつける。（テキストp62～67） *授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示	
	第8回	施設ごとの支援の実際：児童養護施設／小テスト 実習体験、VTR教材をもとに、グループワークを行う。相互に意見交換を行いながら、児童養護施設における支援について学びを深める。事例検討を行い、実践力をつける。（テキストp68～78） *授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示 *小テスト実施（範囲：1回～8回）	
	第9回	施設ごとの支援の実際：母子生活支援施設 実習体験、VTR教材をもとに、グループワークを行う。相互に意見交換を行いながら母子生活支援施設における支援について学びを深める。事例検討を行い、実践力をつける。（テキストp79～84） *授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示	
	第10回	施設ごとの支援の実際：児童自立支援施設・児童心理治療施設	

	<p>実習体験、VTR教材をもとに、グループワークを行う。相互に意見交換を行いながら、児童自立支援施設・児童心理治療施設における支援について学びを深める。事例検討を行い、実践力をつける。(テキストp85～94)</p> <p>*授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第11回 施設ごとの支援の実際：障害児入所施設</p> <p>実習体験、VTR教材をもとに、グループワークを行う。相互に意見交換を行いながら、障害児入所施設における支援について学びを深める。事例検討を行い、実践力をつける。(テキストp95～103)</p> <p>*授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第12回 施設ごとの支援の実際：児童発達支援センター</p> <p>実習体験、VTR教材をもとに、グループワークを行う。相互に意見交換を行いながら、児童発達支援センターにおける支援について学びを深める。事例検討を行い、実践力をつける。(テキストp104～115)</p> <p>*授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示 *レポート②出題(テーマ例：施設保育士の専門性について)</p> <p>第13回 施設ごとの支援の実際：障害者福祉サービス事業所</p> <p>実習体験、VTR教材をもとに、グループワークを行う。相互に意見交換を行いながら、障害者福祉サービス事業所における支援について学びを深める。事例検討を行い、実践力をつける。(テキストp116～123)</p> <p>*授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第14回 社会的養護の今後の課題と展望</p> <p>家庭的養護と家庭養護についてこれまでの授業内容を振り返りながら、今後の社会的養護のあり方を考える。大舎制、小規模ユニットケア(小舎制)、里親、特別養子縁組など、養育形態の違いが子どもの福祉にどのような影響を及ぼすか、関わる職員や里親、養親の課題について考察する。社会的養護の今後の課題について理解する。(テキストp41～46、p126～129)</p> <p>*授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第15回 支援者としての視点/小テスト</p> <p>復習とまとめ。 家族に対する支援のあり方について、母子の事例から考察する。社会的養護に関わる施設保育士として必要な専門性と姿勢について確認する。</p> <p>*授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *小テストの実施(範囲：9回～15回) *レポート②提出</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】生活型児童福祉施設や里親等の社会的養護による子どもの養育について、事例を通して理解を深める。「生活の場」でどのように子どもの権利を尊重しながら支援を展開するか、「子どもの最善の利益」「回復」「権利擁護」等をキーワードにしなが、アクティブラーニング、グループワーク等を通して主体的に学び、実践力を身につける。</p> <p>【到達目標】①施設実習の体験を社会的養護の知識・理論と関連付けて理解できる。②社会的養護における子どもの権利擁護や保育士の倫理を理解し、説明できる。③各種の施設養護や里親等について事例を通して理解し、それぞれの利点と課題を説明できる。④「自立支援」の考え方と日常的な生活における支援のあり方を具体的に理解する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、①知識・技能を理解する力、③実践的に課題を発見する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、⑦問題解決力、⑩倫理観、を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：実習生の日誌事例から考察する社会的養護Ⅱ ISBN：978-4-909655-38-7 出版社：大学図書出版 著者名：雨宮由紀枝・下尾直子 価格(税込)：1,980円</p>
参考文献	<p>『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』吉田真理編著(萌文書林)、『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅱ』吉田真理編著(萌文書林)</p>
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>授業内の課題提出30%、復習課題25%、小テスト2回20%、レポート25%(①10%、②15%) *授業態度、グループワーク等への参加意欲により減点あり。 次回授業時に授業内課題や復習課題について講評するとともに、質問に対するフィードバックを行う。小テストについては、次回以降の授業で解答を伝え、解説する。レポートは採点し、コメントを記入の上授業にて返却し、解説する。最終授業時の小テスト、レポートに関する成績については、学内の成績評価問い合わせ制度に則り、説明を行う。</p>
質問・相談の受付方法	<p>講義終了後、教室あるいは講師控室(研究室棟1階)で受け付ける。 また、各授業回にて提出課題に質問記入欄を設け、次回授業でフィードバックする。</p>
履修条件	<p>【希望的要件】「社会的養護」を履修または単位取得済であることが望ましい。施設実習の履修後であることが望ましい。グループワークでは、席順を替えながら実施するので、従うこと。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】但し、事前相談を要す。 聴講生【可】 //</p>
メッセージ	<p>母子生活支援施設の母子支援員として7年間働いた経験から、現場に即した支援者としての姿勢を伝えたいと思います。 前期の社会的養護、施設実習における学びをもとに、より具体的に知識・技術の習得を目指します。グループワーク等は積極的に取り組んで下さい。</p>



準備学習について	<p>【事前学習】各授業の前に1時間程度の予習（テキストの所定箇所を読む）を行ってください。特に、前期履修した社会的養護のテキストで、該当箇所を復習しておいてください。</p> <p>【事後学習】授業後は復習課題を提示するので、1時間程度課題に取り組み次回授業時に提出してください。</p>
----------	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	選択
担当教員			
灰谷和代			
添付ファイル			

テーマ	保育者として必要な子ども家庭支援について学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、子ども家庭支援とは 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第2回 子ども家庭支援の目標と機能 【事前学習】テキストP11～19を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第3回 子ども家庭支援における保育者の役割 【事前学習】テキストP20～35を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第4回 保育士に求められる基本的態度 【事前学習】テキストP38～48を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第5回 保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援 【事前学習】テキストP49～61を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第6回 保護者との相互理解と信頼関係の形成 【事前学習】テキストP62～76を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第7回 家庭の状況に応じた支援 【事前学習】テキストP77～93を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第8回 地域の資源の活用と関係機関との連携・協力 【事前学習】テキストP94～102を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第9回 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 【事前学習】テキストP104～118を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第10回 次世代育成支援対策と子ども・子育て新制度の推進 【事前学習】テキストP119～140を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第11回 子ども家庭支援の対象と内容 【事前学習】テキストP142～160を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第12回 保育所等利用児童とその家庭への支援 【事前学習】テキストP161～175を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第13回 地域の子育て家庭への支援 【事前学習】テキストP176～192を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第14回 要保護児童およびその家庭への支援 【事前学習】テキストP193～209を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p> <p>第15回 子ども家庭支援に関する現状と課題 【事前学習】テキストP210～227を読んで事前ワークシートにまとめる (1時間) 【事後学習】テキストや配布資料を読んで復習する (1時間)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】 保育者は、子どもに対する直接的な保育や支援だけでなく、保護者や家庭への支援が求められる。この授業では、子どもと家庭の現状やその支援や制度について主体的に学ぶことで、保育者として何が必要かを考え実践につなげることを到達目標とする。なお、この授業は毎回（第1回目を除く）、反転授業の形式で進める。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「主体的に学習する力」、及び「学士力」の構成要素の一つである「問題解決力」「チームワーク・リーダーシップ」を身につける。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「子ども家庭支援」 ISBNコード：978-4-623-07929-2 出版社：ミネルヴァ書房 著者名：倉石哲也、大竹智 編著 価格（税抜）：2,200円</p>

参考文献	必要に応じて授業の中で紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 授業への積極性（ワークシート・コメントペーパーの提出状況と記述内容、ディスカッション等への参加状況等による評価）（50%）、学期末のレポート（50%）で評価する。</p> <p>【課題に対するフィードバック方法】 ワークシートやコメントペーパーを回収した時は、次回の授業内で総評を口頭で伝える。ディスカッション等の報告内容については必要に応じてコメントする。</p>
質問・相談の受付方法	授業の前後やメール等で受け付ける。
履修条件	特に設けないが、保育士資格取得の必須科目である。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	毎回（第1回目を除く）の授業で、各自が事前にまとめた事前ワークシートを基にディスカッション等の時間を設ける。毎回の授業終わりに次回の事前ワークシートを配布するので次回授業までに必ずまとめておくこと。また、毎回の授業でコメントペーパーの提出を求める。※初回授業で詳細を説明するので必ず出席すること。担当教員は、保育所等での保育、地域における子育て支援、市役所等での相談援助の実務経験があるため、必要に応じて実務経験に基づく現場の実際などを紹介する。
準備学習について	<p>【事前学習】毎回（第1回目授業を除く）、次回の授業範囲のテキスト等を事前に読んで事前ワークシートにまとめる（1時間）</p> <p>【事後学習】毎回、授業終了後にテキストや配布資料を読んで復習する（1時間）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	1	選択
担当教員			
鈴木政史			
添付ファイル			

テーマ	相談援助（ソーシャルワーク）の理論、方法、技術、保育分野への応用方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 相談援助の概要、相談援助（ソーシャルワーク）とは、価値観の違いと合意形成</p> <p>第2回 相談援助の理論、意義、機能、傾聴技法</p> <p>第3回 相談援助の対象、ジェノグラムとエコマップ</p> <p>第4回 相談援助の方法と技術、言語コミュニケーション</p> <p>第5回 非言語コミュニケーション</p> <p>第6回 総合的なコミュニケーション技術 コミュニケーションの実際について実務経験に基づいて説明します。</p> <p>第7回 相談援助、保育とソーシャルワーク、相談援助の過程、ケースワークの展開過程</p> <p>第8回 グループワークの展開過程①（準備期・開始期）</p> <p>第9回 グループワークの展開過程②（作業期・終結期）</p> <p>第10回 相談援助の技術・アプローチ、リーダーシップ</p> <p>第11回 相談援助の具体的展開、地域を知る（地域診断）</p> <p>第12回 計画・記録・評価、効果測定の方法</p> <p>第13回 関係機関との協働、多様な専門職との連携、地域福祉</p> <p>第14回 社会資源の活用、調整、開発、格差問題</p> <p>第15回 事例分析、スーパービジョン</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】本講義では、相談援助（ソーシャルワーク）の理論、方法と技術等について理解するとともに、演習やグループワークを通じて、保育分野へのソーシャルワーク（相談援助）の応用方法を学びます。</p> <p>【授業の到達目標】相談援助（ソーシャルワーク）に必要な知識、技術等を習得し、将来の実践現場で応用できるようにすることを到達目標とします。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができます。</p>
テキスト	必要な資料を適宜配布します。
参考文献	配布資料等にて適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】受講態度：50%、振り返りシート：50%を評価の素材とします。</p> <p>【フィードバック方法】フィードバックは、学内制度（成績問い合わせ制度）を利用してください。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後やオフィスアワーを活用してください。
履修条件	特にありません。
特別学生の履修可	科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】 キャリアデザインカレッジ生【可】

否	
メッセージ	<p>※受講者数が30名を超えた場合は2クラスになります。          受講にあたって調整が必要な場合は事前に協議し、もっとも適切な方法を個別に検討します。必ず受講開始前に相談してください。なお、講義の進捗状況に応じて授業計画が変更になる場合があります。          社会福祉協議会や社会福祉法人で障害者支援に6年間携わっていました。講義では相談援助（ソーシャルワーク）の実際について伝えることができればよいと考えています。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】 事前に配布資料を読み、わからない用語を調べてください（1時間以上）。          【事後学習】 原則として毎回の授業でワークシートに取り組みます。授業時間外で振り返り、講義やワークシートで取り扱った相談援助（ソーシャルワーク）の方法や技術等について調べてください（1時間以上）。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
上野永子			
添付ファイル			

テーマ	発達障がいに関する基礎知識及び、インクルーシブな社会の視点からその支援について学ぶ
授業計画	<p>第1回 集団における障害を持つ子ども</p> <p>第2回 生まれつきの発達特性①身体感覚</p> <p>第3回 生まれつきの発達特性②認知</p> <p>第4回 生まれつきの発達特性③コミュニケーション</p> <p>第5回 ASDとADHDの発達特性に応じた支援</p> <p>第6回 誤学習としての不適切な行動</p> <p>第7回 「発達的气になる子ども」の自己観</p> <p>第8回 「発達的气になる子ども」の支援①見通し</p> <p>第9回 「発達的气になる子ども」の支援②自尊心とセルフコントロール</p> <p>第10回 「発達的气になる子ども」の支援③手段としての言葉</p> <p>第11回 「発達的气になる子ども」の保護者支援①保護者支援としての子ども支援</p> <p>第12回 「発達的气になる子ども」の保護者支援②子ども支援としての保護者支援</p> <p>第13回 「発達的气になる子ども」の保護者支援③保育者の役割</p> <p>第14回 まとめ：インクルーシブな社会とは</p> <p>第15回 インクルーシブな社会実現に向けて</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】本講義では、発達障がいを持つ子どもの特性を理解した上で、その支援のあり方について学びます。また、子どものもつ「障がい」に起因するとされがちな子どもの問題行動には、保育者の対応に起因するものがあることを知り、インクルーシブな社会に向けて、何が必要なのかを考えることを目的とします。</p> <p>【到達目標】保育者として必要な、インクルーシブな社会を実現するための基礎知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「気になる子の本当の発達支援 新版」</p> <p>ISBN：9784907537111</p> <p>出版社：風鳴舎</p> <p>著者：市川奈緒子</p> <p>価格（税抜）：1,700円</p>
参考文献	特になし
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>毎回の予習課題15%、講義中に課すレポート15% 学期末のレポート：70%で評価します。</p> <p>講義中に課すレポートについては、返却時に口頭でコメントする。</p> <p>期末レポートは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行います。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後の教室で、もしくは、オフィスアワーに個人研究室で、質問・相談に応じます。

履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	教育臨床の現場で臨床心理士として発達に課題のある子どもと養育者の支援を実践してきました。この授業を通して、みなさんの発達障がいについて、発想を転換してもらえればと思います。
準備学習について	授業内で、次回の予習内容を指示します。次回の授業までに予習を行い（1時間程度）、内容を理解して次回授業に臨んでください。 また、授業終了後にふり返りを行ってください（1時間程度）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	1	選択
担当教員			
上野永子			
添付ファイル			

テーマ	発達障がい理解と保育現場における支援をグループディスカッションを通して考える。
授業計画	<p>第1回 子どもの発達①乳児期</p> <p>第2回 子どもの発達②幼児期</p> <p>第3回 子どもの発達③学童期</p> <p>第4回 子どもの発達④思春期・青年期</p> <p>第5回 発達障がいについて</p> <p>第6回 日常生活におけるサポート①コミュニケーション</p> <p>第7回 日常生活におけるサポート②身辺自立</p> <p>第8回 日常生活におけるサポート③活動への参加</p> <p>第9回 日常生活におけるサポート④友達関係</p> <p>第10回 気になる行動に対するサポート①音への過敏性・衝動的な行動</p> <p>第11回 気になる行動に対するサポート②こだわり</p> <p>第12回 気になる行動に対するサポート③集団の視点</p> <p>第13回 家庭との連携</p> <p>第14回 就学に向けての支援</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】本講義は、発達支援論の応用編として位置づけており、基礎知識編と実践演習編の2つから構成されます。基礎知識編では、子どもの心身の発達及び、発達障がいに関する知識を習得します。実践演習編では、保育現場でみられる大人にとっての子どもの”気になる”行動を提示し、受講者は、子どもの発達課題を照らし合わせながら、それぞれの具体的な支援方法についてグループでディスカッションします。その後、それぞれのグループでの話し合いの結果を発表し合う形式とします。</p> <p>【到達目標】保育者として必要な、発達支援に関する実践力を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技術を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「気になる子」と言わない保育 こんなときどうする？考え方と手立て</p> <p>ISBN：978-4-89464-195-2</p> <p>出版社：ひとなる書房</p> <p>著者：赤木和重ら</p> <p>価格（税抜）：1,800円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>毎回の予習課題15%：講義中に課すレポート：15%・学期末のレポート：70%で評価します。</p> <p>フィードバックとして授業中に課したレポートについては、次の回の講義中にコメントをつけて返却します。</p> <p>期末レポートは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行います。</p>



質問・相談の受付方法	講義終了後もしくは、オフィスアワー
履修条件	【必須条件】「発達支援論」を履修中または単位取得済みであること
特別学生の履修可否	科目等履修生 【可】 聴講生 【可】
メッセージ	教育臨床の現場で臨床心理士として発達に課題のある子どもと養育者の支援を実践してきました。子どもの心を大事にする対応とはどんなものでしょうか。一緒に考えていきましょう！
準備学習について	授業終了後に、次回の予習内容を指示します。授業ごとに1時間以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨むこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	選択
担当教員			
上野永子			
添付ファイル			

テーマ	児童福祉現場における子どもの問題と臨床心理学的理解
授業計画	<p>第1回 自己理解として、自分自身の成育歴を振り返る</p> <p>第2回 子どもの発達（1）乳児期の問題と病理</p> <p>第3回 子どもの発達（2）幼児期の問題と病理</p> <p>第4回 子どもの発達（3）児童期の問題と病理</p> <p>第5回 子どもの発達（4）思春期の問題と病理</p> <p>第6回 逆境的小児期体験とトラウマについて</p> <p>第7回 児童虐待について</p> <p>第8回 DVについて</p> <p>第9回 非行について</p> <p>第10回 不登校について</p> <p>第11回 発達障がいについて</p> <p>第12回 トラウマのケアについて</p> <p>第13回 社会的養護の子どもたちについて</p> <p>第14回 子どもと離婚</p> <p>第15回 授業の総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】児童福祉現場において出会う、さまざまな子どもの課題（被虐待・DV・非行・不登校・発達障害など）について知り、子どもの「こころ」を大事にするために大人ができることについて知ることを目標とします。</p> <p>【到達目標】ケアワーカー・教育者として必要な、子どもの心理社会的問題についての知識を身につけます。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しません。適宜、プリントを配布します。
参考文献	参考文献は講義中に適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	毎回の予習課題(15%)：講義内で課すレポート（15%）：期末試験（70%）で評価します。講義内で課したレポートについては、返却時に口頭でコメントします。期末試験については、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行います。
質問・相談の受付方法	オフィスアワー（後日掲示）にて、質問・相談に応じます。
履修条件	特に設けません。

特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	臨床心理士として、様々な事例に携わってきました。それらの経験を講義内でも話題にしたいと考えています。心理学の視点から、社会の様々な問題について一緒に考えましょう。また、日程調整ができれば、講義内で里親さんの養育体験談についてお話しいただく機会を作ることを予定しています。決定次第、受講生にお知らせします。そのため、シラバスの順序が若干入れ替わることもあり得ます。
準備学習について	授業終了後に次回の予習内容を指示します。授業毎に、1時間以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1	選択
担当教員			
上野永子			
添付ファイル			

テーマ	アタッチメントの視点から親子の関係性支援について学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 人間の赤ちゃん</p> <p>第3回 アタッチメントとは</p> <p>第4回 乳幼児期のアタッチメント</p> <p>第5回 乳幼児期のアタッチメントと心理社会的発達</p> <p>第6回 保育現場におけるアタッチメント</p> <p>第7回 児童期のアタッチメント</p> <p>第8回 成人期のアタッチメント</p> <p>第9回 アタッチメントと児童虐待</p> <p>第10回 アタッチメントと発達障がい</p> <p>第11回 アタッチメントの視点からの養育者支援</p> <p>第12回 アタッチメントの視点からの里親支援</p> <p>第13回 アタッチメントの視点からのDV被害者・加害者支援</p> <p>第14回 アタッチメントの視点からの司法への介入</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】本講義では、親子の関係性を支援する上で重要なアタッチメントを中心に学びます。まず最初に、アタッチメント理論を、その後それらが臨床分野でどのように援用されているのかについて学びます。</p> <p>【到達目標】アタッチメント理論と研究から得られた知見を活かした実践力を身につけることを目標とします。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである知識・主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度などを総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：赤ちゃんの発達とアタッチメント 乳幼児保育で大切にしたいこと ISBN：978-4-89464-247-8 出版社：ひとなる書房 著者名：遠藤利彦 価格(税抜)：1,300円</p> <p>「保育とアタッチメント」 ISBN978-4-89464-288-1 出版社：ひとなる書房 著者上野永子・岡村由紀子・松浦崇 価格：1300(税抜き)</p>
参考文献	授業中に、適宜、紹介する。

成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	予習課題15%：授業内に課すレポート：15%・学期末のレポート：70%で評価します。 授業内に課すレポートについては、講義内で口頭でコメントする。 期末レポートは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行います。
質問・相談の受付方法	講義終了後もしくは、オフィスアワー
履修条件	特に、設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	臨床現場で養育者支援に携わってきた経験も踏まえて、アタッチメント理論と研究がいかに臨床現場に役立つのかについてお伝えできればと思います。また、自分の考えを、論理的に相手に伝えられる力をつけることを目指しましょう！
準備学習について	予習を前提として、講義を進めます。授業終了後に、次回の予習内容を指示するので、授業ごとに1時間以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年	2	必修
担当教員			
八木朋美			
添付ファイル			

テーマ	造形表現、図画工作に関する研究
授業計画	第1回 前期オリエンテーション
	第2回 自己分析・プレゼンテーション①
	第3回 自己分析・プレゼンテーション②
	第4回 自己分析・プレゼンテーション③
	第5回 自己分析・プレゼンテーション④
	第6回 デザイン思考に基づいた表現 事例紹介と仕組み
	第7回 デザイン思考に基づいた表現 事例の考察
	第8回 デザイン思考に基づいた表現 課題の発表
	第9回 デザイン思考に基づいた表現 資料の検討
	第10回 デザイン思考に基づいた企画 立案
	第11回 デザイン思考に基づいた企画 準備
	第12回 デザイン思考に基づいた企画 実践
	第13回 卒業研究テーマの検討①
	第14回 卒業研究テーマの検討②
	第15回 前期まとめ 資料収集の方法
	第16回 後期オリエンテーション
	第17回 卒業研究テーマの検討③
	第18回 卒業研究テーマの検討④
	第19回 先行研究の調査・分析・試作①
	第20回 先行研究の調査・分析・試作②
	第21回 先行研究の調査・分析・試作③
	第22回 先行研究の調査・分析・試作④
	第23回 先行研究の調査・分析・試作⑤
	第24回 先行研究の調査・分析・試作⑥

	<p>第25回 先行研究の調査・分析・試作⑦</p> <p>第26回 先行研究の調査・分析・試作⑧</p> <p>第27回 先行研究の調査・分析・試作⑨</p> <p>第28回 先行研究の調査・分析・試作のまとめ 発表</p> <p>第29回 卒業研究テーマの検討⑤</p> <p>第30回 卒業研究テーマの検討⑥ 後期まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 デザイン思考に基づいた表現について、事例や課題を通して学ぶ。また、自らの興味・関心に向き合い、各自のテーマを探る。</p> <p>【到達目標】 卒業研究について理解し、各自のテーマを明確にすることができる。また、調査・分析・試作した内容についてレポートを完成させることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「主体的に学習する力」「表現と創造する力」、及び「学士力」の構成要素の一つである「問題解決力」を身につけることができる。</p>
テキスト	指定なし（必要に応じてプリント資料等を配布）
参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	授業・研究への取り組み姿勢（50%）、課題内容（50%）で評価します。課題のフィードバックは、提出後または発表後に口頭で伝えます。
質問・相談の受付方法	授業中及び授業終了後、またはオフィスアワーに受け付けます。
履修条件	特に設けません。
特別学生の履修可否	科目等履修生 【不可】 聴講生 【不可】
メッセージ	グラフィックデザイナーとして多種多様な制作を行い、対象者に伝わる表現について追求してきました。自分の興味・関心に十分に向き合い、取り組みたいテーマを見つけていきましょう。
準備学習について	研究テーマについて探求し、それらをわかりやすくまとめてください。（1時間以上）

講義科目名称： 卒業研究 I (灰谷)

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年	2	必修
担当教員			
灰谷和代			
添付ファイル			

テーマ	地域や保育・教育現場における子どもと家庭の支援の実践と研究方法を学ぶ	
授業計画	第1回	オリエンテーション (前期)
	第2回	年間計画の立案
	第3回	研究の方法① (テーマの設定方法)
	第4回	研究の方法② (研究や実践の計画の立て方)
	第5回	研究の方法③ (文献研究の方法)
	第6回	研究の方法④ (アンケート調査の方法)
	第7回	研究の方法⑤ (インタビュー調査の方法)
	第8回	研究の方法⑥ (実践的研究の方法)
	第9回	研究・実践計画①
	第10回	研究・実践計画②
	第11回	研究・実践①
	第12回	研究・実践②
	第13回	研究・実践報告①
	第14回	研究・実践報告②
	第15回	まとめ (前期)
	第16回	オリエンテーション (後期)
	第17回	年間計画の確認
	第18回	卒業論文のテーマ設定
	第19回	卒業論文の計画
	第20回	先行研究レビュー①
	第21回	先行研究レビュー②
	第22回	先行研究レビュー③
	第23回	研究・実践①
	第24回	研究・実践②



	<p>第25回 研究・実践③</p> <p>第26回 研究・実践④</p> <p>第27回 研究・実践⑤</p> <p>第28回 報告①</p> <p>第29回 報告②</p> <p>第30回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 地域や保育・教育現場における子どもと家庭の支援について、それぞれが関心のあるテーマを中心に個人やグループで実践・研究を計画してすすめていきます。</p> <p>【到達目標】 卒業論文執筆のための研究方法を学び、予備的な調査や実践（先行研究レビュー、テーマに関連する活動等の実践）をすることを目標とします。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」と「主体的に学習する力」、および「学士力」の構成要素の一つである、これまで獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につける。</p>
テキスト	必要に応じて授業の中で指定します。
参考文献	必要に応じて授業の中で紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 授業への積極性（ディスカッション・実践等への参加状況）、研究・実践等の報告状況（レポート提出）など</p> <p>【課題に対するフィードバック】 授業内で主に口頭で伝える。ディスカッション等の発表内容については必要に応じてコメントする。</p>
質問・相談の受付方法	授業前後やメール等で受け付ける。
履修条件	特になし。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	地域や保育・教育現場における子どもと家庭の支援について、学内や学外で共に学びましょう。 担当教員は、保育所等での保育、地域における子育て支援、市役所等での相談援助の実務経験があるため、必要に応じて、実務経験に基づく現場の実際を紹介したり、現場職員とのディスカッション等を実施する。
準備学習について	<p>【事前学習】初回、地域や保育・教育現場における子どもと家庭の支援について、各自、関心のあるテーマを考えておくこと。報告の際は、報告用の資料等を準備すること。その他、その都度、連絡します。（2時間以上）</p> <p>【事後学習】授業終了後に課題を提示するので、次回授業までに行うこと。（2時間以上）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年	2	必修
担当教員			
上野永子			
添付ファイル			

テーマ	アタッチメント理論と研究について学び、卒業論文作成のための準備をする		
授業計画	第1回	前期オリエンテーション	
	第2回	子どもを大事に世話をすること	
	第3回	アタッチメント理論の起源	
	第4回	技術および科学としての精神分析	
	第5回	自然科学としての精神分析①	
	第6回	家庭における暴力ー小児虐待ー	
	第7回	知ってはいけないことを知り、感じてはいけないことを感じること	
	第8回	パーソナリティーの発達におけるアタッチメントの役割	
	第9回	アタッチメント、コミュニケーション、治療家庭	
	第10回	「母と子のアタッチメント 心の安全基地」のまとめ	
	第11回	アタッチメント測定法について①	
	第12回	アタッチメント測定法について②	
	第13回	アタッチメント測定法について③	
	第14回	アタッチメント測定法について④	
	第15回	まとめ	
	第16回	論文検索の方法	
	第17回	先行研究レビュー①	
	第18回	先行研究レビュー②	
	第19回	先行研究レビュー③	
	第20回	先行研究のレビュー④	
	第21回	先行研究のレビュー⑤	
	第22回	先行研究のレビュー⑥	
	第23回	先行研究のレビュー⑦	
	第24回	先行研究のレビュー⑧	

	第25回 先行研究レビュー⑨
	第26回 先行研究レビュー⑩
	第27回 先行研究レビュー⑪
	第28回 先行研究レビュー⑫
	第29回 卒論テーマの検討①
	第30回 卒論テーマの検討②
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】本授業では、まず最初に、アタッチメント理論とアタッチメント研究について、テキストを輪読して学びます。それらから学んだことを踏まえて、各自の研究テーマを決定します。また、様々なアタッチメントの測定技法についても紹介します。</p> <p>【到達目標】アタッチメント理論や研究の視点から、保育・教育実践のあり方について考えることができるような基礎知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：母と子のアタッチメント 心の安全基地 ISBN:978-4263231432 出版社：医歯薬出版株式会社 著者名：ボウルビー 価格(税抜)：2,700円</p>
参考文献	講義中、適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	ゼミ発表、提出された発表レジュメで評価します。発表レジュメ・課題レポートに関しては、毎回のゼミの時間内に、口頭にてコメントします。
質問・相談の受付方法	講義終了後、あるいはオフィスアワーにて受け付けます。
履修条件	特に設けません。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	臨床心理士として、親子の関係性支援に携わってきました。Bowlbyの提唱したアタッチメント理論は、親子の関係性支援には重要不可欠な理論です。アタッチメント理論について深く理解し、共に掘り下げていきましょう。また、親子の相互作用や関係性について学ぶために、実践現場に出向くこともありますので各自ボランティア保険に加入してください。また、シラバスの講義内容の順序を変更する場合があります。
準備学習について	自分の発表担当の際には、メンバー全員分のレジュメを準備してください。発表担当者には、発表終了後に次回までの予習内容を指示します。授業毎に、1時間の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年	4	必修
担当教員			
八木朋美			
添付ファイル			

テーマ	研究テーマを追求する
授業計画	第1回 研究テーマの確認 卒業研究の進め方
	第2回 研究の計画①
	第3回 研究の計画②
	第4回 研究の計画③
	第5回 研究の計画④
	第6回 研究の計画⑤
	第7回 調査・分析・制作・実践①
	第8回 調査・分析・制作・実践②
	第9回 調査・分析・制作・実践③
	第10回 調査・分析・制作・実践④
	第11回 調査・分析・制作・実践⑤
	第12回 調査・分析・制作・実践⑥
	第13回 調査・分析・制作・実践⑦
	第14回 中間発表
	第15回 中間発表ふりかえり
	第16回 卒業論文作成①
	第17回 卒業論文作成②
	第18回 卒業論文作成③
	第19回 卒業論文作成④
	第20回 卒業論文作成⑤
	第21回 卒業論文作成⑥
	第22回 卒業論文作成⑦
	第23回 卒業論文作成⑧
	第24回 卒業論文作成⑨

	<p>第25回 卒業論文作成⑩</p> <p>第26回 卒業論文要旨作成①</p> <p>第27回 卒業論文要旨作成②</p> <p>第28回 卒業論文要旨作成③</p> <p>第29回 卒業研究発表準備①</p> <p>第30回 卒業研究発表準備②</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業概要】 各自の研究テーマに対して、資料収集、調査・分析、制作・実践、考察を行い、それらを論文にまとめる。要旨を作成し、発表の準備を行う。</p> <p>【到達目標】 研究テーマを深く追求し、論文・要旨を完成させることができる。 また、論文内容をわかりやすく発表することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「実践的に課題を発見する力」「課題を解決へと導く力」「表現と創造する力」、及び「学士力」の構成要素の一つである「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決できる能力」を身につけることができます。</p>
テキスト	指定なし（必要に応じてプリント資料等を配布）
参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	ゼミ・研究への取り組み姿勢（30%）、論文・要旨（50%）、発表（20%）によって総合的に評価します。ゼミ時及び発表会のレジュメ及び発表へのフィードバックは、提出・発表後に口頭で伝えます。
質問・相談の受付方法	随時受け付けます。
履修条件	卒業研究Ⅰ（八木）の単位を修得済の者に限る
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	グラフィックデザイナーとして多種多様な制作を行い、対象者に伝わる表現を追求してきました。主体性を持って、研究に取り組みましょう。また、文章作成や発表において、伝わる表現を心がけましょう。
準備学習について	研究テーマについて探求し、それらをわかりやすくまとめてください。（1時間以上）

講義科目名称： 卒業研究Ⅱ（菅井）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年	4	必修
担当教員			
菅井篤			
添付ファイル			

テーマ	教育とは何か、学校とは何か、指導・支援とは何か、という問いについて、自身の専門の立場から、講義、文献購読、議論、調査研究または実践研究を通して考えていく。授業では書くこと、発表すること、討論することに重きを置きながら、年間を通してレポートをまとめ発表して討論を行う。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	教育とは何かについて考える①	
	第3回	教育とは何かについて考える②	
	第4回	学校とは何かについて考える①	
	第5回	学校とは何かについて考える②	
	第6回	指導・支援とは何かについて考える①	
	第7回	指導・支援とは何かについて考える②	
	第8回	学校の実態を把握する①	
	第9回	学校の実態を把握する②	
	第10回	児童生徒の実態を把握する①	
	第11回	児童生徒の実態を把握する②	
	第12回	学校や児童生徒を捉える際の理論を探る①	
	第13回	学校や児童生徒を捉える際の理論を探る②	
	第14回	さまざまな教育場面における指導・支援について知る①	
	第15回	さまざまな教育場面における指導・支援について知る②	
	第16回	テーマを設定する①	
	第17回	テーマを設定する②	
	第18回	文献研究を行い、テーマについて深める①	
	第19回	文献研究を行い、テーマについて深める②	
	第20回	研究法について検討する①	
	第21回	研究法について検討する②	
	第22回	研究法を確定する①	
	第23回	研究法を確定する②	

	<p>第24回 調査研究または実践研究を実施する①</p> <p>第25回 調査研究または実践研究を実施する②</p> <p>第26回 結果のレポートを作成して発表の仕方を考える①</p> <p>第27回 結果のレポートを作成して発表の仕方を考える②</p> <p>第28回 発表会を行う①</p> <p>第29回 発表会を行う②</p> <p>第30回 討論を通して今後の方向を計画する</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 教育の基礎理論、生徒指導及び教育相談等に関する研究を深め、学校や指導・支援のあり方を幅広く考えていくことでテーマを特定し、卒業研究への素地を培う。参考文献や先行研究の分析等を通して、設定したテーマに関する探究を深めることができる。また、卒業研究につながる研究意識を一層高めることができる。</p> <p>【到達目標】 教育の基礎理論、生徒指導及び教育相談等に関する研究を深め、学校や指導・支援のあり方を幅広く考えていくことでテーマを特定し、卒業研究への素地を培う。参考文献や先行研究の分析等を通して、設定したテーマに関する考察を進めることができる。研究の倫理を的確に理解できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部が学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
テキスト	必要に応じて講義内で指示する。
参考文献	必要に応じて講義内で指示する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>成績評価の基準・方法及び課題</p> <p>1. 問題意識をもった授業参加、話し合い・発表など役割遂行等の授業関与度 30%</p> <p>2. 毎時間の振り返り 30%</p> <p>3. 提出物（レポート） 40%</p> <p>フィードバック 学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後またはオフィスアワー
履修条件	特に設けません
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生 【不可】</p> <p>聴講生 【不可】</p>
メッセージ	児童相談所職員と小学校教員として10年間従事しました。小学校では国語科教科主任を務め、教科経営に携わりました。
準備学習について	教育、学校、指導・支援とは何か、という問いについて、自身の専門、ディシプリンでどのような研究が行われてきたかを知る。参考文献や先行研究等の分析を通して、テーマに関わるレポート等を作成し、発表準備を行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年	4	必修
担当教員			
上野永子			
添付ファイル			

テーマ	各自の研究テーマを追求する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 先行研究のレビュー①</p> <p>第3回 先行研究のレビュー②</p> <p>第4回 先行研究のレビュー③</p> <p>第5回 先行研究のレビュー④</p> <p>第6回 先行研究のレビュー⑤</p> <p>第7回 先行研究のレビュー⑥</p> <p>第8回 先行研究のレビュー⑦</p> <p>第9回 先行研究のレビュー⑧</p> <p>第10回 先行研究のレビュー⑨</p> <p>第11回 先行研究のレビュー⑩</p> <p>第12回 先行研究のレビュー⑪</p> <p>第13回 先行研究のレビュー⑫</p> <p>第14回 先行研究のレビュー⑬</p> <p>第15回 先行研究のレビュー⑭</p> <p>第16回 卒業論文作成①</p> <p>第17回 卒業論文作成②</p> <p>第18回 卒業論文作成③</p> <p>第19回 卒業論文作成④</p> <p>第20回 卒業論文作成⑤</p> <p>第21回 卒業論文作成⑥</p> <p>第22回 卒業論文作成⑦</p> <p>第23回 卒業論文作成⑧</p> <p>第24回 卒業論文作成⑨</p>



	<p>第25回 卒業論文作成⑩</p> <p>第26回 卒業論文作成⑪</p> <p>第27回 卒業論文作成⑫</p> <p>第28回 卒業論文発表会のための資料作成①</p> <p>第29回 卒業論文発表会のための資料作成②</p> <p>第30回 卒業研究発表会練習</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】卒業研究Ⅰで学んだアタッチメントの理論や研究成果を基盤にして、各自の研究テーマに取り組み、卒業論文を完成させることが目標である。</p> <p>【到達目標】自分が追求したテーマについてわかったことを、論理的に論文としてまとめる力を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	特に指定しません。
参考文献	適宜、紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	卒業論文によって評価する。卒業論文のフィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う。
質問・相談の受付方法	講義終了後、あるいはオフィスアワーにて受け付けます。
履修条件	【必須要件】卒業研究Ⅰ（上野）の単位を取得済みの者に限る
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	臨床心理士として、主に教育と福祉の臨床現場で勤務してきました。自分の興味・関心のテーマについて、掘り下げ、自分の主張を卒業論文に執筆しましょう。また、各自の進捗状況により、シラバスの内容が変更になることがあります。
準備学習について	自分の発表担当の際には、メンバー全員分のレジュメを準備してください。発表担当者には、発表終了後に次回までの予習内容を指示します。授業毎に、1時間以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨んでください。